令和５年度
生活文化調査研究事業（和装）
報告書

文化庁　参事官（生活文化創造担当）

目　　次

序　本調査研究事業について 1
１章　和装の歴史と現状について 2
１節　日本における和装の歴史について 2
１－１　和装の概要 2
（１）和装について 2
和装とは 2
現代における和装の種類 2
（２）担い手について 3
和装の担い手について 3
着付けの技術に係る担い手について 4
（３）和装に係るワザについて 5
着物の着付けに係る一般的な技術及び知識 5
着付け技能士に求められる技術と知識 6
和装に係るその他の技術 7
１－２　和装の歴史 8
（１）和装前史～和装としての成立 8
呉服や唐服等の着用 8
唐風から国風の服装への変化と場面に応じた着装 8
（２）平安時代以降から室町時代の服飾の変化 8
貴族階級における服飾と着方 8
武家の服飾とその変化 9
（３）江戸時代の和装 10
表着としての小袖の発展とその着方 10
武家の服装 10
町人の服装 10
帯の変化と付け方 11
（４）明治・大正・昭和時代の服飾の変化 11
洋装の導入に伴う和装の変化 11
昭和時代の和装 12
２節　現代における和装の現状と社会的な位置付けについて 14
２－１　現代社会における和装 14
洋装の一般化と着物離れ 14
和装業界の新しい動き 14
和装を着る機会の変化 15

レンタル着物の盛況 15
和装関係者への評価 16
２－２　国民意識調査について 17
（１）調査の概要 17
■調査結果を見る上での注意事項 18
（２）調査結果概要 19
１．属性 19
２．共通設問 22
３．単純集計の結果について 26
（３）調査結果に基づく分析と考察 51
（４）分析結果のまとめ 74
２－３　海外からの評価と国際発信 76
外国人の和装への関心や評価 76
和装の国際発信について 77
２章　和装団体・和装教室の活動について 79
１節　和装団体の活動について 80
１－１　和装団体へのアンケート調査の実施概要 80
（１）和装団体へのアンケート調査の目的等 80
１－２　和装団体へのアンケート調査の結果概要 81
（１）和装団体の普段の活動について 81
（２）和装の継承について 97
（３）新型コロナウイルス感染症の影響について 109
１－３　まとめ 113
団体の活動概要 113
和装の継承について 115
新型コロナウイルス感染症の影響 116
２節　和装教室の活動について 117
２－１　和装教室へのアンケート調査の実施概要 117
２－２　和装教室へのアンケート調査の結果概要 118
（１）教室の活動状況について 118
（２）教室での指導について 121
（３）教室の運営について 124
（４）教室外との関わりについて 126
２－３　まとめ 128
教室の活動内容 128
教室の指導内容 128
教室の運営 129

結　本調査研究事業のまとめ 130
参考資料　有識者(和装)及び有識者会議検討経過 136
参考資料　和装の用具について 140
（１）概要 140
（２）市場の現況 141
（３）生産の状況 144
（４）課題 151
参考資料　国民意識調査調査票 154
（１）属性 154
（２）フィルタリング・パート 155
（３）分野設問 157
（４）共通設問 201
参考資料　和装団体調査アンケート配布先 205

序　本調査研究事業について

１．本事業の目的

文化庁では、平成27年度以降、生活文化を把握するための調査研究事業等を継続的に実施している。令和元年度には、和装を含む生活文化に係る８分野について、各分野の全国的な団体に対するアンケート調査を実施、活動状況及び各分野における課題等について把握を行った。翌令和２年度には、書道・茶道・華道の各分野について、分野ごとの歴史的変遷や社会的位置付け、各分野における無形の文化的所産の把握等に関する実態把握を目的とした調査を実施、報告書を公表している。

本事業においては、和装をはじめとする６分野を対象として、令和２年度の調査内容に準ずる形で調査研究事業を実施し、各分野の詳細な実態把握を行うことを目的としている。

令和３年度には、歴史的変遷や社会的位置付けに関する学術論文等の調査を実施、翌令和４年度には、各分野に対する国民の興味関心等の意識を把握するインターネット調査を実施した。今年度の調査研究事業は、上述した令和３年度、４年度の和装についての調査結果等を踏まえ、更に和装に関わる団体や教室のアンケート調査、和装の用具・原材料についての調査を行い、全体として取りまとめることで、生活文化の和装分野の保護・振興策の検討に資する基礎資料とすることを目的としている。

※文化芸術基本法（平成 13 年法律第 148 号）
第十二条　国は，生活文化（茶道，華道，書道，食文化その他の生活に係る文化をいう。）の振興を図るとともに，国民娯楽（囲碁，将棋その他の国民的娯楽をいう。）並びに出版物及びレコード等の普及を図るため，これらに関する活動への支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

２．本事業の概要

本事業は、和装がおかれている現状等について詳細な実態把握を行うため、

・和装の成立、変遷を把握するための文献調査
・和装への興味関心等に関する国民意識調査
・和装の生産、流通、着付等の団体（以下この報告書では「和装団体」という。）へのアンケート調査
・和装教室へのアンケート調査
・和装用具・原材料に関する製造業者等へのヒアリング調査

を行い、計８回の有識者会議を経て、受託事業者から提出された調査結果を元に、必要に応じて加筆・修正を加え報告書として取りまとめた。

なお、今回の調査では、和装用具・原材料に関する調査が十分に行えず、網羅的な調査にならなかったことから、これらの調査結果の分析については参考資料への掲載にとどめた。

１章　和装の歴史と現状について

１節　日本における和装の歴史について

１－１　和装の概要

（１）和装について

和装とは

和装とは、和服を着用すること、また、和服で装った姿を指す。明治時代に欧米型の衣服を着用する「洋服」「洋装」が導入されたことにより、従来の日本の着物が「和服」「和装」と呼ばれるようになり、それに伴い、それまで「着る物」という広い意味で使われていた「着物」という呼称が、長着を中心とした和服を指すものとして定着していった。

長着は直線裁ちの寛衣型一部式の前開きの衣服で、帯や下着、小物等を用いて着付ける。礼装の場合、男性はこれに羽織・袴を着用する。女性も羽織を着用することもあり、式典等においては袴が着用されることもある。履き物としては草履、下駄等がある。

帯は着物の左右の前の重なりを押さえて身幅や身丈を調節する実用性と、結び方やデザイン等に創意を凝らす装飾性を併せ持つもので、形状は男女で異なる。

明治時代以降に洋装化が進んだが、昭和時代半ば（1950 年代頃）までは、冠婚葬祭は和装で行われることが一般的だった。また、男性では普段着として、女性も既婚者を中心に日常的に着物を着用する人が多かった[1]。その後は多くの人々にとって、和装は冠婚葬祭等をはじめとする特別な機会に着るものとなっている。

現代における和装の種類

・着装機会ごとの和装の種類

和装は、着物を着装する者がどのような場面や機会に着ていくかによって、着装する着物や帯の種類が異なる。なお、地域によっては着ていく着物の種類等に細かな差異があるため、下記は着物に関する着方をまとめた一般書等を参照し、一般的な例を示している[2]。

○礼装（第一礼装）

公的な式典や、結婚式に主催者として参列する場合において着装される着物は、「礼装（又は第一礼装）」と呼ばれている。女性は黒留袖、色留袖、振袖等を着用し、留袖の場合は上着として羽織を着用することもある。男性の場合は黒紋付きの長着と羽織袴を着装する。着物は織りの着物よ

1 金融財政事情研究会編『第 14 次　業種別審査事典』きんざい、令和２年
2 全日本きもの振興会監修『着物の教科書』（新星出版社、平成 30 年）及び、牛腸ヒロミ・布施谷節子・佐々井啓・増子富美・平田耕造・石原久代・藤田雅夫・長山芳子（編）『被服学事典』（朝倉書店、平成 28 年）を参照した。

り染めの着物の方が格が高く、礼装で着用されるのはいずれも染めの着物である。

紋は数が多いほど格が高く、女性の場合は五つ紋の黒留袖が、男性の場合は五つ紋の長着と羽織袴が最も高い格の礼装となる。

帯は一般に染めより織りの方が格が高く、礼装では丸帯や袋帯を着用する。

〇準礼装

結婚式に招待客として参列する場合や、パーティー等に参加する場合に着装される、礼装に準じた着物は「準礼装」と呼ばれている。女性の場合は訪問着、色無地、付下げ等を着用する。紋は一つから三つ付けられるが、近年は紋を付けない場合もある。男性の場合は色紋付（黒以外の紋付きの長着に羽織袴）や、一つ紋又は三つ紋の紋付きを着用する。

上記以外、普段において着物を着装する場合は、小紋、紬、お召、また木綿や麻等の着物が着用される。帯は染めの帯や名古屋帯、半幅帯等を合わせる。

・その他の和装

祭りで着る法被や、旅館等で着る浴衣やどてら等、限定的な機会や場面において着用されている和装もある。

・特定の職業における和装

能や狂言、歌舞伎といった伝統芸能に携わる者や、いわゆる宗教者である神主や僧侶等をはじめとして、各分野において身に付けられる特定の着物（装束）もあり、これらは各分野においては欠くことのできない和装の一つである。

なお、本調査では、一般の人が普段の時や、冠婚葬祭等の特別な機会に着物を着装することに焦点を当てることとし、上記に挙げた限定的な機会に行われる和装及び特定の職業において着装される装束や、それらに係る着装の技法等については取り上げない。

（２）担い手について

和装の担い手について

和装の担い手については、普段の日や特別な日等に着物を着装するような者や、自分や他者に着付けることのできる者を、広く和装を担う者として捉えることができる。

また、着物や帯、小物類等の和装に関連するモノの製造に係る者をはじめとして、呉服店や卸売業者、リサイクル着物店等の着物の流通に係る者、着物の着付けや、着付けの技術の指導を行うことを専門とする者、着物のレンタル業を営む者や、着物のクリーニングやメンテナンス等を専門とする業者等、和装産業に係る者として和装を担う者がいる。

着付けの技術に係る担い手について

着物は、着物を着装する人が技術や知識を学んでいくことで自ら着装が可能である。その一方で、他者に着物を着付ける技術を有する者がいる。

他者に着物を着付ける技能を有する者としては、着付けに関する専門的技能を有する「着付け技能士」資格を所有する者や、「着付け技能士」以外の認定資格を有する者、資格は所有していないがいわゆる「着付け師」としての業務に従事している者、業務は行っていないが他者へ着付ける技術を持っている者に分類できる。

なお、衣紋方（えもんかた）と呼ばれ、束帯等の装束の着装を専門とする者（高倉家と山科家）もいるが、本調査の対象とする和装ではないためここでは取り上げていない。

・着付け技能士

着付け技能士は、平成21年（2009）に技能検定試験の対象職種となったもので、着付けに関する知識と技能を問う試験（学科・実技）に合格した者は、等級により「１級着付け技能士」又は「２級着付け技能士」を名乗ることができる。近年の着付け職種技能検定の合格者数は以下のとおりである。

表１　着付け職種技能の検定合格者について

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
１級合格者	555人	491人	465人
２級合格者	218人	269人	303人

出典：一般社団法人全日本着付け技能センターHP（URL: http://www.kitsuke.or.jp/profile.html）に掲載されている、平成29年度から令和元年度の検定事業に関する報告書を参照し受託事業者が作成した。
令和２年度は新型コロナウィルス感染症拡大により中止、令和３年度は学科試験のみの開催となった

・着付け師

上記の技能士資格を有していない場合においても、相応の知識と技能があれば、他者に着付ける業務に従事できる。知識と技能を身に付ける場としては、大学や専門学校、着付け教室、カルチャーセンター等があり、業務の場としては着付け教室、呉服店、美容院等が挙げられる。着付け教室での指導員は、助手等から始め、指導技術やノウハウを身に付けてから講師となる場合が一般的である。こういった者の中には、和装団体が独自に設けている資格制度に依拠する着付けに関する資格を有している者もいる[3]。

以上のような着付け技能士や着付け師が業務に従事する場の一つとして着付け教室が挙げられる。着付け教室では、着物の着方や着せ方だけでなく、着物の歴史や種類、立ち居振る舞い等も教えるところが多い。個人で行う教室や地域のサークルとして行われる教室から、複数のカリキュラムを持つ大手の教室まで様々なタイプがあり、大手教室では着付けのプロフェッショナルを養成するコースを有するところもある。

3 厚生労働省　職業情報提供サイト「きもの着付指導員」
（URL:https://shigoto.mhlw.go.jp/User/Occupation/Detail/423）　最終確認日：令和６年２月15日

和装に係る団体について

上記で挙げた着付け技能士や着付け師、また着物等の製造に係る者をはじめとした和装に専業的に係る者については、団体を形成して様々な活動を行っている。

令和元年度に和装に係る団体へ行ったアンケート調査では、和装の普及啓発を目的とした団体、着物の着付けや和裁等を専門とする者や、それらの専門的な人材を育成する学校等によって構成されている団体等が活動を行っていることが分かっている[4]。

和装の普及啓発を目的とした団体には、全国規模で活動を展開しているところもある。全国規模で活動を行っている団体には、団体会員として着物や絹糸、染色、織物の製造業や販売業、着付け等の指導者育成を行う団体等、和装産業に係る団体が所属しており、和装等の文化に関する調査研究や、イベント等を通じた普及啓発活動を行っている。

着物の着付けや和裁等を専門とする者や、それらの専門的な人材を育成する学校等によって構成されている団体等、特定の業種による団体については、先の全国規模の団体に所属し和装の普及活動に参画しているほか、それぞれの団体の活動として、専門的な人材の育成等を目的とした啓発活動を行っており、国家検定の認定機関としての機能を有している団体もある。

これら和装に係る団体では、その多くが学校での和装教育の実施、一般向けの着物の着付け講座の開催、着付け指導者育成のための認定制度や技術指導の実施等、和装分野の振興に向けた活動に取り組んでいる。また、広報活動としては、広報誌の発行、SNS での情報発信、ホームページ開設等が行われている。

（３）和装に係るワザについて

着物の着付けに係る一般的な技術及び知識

・着付けの仕方について

着物を自ら着装する、又は他者へと着装する場合、着物や帯等の特徴を踏まえた着装の技術や、着物を着装する場合の状況や季節に応じた取り合わせに係る知識が必要となる。

着物のサイズ区分は洋服ほど明確ではないが、着る人の体格に適した着物を用意し、着装する体格に合わせて、前合わせの幅やおはしょりの長さを調整して着付ける。体格に応じて適切に調整することで、着崩れしにくくなる。

着物を着付ける際に用いる下着には、肌襦袢（じゅばん）、裾除（すそよ）け、長襦袢等があり、いずれも着物と同様に、着る人の体格に合わせたものを用意し、襟の合わせ具合や巻き付ける幅を調整し、紐で固定して着付ける。長襦袢も体格や着物に合ったサイズのものを着用することで着崩れしにくく着付けることができる。

平面で構成される着物を立体的な人体に美しく着付けるには、体型の凹凸を少なくする必要があり、特に礼装において女性が着物を着装する場合は、一般的に、腰や臀部上部のくぼみ等にタオル

4 『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和２年

や補正パッド等を当てて体型を補正することが多い。この際、補正の必要な箇所や分量は着る人の体型に合わせて調整する必要が生じる。胸のふくらみを目立たなくさせる和装ブラジャーを着用することもある。また男性の場合も、タオル等を用いて補正をして着崩れを抑えるように調整を行うことがある。

・着物の取り合わせ

上記のように着物を着付ける際に、着崩れしにくく、見た目良く綺麗に着付ける必要がある場合は、着物を着装する人の体格に応じた着物や肌襦袢、長襦袢等を用意する必要がある他、着付ける際には、体格等に応じて着崩れしにくく、なおかつ動きやすく着付けるための工夫やコツ等の着付けの仕方がある。

この着付けの仕方に加えて、冠婚葬祭等に出席する際などに着物を着装して行く場合には、先述した格と関係して、着用の際に仕来(しきた)りや規範が重視されていることから、場面や状況に応じた着物の取り合わせに係る知識も必要となっている。長着、帯、小物等それぞれ、着用する場面にふさわしい格に応じた、材質や色彩、模様、帯の結び方等を選択して着装する必要があるほか、着物や帯の生地や産地、模様、紋等、和装全体に関する知識が必要となる。

加えて、着物の着こなしには季節感も重視される。季節ごとに適した生地や仕立ての着物を着ることが基本となる。原則として、10 月頃～５月頃は裏地のついた袷(あわせ)、６月、９月は裏地のない単衣(ひとえ)、７、８月の盛夏には透け感のある薄物を着用する。近年は以前より気温が高い期間が長いため、状況に合わせて融通させることもある。

また、明確な季節感のある柄を着用する際には、柄が季節に合っているかどうかも考慮の対象となる。和装においては季節の先取りが基本となり、着物の柄となっている植物や風物等に関する知識も必要とされる。着物と同じように帯揚げ、帯締め、半衿、あるいは草履、袋物等の小物についても、色や素材、季節感等を考慮して取り合わせる必要がある。

現代では、和装を日常では行わなくなっているため、着物を着装するための基本的な知識や技術を持たない人も多くなっている。このため、特に冠婚葬祭等、改まった場に着物を着装していく必要がある場合、美容院や着付け業者等、専門的な技術を有している者に依頼して着装することが多くなっている。

着付け技能士に求められる技術と知識

上記に示したのは、一般的な着物の着付けに係る技術や知識であり、普段から着物を着る者が上記の全てを網羅的に把握しているわけではない。一方で、他者に着物等を着装する専門的な技能を有する技能士や着付け師の場合、上記に示した着物の着付けに関する技術や知識を的確に身に付けていることが資格取得の要件となっている。

着付け技能士の資格取得に際しては、学科試験及び実技試験が設けられている。まず、学科試験の内容は、着物の知識及び名称、男女の着物の違い、着物のたたみ方、繊維の知識、織物や染物の知識、着用時季や着物の格、帯の種類、小物の用途、着物・帯・小物の合わせ方や着付けの心得、

美容師法等関係法規に関してなどである。

次に実技試験の内容は、２級については浴衣、街着、付下げ、訪問着、付下げ訪問着について定められた時間内で着付けができることが、１級についてはそれらに加えて色留袖、黒留袖、中振袖、羽織袴について定められた時間内で着付けができることが求められる[5]。

以上のように、着付け技能士の検定に求められる、着物の着装についての技能や知識は、一般的な着物の着付けに係る技術や知識を全般的にかつ的確に習得していることが求められ、特に着付けに関しては、普段着る着物から礼装まで幅広く着付けることが求められている。

和装に係るその他の技術

上記の着付けに係る技術以外としては、和装を仕立てる技術やメンテナンスに係る技術がある。

和装を仕立てる技術については、和服裁縫（和裁）と呼ばれ、着物が日常着として着装されていた頃には家庭の中でも和裁が行われていた。現在でも、着物を日常的に着用する者の場合は和裁の技術を有している場合があるほか、専門的な技能として和裁を行う者の中では、和裁技能士等の資格を有している者がいる。

また、着物や帯のメンテナンス技術については、悉皆（しっかい）事業者や関係する技術者（和裁士や染色技能士等）が、専門的な技術を有している。

〈主要参考文献〉
・牛腸ヒロミ・布施谷節子・佐々井啓・増子富美・平田耕造・石原久代・藤田雅夫・長山芳子（編）『被服学事典』朝倉書店、平成 28 年
・全日本きもの振興会監修『着物の教科書』新星出版社、平成 30 年
・『令和元年度生活文化調査研究事業報告書』文化庁地域文化創生本部事務局、令和２年
・金融財政事情研究会編『第 14 次　業種別審査事典』きんざい、令和２年

5 一般社団法人全日本着付け技能センターHP（URL: https://www.kitsuke.or.jp/index.html）に掲載されている、１級及び２級の試験科目及びその範囲並びにその細目を参照した。
（URL: https://www.kitsuke.or.jp/img/shikenshousai.pdf）最終確認日：令和６年２月 15 日

１－２　和装の歴史

（１）和装前史～和装としての成立

呉服や唐服等の着用

古墳から発掘される人物埴輪等の史資料から、５世紀以降（古墳時代後期）の人々が、貫頭衣風の衣服や、中国北方の胡人の衣服に似た形態の「胡服（こふく）」といわれる上下二部式の衣服等を着用していたことがうかがえる。飛鳥時代の衣服も胡服系の衣服が中心だったが、天武 11 年（682）に天武天皇が衣服・髪型の唐風化に着手し、その後も公式な場においては襴（らん）衣、長紐、括緒袴（くくりおのはかま）の着用を定めるなど徐々に唐風化が進み、奈良時代には唐風の衣服が浸透した。養老２年（718）の養老令においては唐の制度に倣う形で衣服令が定められ、礼服（らいぶく）・朝服・制服という形で身分や場に応じた服装が規定された。ただし、唐風の服装を基本としながらも、礼服の袴の上には褶（ひらみ）を付けるなど、日本独自の衣類も取り入れられていた。

唐風から国風の服装への変化と場面に応じた着装

平安時代初期は唐風の影響が大きかったが、寛平６年（894）に遣唐使が廃止されると公的には大陸との交通が途絶え、文化の国風化が進んだ。衣服も唐風の影響を受けながら国風化が進み、平安時代中期以降の貴族社会において、男性の正装としては束帯が、女性の正装としては唐衣裳装束（からぎぬも）が着用されるようになった。束帯[6]は奈良時代の朝服を変化させた、身幅も袖口もゆったりした衣服である。一方の唐衣裳装束は、平安時代前期から新たに上流女性の間で着られるようになった袿（うちき・うちぎ）をベースにしたものである。袿とは垂領（たりくび）（襟の前で左右を斜めに打ち合わせる形式）の広袖仕立ての衣服で、現代の着物より大きくゆったりしていた。上流女性は家の中では単袴、袴を履き、単袿に綿入りの袿を重ね着し、正装する際には、袿姿の上に唐衣を羽織り、裳を引き掛けた唐衣裳装束姿となった。袿を数枚重ね着するときには、その配色が工夫された。なお、これらの装束は現在でも宮中祭祀において着用されている。

（２）平安時代以降から室町時代の服飾の変化

貴族階級における服飾と着方

平安時代には祭礼や年中行事等の宮中儀礼が確立し、それに伴って貴族の服飾の定型化が進み、束帯を着る場面や身分が分けられ、文官と武官でも異なる束帯を着用するようになった。束帯は礼服として、また昼の参内時の衣服として着用され、宿直（とのい）の際には衣冠[7]（宿直装束）が着用された。衣冠は行幸のお供や葬儀の参列にも着用され、さらに平安時代後期には昼の参内にも着用されるよ

6 束帯は、袍（ほう）、襖子（おうし）、半臂（はんぴ）、汗衫（かんさん）、袙（あこめ）、表袴（うえのはかま）、中袴（なかばかま）、褌（したのはかま）から構成される服装である。
7 衣冠は束帯から半臂や下襲（したがさね）を除いた活動的な衣服である。

うになった。また、束帯の略式の装束に布袴[8]があり、私的な行事や上級貴族の参内の際に着用された。日常着としては、上流貴族では直衣[9]や狩衣[10]が着用された。下級貴族や武士は指貫の代わりに狩袴を着用した。

女性の正装及び出仕服としては、この時代も引き続き唐衣裳装束が着用され、袿を重ねて着る重袿によって華やかさが演出されていた。五枚重ねが基本であるが、多い時では 15〜25 枚も重ねられ、配色に趣向が凝らされた。日常着は単と長袴の上に袿を数枚重ねた袿姿で、場面に応じて、この上に小袿や細長が重ねられた。

平安時代後期には男女貴族とも装束の一番下に、防寒用として袖口の狭い小袖を着るようになる。なお、庶民は平安時代を通して小袖を着用していたと考えられている。

武家の服飾とその変化

武家でも平氏は公家の服装に基づいた服装をしていたが、鎌倉幕府の開幕以降は武家独自の装いが定められていった。礼装としては直垂が着用され、上級武士が将軍に随行する際などには直垂帯剣姿となった。上級武士が改まった席で着用するものとしては狩衣・布衣もあり、これらは袴の色や裏地との組み合わせ等が自由に工夫できた。なお、下位の武士は文様のある狩衣や上質の絹の裏地のついた狩衣を着用することを、最初の武家法である「御成敗式目」の追加法の中で禁じられていたことから、この時代、高位でない者の中でも豪華な狩衣を着ていた者がいたことがうかがえる。軍装は身分により、甲冑、腹巻、鎧直垂等に分かれた。

上流武家の女性は、鎌倉時代前半には袴に袿を重ねた公家風の装いをしていたが、鎌倉時代後期には小袖が表衣化するという変化が生じた。小袖を袿の下に着るのではなく、小袖に袴を履いたり小袖袴の上に小袖を打ち掛けたりなどの着方がされるようになった。さらには袴が省かれ、小袖を何枚か重ね、一番上に豪華な小袖を打ち掛けた打掛姿や、打ち掛けた小袖の肩を外して腰巻き風にする腰巻姿が定着し、室町時代には武家女性の礼装となっていった。

庶民は男女共に小袖を中心に着用していた。『一遍上人絵伝』には、小袖に小袴、着丈や袖丈の短い小袖の着流し、直垂に小袴等の庶民の姿が描かれている。室町時代に至ると、直垂の地質や文様が豪華になり、武家の最高の礼装となった。直垂の袖をつけない形式の肩衣も登場した。戦国時代に小袖に肩衣と袴を着る肩衣袴が広がり、小袖の存在感はこの頃から更に増していった。軍装は鎧直垂に代わり、華やかな陣羽織が登場した。中国や西欧諸国からもたらされた染織技術や服飾品の影響を受け、着物や陣羽織に斬新な意匠が登場したのもこの頃である。

8 布袴は束帯装束の表袴を指貫に代えた衣服である。
9 直衣は烏帽子、直衣、袍（袿）、単、指貫、下袴で構成される服装である。
10 狩衣は烏帽子、狩衣、衣、指貫から構成される服装である。

（３）江戸時代の和装

表着としての小袖の発展とその着方

江戸時代初期には武士、町人の服装は小袖が中心となり、身分、男女の区別なく着用されるようになった。身分の違いは衣服の形態ではなく、材質や意匠で区別されるようになった。

江戸時代初期までの小袖は、身幅が広く袖幅が狭く、また袖口も小さい形態という特徴が見られ、男性も女性も「おはしょり」をせずに「対丈（ついたけ）」に着付け、細い帯で締めて着用した。その後、小袖の形状は次第に身幅が狭く、袖幅は広くなっていき、元禄年間（1688～1704）には女物については身丈も長くなって現代の着物に近い形となった。屋内では裾を引いて、外出時にはたくし上げたり、褄（つま）をとったりして着用したが、たくし上げたりする際に片手が塞がって不便であることから、「抱帯（かかえおび）」「しごき帯」と呼ばれた細い紐状の帯で前身ごろが端折られるようになり、この着装法が現代のおはしょりの元となった。なお、着物をたくし上げて着る着装法は平安時代の旅装である「壺装束」にも見られるが、おはしょりとの連続性はない。幕末には室内でも前身ごろを端折って着付けることが一般化するが、着装法はまだ固定化せず、腰帯の結び紐を前に出すなど様々に着装されていた。

また、小袖の袖が身ごろに縫い付けられた部分の少ない「振袖」は、室町時代以前において子供用の小袖に行われていた仕立て方であったが、江戸時代になると、元服前の男性や未婚の娘にも「振袖」をした小袖が着られるようになった。若い娘が身に付ける「振袖」の丈は時代とともに長くなり、18 世紀半ば１ｍ を超える大振袖も登場した。この大振袖は上流武家や富裕な町人の娘が着用したほか、中流層の町人の娘の晴れ着としても用いられた。

武家の服装

江戸時代には幕府により武家の服飾規定が整えられ、着る場面や身分により異なる衣服が用いられるようになっていった。男性の礼装としては裃（かみしも）が用いられ、裃の内に着る小袖についても、場面や身分により着用できる色や素材が決められた。武家女性の服装も季節、身分、年齢、紋様等、また、礼装、略装、平服等でそれぞれ細かく規定された。

外着として羽織が普及し、小袖に羽織袴を着用する形式が武士の日常着かつ庶民の礼装となった。羽織にも格、用途別に様々な種類があり、また、丈の長さの流行もあった。私的な略装として小袖に羽織を羽織るだけの着流しも行われた。

町人の服装

町人の衣服の素材は絹紬（けんちゅう・きぬつむぎ）、木綿、麻布に制限されていたが、町人が豊かになるとともに奢侈（しゃし）となり、独自の服飾文化が発展した。町人の間に金紗、刺繍、総鹿子、友禅染等の豪奢な服が流行すると、それを抑えるための奢侈禁止令が度々発令されたが、豪奢さを追う風潮は元禄頃まで続いた。江戸時代後期に入ると質実な風潮となる。

多くの庶民にとって新しい着物の購入は贅沢なことで、木綿や麻で自ら仕立てたり、古着を買ったりして着物を調達していた。古くなった布は裂いて再び布に織り上げる「裂織（さきおり）」という手法で再利用されることもあった。

帯の変化と付け方

江戸時代初期までの帯幅は 1.5 寸～２寸（約６～８㎝）と狭かったが、17 世紀半ばから女性の帯幅は広くなり、丈も長大化していき、17 世紀末には長さは１丈２尺（約 4.5m）、幅は９寸（約 34cm）にも達した。

また、江戸時代初期までは帯結びの位置は前や後ろ、脇等、様々な位置であったが、歌舞伎俳優考案のものをはじめ装飾性の高い結び方が流行するとともに、後ろ結びが広まっていった。例えば、歌舞伎役者で女形の初代上村吉弥（かみむらきちや）が考案した「吉弥結び」や、同じく女形の水木辰之介の「水木結び」などがあり、現在も行われている「お太鼓結び」のような結び方も登場している[11]。一方、男性の帯幅は、江戸時代を通じて特に大きく変化していない。

（４）明治・大正・昭和時代の服飾の変化

洋装の導入に伴う和装の変化

明治時代以降、近代化政策として洋装化が進められると、まず公的な立場の男性の服飾に、次いで女学校の制服にも洋装が取り入れられていった。男性では和装に西洋式の帽子を被る、着物の下にワイシャツを着てステッキを持つなど、女性では毛織物で仕立てたコートを着物の上に着る、女学生が新しく考案された、動きやすいスカート状の行灯袴（あんどんばかま）といわれる女袴に編み上げ靴を合わせる、また、ショールや洋傘といった洋装の小物や洋服を取り入れた和洋混合様式が流行した。

また、西洋の技術の導入が進み、明治７年（1874）にはジャカード（ジャガード）機が導入されたことを機に、全国の紋織物の産地で機械化、量産化が進展していった。加えて、化学染料を用いた型友禅（写し友禅）の手法が開発されたことで、模様入りの絹の着物の量産化と、ある程度の低価格化も実現した。

羅紗（らしゃ）、モスリン（メリンス）、セル（サージ）等の毛織物の国産化が本格化するに従い、モスリン、セルは着物にも用いられるようになった。モスリンにも型友禅の手法で模様を付けたことで、庶民も華やかな模様の着物を着られるようになった。

このように染織技術等の進展が進む一方で、明治時代後期にはアール・ヌーヴォー様式に影響を受けたデザインの着物が登場したほか、呉服店から発展してできた百貨店が、着物の新しい流行の発信地となっていった。

なお、明治時代中期以降に、着物の裾を持ち上げ、帯にたくしこむ「おはしょり」をして着付け

11 青木和子「「お太鼓結び」の歴史的変容についての実践的研究」（『山野研究紀要』Vol.28・29、山野美容芸術短期大学、令和４年　p.1-13）

ることが一般化していった。明治 28 年（1895）の『衣服と流行』には、おはしょりをするときに「腰帯」と「下締」を用いることが記されている。腰帯は現在の腰紐、下締は伊達締めと同様の役割を持つ用具である。当時のおはしょりは帯の下に大きな袋が飛び出たような様子をしており、改良すべきものと捉えられ、雑誌で改良案が募集された。この雑誌の記事には「ハシヨリ」と記載されており、当時はまだ「おはしょり」という名称は一般化していなかったことも見てとれる[12]。なお、礼装は、現在の和装の結婚衣装も同様であるが、着物の裾を引き摺った状態で着装されていた。

第一次世界大戦後には短いスカートに断髪というモダンガールのファッションが登場したが、これは一部の都会の女性が身に付けるに留まり、一般女性の衣服は着物が中心だった。この時代の変化として、着物の帯はそれまでより高い位置で結ばれるようになったほか、胴に巻く部分を半幅に仕立てた名古屋帯が考案され、結びやすさ、軽さにより広く普及した。また、片面を黒繻子（くろじゅす）や黒ビロード、もう片面を模様染にした昼夜帯も流行した。

平織の絹織物で、主として普段着として着用されていた銘仙は、それまで縞や絣（かすり）模様が中心だったが、染色技術の発展により複雑な模様の表現が可能になった。アール・デコ調のデザイン等も導入されファッション性が高まったことで、大正時代から昭和時代にかけて銘仙人気が高まり、外出着として着用されるようになった。モスリンやウールの着物も量産化により低価格化が実現した。

普段着と富裕層向けの着物の中間の位置に当たるこれらのカジュアルな着物は、この時代の中間層の成熟に伴って登場したものである。こういった一般市民の外出着の需要の増加により、和装市場は拡大していった。

昭和時代の和装

男性の服装に関しては、正装としては洋装が定着していたが、日常着としては第二次世界大戦前までは着物も一般的に着用されていた。女性は一部を除き、一般的には外出着も日常着も和装が中心であり、仕事で洋服を着る女性も自宅では着物を着用することが多かった。なお、昭和時代初期にはおはしょりを調整して着付けることで、腰回りの太さや背の低さなど、体型を補正する意識が生まれていた。

戦時中には男女とも標準服が定められた。昭和 15 年（1940）に定められた男性の標準服は上衣とズボン等からなる軍服のような洋装であった。一方、昭和 17 年に定められた女性用の標準服はスカート式、和服式、もんぺ式の３種あり、和服式は従来とは異なる二部式の着物であった。パンツ型のもんぺ式が広く普及したことが、戦後、洋装化が急速に進んでいく下地になったという見方もある。

戦後は洋装の定着が本格化していくが、一気に移行したわけではない。戦時中に不足していた衣料への需要を満たすため、大衆品を中心に、戦後も着物市場は成長した。日本化繊協会の調査によれば、昭和 32 年（1957）時点で、40 歳以上の女性の約半数は家庭でも外出時でも和装を着用し、40 歳未満でも約４分の１が外出時には和装を着用していた。このように日常的に着物が着用されて

12 『流行』第 11 号　流行社、明治 33 年

いた昭和30年代半ばには、手入れが簡単な化繊やウールの着物が流行、合成繊維メーカーも積極的に参入するなど、着物市場は日常着を中心に拡大した。

昭和40年代になると、製造卸売り業者の台頭による大量供給体制の確立によって、安価な既製品の洋服が供給されるようになった。これにより洋装化が進み、日常着としての着物の需要は急激に減少していった。一方、人々の生活が豊かになったこともあり、成人式、正月、結婚式等で晴れ着として着用される絹織物の需要は大きく伸びた。また、日常的に着物を身に付けなくなった反面、高価な着物を晴れ着として身に付け所有することにも価値が置かれた。昭和 41 年（1966）から 53 年（1978）にかけての西陣織物産業において、正絹を原料とする製品比率が帯地で 69.6%から 99.0%に、着物で44.9%から79.5%に高まっていたことからも、限定的な高級品市場が形成されていたことが分かる[13]。

着物の非日常着化が進むに伴って、着物は一人で着ることができないものへとなっていき、着物の着付け方やマナーを教授する職や、着付け方を学ぶための学校、いわゆる「着付け教室」という新しい業種が登場した。また、資格制度等の整備が進むにつれて、着付けに関する技術や知識等、着付けに関する様々な規範が言語化されていった。加えて、和服の着こなしをしやすくするための補助具が開発され普及し始めたのもこの時期である。

普段着として着物を扱ってきた頃には各家庭において行われていた、着物の直し方や仕立て直し等の知識や技能も、次第に一般家庭から失われていった。

〈主要参考文献〉
・大橋又太郎編『衣服と流行』博文館、明治 28 年
・小池三枝、野口ひろみ、吉村佳子『概説日本服飾史』光生館、平成 12 年
・橋本澄子編『図説　着物の歴史』河出書房新社、平成 17 年
・増田美子編『日本服飾史』東京堂出版、平成 25 年
・福田博美「『おはしょり』形成の過程」（『文化学園大学・文化学園短期大学部紀要』49　文化学園大学、平成 30 年 p. 9-16）
・島田昌和編『きものとデザイン：つくり手・売り手の 150 年』ミネルヴァ書房、令和２年

13 吉田満梨「戦後～現代のものづくりと市場創造に流通事業者が果たした役割」（島田昌和編『きものとデザイン』ミネルヴァ書房、令和２年）。吉田は、吉田敬一「西陣先染織物業の産地構造分析」（『和装織物業の研究』ミネルヴァ書房、昭和 57 年）の分析を参照し、当時の西陣織物産業の状況について触れている。

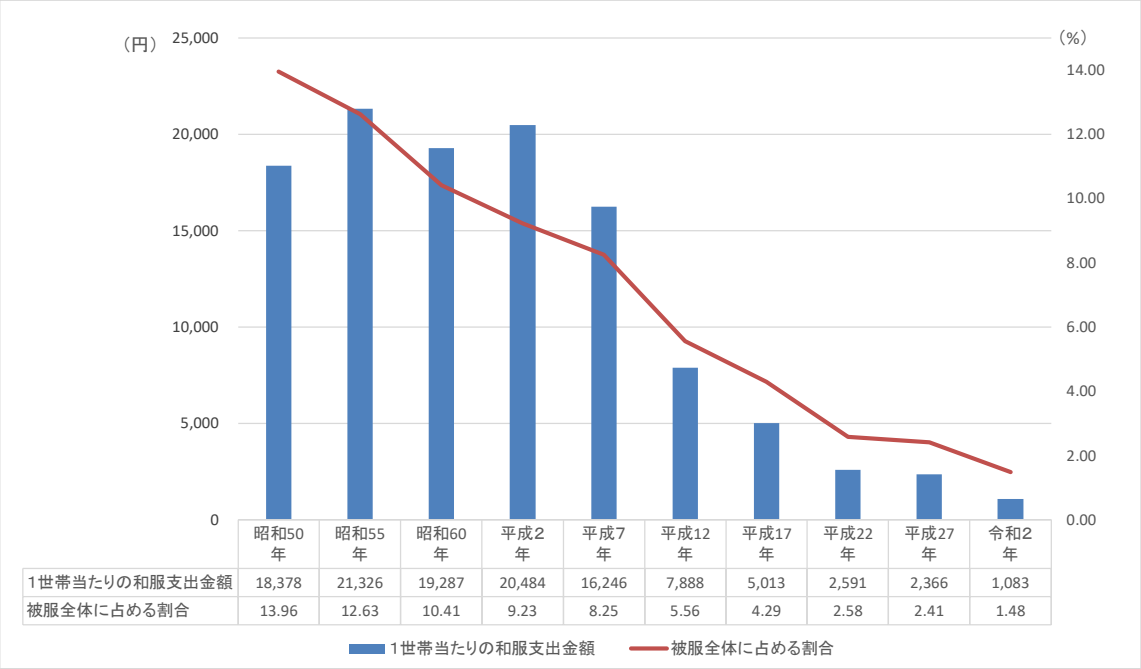
２節　現代における和装の現状と社会的な位置付けについて

２－１　現代社会における和装

洋装の一般化と着物離れ

昭和 40 年代以降、安価な既製品の洋服が大量供給され、女性の社会進出が進んだこともあり女性の洋装が一般化した。成人式、正月、結婚式等で晴れ着として和装をする習慣は広がったが、日常着としての着物離れが進んだ。晴れ着を所有するブームは平成時代の初頭まで続いたが、バブル経済崩壊以降、年間支出も急激に下落した。

昭和 50 年（1975）から令和２年（2020）までの、１世帯当たりの「和服」の年間支出の推移は以下のグラフのとおりである。



	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
1世帯当たりの和服支出金額	18,378	21,326	19,287	20,484	16,246	7,888	5,013	2,591	2,366	1,083
被服全体に占める割合	13.96	12.63	10.41	9.23	8.25	5.56	4.29	2.58	2.41	1.48

図１　１世帯当たりの「和服」支出金額と被服支出金額全体に占める割合の推移

出典：昭和 50 年（1975）から令和２年（2020）の「家計調査」（総務省統計局）
（URL:https://www.stat.go.jp/data/kakei/index.html）を参照し受託事業者が作成した

和装業界の新しい動き

昭和時代末期から着物産業界に新しい動きが出てくる。1980 年代には「ニューきもの」といわれる低価格でファッション性の高い合成繊維の仕立て上がり着物が登場しブームになった。

平成時代に入ると、チェーン展開による低価格化を図っていた小売店が、伝統的なデザインとは異なるカラフルな浴衣を発売し、浴衣ブームの火付け役となった。これは一過性のブームに終わらず、現在では、浴衣は花火大会やお祭りで着用される定番のファッションとなっている。

また、平成 10 年代には複数の小売店がリサイクル品やポリエステル着物を扱う新業態の店を商業

施設に出店し、ファッションの選択肢の一つとしての和装を提案した。

その後も、和装と洋装の融合ファッションや海外デザイナーとのコラボレーション、機能性の高い着物など、新しい提案が行われている。明治時代から昭和時代初期頃までの着物を扱うアンティーク着物店が増加したのもこの頃で、洋服感覚での自由な和装の着こなしが見られ始めた。この流れを受け、現代では長着をブラウスやニット、スカートと組み合わせたり、ブーツやパンプスを合わせたりする和洋混合の着用方法が若い世代に広がっており、現代の和装の一つの特徴となっている。

和装を着る機会の変化

平成 27 年（2015）の経済産業省の調査によると、着物を年に数回以上着る人の割合は 20 代女性が最多（15.8%）で、年代が若いほど今後の着用意向も高くなっている[14]。晴れ着としてではなく、日常的なファッションとしての着物に関心が寄せられ、和洋折衷など、差別化されたファッションとしての着用例も増えている。

レンタル着物の盛況

和服に対する年間支出金額は減少傾向にあるが、その一方で、「家計調査」における被服賃借料は、近年増加傾向にあり[15]、成人式や七五三、結婚式などの冠婚葬祭の折に着物を借りて着付けてもらう貸衣装やレンタル着物の需要は拡大しているものと考えられる。平成27年（2015）の経済産業省の調査によれば、観光地・旅行先で着用する人は20代女性の6.7%に上っておりレンタル着物の需要があることが分かる[16]。また、近年は、安価なクリーニング事業者の登場によりレンタル料金の低価格化が実現するという、新しい和装のエコシステムが生まれつつある。

過去30年間、縮小を続けてきた着物市場であるが、現在、ほぼ下げ止まったという指摘もある。インバウンド需要の高まりの中で新規開業した高級ホテルでは内装等に和装の素材を用いることも増え、和装業者の売上は平成20年代には堅調だった。また、最近では人気ロックミュージシャンが自身の名を冠した着物ブランドを手がけるなど、新しい話題も出てきている。

14 和装振興研究会『和装振興研究会報告書』経済産業省製造産業局繊維課、平成 27 年
（URL:https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12166597/www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou_shinkou/pdf/report01_01_00.pdf）最終確認日：令和６年２月 19 日
15 総務省統計局「和服に関する支出－家計調査結果（二人以上の世帯）より-」
（URL: https://www.stat.go.jp/data/kakei/tsushin/pdf/2020_02.pdf）最終確認日：令和６年２月 15 日
16 和装振興研究会『和装振興研究会報告書』経済産業省製造産業局繊維課、平成 27 年
（URL:https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/12166597/www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/wasou_shinkou/pdf/report01_01_00.pdf）最終確認日：令和６年２月 19 日

和装関係者への評価

和装に関する評価については、和装の普及・振興において功績があったとする人物が表彰を受けていることからも見て取ることができる。

文化庁が実施する文化庁長官表彰では、小泉清子氏（鈴乃屋創業者、着物研究家）が平成５年度（1993）に、市田ひろみ氏（和装評論家、エッセイスト、日本和装師会会長）が和装技法の研究や指導者養成等に努めたとして平成28年度に、和装に係る後進の育成や団体の要職にあって和装の普及・振興に努めた安田多賀子氏（和装文化研究家、装賀きもの学院院長）が平成30年度に、和装団体の長として和装の普及・振興に努めた近藤典博氏（元 NPO法人和装教育国民推進会議議長）が令和２年度に、それぞれ文化庁長官表彰を受けている。

表２　和装関係者の表彰一覧

表彰年度	氏名	主要経歴
平成　５年（1993）	小泉　清子	鈴乃屋創業者、着物研究家
平成28年（2016）	市田ひろみ	和装評論家、エッセイスト、日本和装師会会長
平成30年（2018）	安田多賀子	和装文化研究家、装賀きもの学院院長
令和　２年（2020）	近藤　典博	元 NPO法人和装教育国民推進会議議長

〈主要参考文献〉
・和装振興研究会『和装振興研究会報告書』経済産業省、平成27年
・金子秀光「着物産業における革新と多様性のマネジメント―　十日町市株式会社きものブレインの事例研究―」（『事業創造大学院大学紀要』第８巻１号、事業創造大学院大学、平成29年）
・金融財政事情研究会編『第14次　業種別審査事典』きんざい、令和２年
・島田昌和編『きものとデザイン』ミネルヴァ書房、令和２年

２－２　国民意識調査について

（１）調査の概要

生活文化に係る６分野（煎茶道、香道、和装、礼法、盆栽、錦鯉）に関して、インターネットを活用し２万人を対象としたウェブアンケート調査による国民の意識調査を実施することで、国民の生活文化に対する興味や関心などの実情について把握し、今後の生活文化等に関する政策立案の基礎資料の作成を行うことを目的として調査を実施した。

このウェブアンケート調査では、下記に示すとおり、和装の経験の有無を問う設問を設け、回答者の経験・体験の深度を図ると共に、経験・体験の程度ごとに設問群を設け、活動内容や興味関心について把握を行った。（詳細は巻末参考資料を参照）

■調査設計

<table>
<tr><td>調査方法</td><td>インターネット調査（調査業者：株式会社クロス・マーケティング）</td></tr>
<tr><td>調査地域</td><td>全国</td></tr>
<tr><td>調査対象者</td><td>18 歳以上の男女</td></tr>
<tr><td>サンプル数</td><td>２万サンプル
<table>
<tr><td></td><td>18～
20 代</td><td>30 代</td><td>40 代</td><td>50 代</td><td>60 代</td><td>70 代
以上</td></tr>
<tr><td>男性</td><td>1,398</td><td>1,359</td><td>1,759</td><td>1,580</td><td>1,459</td><td>2,090</td></tr>
<tr><td>女性</td><td>1,342</td><td>1,303</td><td>1,713</td><td>1,588</td><td>1,533</td><td>2,723</td></tr>
<tr><td>それ以外／
答えたくない</td><td>41</td><td>29</td><td>24</td><td>10</td><td>10</td><td>39</td></tr>
</table>
※国勢調査（令和２年）に基づき、性・年齢・都道府県別の比率に２万サンプルを割付けている。</td></tr>
<tr><td>調査期間</td><td>令和４年 10 月 14 日（金）～10 月 20 日（木）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">設問項目</td><td>【属性】
Ｆ１：性別
Ｆ２：年齢
Ｆ３：居住地
Ｆ４：職業
Ｆ５：同居している人の状況
Ｆ６：昨年度の世帯全体の年収
Ｆ７：最終学歴
Ｆ８：子供の頃の習い事</td></tr>
<tr><td>【フィルタリング・パート】
ＦＱ３：和装の経験の有無</td></tr>
<tr><td>【「着物を自分で着付けている（いた）、あるいは人に着付けている（着付けたことがある）」と回答した者への設問】
ＣＱ１：和装を習おうと思ったきっかけ
ＣＱ２：和装を始めた当初の習い方
ＣＱ２補問：当初の習い方を選んだ理由
ＣＱ３：現在の継続状況
ＣＱ３補問１：和装を続けている理由</td></tr>
</table>

	ＣＱ３補問２：和装から離れたきっかけや理由 ＣＱ４：和装を続けている（続けていた）年数 ＣＱ５：自分又は他者へ着付けをする機会 ＣＱ５補問：他者に着付けをしてもらう機会 ＣＱ６：和装をする頻度 ＣＱ７：和装に関する月額費用 ＣＱ８：和装に関する興味関心や魅力
	【「自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている（着たことがある）」と回答した者への設問】 ＣＱ９：和装を体験したきっかけ ＣＱ10：和装を体験した場 ＣＱ11：和装を習いやすい状況 ＣＱ12：和装に支払える月額費用 ＣＱ13：和装を習っていない理由 ＣＱ14：和装に対する印象やイメージ ＣＱ15：和装に関する興味関心や魅力
	【「今まで着物を着たことはない」と回答した者への設問】 ＣＱ16：参加してみたい和装の体験内容 ＣＱ17：参加しやすい和装の体験条件 ＣＱ18：和装を体験したことがない理由 ＣＱ19：和装に対する印象やイメージ ＣＱ20：和装に関する興味関心や魅力
	【共通設問】 Ｑ１：趣味・余暇活動の参加状況 Ｑ２：１ヶ月に使える趣味・余暇費用 Ｑ３：１ヶ月に使える趣味・余暇時間 Ｑ４：趣味・余暇活動を行う時間帯 Ｑ５：消費行動に対する価値観 Ｑ６：接触メディア

■調査結果を見る上での注意事項

・集計は小数点第２位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。

・集計表では、各回答の回答比率を示しているほか、属性（性別、年齢など）や設問間でのクロス集計を行った数値を示している。各回答の全体平均を比較して、±５pt もしくは±10pt の開きがある場合は色付けをしており、凡例を付してある。なお、５pt 丁度、10pt 丁度の場合、色付けを行っていない。

・集計によっては、母数が少なく、結果の信頼性が担保できないものがあるため、母数が少ない集計結果については、留意のため、グレーで表示している。

・調査設問項目【属性】のＦ３居住地は、総務省「地域別表章に関するガイドライン」の「類型Ｉ」に沿って、下記のとおり都道府県を分類している。

北海道：北海道

東北：青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県

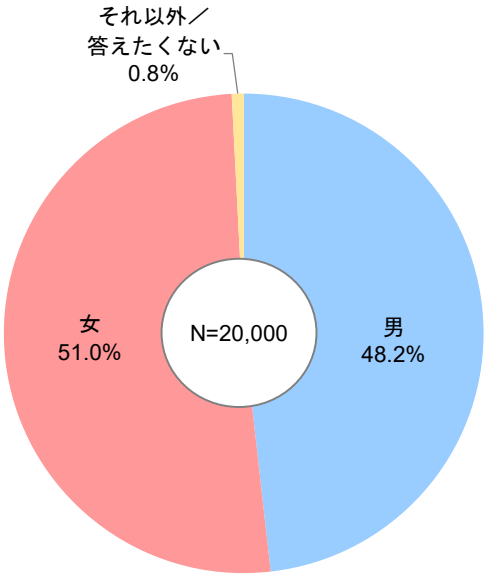
関東：茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県

北陸：新潟県・富山県・石川県・福井県
東海（中部）：岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
近畿：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県
中国：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県
四国：徳島県・香川県・愛媛県・高知県
九州：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県
沖縄：沖縄県

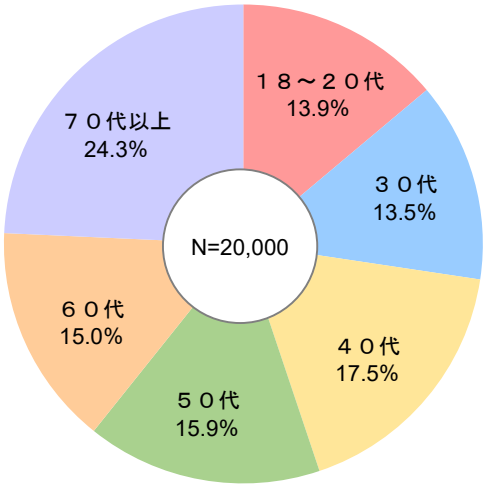
（２）調査結果概要

１．属性

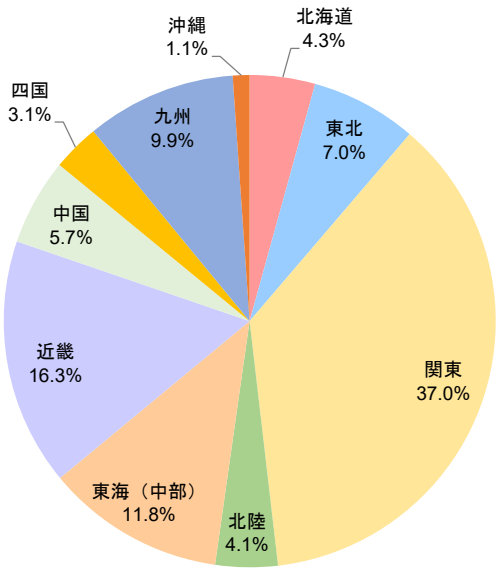
①性別



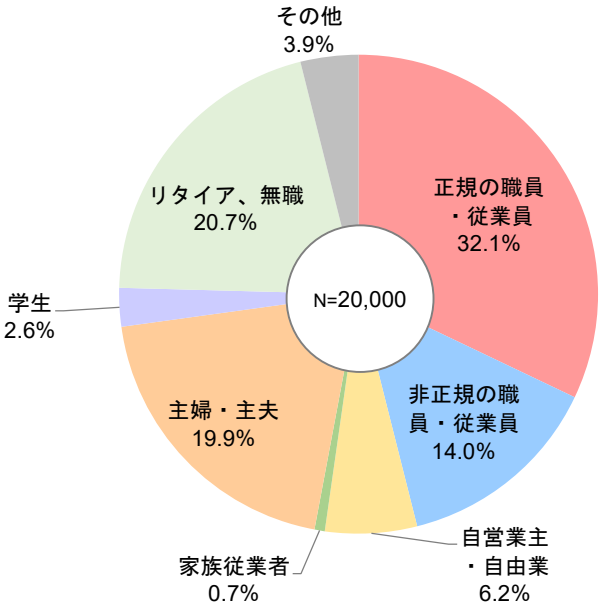
②年齢



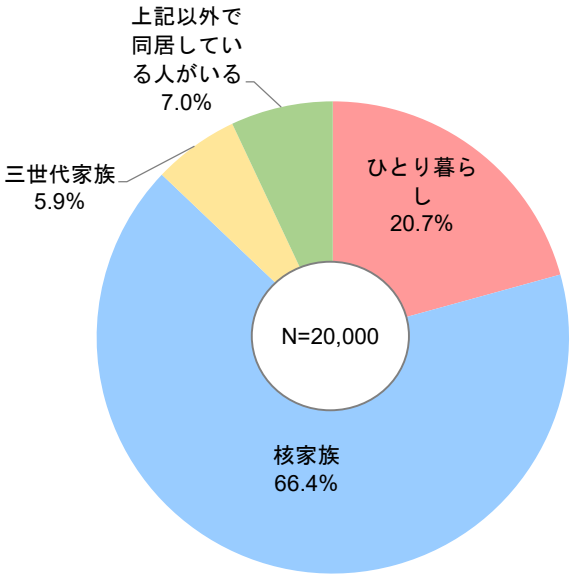
③居住地



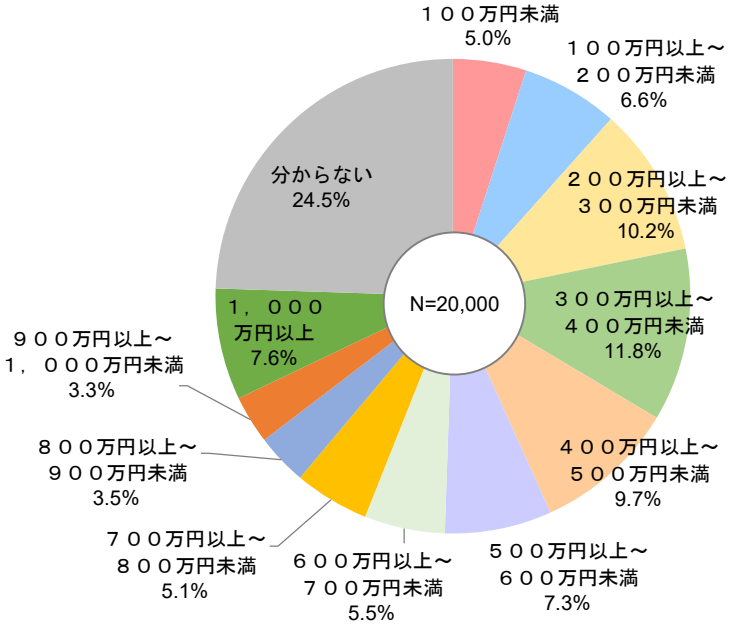
④職業



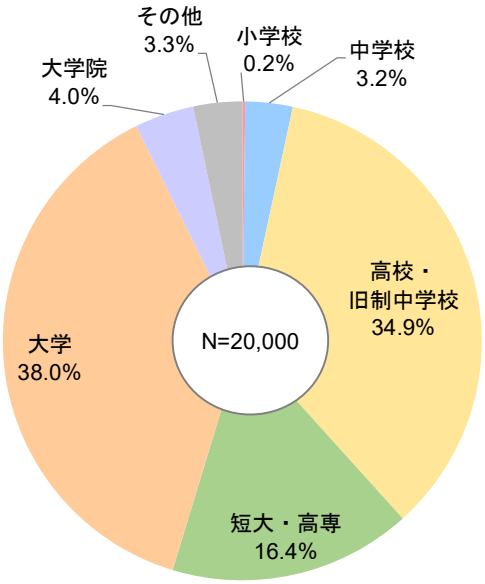
⑤同居している人の状況



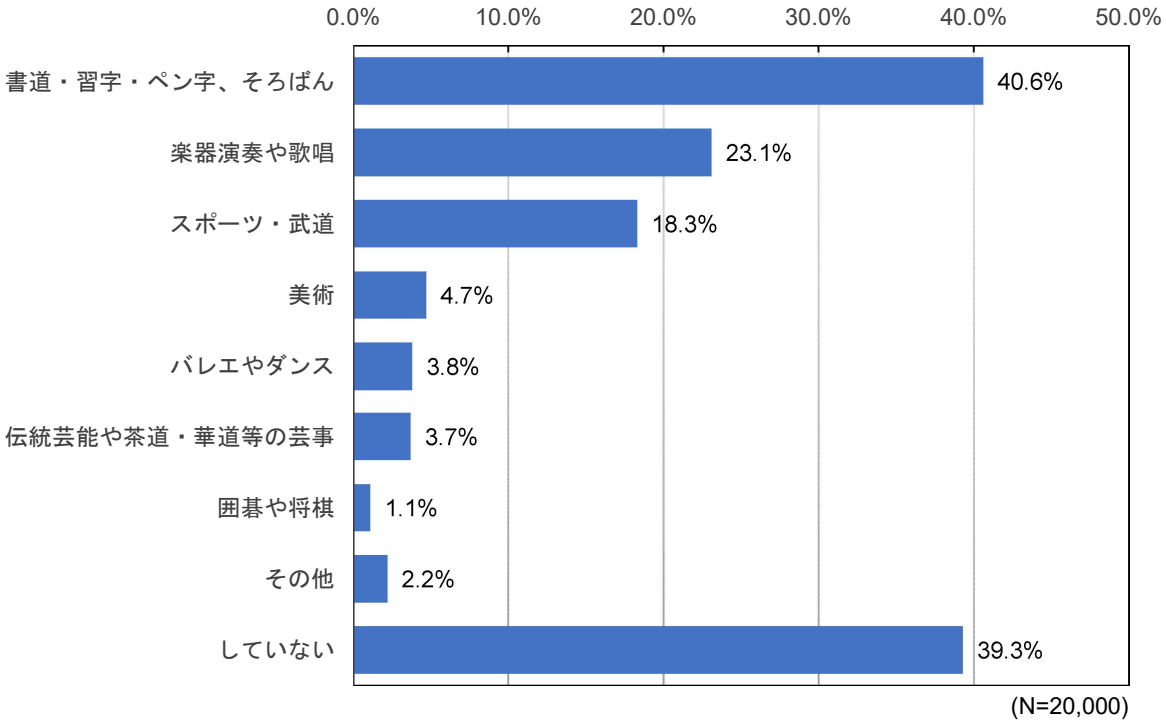
⑥昨年度の世帯全体の年収



⑦最終学歴



⑧子供の頃の習い事（複数回答）



（その他の内容）英会話教室、学習塾、ボーイスカウト

２．共通設問

共通１　あなたは下記のスポーツや趣味、娯楽等の活動をされていますか。（複数回答）

【スポーツ（観戦除く）】

（件・%）

全体	ウォーキング	ジョギング・マラソン	トレーニング	体操（器具を使わないもの）	ゴルフ（コース）	ゴルフ（練習場）	釣り	水泳（プールでの）	サイクリング・サイクルスポーツ	テニス	キャッチボール・野球	スキー
	32.1	7.8	7.0	6.3	5.1	4.0	3.6	3.4	2.9	2.8	2.3	2.3
	卓球	エアロビクス、ジャズダンス	ボウリング	サッカー	バトミントン	スノーボード	バレーボール	柔道・剣道・空手などの武道	バスケットボール	フットサル	スキンダイビング・スキューバダイビング	パークゴルフ・グラウンドゴルフなどの簡易ゴルフ
	2.1	2.0	1.8	1.8	1.6	1.2	1.1	1.1	1.0	0.9	0.8	0.7
	ソフトボール	サーフィン・ウィンドサーフィン	乗馬	アイススケート	ゲートボール	ヨット・モーターボート	カヌー・ラフティング	ハンググライダー・パラグライダー				
20,000	0.7	0.5	0.4	0.4	0.2	0.2	0.2	0.1				

【趣味・創作】

（件・%）

全体	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）	映画（テレビは除く）	動画鑑賞（レンタル、配信を含む）	園芸、庭いじり	音楽会、コンサートなど	スポーツ観戦（テレビは除く）	美術鑑賞（テレビは除く）	ファッション（楽しみとしての）	編物、織物、手芸	観劇（テレビは除く）	洋楽器の演奏
	17.3	16.1	14.5	13.6	12.8	10.8	7.4	6.7	5.9	5.9	4.9	4.7
	日曜大工	料理（日常的なものは除く）	写真の制作	学習・調べもの	絵を描く、彫刻をする	洋裁、和裁	文芸の創作（小説、詩、和歌、俳句など）	動画の制作・編集	演芸鑑賞（テレビは除く）	お花	模型づくり	書道
	4.6	4.3	3.9	3.7	3.0	2.9	2.3	2.1	2.0	1.8	1.8	1.7
	お茶	趣味工芸（組ひも、ペーパークラフト、革細工など）	邦楽、民謡	コーラス	陶芸	洋舞、社交ダンス	おどり（日舞など）					
20,000	1.6	1.5	1.5	1.1	1.0	0.8	0.4					

【娯楽】

（件・%）

	テレビゲーム（家庭での）	カラオケ	温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）	宝くじ	外食（日常的なものは除く）	ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	中央競馬	バーベキュー	麻雀	パチンコ	将棋	サウナ
全体	7.9	6.9	6.8	5.8	5.5	5.3	4.7	3.8	3.7	3.7	2.8	2.7
	ゲームセンター、ゲームコーナー	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	地方競馬	サッカーくじ（ｔｏｔｏ）	バー、スナック、パブ、飲み屋	囲碁	ボートレース（競艇）	競輪	ビリヤード	オートレース	クラブ、キャバレー	ディスコ
20,000	2.5	2.3	1.9	1.8	1.7	1.2	1.2	1.0	0.9	0.5	0.5	0.3

【観光・行楽】

（件・%）

	国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	ドライブ	動物園、植物園、水族館、博物館	海外旅行	ピクニック・ハイキング・野外散歩	遊園地	帰省旅行	催し物、博覧会	登山	海水浴	オートキャンプ	フィールドアスレチック
全体	30.7	17.9	12.4	9.2	6.9	6.4	6.4	5.4	4.0	2.1	2.0	0.6

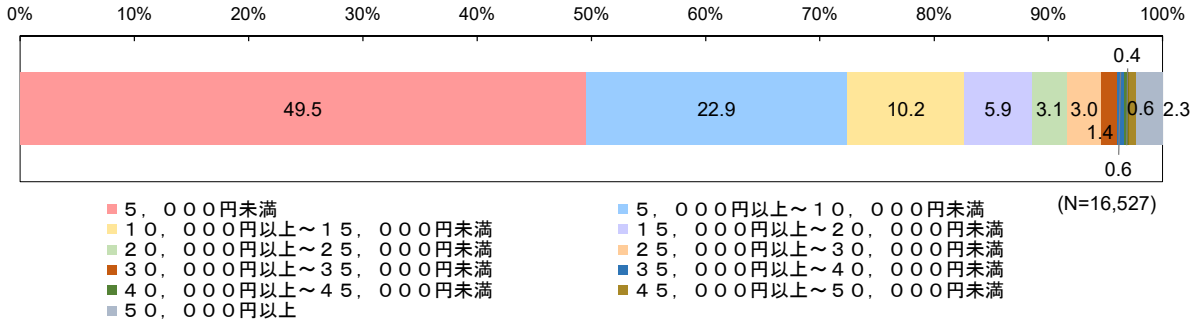
【その他・特に何もしていない】

（件・%）

	複合ショッピングセンター、アウトレットモール	ウィンドウショッピング	ペット（遊ぶ、世話をする）	ＳＮＳ、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	ヨガ、ピラティス	ボランティア活動	農園（市民農園など）	エステティック、ホームエステ	クルージング（客船による）	自由記述	特に何もしていない
全体	15.7	11.2	8.7	6.2	3.3	2.9	2.1	1.6	1.1	0.8	17.4

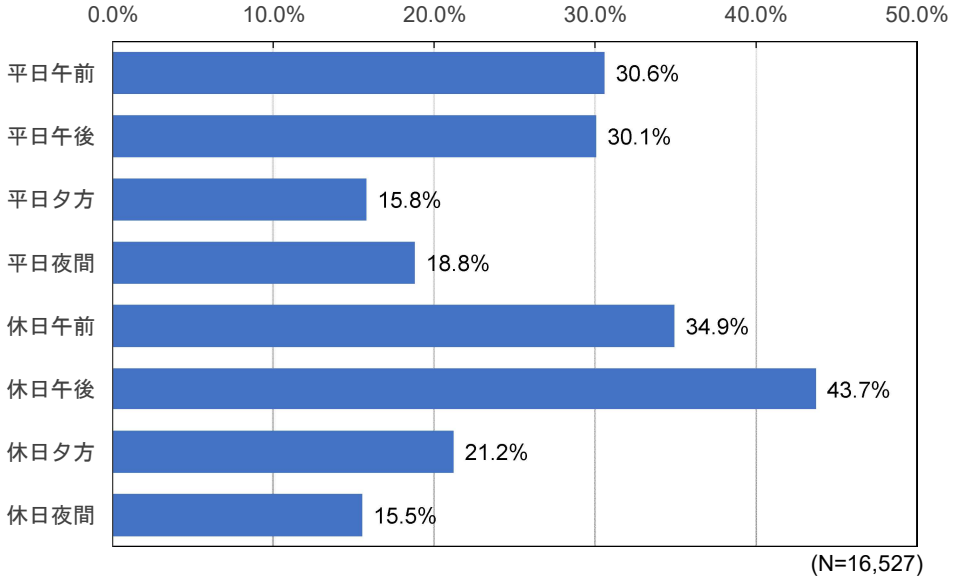
＜共通１で「特に何もしていない」以外を回答した方＞

共通２　あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。



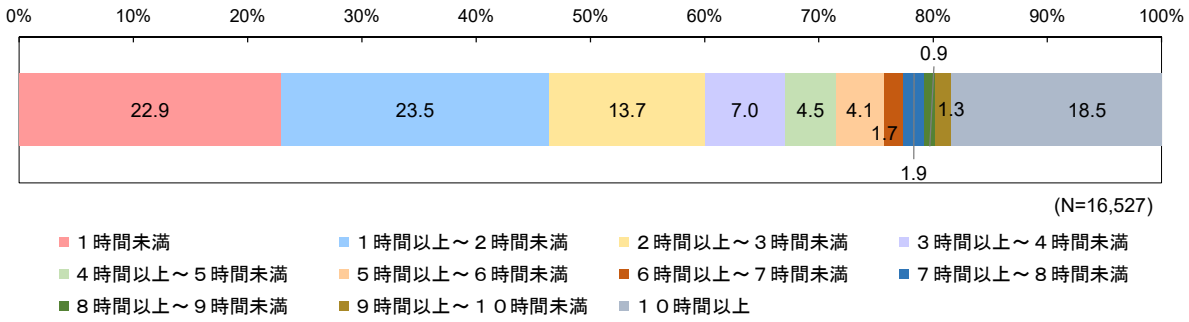
＜共通１で「特に何もしていない」以外を回答した方＞

共通３　あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。（複数回答）

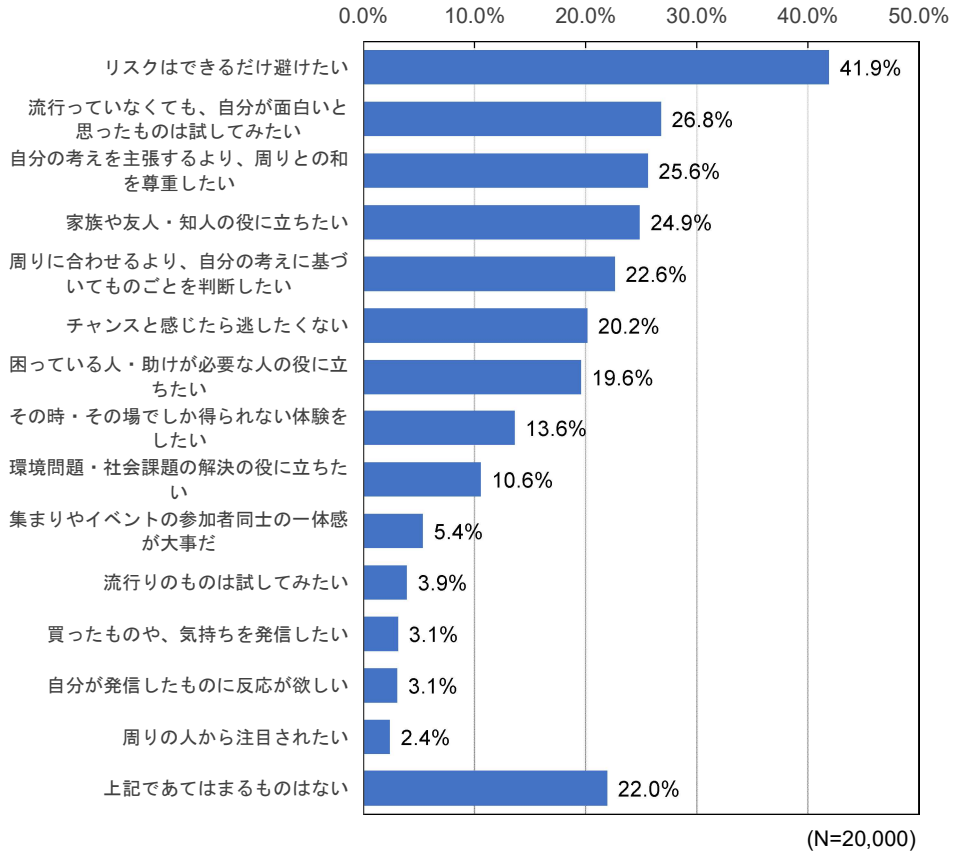


＜共通１で「特に何もしていない」以外を回答した方＞

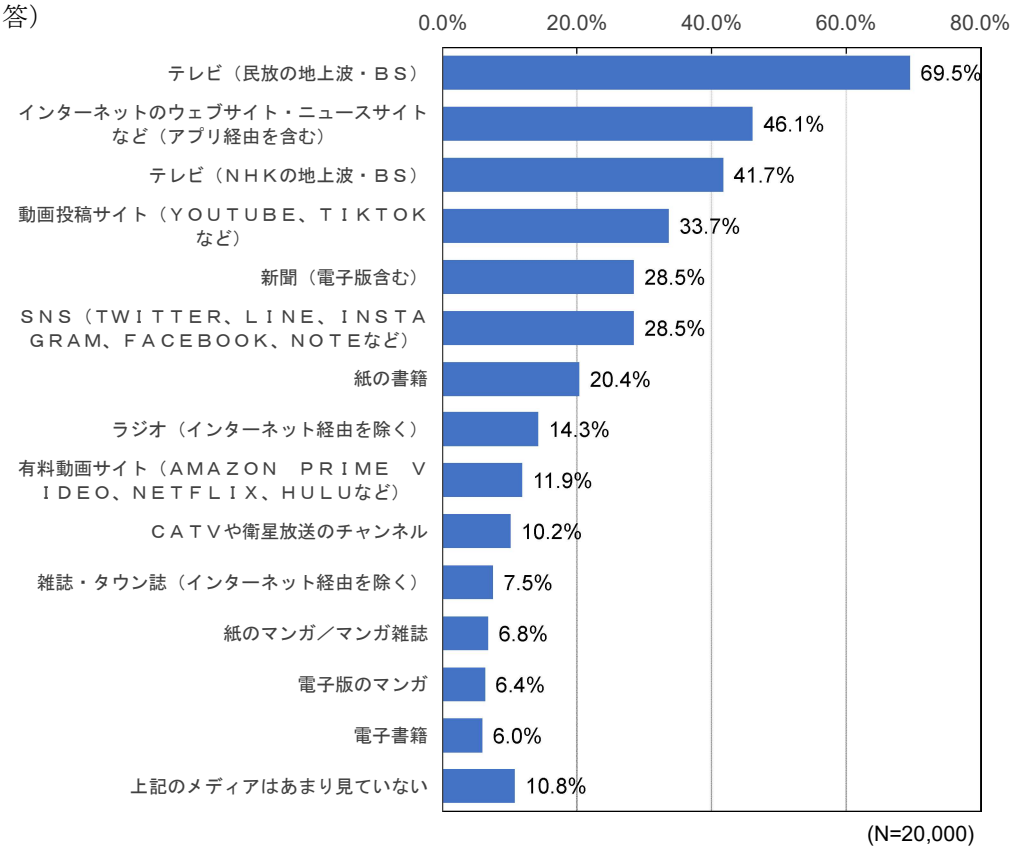
共通４　あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。



共通５　下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。（複数回答）



共通６　下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。（複数回答）



３．単純集計の結果について

■全調査対象者への設問（ＦＱ３：和装の経験・体験の有無）

着物を着たことがある者、全く着物を着たことがない者がどの程度いるのかを把握すると共に、自ら着付けることができるのか、あるいは人に着付けてもらって経験しているのか、どのような機会に着物を着ているのか、また、どのような点に着物の魅力や興味関心があるか等、これらの和装に関する現状の把握を行うため、本設問では、和装の経験の有無とあわせて、経験の深度を図る選択肢を設けて、実態の把握を行った。

ＦＱ３　和装の経験・体験の有無

和装を「着物を自分で着付けている（いた）、あるいは人に着付けている（着付けたことがある）」（以下、「経験あり」）比率は 11.0%（2,198 人）、「自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている（着たことがある）」（以下、「参加体験あり」）38.2%（7,642 人）、「今まで着物を着たことはない」（以下「未経験」）は 50.8%（10,160 人）となった。

男女別では、女性の「経験あり」が 17.3%、「参加体験あり」が 55.5%と回答比率が高い一方、男性は「未経験」（75.4%）が高く、男女差が大きい。

また、年齢別では、年齢が高くなるにつれて「経験あり」、「参加体験あり」の回答比率が高くなる傾向がうかがえる。

(%)

		n=	着物を自分で着付けている（いた）、あるいは人に着付けている（着付けたことがある）	自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている（着たことがある）	今まで着物を着たことはない
全体		20,000	11.0	38.2	50.8
性別	男	9,645	4.4	20.2	75.4
	女	10,202	17.3	55.5	27.1
	それ以外／答えたくない	153	5.2	17.6	77.1
年齢	18～20代	2,781	6.4	31.4	62.1
	30代	2,691	5.4	33.3	61.4
	40代	3,496	5.6	32.8	61.7
	50代	3,178	7.1	37.8	55.1
	60代	3,002	11.6	45.1	43.3
	70代以上	4,852	22.8	44.8	32.4

図１　ＦＱ３：和装の経験・体験の有無

■「着物を自分で着付けている（いた）、あるいは人に着付けている（着付けたことがある）」と回答した者への設問（ＣＱ１～ＣＱ８：経験者の実態把握）

本設問群では、着物を自ら着付けることができると回答した者が、どのようなきっかけや機会で着付けを習うようになったのか、どのような点に興味関心や魅力を感じているのか等の実態を把握するためのアンケートを実施した。

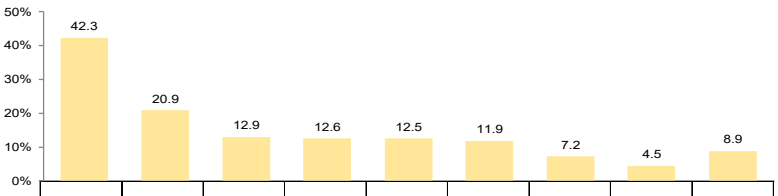
ＣＱ１　和装を習おうと思ったきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた」の 42.3%で、次いで「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」20.9%、「和装に係る仕事や職業に興味関心があった」12.9%、「成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった」12.6%と続く　。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた」（15.2%）が高い。

次に年齢別では、10～30 代で「親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた」、「学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した」、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」の回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別で見ると、「親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた」、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」については、経験年数が長いほど回答比率が高くなっている。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	和装に係る仕事や職業に興味関心があった	成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった	友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した	親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	その他
全　体		2,198	42.3	20.9	12.9	12.6	12.5	11.9	7.2	4.5	8.9
性別	男	421	44.9	16.4	11.2	12.1	10.0	10.2	15.2	8.1	9.3
	女	1,769	41.8	21.8	13.3	12.7	13.1	12.3	5.3	3.6	8.8
	それ以外／答えたくない	8	25.0	62.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5
年齢	18～20代	179	38.0	17.9	14.5	10.6	15.1	26.3	19.0	11.2	2.8
	30代	144	38.2	13.9	16.0	13.9	15.3	21.5	16.7	9.7	6.3
	40代	195	36.4	16.4	19.5	11.8	9.7	13.8	10.8	7.7	7.2
	50代	225	31.1	25.3	10.7	12.9	15.6	12.9	5.8	4.0	11.6
	60代	347	42.7	20.7	11.0	11.0	15.9	11.2	4.9	2.6	6.9
	70代以上	1,108	46.8	22.3	12.2	13.4	10.6	7.9	4.4	2.8	10.6
経験年数	1年未満	504	33.7	15.1	7.5	14.5	12.1	13.7	4.0	5.2	11.1
	1～3年未満	529	39.1	17.2	11.3	12.1	17.6	12.3	7.6	3.6	8.7
	3～5年未満	324	42.0	19.8	13.0	12.7	14.5	12.7	10.2	6.8	7.7
	5～10年未満	276	44.9	23.6	19.2	10.5	10.5	12.7	9.4	4.3	8.0
	10～20年未満	199	48.2	28.6	17.6	12.1	8.5	12.1	5.5	2.5	9.5
	20年以上	366	53.8	29.2	15.3	12.6	7.7	7.4	7.7	3.8	7.4

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図２　ＣＱ１：和装を習おうと思ったきっかけ

（その他の内容）自分で着物を着たかった、仕事で着ていたから、和服（着物）が好き

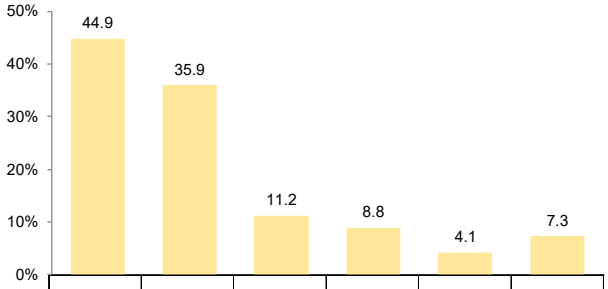
ＣＱ２　和装を始めた当初の習い方

全体平均で最も回答比率が高いのは「家族や知人等、身近な人に習っていた」の 44.9%で、次いで「着付け教室で習っていた」35.9%、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」11.2%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では男性で「家族や知人等、身近な人に習っていた」（65.6%）、「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」（18.3%）の回答比率が高く、「着付け教室で習っていた」（8.1%）が低い。一方、女性では「着付け教室で習っていた」（42.5%）の回答比率が高くなっている。

次に年齢別では、10～30 代で「学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた」、「カルチャーセンターの講座で習っていた」、「着付けや美容の専門学校で習っていた」の回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別では、年数が長いほど「家族や知人等、身近な人に習っていた」の回答比率が高くなっている。



n＝30以上
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	家族や知人等、身近な人に習っていた	着付け教室で習っていた	学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた	カルチャーセンターの講座で習っていた	着付けや美容の専門学校で習っていた	その他
全体		2,198	44.9	35.9	11.2	8.8	4.1	7.3
性別	男	421	65.6	8.1	18.3	10.2	4.8	11.4
	女	1,769	40.0	42.5	9.6	8.5	4.0	6.3
	それ以外／答えたくない	8	37.5	50.0	-	-	-	12.5
年齢	18～20代	179	40.8	16.8	32.4	18.4	12.8	5.0
	30代	144	52.1	20.1	19.4	18.1	9.7	5.6
	40代	195	44.1	31.8	17.4	10.8	4.6	10.8
	50代	225	38.7	40.0	8.4	8.0	4.4	7.6
	60代	347	40.1	47.6	6.3	9.5	3.2	4.3
	70代以上	1,108	47.5	37.4	7.8	5.7	2.2	8.1
経験年数	1年未満	504	42.1	31.7	9.5	7.1	3.4	10.9
	1～3年未満	529	37.1	43.1	12.9	10.4	3.6	3.6
	3～5年未満	324	39.2	40.1	17.6	11.1	3.7	5.6
	5～10年未満	276	44.9	35.9	9.1	11.2	4.0	8.0
	10～20年未満	199	53.3	35.2	8.5	7.5	5.5	7.5
	20年以上	366	60.4	28.1	8.7	5.7	5.7	8.5

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図３　ＣＱ２：和装を始めた当初の習い方

（その他の内容）職場で習った、自力で覚えた、見よう見まね

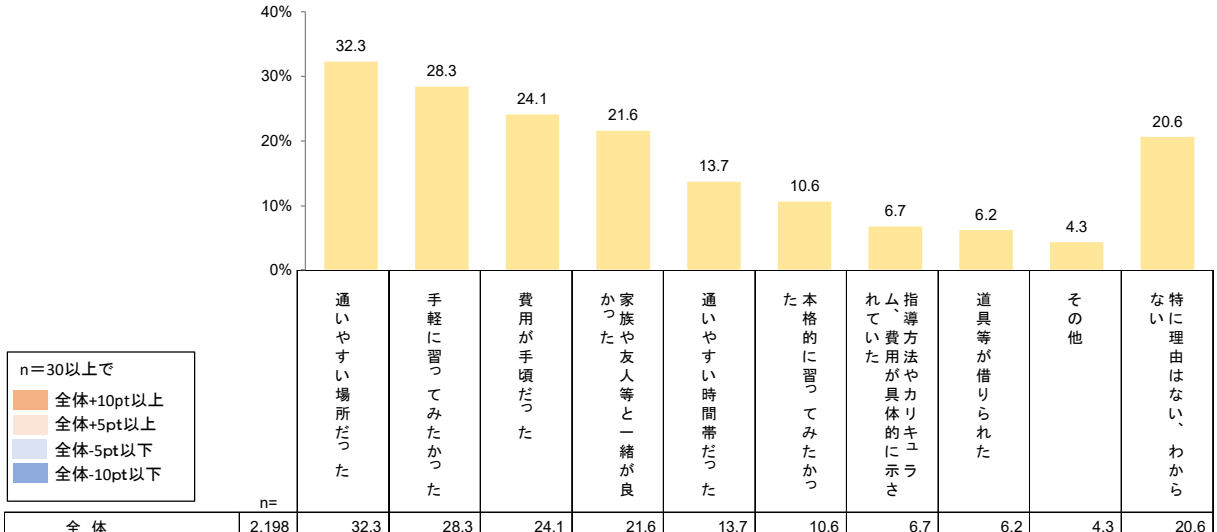
ＣＱ２補問　当初の習い方を選んだ理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「通いやすい場所だった」の 32.3%で、次いで「手軽に習ってみたかった」28.3%、「費用が手頃だった」24.1%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では男性で「家族や友人等と一緒が良かった」（29.2%）が高く、「通いやすい場所だった」（15.4%）、「費用が手頃だった」（14.0%）、「手軽に習ってみたかった」（17.1%）、「通いやすい時間帯だった」（5.0%）が低い。

また、年齢別では「家族や友人等と一緒が良かった」、「道具等が借りられた」、「指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた」で 18～30 代で回答比率が高い傾向が見られる。

経験年数別では、１～３年未満の者では「通いやすい場所だった」（40.8%）、「費用が手頃だった」（30.6%）の回答比率が高い一方、20 年以上の者の回答比率は低い。



		n=	通いやすい場所だった	手軽に習ってみたかった	費用が手頃だった	家族や友人等と一緒が良かった	通いやすい時間帯だった	本格的に習ってみたかった	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた	道具等が借りられた	その他	特に理由はない、わからない
全体		2,198	32.3	28.3	24.1	21.6	13.7	10.6	6.7	6.2	4.3	20.6
性別	男	421	15.4	17.1	14.0	29.2	5.0	5.9	5.7	8.6	3.8	33.5
	女	1,769	36.2	31.1	26.3	19.7	15.7	11.7	7.0	5.7	4.5	17.6
	それ以外／答えたくない	8	62.5	12.5	50.0	25.0	37.5	-	12.5	-	-	12.5
年齢	18～20代	179	30.7	18.4	19.0	30.7	7.3	10.6	12.8	14.5	3.4	15.1
	30代	144	26.4	22.2	25.0	29.2	8.3	11.1	12.5	17.4	2.8	14.6
	40代	195	29.7	26.2	26.7	19.0	13.3	8.2	7.7	6.7	6.2	20.0
	50代	225	39.1	23.1	28.4	20.4	18.2	11.6	5.8	7.6	5.8	16.4
	60代	347	38.9	28.5	26.2	19.3	17.9	13.3	5.8	4.6	3.5	19.0
	70代以上	1,108	30.3	32.1	22.7	20.5	13.3	9.8	5.3	3.5	4.3	23.7
経験年数	1年未満	504	27.8	29.8	22.8	19.6	10.7	3.8	4.2	3.8	4.6	25.8
	1～3年未満	529	40.8	32.5	30.6	22.5	15.9	9.5	8.3	6.2	3.4	13.6
	3～5年未満	324	35.2	25.3	25.3	21.6	12.3	13.3	4.9	8.6	3.7	17.0
	5～10年未満	276	30.4	27.9	22.1	21.7	14.1	16.3	9.1	10.5	3.3	18.1
	10～20年未満	199	35.2	29.1	25.6	24.6	18.6	13.1	8.0	8.0	5.5	16.1
	20年以上	366	23.5	23.0	15.8	21.0	12.8	13.4	7.1	3.0	6.0	31.1

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図４　ＣＱ２補問：当初の習い方を選んだ理由

（その他の内容）アルバイト、仕事上で必要だった、習っていないけどいつの間にかできた、授業で習った

ＣＱ３　当初の習い方を選んだ理由

「現在も着付けを行っている」は 23.1%（507 人)、「現在は着付けを行っていない」は 76.9%（1,691 人）と、続けていないとの回答比率が高いことが分かる。

男女別で見た場合、男性で「現在も着付けを行っている」が 30.6%と高く、女性で 21.3%と低い。

年齢別では年代が上がっていくに従って、継続率が下がっていく傾向が見られる。

経験年数別では、年数が長いほど「現在も着付けを行っている」の回答比率が高くなっている。

(%)

		n=	現在も着付けを行っている	現在は着付けを行っていない
全 体		2,198	23.1	76.9
性別	男	421	30.6	69.4
	女	1,769	21.3	78.7
	それ以外／答えたくない	8	12.5	87.5
年齢	18～20代	179	45.8	54.2
	30代	144	43.1	56.9
	40代	195	28.2	71.8
	50代	225	26.2	73.8
	60代	347	21.6	78.4
	70代以上	1,108	15.7	84.3
経験年数	１年未満	504	7.5	92.5
	１～３年未満	529	13.0	87.0
	３～５年未満	324	18.2	81.8
	５～１０年未満	276	26.4	73.6
	１０～２０年未満	199	36.7	63.3
	２０年以上	366	53.3	46.7

※n=30未満は参考値のため灰色

図５　ＣＱ３：現在の継続状況

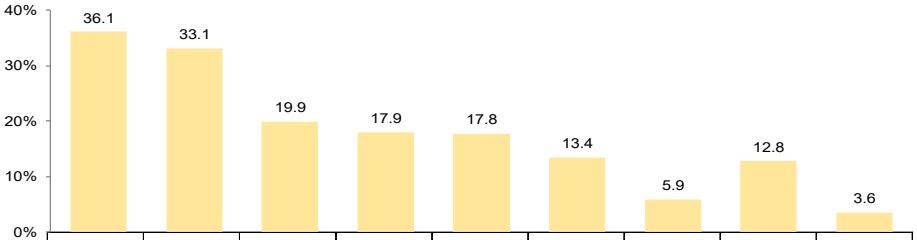
ＣＱ３補問　和装を続けている理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「日本の文化だから」の 36.1%で、次いで「四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい」33.1%、「着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい」19.9%と続く。

全体平均の回答比率と、男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「指導者や教授者として活動したい（している）」（36.4%）、「一緒に楽しむ仲間がいる」（28.7%）の回答比率が高く、「四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい」（17.1%）が低い。また、女性では、「指導者や教授者として活動したい（している）」（11.4%）が少なく、「四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい」（38.7%）が高い。

年齢別では 10～30 代で「指導者や教授者として活動したい（している）」、「一緒に楽しむ仲間がいる」、「着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい」という回答が多く、年齢が高いほど「四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい」の回答比率が高くなる。

経験年数別では、年数が長いほど「指導者や教授者として活動したい（している）」という回答比率が低くなっている一方、「四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい」の回答比率が高くなっている。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	日本の文化だから	四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい	着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい	一緒に楽しむ仲間がいる	指導者や教授者として活動したい（している）	習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった	その他	特に理由はない	上記の中で当てはまるものはない
全　体		507	36.1	33.1	19.9	17.9	17.8	13.4	5.9	12.8	3.6
性別	男	129	40.3	17.1	23.3	28.7	36.4	17.1	2.3	4.7	3.1
	女	377	34.5	38.7	18.6	14.3	11.4	11.9	6.9	15.6	3.7
	それ以外／答えたくない	1	100.0	-	100.0	-	-	100.0	100.0	-	-
年齢	18～20代	82	37.8	17.1	28.0	32.9	35.4	15.9	2.4	6.1	1.2
	30代	62	30.6	17.7	32.3	30.6	33.9	14.5	3.2	9.7	1.6
	40代	55	34.5	21.8	16.4	16.4	18.2	14.5	1.8	12.7	3.6
	50代	59	35.6	32.2	20.3	5.1	8.5	11.9	10.2	15.3	5.1
	60代	75	34.7	44.0	16.0	14.7	8.0	16.0	6.7	10.7	6.7
	70代以上	174	38.5	45.4	14.4	12.6	10.9	10.9	8.0	17.2	3.4
経験年数	1年未満	38	18.4	15.8	5.3	10.5	44.7	2.6	2.6	13.2	-
	1～3年未満	69	47.8	18.8	23.2	15.9	24.6	7.2	2.9	8.7	2.9
	3～5年未満	59	39.0	22.0	22.0	33.9	22.0	16.9	8.5	5.1	3.4
	5～10年未満	73	32.9	34.2	32.9	26.0	16.4	17.8	4.1	6.8	2.7
	10～20年未満	73	38.4	37.0	23.3	23.3	17.8	15.1	9.6	13.7	5.5
	20年以上	195	34.9	43.1	14.9	10.3	9.2	14.4	6.2	18.5	4.1

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図６　ＣＱ３補問１：和装を続けている理由

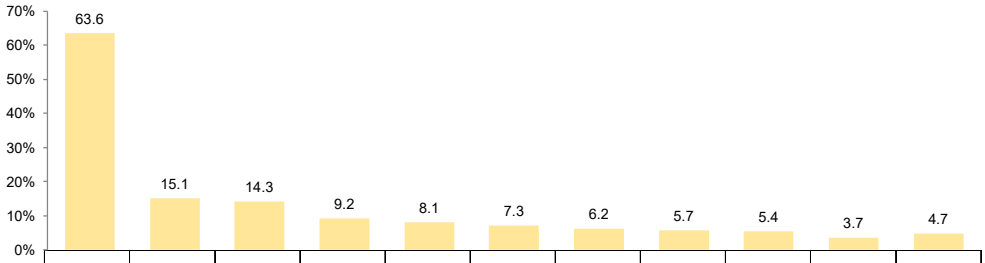
（その他の内容）着物が好き、習い事の為（別の趣味で着ている）、着物を着るだけでオシャレに見られる

ＣＱ３補問２　和装から離れたきっかけや理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「着物を着ていくような場面や機会がなくなった」の 63.6%で、次いで「時間がなくなった」15.1%で、「興味を失った」14.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「着物を着ていくような場面や機会がなくなった」（46.9%）という回答比率が低い。

年齢別では、10～50 代で「時間がなくなった」の回答比率が高く、「着物を着ていくような場面や機会がなくなった」の回答比率が低い。一方、60 代以上では「着物を着ていくような場面や機会がなくなった」の回答比率が高くなっている。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	着物を着ていくような場面や機会がなくなった	時間がなくなった	興味を失った	着崩れする、動きにくい	近くに習う場所がなくなった	健康面、体調面で続けることが難しくなった	一緒に着物を楽しむ仲間と疎遠になった	着付けに関する仕事を辞めた	経済的に続けるのが難しくなった	着物の相談等ができる場所がなくなった	その他
全 体		1,691	63.6	15.1	14.3	9.2	8.1	7.3	6.2	5.7	5.4	3.7	4.7
性別	男	292	46.9	14.0	18.8	8.2	7.5	4.5	8.6	5.8	5.1	4.8	7.9
	女	1,392	67.2	15.2	13.4	9.3	8.3	7.8	5.7	5.7	5.4	3.4	4.1
	それ以外／答えたくない	7	28.6	42.9	14.3	14.3	-	14.3	-	-	28.6	-	-
年齢	18～20代	97	33.0	26.8	15.5	9.3	14.4	5.2	2.1	11.3	6.2	4.1	6.2
	30代	82	43.9	25.6	8.5	6.1	11.0	7.3	9.8	11.0	7.3	4.9	3.7
	40代	140	45.0	33.6	15.7	6.4	12.1	6.4	4.3	13.6	10.7	4.3	4.3
	50代	166	56.0	24.1	15.7	4.8	9.0	2.4	6.6	6.0	11.4	4.2	5.4
	60代	272	69.9	14.0	19.1	7.0	7.7	5.5	5.1	2.2	4.0	2.6	2.6
	70代以上	934	70.8	9.0	12.8	11.2	6.5	9.0	6.9	4.4	3.7	3.6	5.2
経験年数	1年未満	466	53.6	17.2	18.7	9.9	8.2	4.9	3.9	4.1	4.5	3.2	6.7
	1～3年未満	460	67.4	18.0	15.7	10.0	10.4	7.4	5.4	4.1	7.2	3.5	1.5
	3～5年未満	265	66.0	12.5	13.6	10.9	9.4	5.7	8.7	4.5	5.3	5.7	5.7
	5～10年未満	203	70.4	13.3	9.4	7.4	6.4	14.8	8.9	11.3	4.9	2.5	4.4
	10～20年未満	126	70.6	11.9	5.6	5.6	6.3	5.6	7.9	10.3	3.2	3.2	4.8
	20年以上	171	63.2	10.5	12.3	7.0	2.9	8.2	6.4	5.8	5.8	4.1	7.0

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図７　ＣＱ３補問２：和装から離れたきっかけや理由

（その他の内容）一通り習った・教室を卒業した、老齢なので、後始末が大変なので

ＣＱ４　和装を続けている（続けていた）年数

全体平均で最も回答比率が高いのは「１～３年未満」の24.1%で、次いで「１年未満」の22.9%、「３～５年未満」の14.7%と続く。全体平均で３年以上続けている（いた）人の比率は53.0%となっている。

男女別では、３年以上の継続している者が、男性で 49.4%（421 人中 208 人）、女性で 53.9%（1,769 人中 954 人）となっており、女性の方が長く続けている（いた）人の割合が高いことが分かる。

年齢別では10～30代で「１年未満」の回答比率が高い。

(%)

		n=	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上		3年以上
全体		2,198	22.9	24.1	14.7	12.6	9.1	16.7		53.0
性別	男	421	31.6	19.0	16.6	7.8	7.4	17.6		49.4
	女	1,769	20.8	25.3	14.2	13.7	9.4	16.5		53.9
	それ以外／答えたくない	8	37.5	25.0	25.0		12.5			37.5
年齢	18～20代	179	30.7	29.1	21.2	12.3	5.0		1.7	40.2
	30代	144	30.6	18.8	19.4	15.3	8.3	7.6		50.7
	40代	195	22.1	28.2	15.4	9.2	11.8	13.3		49.7
	50代	225	22.7	27.1	12.4	12.0	10.7	15.1		50.2
	60代	347	22.2	26.5	14.7	11.8	9.2	15.6		51.3
	70代以上	1,108	21.1	21.8	13.4	13.2	8.9	21.5		57.0

※n=30未満は参考値のため灰色

図８　ＣＱ４：和装を続けている（続けていた）年数

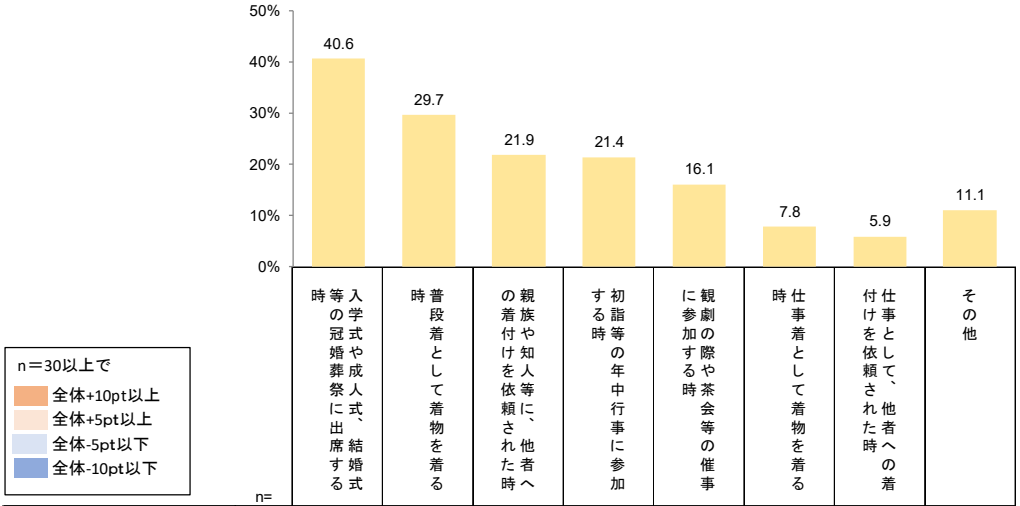
ＣＱ５　自分又は他者へ着付けをする機会

全体平均で最も回答比率が高いのは「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時」の40.6％で、次いで「普段着として着物を着る時」29.7％、「親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時」21.9％と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「普段着として着物を着る時」（34.9％）、「初詣等の年中行事に参加する時」（29.2％）、「仕事着として着物を着る時」（16.2％）の回答比率が高く、「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時」（19.5％）が低い。

年齢別では 18～20 代で「仕事着として着物を着る時」「仕事として、他者への着付けを依頼された時」の回答比率が高い。

経験年数別では、経験年数が長いほど「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時」、「観劇の際や茶会等の催事に参加する時」、「親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時」の回答比率が高くなる傾向が見られる。



		n=	入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時	普段着として着物を着る時	親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時	初詣等の年中行事に参加する時	観劇の際や茶会等の催事に参加する時	仕事着として着物を着る時	仕事として、他者への着付けを依頼された時	その他
全体		2,198	40.6	29.7	21.9	21.4	16.1	7.8	5.9	11.1
性別	男	421	19.5	34.9	11.9	29.2	11.6	16.2	6.4	10.0
	女	1,769	45.6	28.4	24.3	19.6	17.2	5.8	5.8	11.3
	それ以外／答えたくない	8	50.0	37.5	25.0	25.0	12.5	12.5	-	12.5
年齢	18～20代	179	31.3	23.5	20.1	27.4	17.9	20.7	16.2	4.5
	30代	144	35.4	25.0	14.6	23.6	25.7	15.3	13.2	8.3
	40代	195	43.6	28.2	18.5	25.6	19.5	11.8	3.6	7.2
	50代	225	36.4	24.4	23.1	20.4	17.3	10.2	8.0	12.4
	60代	347	38.9	30.5	23.1	21.3	14.4	7.5	3.5	13.0
	70代以上	1,108	43.7	32.3	23.1	19.7	14.3	3.7	4.1	12.3
経験年数	1年未満	504	30.4	27.6	11.7	18.8	4.8	4.2	2.8	18.1
	1～3年未満	529	38.8	25.7	16.8	18.9	12.1	8.5	3.2	11.9
	3～5年未満	324	39.2	28.4	18.8	19.8	16.0	9.0	7.7	7.1
	5～10年未満	276	44.6	33.0	27.2	20.3	21.4	6.9	6.2	9.8
	10～20年未満	199	51.3	34.7	31.2	30.2	27.6	11.6	11.6	5.0
	20年以上	366	50.0	34.2	36.9	26.2	27.3	9.6	9.3	7.9

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図９　ＣＱ５：自分又は他者へ着付けをする機会

（その他の内容）趣味・習い事の際、お祭り、旅行や観光の際に着物を着る時・旅館などの浴衣着

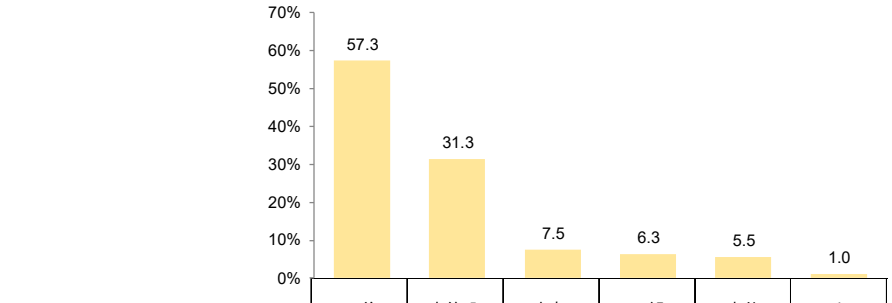
ＣＱ５補問　他者に着付けをしてもらう機会

全体平均で最も回答比率が高いのは「着付けてもらうことはない」の 57.3%で、次いで「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時」31.3%、「初詣等の年中行事に参加する時」7.5%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「初詣等の年中行事に参加する時」（15.0%）、「仕事着として着物を着る時」（13.3%）の回答比率が高く、「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時」（19.0%）の回答比率が低い。

年齢別では、10～30 代で「着付けてもらうことはない」という回答比率が全体平均より低く、ほかの選択肢の回答比率が平均より高い。

経験年数別では、20 年以上の者は「着付けてもらうことはない」（68.6%）の回答比率が高く、普段から着付けに慣れ親しんでいるものと推察される。



		n=	着付けてもらうことはない	入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時	初詣等の年中行事に参加する時	観劇の際や茶会等の催事に参加する時	仕事着として着物を着る時	その他
	全 体	2,198	57.3	31.3	7.5	6.3	5.5	1.0
性別	男	421	57.5	19.0	15.0	9.0	13.3	1.4
	女	1,769	57.2	34.3	5.7	5.7	3.6	0.9
	それ以外／答えたくない	8	62.5	25.0	-	-	12.5	-
年齢	18～20代	179	28.5	37.4	20.7	20.7	17.3	2.2
	30代	144	38.2	38.9	18.1	15.3	16.7	0.7
	40代	195	52.3	32.3	11.8	9.2	8.7	0.5
	50代	225	55.6	27.6	5.8	6.2	8.4	0.9
	60代	347	55.9	38.0	3.5	3.7	3.7	0.3
	70代以上	1,108	66.1	27.8	4.8	3.1	1.5	1.2
経験年数	1年未満	504	59.3	27.8	5.8	3.4	5.4	1.6
	1～3年未満	529	49.7	40.3	7.6	6.2	4.3	0.8
	3～5年未満	324	53.4	33.6	8.6	8.6	6.5	0.9
	5～10年未満	276	60.5	27.9	9.1	7.6	5.1	1.4
	10～20年未満	199	53.3	33.2	10.6	10.1	8.0	0.5
	20年以上	366	68.6	22.7	5.7	5.2	5.5	0.5

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 10　ＣＱ５補問：他者に着付けをしてもらう機会

（その他の内容）習い事のとき（発表会）、あらたまった時、子供のイベントに合わせた写真撮影で

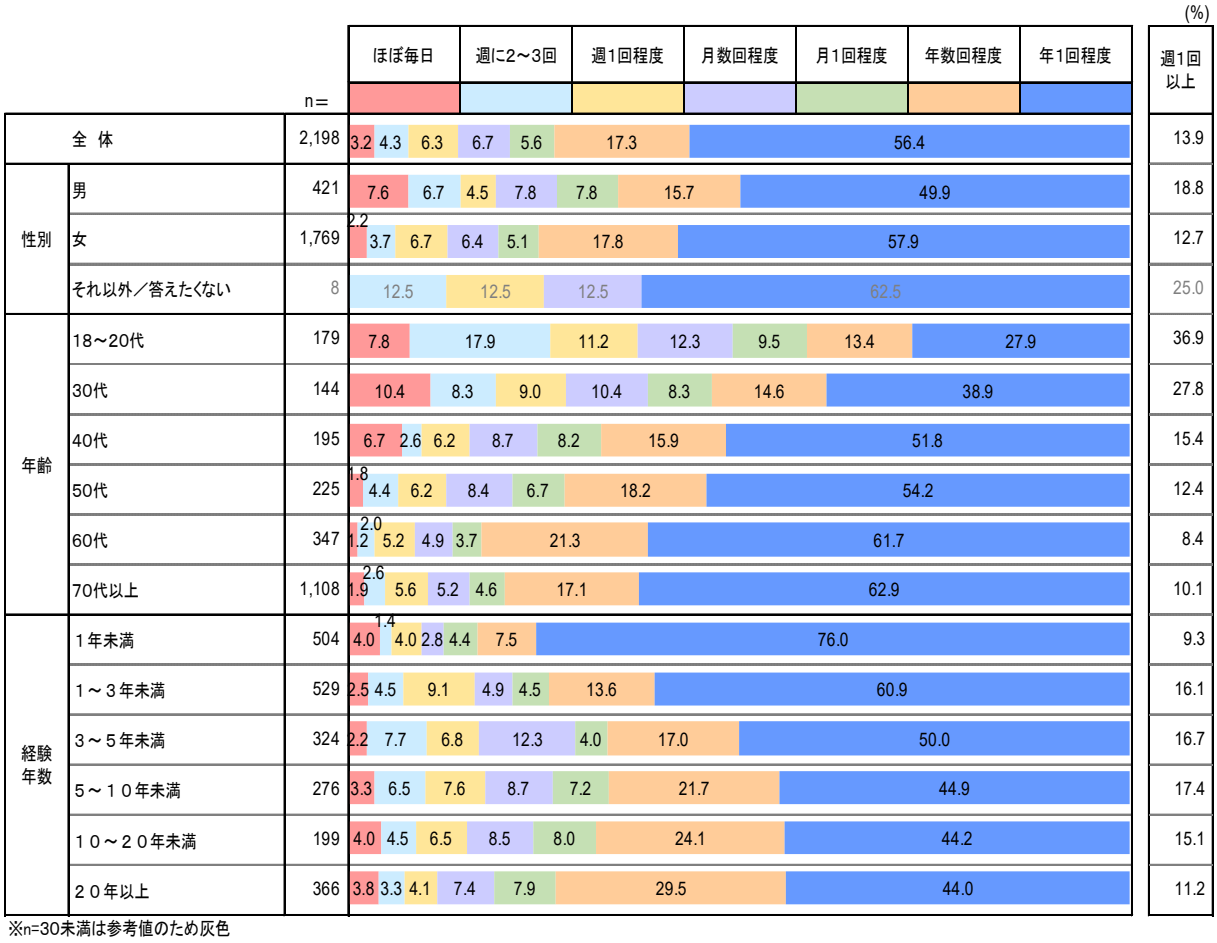
ＣＱ６：和装をする頻度

全体平均で最も回答比率が高いのは「年１回程度」の 56.4%で、次いで「年数回程度」17.3%、「月数回程度」6.7%と続く。週１回以上活動している（いた）比率は 13.9%（2,198 人中 305 人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で週１回以上和装をしている（いた）比率が 18.8%（421 人中 79 人）、女性で 12.7%（1,769 人中 224 人）となっており、男性の方が和装をする頻度が全体平均と比べると高い傾向にある。

年齢別では、年齢が若いほど週１回以上和装をしている（いた）比率が高い傾向が見られる。

また、経験年数別では、経験年数が１年未満の者で「年１回程度」（60.9%）の回答比率が高いほか、20 年以上の経験年数の者では、「年数回程度」（29.5%）の回答比率が高い。



※n=30未満は参考値のため灰色

図 11　ＣＱ６：和装をする頻度

ＣＱ７　和装に関する月額費用

全体平均で最も多いのは月額「5,000 円未満」の 69.9%で、次いで「5,000 円以上～10,000 円未満」15.4%、「10,000 円以上～15,000 円未満」5.5%と続く。月額１万円以上支出している（いた）比率は 14.7%（2,198 人中 323 人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較した場合、まず男女別では、男性で月額１万円以上支出している（いた）割合が 23.8%（421 人中 100 人）と、女性の 12.5%（1,769 人中 222 人）より高い。

年齢別では、年齢が低いほど、月額１万円以上支出している（いた）割合が高いことが分かる。

経験年数別では、経験年数が１年未満の者は月額「5,000 円未満」（84.3%）の回答比率が高い一方、経験年数が１～10 年未満の者は月額 5,000 円以上支出している（いた）割合が高い。

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	５,０００円未満	１５０,０００円以上～円未満	１１５０,０００円以上～円未満	２１０５,０００円以上～円未満	２２５０,０００円以上～円未満	３２０５,０００円以上～円未満	３３５０,０００円以上～円未満	４３０５,０００円以上～円未満	４４５０,０００円以上～円未満	５４０５,０００円以上～円未満	５０,０００円以上	１０,０００円以上合計
全体		2,198	69.9	15.4	5.5	2.9	1.3	1.1	0.7	0.4	0.5	0.3	2.1	14.7
性別	男	421	65.1	11.2	7.1	5.2	1.9	1.7	1.4	1.0	1.4	0.5	3.6	23.8
	女	1,769	71.0	16.4	5.1	2.3	1.1	1.0	0.5	0.2	0.2	0.3	1.8	12.5
	それ以外／答えたくない	8	87.5	-	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	12.5
年齢	18～20代	179	45.3	17.9	16.2	3.9	5.6	1.1	1.1	1.1	2.2	1.1	4.5	36.9
	30代	144	48.6	20.1	10.4	8.3	1.4	1.4	3.5	0.7	1.4	-	4.2	31.3
	40代	195	64.1	13.3	6.2	3.1	2.1	3.6	1.0	0.5	1.0	0.5	4.6	22.6
	50代	225	66.2	16.9	4.9	4.0	1.8	1.3	0.9	0.9	-	0.4	2.7	16.9
	60代	347	75.5	15.0	2.6	3.2	-	1.4	-	0.3	-	-	2.0	9.5
	70代以上	1,108	76.7	14.5	4.1	1.6	0.7	0.5	0.4	0.1	0.2	0.3	0.9	8.8
経験年数	１年未満	504	84.3	9.1	3.2	1.2	0.8	0.2	0.4	-	-	-	0.8	6.5
	１～３年未満	529	67.1	20.8	6.2	2.5	0.8	0.8	0.6	0.2	0.4	-	0.8	12.1
	３～５年未満	324	60.2	18.5	7.7	3.1	3.4	2.2	0.9	1.2	0.9	-	1.9	21.3
	５～１０年未満	276	60.9	18.1	6.9	6.5	1.4	1.1	1.1	-	0.7	0.7	2.5	21.0
	１０～２０年未満	199	63.8	16.1	5.5	3.5	-	2.0	0.5	1.0	1.5	1.0	5.0	20.1
	２０年以上	366	73.0	10.9	4.6	2.5	1.4	1.6	0.8	0.3	-	0.8	4.1	16.1

※n=30未満は参考値のため灰色

図 12　ＣＱ７：和装に関する月額費用

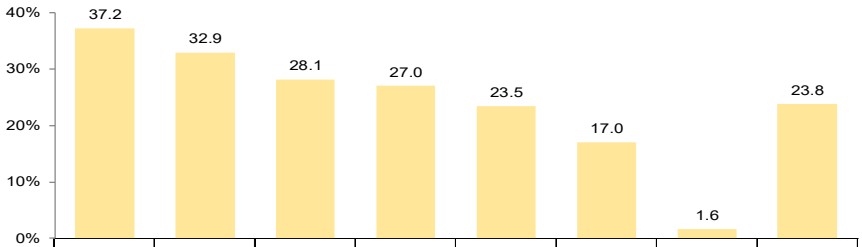
ＣＱ８：和装に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「季節にあわせた着物を楽しめる」の 37.2%で、次いで「着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる」32.9%、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」28.1%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、経験年数別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる」（16.6%） の回答比率が全体平均と比べても特に低く、続いて「季節にあわせた着物を楽しめる」（28.5%）、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」（20.7%）、の回答比率が低い。

年齢別では10～40代で「生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる」、「お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い」の回答比率が高く、10～30 代で「着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる」、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」の回答比率が低い傾向にある。

経験年数別では、経験年数が長い者ほど「季節にあわせた着物を楽しめる」、「職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠」、「生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる」、「着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる」、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」の回答比率が高まる傾向が見られる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	季節にあわせた着物を楽しめる	着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる	お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い	職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠	その他	上記の中で当てはまるものはない
全体		2,198	37.2	32.9	28.1	27.0	23.5	17.0	1.6	23.8
性別	男	421	28.5	28.5	20.7	16.6	24.0	17.1	1.0	29.5
	女	1,769	39.2	33.9	29.8	29.5	23.3	17.0	1.8	22.4
	それ以外／答えたくない	8	37.5	50.0	50.0	12.5	25.0	25.0	12.5	25.0
年齢	18～20代	179	31.3	24.0	21.8	32.4	35.2	29.6	0.6	14.5
	30代	144	49.3	25.7	22.2	34.0	37.5	20.8	1.4	12.5
	40代	195	45.1	31.8	29.2	34.9	35.4	18.5	0.5	13.3
	50代	225	40.4	30.2	28.0	28.0	23.1	20.9	2.7	20.4
	60代	347	37.2	32.3	30.8	26.2	21.6	15.3	1.7	25.9
	70代以上	1,108	34.5	36.3	28.9	23.8	18.3	14.0	1.8	28.6
経験年数	1年未満	504	25.8	23.2	21.8	16.5	17.9	9.1	1.0	36.5
	1～3年未満	529	33.5	30.6	26.3	23.4	25.3	16.6	0.8	21.0
	3～5年未満	324	38.9	33.0	26.5	29.6	26.2	17.3	2.2	20.4
	5～10年未満	276	43.8	38.4	30.4	31.2	27.5	20.3	0.4	19.2
	10～20年未満	199	44.7	39.7	38.7	38.7	26.1	23.1	3.0	15.6
	20年以上	366	47.5	41.8	33.3	34.7	21.6	22.4	3.6	21.3

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 13　ＣＱ８：和装に関する興味関心や魅力

（その他の内容）体型を気にしないで着用が可能なところ、仕事上便利、冬は暖かい

■「自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている（着たことがある）」と回答した者への設問（ＣＱ９～ＣＱ15：参加体験者の実態把握）

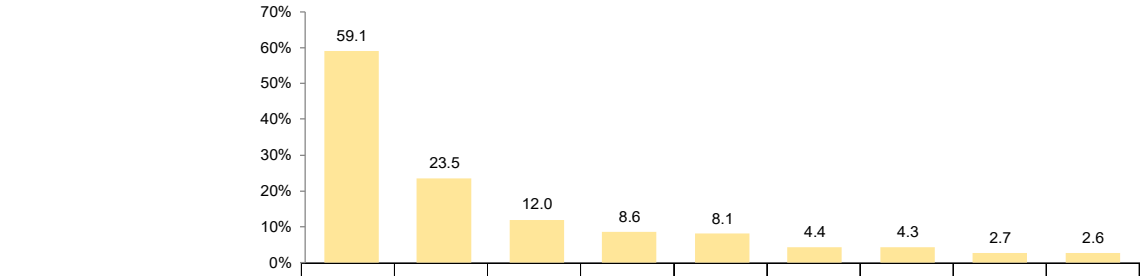
本設問では、人に着付けてもらって着物を着たことがあると回答した者が、どのようなきっかけや機会で着付けを体験したのか、また、どの程度和装に興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

ＣＱ９　和装を体験したきっかけ

全体平均で最も回答比率が高いのは「成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった」の 59.1%で、次いで「親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた」23.5%、「家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた」12.0%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった」が 42.7%と低い一方、女性が 64.8%で高い。

年齢別では年齢が若い方が「学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた」の回答比率が高い傾向が見られる一方、高年齢になるほど「親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた」の回答比率が上がる傾向がある。



		n=	成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった	親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた	家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた	学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた	和装に係る仕事や職業に興味関心があった	その他
全体		7,642	59.1	23.5	12.0	8.6	8.1	4.4	4.3	2.7	2.6
性別	男	1,951	42.7	22.6	17.0	9.4	7.6	7.8	7.3	3.3	3.7
	女	5,664	64.8	23.8	10.3	8.4	8.2	3.2	3.2	2.5	2.2
	それ以外／答えたくない	27	44.4	25.9	7.4	3.7	18.5	3.7	3.7	3.7	3.7
年齢	18～20代	874	47.9	17.8	11.3	16.5	10.8	5.6	8.5	3.7	2.7
	30代	895	58.4	18.5	12.3	12.6	6.5	5.8	5.6	4.4	2.8
	40代	1,145	60.9	21.2	11.2	8.5	6.6	3.6	5.3	3.1	1.5
	50代	1,201	64.9	20.3	11.0	6.2	8.2	4.9	3.8	2.4	1.9
	60代	1,355	62.3	25.4	10.3	7.1	7.2	4.4	2.8	2.1	2.9
	70代以上	2,172	57.6	29.6	14.2	6.3	8.9	3.4	2.6	2.1	3.4

※n=30未満は参考値のため灰色　※全体の値を基準に降順並び替え

図 14　ＣＱ９：和装を体験したきっかけ

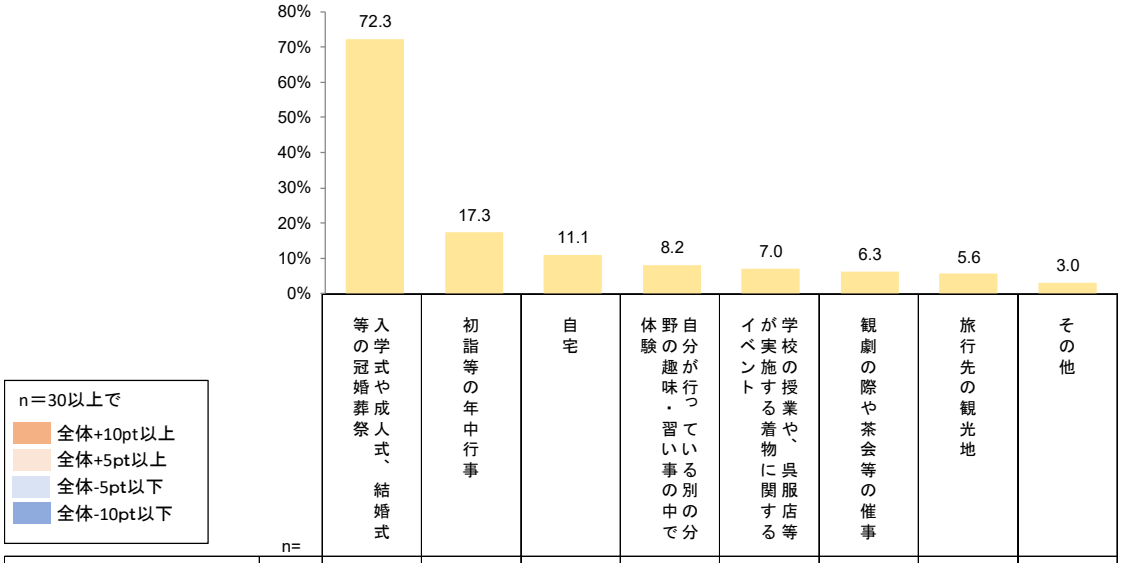
（その他の内容）祭り・盆踊り、アルバイト・仕事で、着物が好きだった

ＣＱ10　和装を体験した場

全体平均で最も回答比率が高いのは「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭」の 72.3%で、次いで「初詣等の年中行事」17.3%、「自宅」11.1%となる。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別、経験年数別の回答比率とを比較すると、男女別では、男性で「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭」（47.6%）の回答比率が低く、「初詣等の年中行事」（23.4%）、「自宅」（19.1%）の回答比率が高い。

年齢別では、若いほど「旅行先の観光地」、「学校の授業や、呉服店等が実施する着物に関するイベント」という回答比率が高い一方、18～20 代で「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭」の回答比率が大きく下回っている。



		n=	入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭	初詣等の年中行事	自宅	自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験	学校の授業や、呉服店等が実施する着物に関するイベント	観劇の際や茶会等の催事	旅行先の観光地	その他
全 体		7,642	72.3	17.3	11.1	8.2	7.0	6.3	5.6	3.0
性別	男	1,951	47.6	23.4	19.1	6.4	9.1	6.6	8.9	4.2
	女	5,664	80.9	15.2	8.3	8.8	6.3	6.1	4.4	2.7
	それ以外／答えたくない	27	55.6	7.4	18.5	7.4	14.8	7.4	3.7	-
年齢	18～20代	874	54.0	15.4	6.3	8.9	16.1	6.2	15.4	3.8
	30代	895	68.2	14.1	5.7	6.7	11.2	6.8	10.6	3.9
	40代	1,145	74.9	13.8	5.8	6.2	7.4	5.8	5.9	3.6
	50代	1,201	76.7	15.8	7.2	7.4	6.4	5.7	4.2	3.4
	60代	1,355	77.9	17.6	11.8	8.3	4.6	4.5	2.2	2.7
	70代以上	2,172	74.2	21.8	19.7	9.9	3.4	7.7	2.2	2.2

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 15　ＣＱ10：和装を体験した場

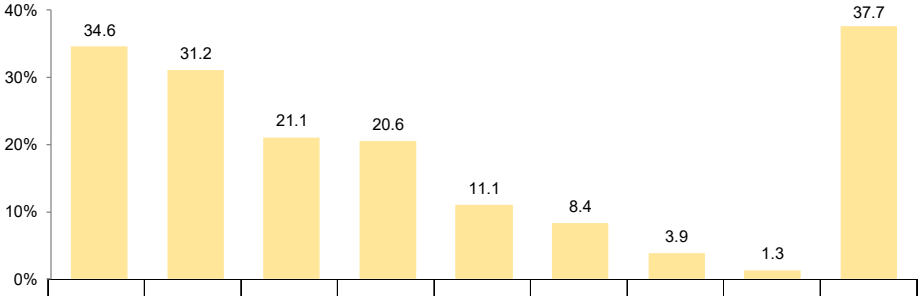
（その他の内容）お祭り（盆踊り、夏祭り）、仕事・アルバイト、卒業式

ＣＱ11：和装を習いやすい状況

全体平均で最も回答比率が高いのは「費用が手頃だったら」34.6%、次いで「通いやすい場所で習えたら」の 31.2%、「着物をはじめ必要な道具等が借りられたら」21.1%、「家族や知人等、身近な人から習えたら」20.6%と並ぶ。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「費用が手頃だったら」(25.3%)、「通いやすい場所で習えたら」(22.6%)、の回答比率が低い。

また、年齢別では、10～40 代で「費用が手頃だったら」、30～40 代で「着物をはじめ必要な道具等が借りられたら」という回答比率が高い傾向が見られる。また、年齢が高くなるにつれて、「わからない」の回答比率が全体平均よりも高くなっている傾向も見て取れる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	費用が手頃だったら	通いやすい場所で習えたら	着物をはじめ必要な道具等が借りられたら	家族や知人等、身近な人から習えたら	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら	習う時間帯を調整しても通いやすかったら	指導で教本やテキストを使っていたら	その他	わからない
全 体		7,642	34.6	31.2	21.1	20.6	11.1	8.4	3.9	1.3	37.7
性別	男	1,951	25.3	22.6	16.7	20.4	9.3	8.5	3.8	1.3	42.4
	女	5,664	37.8	34.2	22.6	20.7	11.7	8.3	3.9	1.4	36.0
	それ以外／答えたくない	27	25.9	22.2	18.5	11.1	14.8	3.7	3.7	-	48.1
年齢	18～20代	874	40.2	29.4	25.1	25.5	10.8	11.4	4.9	0.2	25.5
	30代	895	42.8	35.1	27.7	24.0	14.7	11.6	4.9	1.5	28.5
	40代	1,145	43.7	35.5	29.7	22.9	14.9	11.1	5.0	0.8	29.2
	50代	1,201	38.1	34.1	23.5	17.5	12.0	10.4	4.4	1.2	37.8
	60代	1,355	29.9	28.9	18.2	16.7	10.4	7.1	3.5	1.3	45.1
	70代以上	2,172	25.1	27.8	12.7	20.1	7.5	4.0	2.3	2.2	46.2

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 16　ＣＱ11：和装を習いやすい状況

（その他の内容）着物の購入など勧誘系がなければ、日常に着る機会があったら習おうと思える、興味が湧いたら、障害者でも可能ならば

ＣＱ12　和装に支払える月額費用

全体平均で最も回答比率が高いのは「5,000 円未満」の 79.7％で、次いで「5,000 円以上～10,000 円未満」14.5％、「10,000 円以上～15,000 円未満」2.6％となった。月額１万円以上支払ってもいいと回答した比率は 5.8％（7,642 人中 445 人）である。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別を見ると、月額１万円以上支払ってもいいという回答比率が男性で 10.7％（1,951 人中 208 人）、女性で 4.1％（5,664 人中 232 人）と、全体平均と比べると、男女で費用の考えに差が見られる。

また、年齢別では、年齢が若いほど月額１万円以上支払ってもよいという回答が増える傾向がある。

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

		n=	5,000円未満	5,000円以上～10,000円未満	10,000円以上～15,000円未満	15,000円以上～20,000円未満	20,000円以上～25,000円未満	25,000円以上～30,000円未満	30,000円以上～35,000円未満	35,000円以上～40,000円未満	40,000円以上～45,000円未満	45,000円以上～50,000円未満	50,000円以上	合計10,000円以上
全体		7,642	79.7	14.5	2.6	1.0	0.8	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1	0.3	5.8
性別	男	1,951	72.0	17.4	4.6	2.1	1.8	0.8	0.6	0.2	-	0.2	0.4	10.7
	女	5,664	82.4	13.5	1.9	0.7	0.5	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.2	4.1
	それ以外／答えたくない	27	63.0	18.5	3.7	3.7	-	-	3.7	-	-	3.7	3.7	18.5
年齢	18～20代	874	65.8	19.6	6.2	2.3	2.4	0.9	1.0	0.7	0.2	0.5	0.5	14.6
	30代	895	74.0	15.8	3.9	1.6	1.9	1.3	0.7	0.2	0.2	0.2	0.2	10.3
	40代	1,145	77.8	15.2	2.9	1.7	1.0	0.3	0.5	0.2	-	-	0.3	7.0
	50代	1,201	82.7	12.6	2.8	0.4	0.5	0.2	0.1	0.2	0.1	-	0.3	4.7
	60代	1,355	82.7	14.1	1.5	0.8	0.1	0.1	0.1	-	-	0.1	0.4	3.2
	70代以上	2,172	85.0	12.9	1.0	0.5	0.3	0.1	0.0	-	-	0.1	0.1	2.1

※n=30未満は参考値のため灰色

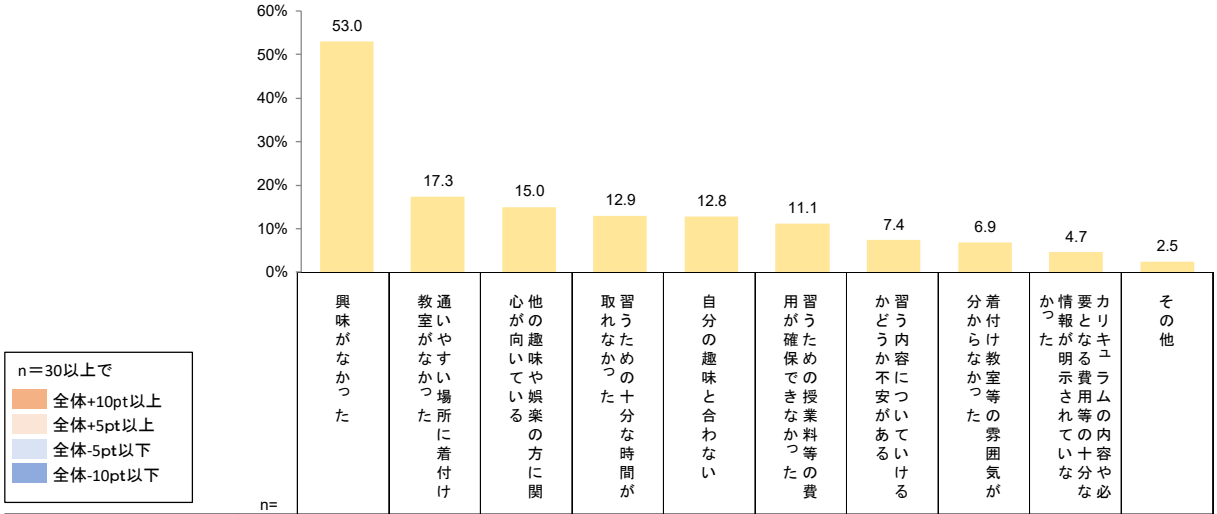
図 17　ＣＱ12：和装に支払える月額費用

ＣＱ13：和装を習っていない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「興味がなかった」の 53.0%で、次いで「通いやすい場所に着付け教室がなかった」17.3%、「他の趣味や娯楽の方に関心が向いている」15.0%となった。

男女別では、男性で「興味がなかった」（58.4%）の回答比率が高い。

また、年齢別では、10～30 代で「習うための授業料等の費用が確保できなかった」という回答比率が高い。



		n=	興味がなかった	通いやすい場所に着付け教室がなかった	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	習うための十分な時間が取れなかった	自分の趣味と合わない	習うための授業料等の費用が確保できなかった	習う内容についていけるかどうか不安がある	着付け教室等の雰囲気が分からなかった	カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった	その他
全 体		7,642	53.0	17.3	15.0	12.9	12.8	11.1	7.4	6.9	4.7	2.5
性別	男	1,951	58.4	14.6	14.9	10.7	15.1	9.3	5.2	6.5	5.4	1.6
	女	5,664	51.2	18.2	15.1	13.6	12.0	11.8	8.1	7.0	4.4	2.8
	それ以外／答えたくない	27	48.1	11.1	11.1	18.5	18.5	11.1	3.7	3.7	3.7	-
年齢	18～20代	874	50.5	18.0	11.0	11.7	11.6	16.8	7.3	8.1	5.9	0.5
	30代	895	50.7	18.7	12.4	15.9	10.3	19.3	8.6	8.9	6.7	1.6
	40代	1,145	51.8	19.5	11.2	14.1	10.0	15.7	8.6	7.5	6.2	2.2
	50代	1,201	56.2	16.6	14.8	13.1	11.7	11.0	8.2	7.7	4.7	2.2
	60代	1,355	59.0	15.0	13.9	12.7	13.6	6.6	6.7	5.8	2.9	2.7
	70代以上	2,172	50.2	17.0	20.6	11.6	15.9	5.9	6.2	5.4	3.6	4.1

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 18　ＣＱ13：和装を習っていない理由

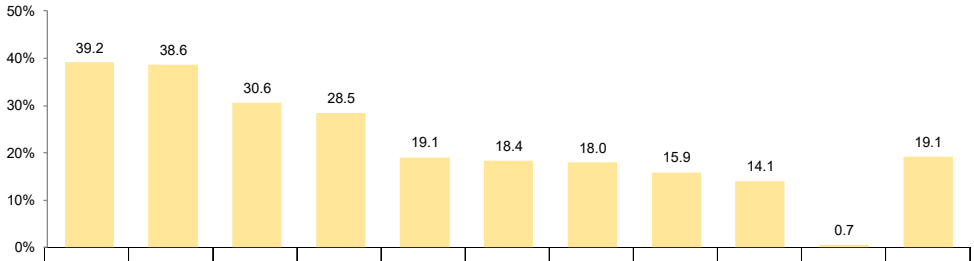
（その他の内容）着る機会が少ない、着付けてくれる人がいたから、必要性がないから

ＣＱ14　和装に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「着物を着ていくような場面がない」の 39.2%で、ほぼ同率で「日本の伝統文化を体感できる」の 38.6%となり、次いで「着物等を揃えるとお金がかかる」30.6%、「動きにくい、動くと着崩れする」28.5%となった。

全体平均の回答比率と男女別の回答比率を比べた場合、男性で「着物を着ていくような場面がない」(27.5%)、「動きにくい、動くと着崩れする」(19.2%)、「着物等を揃えるとお金がかかる」(20.9%)、「着付けを覚えるのに時間がかかる」(11.5%) の回答比率が低い。

また、年齢別では、若いほど「生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる」の回答比率が高くなっている。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	着物を着ていくような場面がない	日本の伝統文化を体感できる	着物等を揃えるとお金がかかる	動きにくい、動くと着崩れする	伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる	着付けを覚えるのに時間がかかる	生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる	着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑	暮らし、生活を豊かにしてくれる	その他	特に印象はない、わからない
全 体		7,642	39.2	38.6	30.6	28.5	19.1	18.4	18.0	15.9	14.1	0.7	19.1
性別	男	1,951	27.5	38.5	20.9	19.2	19.7	11.5	13.1	11.9	14.1	0.5	27.1
	女	5,664	43.3	38.7	33.8	31.7	18.9	20.8	19.7	17.3	14.0	0.7	16.3
	それ以外／答えたくない	27	22.2	33.3	40.7	25.9	14.8	18.5	18.5	11.1	14.8	-	33.3
年齢	18～20代	874	27.0	43.2	25.9	23.1	23.7	19.2	30.2	17.8	14.6	0.1	15.4
	30代	895	35.5	43.4	35.2	28.2	23.1	22.3	25.9	20.6	15.8	0.6	14.4
	40代	1,145	40.4	42.8	37.6	30.4	22.5	23.3	21.6	19.5	16.9	0.9	13.9
	50代	1,201	41.6	37.1	35.6	31.1	19.2	19.6	15.9	18.8	13.9	0.7	18.4
	60代	1,355	40.1	34.3	28.6	28.3	16.5	16.9	12.8	13.5	11.7	0.8	22.8
	70代以上	2,172	42.9	36.1	25.3	28.5	15.4	14.2	12.3	11.3	13.2	0.7	23.4

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 19　ＣＱ14：和装に対する印象やイメージ

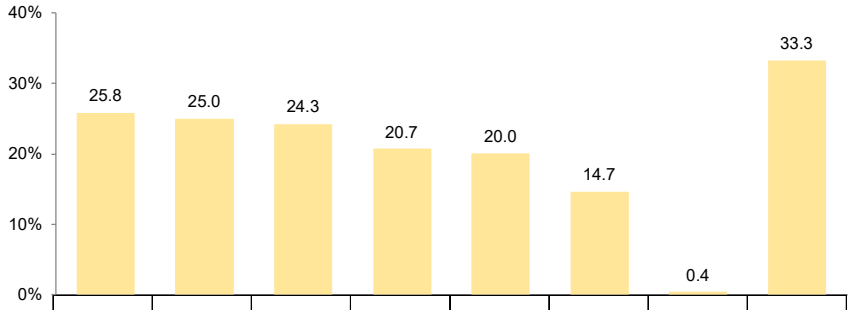
（その他の内容）後片付けが大変、夏暑く冬は寒く感じる、和服を着られる・着ていると格好いい

ＣＱ15　和装に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 33.3%で、次いで「季節にあわせた着物を楽しめる」の 25.8%、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」25.0%、「お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い」24.3%と続く。

全体平均の回答比率と男女別、年齢別の回答比率とを比較すると、まず男女別では、男性で「季節にあわせた着物を楽しめる」(20.8%)、「生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる」(13.9%)の回答比率が低い。

年齢別では、「生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる」と「お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い」で若いほど回答比率が高い傾向が見られる。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	季節にあわせた着物を楽しめる	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い	着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる	生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる	職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠	その他	上記の中で当てはまるものはない
全 体		7,642	25.8	25.0	24.3	20.7	20.0	14.7	0.4	33.3
性別	男	1,951	20.8	23.6	25.3	22.3	13.9	15.9	0.3	36.1
	女	5,664	27.6	25.4	24.0	20.1	22.2	14.3	0.4	32.2
	それ以外／答えたくない	27	25.9	25.9	11.1	25.9	14.8	14.8	-	48.1
年齢	18～20代	874	31.2	23.5	31.8	20.3	29.1	17.8	0.1	21.1
	30代	895	31.5	24.9	31.8	20.7	26.1	17.2	0.4	23.4
	40代	1,145	29.5	24.6	30.3	20.4	24.6	20.3	0.4	26.0
	50代	1,201	25.4	25.1	22.2	19.4	18.5	15.6	0.6	36.5
	60代	1,355	19.9	22.9	19.5	17.8	15.0	12.5	0.1	41.5
	70代以上	2,172	23.3	27.0	19.0	23.5	15.5	10.4	0.5	39.2

※n=30未満は参考値のため灰色　　※全体の値を基準に降順並び替え

図 20　ＣＱ15：和装に関する興味関心や魅力

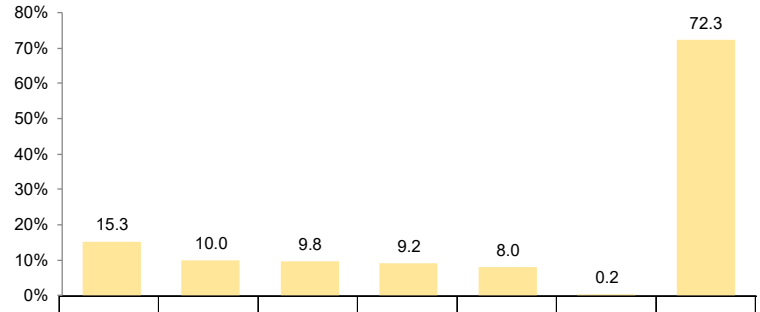
（その他の内容）所作に気を使うようになる、上手に着ることができれば、身体が楽、最高礼装としての魅力

■「今まで着物を着たことはない」と回答した者への設問（ＣＱ16～ＣＱ20：未経験者の実態把握）

本設問では、今まで着物を全く着たことがないと回答した者が、着物の着付けを体験するなら、どのような内容や機会なら参加したいか、また、和装に対してどの程度、興味関心を持っているのか等を把握するためのアンケートを実施した。

ＣＱ16　参加してみたい和装の体験内容

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 72.3%で、次いで「基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる」15.3%、「着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる」10.0%、「季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる」9.8%となった。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる	着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる	季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる	普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる	着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる	その他	上記の中で当てはまるものはない
全 体		10,160	15.3	10.0	9.8	9.2	8.0	0.2	72.3
性別	男	7,273	14.1	9.7	9.3	9.2	7.1	0.3	73.6
	女	2,769	18.9	11.2	11.1	9.2	10.5	0.2	68.0
	それ以外／答えたくない	118	5.1	4.2	5.9	3.4	3.4	0.8	89.0
年齢	18～20代	1,728	15.2	9.9	10.9	7.9	8.2	0.1	71.2
	30代	1,652	16.4	11.0	10.8	10.5	9.3	0.1	69.9
	40代	2,156	17.1	11.5	11.1	10.9	8.6	0.2	69.4
	50代	1,752	16.8	10.7	10.0	8.5	8.1	0.3	72.1
	60代	1,300	13.5	8.2	8.4	8.2	6.2	0.4	74.8
	70代以上	1,572	11.8	7.7	6.6	8.2	6.9	0.4	77.9

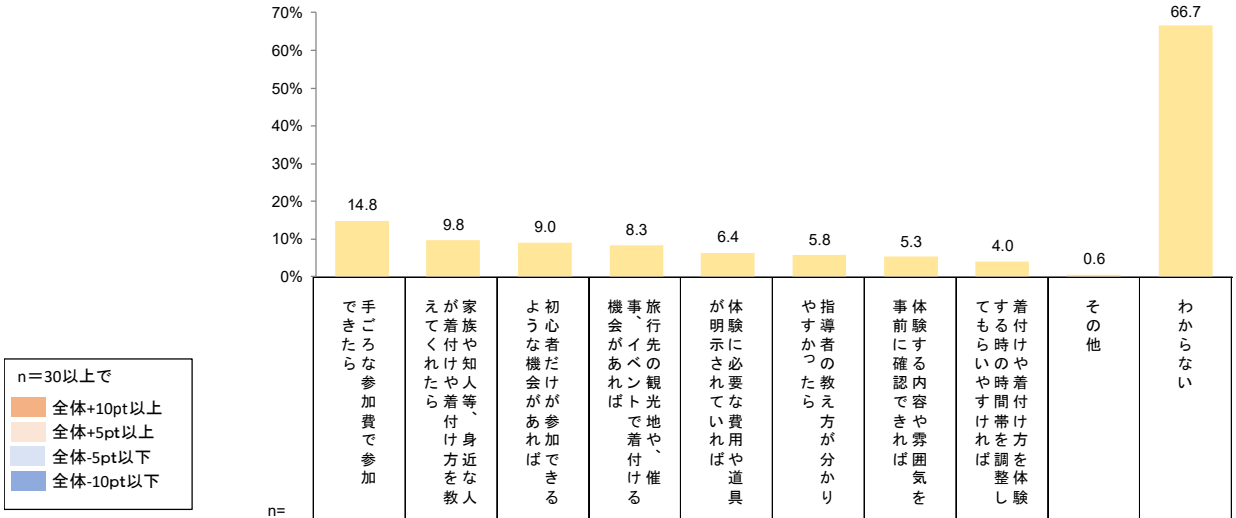
※全体の値を基準に降順並び替え

図 21　ＣＱ16：参加してみたい和装の体験内容

（その他の内容）無料（値段が手ごろ）なら、喪服の着付けを教わりたい、着物を持っていかなくてもよい、何らかのイベントや城下町とか歩ける

ＣＱ17　参加しやすい和装の体験条件

全体平均で最も回答比率が高いのは「わからない」の 66.7%で、次いで「手ごろな参加費で参加できたら」14.8%、「家族や知人等、身近な人が着付けや着付け方を教えてくれたら」9.8%、「初心者だけが参加できるような機会があれば」9.0%、「旅行先の観光地や、催事、イベントで着付ける機会があれば」8.3%となった。



		n=	手ごろな参加費で参加できたら	家族や知人等、身近な人が着付けや着付け方を教えてくれたら	初心者だけが参加できるような機会があれば	旅行先の観光地や、催事、イベントで着付ける機会があれば	体験に必要な費用や道具が明示されていれば	指導者の教え方が分かりやすかったら	体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば	着付けや着付け方を体験する時の時間帯を調整してもらいやすければ	その他	わからない
全 体		10,160	14.8	9.8	9.0	8.3	6.4	5.8	5.3	4.0	0.6	66.7
性別	男	7,273	14.4	9.6	8.8	8.3	6.2	5.3	5.1	3.9	0.7	67.6
	女	2,769	16.2	10.3	10.1	8.7	7.0	7.1	5.9	4.4	0.4	63.5
	それ以外／答えたくない	118	7.6	5.9	1.7	1.7	2.5	5.1	2.5	0.8	-	84.7
年齢	18～20代	1,728	13.2	11.4	7.2	10.2	6.3	6.5	4.8	4.5	0.3	65.8
	30代	1,652	17.1	11.1	9.6	10.0	7.1	7.1	6.4	5.0	0.4	62.6
	40代	2,156	18.3	10.3	10.3	10.3	7.7	6.0	5.4	4.6	0.5	62.8
	50代	1,752	15.3	10.1	10.2	7.1	6.7	5.4	5.1	3.8	0.6	67.2
	60代	1,300	12.2	6.9	8.2	6.5	5.5	4.1	4.4	2.6	0.8	71.1
	70代以上	1,572	11.2	7.8	8.2	4.5	4.1	5.0	5.4	3.0	1.1	72.9

※全体の値を基準に降順並び替え

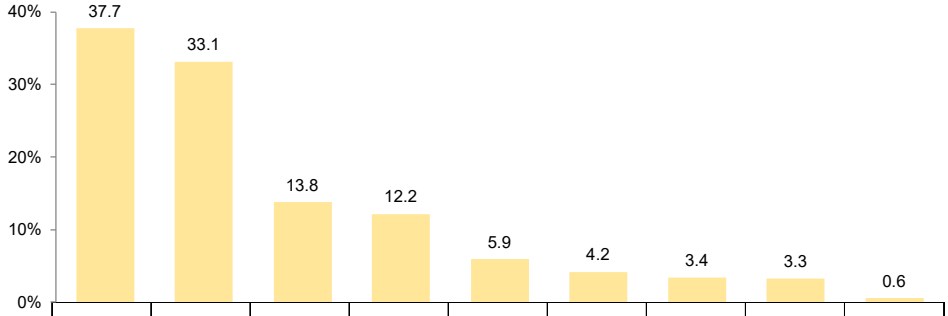
図 22　ＣＱ17：参加しやすい和装の体験条件

（その他の内容）無料体験、敷居が低ければ（厳しそうな人は嫌）、着物や帯・付属品を自分で用意する必要がなければ、障害持ちの人でも着やすい着物を開発してくれたら

ＣＱ18　和装を体験したことがない理由

全体平均で最も回答比率が高いのは「自分の趣味と合わない」の 37.7%で、次いで「興味がない」33.1%、「そもそも知らなかった」13.8%となった。

年齢別で見ると、「興味がない」の回答比率が 18～20 代（25.1%）で低い一方、60 代ではやや高い。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	自分の趣味と合わない	興味がない	そもそも知らなかった	気軽に体験できそうな場所や機会がなかった	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	体験できる場所や機会があることを知らなかった	参加する時間がとれなかった	体験できる詳しい内容が分からなかった	その他
全 体		10,160	37.7	33.1	13.8	12.2	5.9	4.2	3.4	3.3	0.6
性別	男	7,273	37.2	35.0	14.3	11.6	5.8	4.2	3.2	3.2	0.5
	女	2,769	38.0	28.9	12.5	14.0	6.2	4.2	3.8	3.9	0.8
	それ以外／答えたくない	118	63.6	16.9	11.0	4.2	6.8	2.5	2.5	1.7	-
年齢	18～20代	1,728	42.6	25.1	15.8	10.6	6.4	4.3	3.4	2.8	0.3
	30代	1,652	38.1	30.7	15.8	12.1	6.8	4.1	4.1	3.8	0.5
	40代	2,156	35.6	30.5	16.3	13.5	5.0	4.3	3.8	3.8	0.5
	50代	1,752	35.0	37.8	13.3	11.6	4.9	4.3	3.3	3.1	0.4
	60代	1,300	34.2	41.2	11.6	11.4	5.4	3.7	3.1	2.8	0.7
	70代以上	1,572	40.7	36.4	8.3	13.5	7.4	4.4	2.4	3.6	1.0

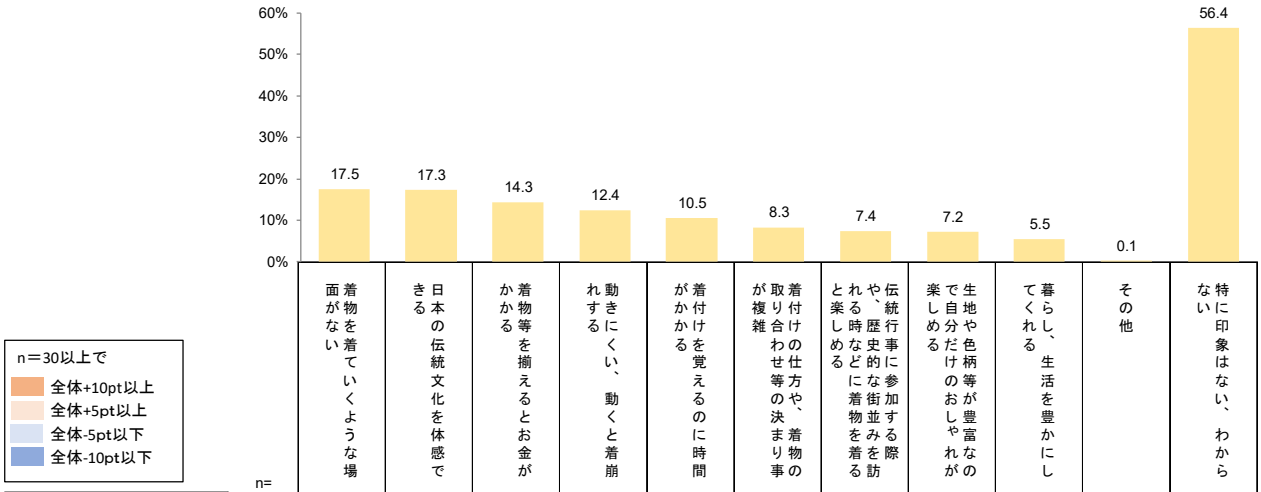
※全体の値を基準に降順並び替え

図 23　ＣＱ18：和装を体験したことがない理由

（その他の内容）お金がかかりそう、行動に制限がある（日常生活には向かない、窮屈な感じ）

ＣＱ19　和装に対する印象やイメージ

全体平均で最も回答比率が高いのは「特に印象はない、わからない」の 56.4%で、次いで「着物を着ていくような場面がない」17.5%、ほぼ同率で「日本の伝統文化を体感できる」17.3%となり、「着物等を揃えるとお金がかかる」14.3%と続いている。



		n=	着物を着ていくような場面がない	日本の伝統文化を体感できる	着物等を揃えるとお金がかかる	動きにくい、動くと着崩れする	着付けを覚えるのに時間がかかる	着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑	伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる	生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる	暮らし、生活を豊かにしてくれる	その他	特に印象はない、わから
全 体		10,160	17.5	17.3	14.3	12.4	10.5	8.3	7.4	7.2	5.5	0.1	56.4
性別	男	7,273	16.9	17.6	13.7	11.6	10.0	7.8	7.3	6.4	5.4	0.1	57.7
	女	2,769	19.7	17.0	16.5	14.8	12.0	9.6	7.8	9.3	5.7	0.1	52.0
	それ以外／答えたくない	118	4.2	8.5	5.1	5.1	6.8	5.1	1.7	4.2	0.8	-	79.7
年齢	18～20代	1,728	12.4	15.3	10.5	9.6	9.9	7.8	7.8	10.5	5.2	-	58.9
	30代	1,652	16.6	18.2	15.3	13.1	13.0	8.9	8.1	8.7	6.1	0.1	54.2
	40代	2,156	17.6	19.6	16.1	13.2	12.1	8.9	8.5	8.5	6.1	0.1	53.2
	50代	1,752	19.4	17.6	15.3	12.7	10.5	9.6	6.4	5.3	5.5	0.1	56.1
	60代	1,300	18.6	16.0	13.7	12.9	8.4	6.9	6.8	4.8	4.8	0.4	58.4
	70代以上	1,572	20.7	16.4	14.6	13.0	8.3	7.1	6.0	4.1	4.7	0.1	58.9

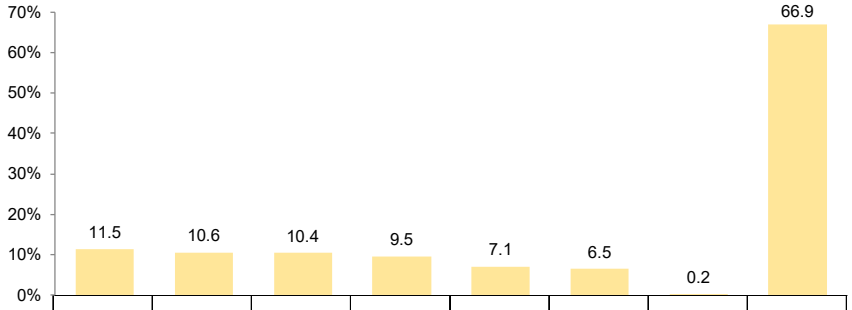
※全体の値を基準に降順並び替え

図 24　ＣＱ19：和装に対する印象やイメージ

（その他の内容）面倒（髪や化粧と疲れそう）、男なので着る機会がない、講師がこわい、保管が大変

ＣＱ20　和装に関する興味関心や魅力

全体平均で最も回答比率が高いのは「上記の中で当てはまるものはない」の 66.9%で、次いで「季節にあわせた着物を楽しめる」の 11.5%、「お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い」10.6%、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」10.4%と続く。



n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	季節にあわせた着物を楽しめる	お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる	生地や色柄の取り合わせ等、工夫1つでおしゃれを楽しめる	職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠	その他	上記の中で当てはまるものはない
全 体		10,160	11.5	10.6	10.4	9.5	7.1	6.5	0.2	66.9
性別	男	7,273	10.7	10.8	10.4	9.5	6.5	6.7	0.2	67.9
	女	2,769	13.6	10.2	10.7	9.7	8.8	5.9	0.2	63.6
	それ以外／答えたくない	118	8.5	5.1	4.2	4.2	3.4	5.1	0.8	81.4
年齢	18～20代	1,728	13.4	12.2	8.4	7.9	7.2	6.5	0.2	66.1
	30代	1,652	12.8	12.3	10.5	9.4	8.2	7.9	0.1	65.0
	40代	2,156	13.4	11.3	11.1	10.7	8.7	8.3	0.1	62.9
	50代	1,752	10.1	9.9	11.7	8.6	6.6	6.7	0.2	67.6
	60代	1,300	8.8	7.5	8.9	10.1	5.9	3.8	0.4	70.7
	70代以上	1,572	8.9	9.2	11.4	10.2	5.3	4.3	0.6	71.2

※全体の値を基準に降順並び替え

図 25　ＣＱ20：和装に関する興味関心や魅力

（その他の内容）機会に合った着物を知りたい（訪問やパーティー・お茶など）、簡単に楽しめる方法、着物を安く入手でき着付けが分かる動画がある

（３）調査結果に基づく分析と考察

本節では、和装の振興施策の検討を主眼として、前掲の集計結果に加えてクロス集計等も行い、これらの結果について分析を行う。

和装に関して「経験あり」、「参加体験あり」、「未経験」、それぞれの回答者にどのような特徴が見られるのかを分析するため、「居住地」、「職業」、「同居家族」、「世帯年収」、「子供の頃の習い事」等の設問や設問間とのクロス集計を行った。結果は以下のとおりである。

回答者の特性や傾向について

■居住地、職業、同居家族、世帯年収とのクロス集計結果

属性については、性年齢以外に、居住地域、職業、同居家族、世帯年収についての設問をもうけている。

居住地域では、北陸で「参加体験あり」と回答した者がやや多く、沖縄で「経験あり」と回答した者が若干少ない傾向が見られる。

職業では、非正規、家族従業者、主婦・主夫など女性比率の高い職業で「参加体験あり」と回答した者が、また、主婦・主夫で「経験あり」と回答した者が多く、男女差を反映したものとなっている。

世帯年収については明確な傾向は見られない。

集計表１　居住地・職業・同居家族×和装の経験の有無

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	FQ フィルタリング・パート 「経験あり」層	「参加体験あり」層	「未経験」層
全体		20,000	11.0	38.2	50.8
居住地	北海道	852	9.3	37.1	53.6
	東北	1,385	10.1	36.8	53.1
	関東	7,422	10.7	36.9	52.5
	北陸	816	9.9	43.3	46.8
	東海（中部）	2,349	11.6	39.0	49.4
	近畿	3,247	12.5	38.7	48.8
	中国	1,140	11.7	40.3	48.1
	四国	584	10.3	38.2	51.5
	九州	1,987	11.3	39.9	48.8
	沖縄	218	5.5	36.7	57.8
職業	正規の職員・従業員	6,411	5.9	28.2	65.9
	非正規の職員・従業員	2,803	9.3	44.4	46.3
	自営業主・自由業	1,239	11.5	35.4	53.0
	家族従業者	135	11.1	45.9	43.0
	主婦・主夫	3,987	21.0	56.7	22.3
	学生	512	5.7	37.3	57.0
	リタイア、無職	4,141	11.3	33.6	55.1
	その他	772	8.2	32.0	59.8
同居家族	ひとり暮らし	4,145	11.2	31.3	57.5
	核家族	13,277	11.2	41.0	47.8
	三世代家族	1,179	11.3	39.2	49.5
	上記以外で同居している人がいる	1,399	8.4	31.7	60.0

集計表２　昨年度の世帯年収×和装の経験の有無

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

		n=	FQ フィルタリング・パート「経験あり」層	FQ フィルタリング・パート「参加体験あり」層	FQ フィルタリング・パート「未経験」層
全 体		20,000	11.0	38.2	50.8
昨年度の世帯年収	100万円未満	991	10.0	28.7	61.4
	100万円以上～200万円未満	1,325	14.2	38.0	47.8
	200万円以上～300万円未満	2,030	13.0	37.9	49.1
	300万円以上～400万円未満	2,367	12.5	40.8	46.7
	400万円以上～500万円未満	1,937	10.7	39.0	50.2
	500万円以上～600万円未満	1,457	9.6	41.6	48.8
	600万円以上～700万円未満	1,096	10.7	36.7	52.6
	700万円以上～800万円未満	1,024	9.4	37.3	53.3
	800万円以上～900万円未満	702	11.1	39.9	49.0
	900万円以上～1，000万円未満	653	10.1	37.7	52.2
	1，000万円以上	1,525	11.1	39.5	49.4
	分からない	4,893	9.7	37.7	52.5

■子供の頃の習い事とのクロス集計結果

次に、和装の経験・体験の有無についての回答と、「子供の頃の習い事」に関する設問への回答とのクロス集計の結果を示す。

クロス集計を行った結果、「経験あり」と回答した者で、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」、「バレエやダンス」、「美術」、「囲碁や将棋」が全体平均を大きく上回る結果となっている。

一方、「参加体験あり」と回答した者では、「楽器演奏」、「バレエやダンス」、「美術」、「伝統芸能や茶道・華道等の芸事」、「囲碁や将棋」、「書道・習字・ペン字、そろばん」「武道」で全体平均より回答比率が高い。

集計表３　子供の頃の習い事×和装の経験の有無

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	FQ フィルタリング・パート「経験あり」層	FQ フィルタリング・パート「参加体験あり」層	FQ フィルタリング・パート「未経験」層
全 体	20,000	5.1	13.6	81.3
楽器演奏（ピアノやバイオリンなど）や歌唱（コーラスや声楽など）	4,615	9.5	20.8	69.6
バレエやダンス（バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど）	755	21.2	25.2	53.6
美術（絵画や版画、彫刻、工芸など）	939	16.4	25.6	58.0
伝統芸能や茶道・華道等の芸事	743	28.8	24.5	46.7
囲碁や将棋	221	25.3	29.4	45.2
書道・習字・ペン字、そろばん	8,121	7.1	17.9	74.9
スポーツ・武道	3,661	5.4	18.9	75.7
その他	449	4.5	24.5	71.0
していない	7,852	1.9	6.4	91.7

■スポーツや趣味、娯楽等の活動とのクロス集計結果

次に、スポーツや趣味、娯楽等（以下、趣味・娯楽等）の活動の内容や、これらの活動に費やす時間やお金に関する回答結果とのクロス集計結果と、そこから見ることができる特徴や傾向を示す。

趣味・娯楽等として行っている活動内容のクロス集計結果からは、これらの活動を「特に何もしていない」人が、「未経験」と回答した者では 25.3%いるのに対し、「経験あり」と回答した者では 8.7%にとどまっており、「経験あり」と回答した者が積極的に趣味・娯楽に関する活動を行っていることが分かる。

趣味・娯楽等の活動内容の傾向としては、「経験あり」と回答した者の回答比率の中で、全体平均を下回っている項目は、スポーツの一部（「ジョギング・マラソン」「バスケットボール」のみ）、ギャンブル類（「ボートレース（競艇）」「中央競馬」「サッカーくじ」「パチンコ」）、メディア鑑賞（「SNS」「ゲームセンター」「テレビゲーム」「メディアでの音楽鑑賞」「動画鑑賞」）、「スポーツ観戦（テレビは除く）」となっており、ギャンブル類やメディア鑑賞に関しては消極的な傾向が見られる。

一方、日本の伝統的な文化に関しては、「お茶」（7.5%）、「お花」（7.0%）、「書道」（5.8%）、「邦楽・民謡」（2.4%）、「おどり（日舞など）」（2.2%）と平均を上回る回答比率となっている。

「参加体験あり」と回答した者では、「特に何もしていない」という回答比率が 9.3%となっており、「未経験」と回答した者よりも趣味・娯楽等に関する活動への回答比率が高いが、「経験あり」と回答した者の余暇参加率と比較すると、やや下回っている。また、「経験あり」と回答した者に比べると、日本の伝統的な文化に関わる趣味・娯楽等の活動に対する回答比率は低い傾向にある。

次に、１ヶ月に使える趣味・娯楽等にかける費用や活動する時間帯、活動に費やす時間とのクロス集計結果を示す。

まず、趣味・娯楽等にかける費用については、「経験あり」と回答した者で平均月２万円以上支出している割合が 13.7%と、「参加体験あり」と回答した者の 10.0%、「未経験」と回答した者の 12.2%を上回る。

次に、趣味・娯楽等の活動を行う時間帯を見ると、「経験あり」と回答した者は、「平日午前」（42.6%）、「平日午後」（43.9%）の活動率が高い。逆に休日の活動率は全体平均を下回る。

趣味・娯楽等に費やす月平均の時間を見ると、月２時間以上という回答が「経験あり」と回答した者で 58.1%あるのに対し、「参加体験あり」と回答した者で 53.5%、「未経験」と回答した者で 52.4%となっており、「経験あり」と回答した者では趣味・娯楽等の活動に対して時間を使っている割合が高いことがうかがえる。

集計表４　和装の経験の有無×趣味・娯楽等の活動状況

(%)

	n=	共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況																	
		ジョギング・マラソン	バスケットボール	動画鑑賞（レンタル、配信を含む）	邦楽、民謡	スポーツ観戦（テレビは除く）	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	書道	お茶	お花	おどり（日舞など）	テレビゲーム（家庭での）	ゲームセンター、ゲームコーナー	パチンコ	サッカーくじ（toto）	中央競馬	ボートレース（競艇）	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	特に何もしていない
全体	20,000	7.8	1.0	13.6	1.5	7.4	17.3	1.7	1.6	1.8	0.4	7.9	2.5	3.7	1.8	4.7	1.2	6.2	17.4
「経験あり」層	2,198	7.5	0.9	11.8	2.4	6.8	15.9	5.8	7.5	7.0	2.2	6.0	2.3	2.8	1.3	3.6	1.0	6.0	8.7
「参加体験あり」層	7,642	6.6	0.9	15.7	1.9	7.2	20.9	2.2	1.6	2.2	0.2	7.3	2.7	3.1	1.6	3.6	0.9	8.3	9.3
「未経験」層	10,160	8.8	1.1	12.4	1.0	7.6	14.8	0.5	0.3	0.3	0.1	8.8	2.3	4.3	2.0	5.7	1.4	4.7	25.3

n＝30以上で
全体+10pt以上
全体+5pt以上
全体-5pt以下
全体-10pt以下

※共通設問１は、分析で取り上げた選択肢のみ抜粋して掲載している。（以下同様）

集計表５　和装の経験の有無×趣味・娯楽等に１ヶ月に使える費用

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問2　1ヶ月に使える趣味・余暇費用											
		5,000円未満	15,000円以上～	11,000円以上～	21,000円以上～	22,000円以上～	32,000円以上～	33,000円以上～	43,000円以上～	44,000円以上～	54,000円以上～	50,000円以上	合計20,000円以上
全　体	16,527	49.5	22.9	10.2	5.9	3.1	3.0	1.4	0.6	0.4	0.6	2.3	11.4
「経験あり」層	2,007	43.4	23.6	11.6	7.7	3.3	3.4	1.6	1.0	0.4	0.9	3.0	13.7
「参加体験あり」層	6,932	51.5	23.5	9.5	5.5	2.7	2.7	1.3	0.5	0.3	0.6	1.7	10.0
「未経験」層	7,588	49.3	22.2	10.5	5.9	3.4	3.1	1.3	0.6	0.5	0.6	2.7	12.2

集計表６　和装の経験の有無×趣味・娯楽等を行う時間帯

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問3　1ヶ月に使える趣味・余暇時間帯							
		平日午前	平日午後	平日夕方	平日夜間	休日午前	休日午後	休日夕方	休日夜間
全　体	16,527	30.6	30.1	15.8	18.8	34.9	43.7	21.2	15.5
「経験あり」層	2,007	42.6	43.9	17.6	15.6	27.8	32.7	14.3	9.9
「参加体験あり」層	6,932	35.0	33.7	15.2	18.2	32.7	41.3	19.0	14.1
「未経験」層	7,588	23.4	23.1	15.9	20.2	38.9	48.9	25.1	18.3

集計表７　和装の経験の有無×趣味・娯楽等に費やす時間

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	共通設問4　趣味・余暇活動を行う時間										
		1時間未満	21時間未満以上～	32時間未満以上～	43時間未満以上～	54時間未満以上～	65時間未満以上～	76時間未満以上～	87時間未満以上～	98時間未満以上～	109時間未満以上～	10時間以上
全　体	16,527	22.9	23.5	13.7	7.0	4.5	4.1	1.7	1.9	0.9	1.3	18.5
「経験あり」層	2,007	20.2	21.7	15.1	7.7	3.7	3.9	2.5	2.2	1.3	1.4	20.3
「参加体験あり」層	6,932	22.8	23.6	13.2	7.0	4.5	4.3	1.6	1.9	1.0	1.5	18.5
「未経験」層	7,588	23.7	23.8	13.7	6.7	4.8	4.0	1.6	1.7	0.7	1.2	18.0

■消費行動に関する意識や価値観に関するクロス集計結果

消費行動に関する意識や価値観の項目と和装の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

消費行動についての様々な価値観への回答比率を見てみると、「経験あり」と回答した者では、「上記で当てはまるものはない」を除く、全ての意見で回答比率が全体平均を上回っている。また、特に「家族や友人・知人の役に立ちたい」（35.6%）では全体平均を上回る回答比率となったほか、「困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい」と考える面や、「周りに合わせるより、自分の考えに基づいて物事を判断したい」、「流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい」等の項目で、平均を上回る回答比率となっている。

これに対し「参加体験あり」と回答した者では、「上記であてはまるものはない」を除いた全項目で平均を上回ることは同じだが、「リスクはできるだけ避けたい」（50.7%）の回答比率が高いことが特徴となっている。

一方、「未経験」と回答した者では、「上記であてはまるものはない」（32.5%）以外の全項目で回答比率が平均を下回る。

集計表８　和装の経験の有無×消費行動に対する価値観

(%)

n＝30以上で
全体+10pt以上
全体+5pt以上
全体-5pt以下
全体-10pt以下

	n=	自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい	周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい	チャンスと感じたら逃したくない	リスクはできるだけ避けたい	家族や友人・知人の役に立ちたい	環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい	困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい	周りの人から注目されたい	集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ	その時・その場でしか得られない体験をしたい	流行りのものは試してみたい	流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい	買ったものや、気持ちを発信したい	自分が発信したものに反応が欲しい	上記であてはまるものはない
		共通設問5　消費行動に対する価値観														
全　体	20,000	25.6	22.6	20.2	41.9	24.9	10.6	19.6	2.4	5.4	13.6	3.9	26.8	3.1	3.1	22.0
「経験あり」層	2,198	30.1	29.9	23.0	46.7	35.6	17.1	29.0	2.8	9.3	19.9	4.6	35.4	4.2	3.4	11.1
「参加体験あり」層	7,642	30.2	26.0	23.1	50.7	32.7	13.5	25.3	2.5	6.9	18.3	4.8	34.4	3.7	3.7	11.1
「未経験」層	10,160	21.2	18.5	17.4	34.3	16.7	7.0	13.2	2.2	3.3	8.7	3.1	19.2	2.5	2.6	32.5

■普段接するメディアとのクロス集計結果

回答者が普段接するメディアと和装の経験・体験の有無とのクロス集計結果を示す。

「経験あり」と回答した者では、「動画投稿サイト」、「SNS」、「紙のマンガ／マンガ雑誌」、「電子版のマンガ」、「有料動画サイト」以外で回答比率が全体平均を上回っており、地上波・BS 放送、ラジオ、新聞や紙の書籍への接触が高いことが分かる。

一方、「参加体験あり」と回答した者では、全体平均を大幅に上回る回答比率は見られないが、インターネットや動画投稿サイト、SNS など、インターネットに関連するメディア接触も含めて、幅広くメディアに接していることがうかがえる。

逆に「未経験」と回答した者は、全てのメディアにおいて回答比率が低く、「上記のメディアはあまり見ていない」（18.1%）のみ全体の回答比率を上回るという結果になった。

集計表９　和装の経験の有無×接触メディア

(%)

n＝30以上で
全体+10pt以上
全体+5pt以上
全体-5pt以下
全体-10pt以下

	n=	テレビ（民放の地上波・BS）	テレビ（NHKの地上波・BS）	CATVや衛星放送のチャンネル	ラジオ（インターネット経由を除く）	新聞（電子版含む）	雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）	インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど（アプリ経由を含む）	動画投稿サイト（YouTube、TikTokなど）	SNS（TwitterLINE、Instagram、Facebook、mixi、Facebook、Twitter）	紙の書籍	電子書籍	紙のマンガ／マンガ雑誌	電子版のマンガ	有料動画サイト（Amazon Prime Video、Netflix、Hulu など）	上記のメディアはあまり見ていない
		共通設問6　接触メディア														
全　体	20,000	69.5	41.7	10.2	14.3	28.5	7.5	46.1	33.7	28.5	20.4	6.0	6.8	6.4	11.9	10.8
「経験あり」層	2,198	74.6	55.8	14.5	19.8	41.3	10.6	49.1	28.0	26.4	32.3	7.1	6.3	5.2	11.8	3.7
「参加体験あり」層	7,642	77.5	49.2	11.5	15.5	33.6	9.9	52.3	36.0	33.1	25.0	6.6	7.6	7.6	14.1	3.1
「未経験」層	10,160	62.5	33.0	8.2	12.1	21.8	5.1	40.8	33.1	25.4	14.3	5.3	6.3	5.7	10.2	18.1

以上のクロス集計結果と、「①単純集計の結果について」で示した回答者の年齢・性別・経験年数とのクロス集計の結果も踏まえ、和装の「経験あり」「参加体験者あり」「未経験」、それぞれの回答者の特徴や傾向は以下のとおりになる。

１）着物を自ら着付けることができると回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも経験者の総数が多く、年齢別で見た場合、70 代以上が最も多く、次いで 60 代、50 代、40 代以上と続いている。

次に経験者は、子供の頃の習い事として伝統的な文化に係る分野を習っていたと回答している者が多く、また、趣味・娯楽等の活動に積極性があり尚かつ伝統的な文化に係る趣味への嗜好性の高さがうかがえる。消費行動への意識については、家族や知人、困っている人がいれば助けたい・役に立ちたいと考え、自らの考えで判断すると言った価値観を持っている者が全体平均と比べると多い傾向が見える。普段のメディア接触については地上波・BS 放送、ラジオ、新聞や紙の書籍への接触率が高い傾向にあるといえる。

２）着物を着付けてもらった経験があると回答した者の傾向

男女別で見た場合、女性の方が男性よりも圧倒的に着物を着たことがある総数が多く、年齢別で見た場合は、70 代以上が最も多く、次いで 60 代以上、50 代と続いている。

次に体験者は、子供の頃の習い事の経験が多い傾向にあり、美術やダンス、囲碁・将棋については、経験者よりも回答比率が高い一方、茶道や華道などの伝統的な芸事についての回答比率はやや低い傾向にある。趣味・娯楽等の活動については、着付けをできる者と比べると活動的とは言い難く、また、伝統的な文化に係る趣味との関わりは薄いことが分かる。

消費行動への意識については、家族や知人、困っている人がいれば助けたい・役に立ちたいと考える点は着付けができる者と近似しているが、リスクをできるだけ避けたいという価値観を持っている傾向が見られる。普段のメディア接触については地上波・BS 放送、ラジオ、新聞、インターネットサイトや SNS 等、幅広いメディア接触を行っている傾向が見られる。

３）着物を着たことがないと回答した者の傾向

未経験者の場合、圧倒的に男性の方が未経験者の回答比率が高い。年齢別で見ると、18～20 代が最も多く、次いで 40 代、30 代と続き、若年者ほどに着物を着た経験がないことが分かる。

子供の頃の習いごとの経験を見ると、していないとの回答比率が高い傾向にある。また、趣味・娯楽等の活動も必ずしも積極的ではなく、消費行動の価値観やメディア接触への回答も、当てはまるものがないとの回答比率が高い傾向が見られる。

未経験者の傾向と特徴

次に、上記の属性分析を踏まえ、「経験あり」、「参加体験あり」、「未経験」、それぞれの回答者ごとに設けた設問の回答結果についてクロス集計を行い、回答者の特徴について更なる分析を行う。

はじめに、「未経験」と回答している者について分析を行う。上述の回答者属性に関する分析結果からは、「未経験」と回答した者については際立った特徴や傾向は見いだせなかった。加えて、今後の振興施策を考える上で、「未経験」と回答した者が、なぜこれまで着物の着付けを経験してこなかったのか、また、着物を着付けることに対してどのような意識を持っているのか、どのような体験方法や周知の実施をすれば参加体験等に繋げていく可能性を見いだすことができるのか、その検討のために分析を行う必要がある。

■未経験層の体験機会への参加意向

未経験と回答した者のうち、着物を着てみたいという意向を持つ回答者、体験意向がない回答者にはどのような特徴があるのか。趣味・娯楽等の活動内容、消費意識、メディア接触の設問とＣＱ16「参加してみたい和装の体験内容」とのクロス集計を行い、回答者の特徴について分析を行う。

ＣＱ16では、体験内容として設定した選択肢には当てはまるものはないと72.3%が回答しており残りの 27.7%については、体験内容によっては着物の着付けをしてもらいたいという意向を持っていると推察される。

まず、着物の着付けを体験してみたいとの意向を示した回答者について、クロス集計結果からその特徴を確認する。趣味・娯楽等の活動とのクロス集計結果からは、「上記の中で当てはまるものはない」と比べると、ほとんどの項目で全体平均と同じ程度の回答比率を示しており、「邦楽・民謡」、「お茶」や「お花」や「書道」の項目でも全体平均を少し上回っていることから、これらの活動に対して決して消極的ではないと推察される。

消費行動に対する価値観とのクロス集計結果を見ると、ほとんどの項目で、全体平均を上回る回答比率を示しており、明確な意見や嗜好性があることがうかがえる。この傾向は着付けができる者や着付けてもらって着物を着たことがあると回答した者の消費行動に対する価値観と近似している部分があり、「家族や友人・知人の役に立ちたい」、「困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい」、「流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい」、と言った項目が合致している。

普段からのメディア接触とのクロス集計結果を見ると、消費行動に対する価値観と同じく、着付けてもらって着物を着たことがあると回答した者と近似した傾向、つまり、普段から幅広くメディアに接触している傾向が見て取れる。

次に、着物の着付けへの参加体験の意向がない者について、その特徴を確認する。ＣＱ16 で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者は、趣味・娯楽等の活動について「特に何もしていない」（32.1%）と回答しており、消費行動に関する設問でも、メディア接触についても、当てはまらない、特にしていないという選択肢を選ぶ割合が高い。このように、着物の着付けへの参加体験の意向がない者の特徴として、趣味・娯楽活動やメディアへの接触に必ずしも積極的とはいえず、消費についての意識・意見をあまり明確に持っていない傾向が確認できる。

集計表 10　参加してみたい和装の体験内容×趣味・娯楽等の活動状況

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問1 趣味・余暇活動の参加状況																	
		ジョギング・マラソン	バスケットボール	動画鑑賞（レンタル、配信を含む）	邦楽、民謡	スポーツ観戦（テレビは除く）	音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	書道	お茶	お花	おどり（日舞など）	テレビゲーム（家庭での）	ゲームセンター、ゲームコーナー	パチンコ	サッカーくじ（toto）	中央競馬	ボートレース（競艇）	SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	特に何もしていない
全 体	10,160	8.8	1.1	12.4	1.0	7.6	14.8	0.5	0.3	0.3	0.1	8.8	2.3	4.3	2.0	5.7	1.4	4.7	25.3
季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる	994	16.8	2.2	20.5	2.2	13.1	24.8	1.2	0.8	1.3	0.1	13.0	5.9	5.0	4.6	7.9	2.6	10.0	7.0
基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる	1,558	13.3	1.7	21.2	2.1	11.8	23.6	1.2	0.8	0.8	0.1	13.8	5.0	5.6	4.3	8.3	2.5	9.6	7.1
着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる	1,017	13.2	1.5	22.1	2.0	14.4	24.9	0.9	0.9	0.8	-	14.6	6.9	5.8	4.5	8.8	2.7	10.6	6.2
着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる	813	13.8	1.6	22.6	2.6	14.4	25.2	1.5	1.2	0.7	-	15.7	5.8	4.6	4.6	8.4	3.1	10.0	7.6
普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる	931	14.4	2.0	22.2	1.9	14.2	25.3	0.6	0.5	0.5	-	13.9	5.7	6.6	4.6	8.8	3.0	9.8	7.3
その他	25	-	-	16.0	-	12.0	32.0	-	-	-	-	8.0	4.0	8.0	4.0	4.0	-	12.0	-
上記の中で当てはまるものはない	7,342	6.7	0.9	10.3	0.7	6.1	12.8	0.3	0.2	0.1	0.1	7.6	1.5	3.8	1.5	5.0	1.0	3.5	32.1

※n=30未満は参考値のため灰色

集計表 11　参加してみたい和装の体験内容×消費行動に対する価値観

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問5 消費行動に対する価値観														
		自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい	周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい	チャンスと感じたら逃したくない	リスクはできるだけ避けたい	家族や友人・知人の役に立ちたい	環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい	困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい	周りの人から注目されたい	集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ	その時・その場でしか得られない体験をしたい	流行りのものは試してみたい	流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい	買ったものや、気持ちを発信したい	自分が発信したものに反応が欲しい	上記であてはまるものはない
全 体	10,160	21.2	18.5	17.4	34.3	16.7	7.0	13.2	2.2	3.3	8.7	3.1	19.2	2.5	2.6	32.5
季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる	994	38.6	31.8	34.5	48.6	31.2	17.1	26.6	4.0	7.6	19.6	6.8	35.6	5.8	4.5	5.0
基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる	1,558	34.6	30.2	32.3	53.1	31.4	15.0	28.0	4.0	6.8	20.2	6.1	37.6	5.2	4.4	5.1
着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる	1,017	34.3	32.0	36.7	54.0	33.7	18.0	29.6	5.2	8.9	23.1	7.0	40.2	6.5	4.9	4.6
着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる	813	31.2	32.1	35.3	54.7	30.8	18.1	26.8	4.4	9.6	24.1	8.4	40.8	7.7	4.9	4.9
普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる	931	33.9	29.4	31.8	49.6	31.6	17.7	27.8	4.2	9.7	22.3	7.7	38.8	6.9	5.2	4.6
その他	25	16.0	64.0	12.0	52.0	32.0	16.0	20.0	-	4.0	8.0	-	44.0	4.0	4.0	16.0
上記の中で当てはまるものはない	7,342	16.5	15.5	13.0	30.5	12.8	4.8	9.7	1.6	2.2	5.8	2.1	15.1	1.7	2.0	42.7

※n=30未満は参考値のため灰色

集計表 12　参加してみたい和装の体験内容×接触メディア

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	共通設問6 接触メディア														
		テレビ（民放の地上波・BS）	テレビ（NHKの地上波・BS）	CATVや衛星放送のチャンネル	ラジオ（インターネット経由を除く）	新聞（電子版含む）	雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）	インターネットのウェブサイト・ニュースサイト（アプリ経由を含む）	動画投稿サイト（YouTube、TikTokなど）	SNS（Twitter、LINE、Instagram、Facebook、note など）	紙の書籍	電子書籍	紙のマンガ／マンガ雑誌	電子版のマンガ	有料動画サイト（Amazon Prime Video、Netflix、Huluなど）	上記のメディアはあまり見ていない
全 体	10,160	62.5	33.0	8.2	12.1	21.8	5.1	40.8	33.1	25.4	14.3	5.3	6.3	5.7	10.2	18.1
季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる	994	78.5	44.8	12.2	19.3	30.1	10.3	54.6	49.7	39.1	26.7	10.1	12.4	11.1	17.4	2.2
基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる	1,558	77.5	46.0	12.3	18.3	29.5	10.2	57.9	49.4	40.9	24.8	10.1	12.1	11.8	15.7	1.6
着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる	1,017	76.3	47.0	13.1	19.6	30.0	12.5	59.2	50.6	41.3	26.9	10.3	12.6	11.8	16.8	1.5
着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる	813	75.5	47.6	12.1	19.9	28.5	12.5	55.0	51.3	40.1	27.3	11.6	13.3	11.6	16.4	2.8
普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる	931	73.8	46.3	11.8	20.4	31.1	10.5	57.1	48.9	37.5	26.5	9.6	12.6	10.1	15.1	2.8
その他	25	72.0	44.0	32.0	12.0	32.0	-	68.0	36.0	36.0	28.0	4.0	4.0	4.0	4.0	-
上記の中で当てはまるものはない	7,342	58.0	29.7	7.2	10.7	20.0	3.8	36.7	29.5	21.8	11.8	4.2	5.1	4.6	9.0	24.0

※n=30未満は参考値のため灰色

■参加したい体験機会別に見た参加条件

ＣＱ16「参加してみたい和装の体験験内容」の各種の参加体験と、ＣＱ17 の「参加しやすい和装体験の条件」の関係を見ると、ＣＱ16 で「上記の中で当てはまるものはない」と回答した者では「わからない」が 89.0%とほとんどを占める一方、実際に希望する体験機会がある者では、「わからない」という回答は極めて少ない。

希望する体験機会がある者での各参加条件への回答比率は、全体的に、平均より非常に高くなっている。特に「手ごろな参加費で参加できたら」については、どの体験を希望した者でも、回答比率が 50%台から 60%台となっており、最重要の条件となっていることが分かる。また、「着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる」体験機会を希望する者では、「体験に必要な費用や道具が明示されていれば」、「着付けや着付け方を体験する時の時間帯を調整してもらいやすければ」、「初心者だけが参加できるような機会があれば」、「体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば」、「指導者の教え方が分かりやすかったら」と多くの条件で、回答比率が、ほかの参加体験を希望する者に比して高くなっており、実際に和装を行う際に必要な具体的知識・技を求める者であるほど、細かな参加条件まで気にする傾向があることが分かる。

集計表 13　参加してみたい和装の体験内容×参加しやすい和装の体験条件

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ17 参加しやすい和装体験の条件									
		家族や知人等、身近な人が着付けや着付け方を教えてくれたら	旅行先の観光地や、催事、イベントで着付ける機会があれば	手ごろな参加費で参加できたら	体験に必要な費用や道具が明示されていれば	着付けや着付け方を体験する時の時間帯を調整してもらいやすければ	初心者だけが参加できるような機会があれば	体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば	指導者の教え方が分かりやすかったら	その他	わからない
全　体	10,160	9.8	8.3	14.8	6.4	4.0	9.0	5.3	5.8	0.6	66.7
季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる	994	47.3	36.5	54.4	26.2	18.5	31.8	20.9	20.4	0.3	6.1
基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる	1,558	33.2	33.3	55.7	26.4	16.6	33.5	19.8	20.8	0.4	6.8
着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる	1,017	34.9	35.0	60.3	34.0	23.0	36.5	23.9	24.3	0.7	6.6
着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる	813	34.8	31.9	61.0	35.9	24.4	39.5	27.6	28.8	0.4	5.2
普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる	931	28.1	29.0	51.0	26.5	18.8	36.0	26.9	28.4	0.6	9.2
その他	25	12.0	8.0	20.0	8.0	4.0	16.0	12.0	12.0	56.0	28.0
上記の中で当てはまるものはない	7,342	2.2	1.7	3.7	1.0	0.5	2.5	1.4	1.9	0.5	89.0

※n=30未満は参考値のため灰色

■これまで和装を経験してこなかった理由と参加したい体験機会

ＣＱ18「和装を体験したことがない理由」を見ると、「自分の趣味と合わない」（37.7%）、「興味がない」（33.1%）という回答比率が高く、着付け・着物自体に関心を持っていないことが体験に繋がっていない最大の理由となっている。次いで「そもそも知らなかった」13.8%、「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」12.2%と続く。

これを、ＣＱ16 の和装の体験内容への参加意向との関係で見ると、ＣＱ16 で「上記の中で当てはまるものがない」と回答した者では、「興味がない」（35.9%）と「自分の趣味と合わない」

（48.1%）が、全体平均を上回っている。逆に、何らかの体験を希望した者では、「興味がない」「自分の趣味と合わない」という回答比率が全体平均より低く、「気軽に体験できそうな場所や機会がなかった」という回答比率が、40%弱から40%台と、全体平均の12.2%に比して顕著に高い。

集計表 14　参加してみたい和装の体験内容×和装を体験したことがない理由

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ18 和装を体験したことがない理由								
		そもそも知らなかった	興味がない	気軽に体験できそうな場所や機会がなかった	参加する時間がとれなかった	体験できる場所や機会があることを知らなかった	体験できる詳しい内容が分からなかった	他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	自分の趣味と合わない	その他
全　体	10,160	13.8	33.1	12.2	3.4	4.2	3.3	5.9	37.7	0.6
季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる	994	22.3	23.4	40.9	11.5	15.1	10.1	11.8	7.3	1.3
基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる	1,558	11.4	28.4	44.1	11.2	15.5	10.7	12.8	9.6	1.2
着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる	1,017	10.9	25.0	44.7	14.4	19.1	13.4	15.2	10.0	1.3
着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる	813	11.8	22.0	43.8	14.8	18.7	15.6	16.1	9.8	1.6
普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる	931	11.4	24.5	39.3	12.2	16.1	14.0	16.4	12.0	0.9
その他	25	-	48.0	24.0	12.0	4.0	8.0	24.0	40.0	24.0
上記の中で当てはまるものはない	7,342	13.3	35.9	3.5	0.8	0.8	0.9	3.9	48.1	0.4

※n=30未満は参考値のため灰色

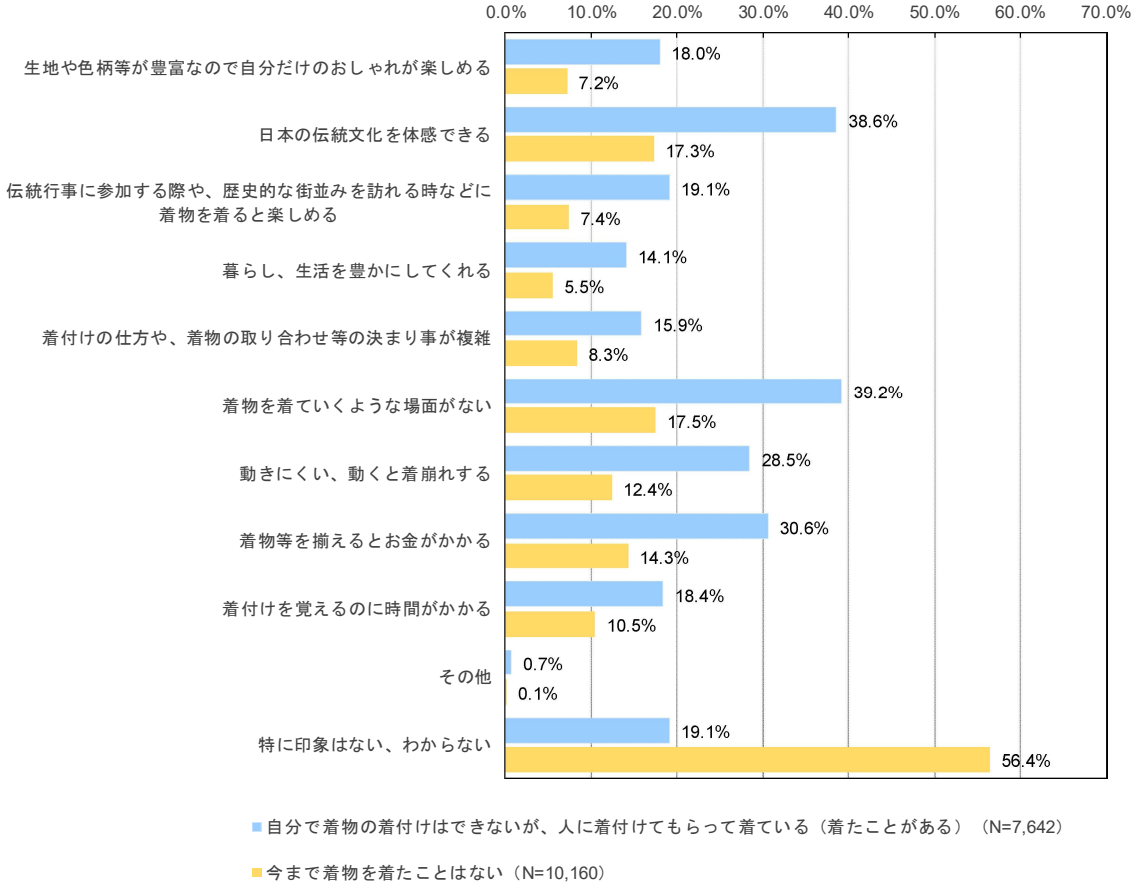
■「未経験」層と「参加体験あり」層の和装へのイメージの違い

ＣＱ19 の設問を見ると、「未経験」と回答した者では、和装のイメージとしては、「特に印象はない、わからない」（56.4%）の回答比率が高く、次いで「着物を着ていくような場面がない」（17.5%）、「日本の伝統文化を体感できる」（17.3%）、「着物等を揃えるとお金がかかる」（14.3%）、「動きにくい、動くと着崩れする」（12.4%）、「着付けを覚えるのに時間がかかる」（10.5%）と続いており、そもそも具体的なイメージを持っていない者が多い。この要因は、回答者が着物を着たことがない者であることから、具体的な内容や体験を経た上での印象を持っていないためと考えられる。

下のグラフは、着付けてもらって着物を着たことがある者のイメージ（ＣＱ14）と未経験者のイメージ（ＣＱ19）の回答結果を比較したものである。

ＣＱ19 とＣＱ14 の結果の比較を見ると、「未経験」と回答した者と比べて「参加体験あり」と回答した者の「特に印象はない、わからない」の回答比率が低くなっていることから、参加体験をすることにより、和装・着付けについてのイメージが具体化しており、魅力と感じる部分も和装を難しく感じる部分も、どちらも回答比率が変化していることが分かる。

集計表 15　未経験者と参加体験者の和装に対する印象やイメージの違い



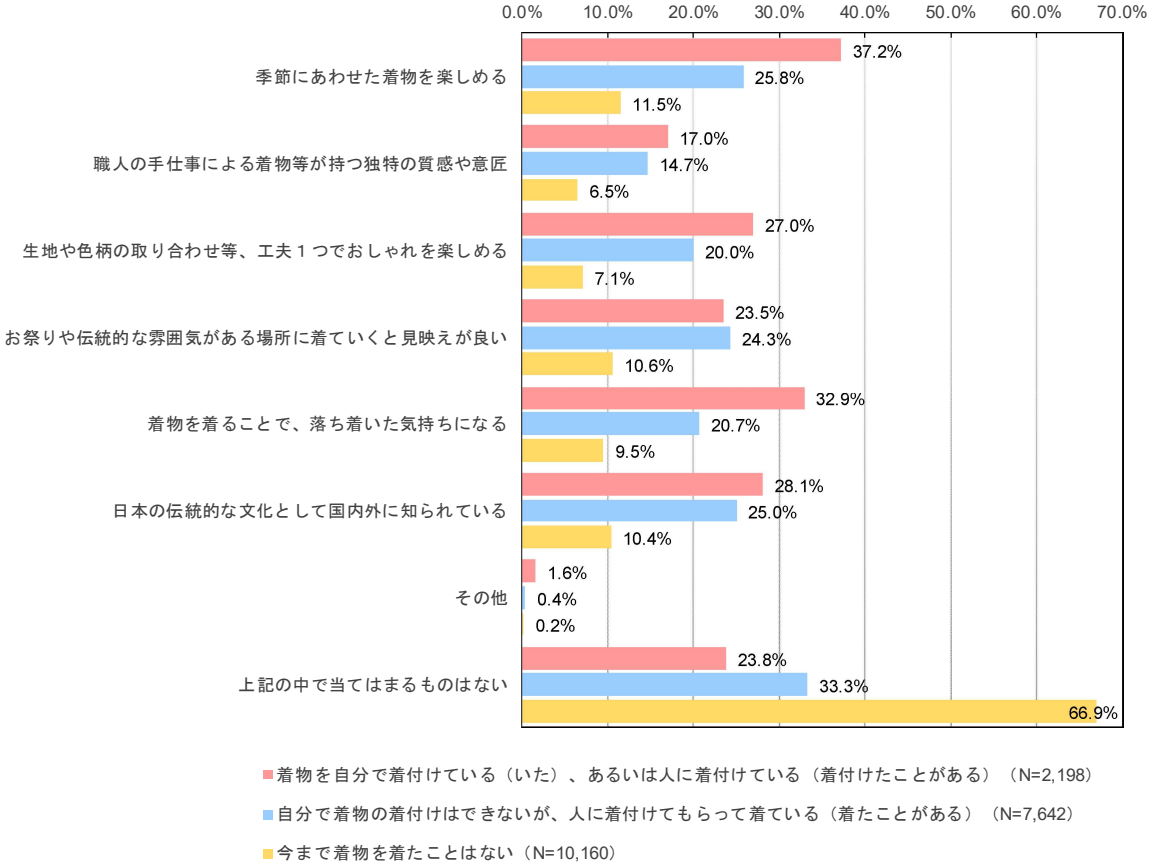
■「未経験」層と「参加体験あり」層、「経験あり」層の和装の魅力についての評価の違い

未経験者が和装に対する印象やイメージを具体的に描けないように、和装の魅力に対する設問（ＣＱ８、ＣＱ15、ＣＱ20）にも同様の傾向が見られる。

下のグラフを見ても分かるように、着付け未経験者の回答者の約６割が、「上記の中で当てはまるものはない」（66.9%）と回答し、経験者と参加体験者の回答比率と比較しても大きな差がある。

このことはほかの魅力についてもいえ、参加体験者と未経験者を比較すると「季節にあわせた着物を楽しめる」、「生地や色柄の取り合わせ等、工夫一つでおしゃれを楽しめる」等、ほとんどの項目で回答比率に大きな差が見られることから、イメージや印象と同じく実際に体験をすることの重要性がうかがえる。

集計表 16　各回答者における和装に対する興味関心や魅力の違い



上記のクロス集計の結果から、着物を着たことがないと回答した者の傾向や特徴をまとめると、以下のとおりである。

１）未経験者の体験機会ときっかけの傾向と特徴

着物を着たことがないと回答した者のうち、参加体験の意向を示さない者が 72.3%いる一方、27.7%が体験内容に関する選択肢をいずれか選択しており、未経験者の中でも機会があれば参加したいという意向を持つ者がいる。

これら参加意向を示す者は、着物を着たことがないと回答した者と比べた場合、趣味・娯楽等の活動に対して決して消極的ではない者であり、消費行動への明確な意見を有し、普段から幅広いメディアに触れている傾向にあり、この点は着付けしてもらって着物を着たことがある者と近似する傾向にある。ただし、着付けができる者と比べると、茶道や華道、邦楽などの日本の伝統的な文化への参加率はあまり高くないことから、趣味・娯楽の活動として伝統的な文化への接触はやや低い傾向にある。

２）未経験者が考える参加しやすい体験の条件と内容ついての傾向と特徴

ＣＱ16、ＣＱ17 のクロス集計の結果から、未経験者のうち、参加体験をしたいとの意向を示した者の 40～60%が、身近な人に教えてもらいたい、手頃な参加費用の２点を参加体験の条件

としてとりわけ重視している傾向が見えてくる。

また、ＣＱ16 とＣＱ18 とのクロス集計の結果からは、体験できなかった事情・理由として「気軽に体験できる場所がなかった」、「体験できる場所や機会があることを知らなかった」と回答し、参加体験の意向を持つ者の多くが、体験する機会を得ることができなかったことが分かる。

３）和装の印象や魅力に関する傾向と特徴

着物を着たことがない者の場合、和装に対する印象や魅力について、未経験であるが故に、具体的なイメージや魅力は分からないという当然の結果が導かれた。その点を踏まえて、経験者や参加体験者との印象や魅力への回答の差を見ると、参加体験や経験を重ねることで、具体的な印象やイメージ、魅力を描くことができるようになること、また、経験を重ねた者ほど、着物を日本の伝統的な文化として捉えるようになったり、季節に応じた着物の取り合わせを楽しんだり、着物を着ておしゃれを楽しむことができるような点と魅力を結びつけられるようになっている。

参加体験ありと回答した者の傾向と特徴

次に、参加体験ありと回答した者の回答傾向を分析する。参加体験をした者は、何らかのきっかけがあって着付けを体験する機会を得ており、しかし、習うまでには至ってはいない者と捉えることができる。ではどのような状況で体験機会を得たのか、また、習うまでには至らない事情や理由等があるのかをクロス集計を用いてその傾向と特徴を分析する。

■参加体験者の体験のきっかけと機会

体験のきっかけ（ＣＱ９）を問う設問の結果からは、着物を着たきっかけとして「成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった」（59.1%）と圧倒的に回答比率が高く、次いで「親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた」（23.5%）、「家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた」（12.0%）、「学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた」（8.6%）となっており、行事への参加をきっかけとして着物を着付けてもらった者が多い傾向にある。また、体験の場（ＣＱ10）としては「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭」（72.3%）が最も多く、次いで「初詣等の年中行事」（17.3%）と続き、約９割が式典や年中行事への参加に際して、着物を着付けてもらったと回答している。

体験したきっかけと体験機会の関係性の特徴や傾向を明らかにするため、ＣＱ９とＣＱ10 のクロス集計の結果を以下に示す。

体験したきっかけとして最も多かった「成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加

する必要があった」（59.1%）と回答した者の中でも、「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭」（73.8%）が特に高い回答比率を示しており、式典への参加に際して着物を着装する機会が多い傾向にあることが分かる。

一方、「親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた」（23.5%）と回答した者では、「初詣等の年中行事」（43.2%）、「観劇の際や茶会等の催事」（35.1%）、「自宅」（39.6%）の回答比率が高く、家族での行事の折に和装をする機会を得たことも見受けられる。また、「家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた」（12.0%）では、冠婚葬祭等を除く項目で全体平均を上回る回答比率であり、家族や知人からの勧めで催事に参加する際や観光の折にも着物を着付ける機会を得ていたことが分かる。

このほか、「学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた」（8.6%）では、学校の授業や呉服店でのイベントで体験機会を得ているほか、観光地等でも着付け体験が行われていることが確認できる。

集計表 17　和装を体験した場×和装を体験したきっかけ

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ9和装を体験したきっかけ								
		親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた	親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた	家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた	学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった	和装に係る仕事や職業に興味関心があった	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	その他
全　体	7,642	23.5	4.3	12.0	8.6	4.4	59.1	2.7	8.1	2.6
入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭	5,528	24.2	3.1	9.1	7.1	3.1	73.8	1.7	4.8	1.4
初詣等の年中行事	1,321	43.2	8.3	21.6	10.1	5.2	51.2	4.2	6.3	1.9
観劇の際や茶会等の催事	478	35.1	15.9	27.4	19.9	9.2	39.7	6.5	20.9	2.5
旅行先の観光地	427	23.9	13.6	27.6	29.3	16.2	42.2	9.8	5.2	2.1
学校の授業や、呉服店等が実施する着物に関するイベント	538	21.6	10.6	22.1	42.8	12.3	38.5	8.2	9.1	1.3
自宅	847	39.6	7.8	22.3	6.8	6.4	40.0	6.4	10.7	4.6
自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験	625	24.3	4.0	13.0	9.9	5.3	31.0	8.2	54.4	1.8
その他	233	17.6	4.7	11.2	5.2	3.4	43.8	3.0	3.4	36.5

■和装を習いやすい状況

和装を習いやすい状況（ＣＱ11）に関する設問の結果では、「費用が手頃だったら」（34.6%）、「通いやすい場所で習えたら」（31.2%）の２つが重視されている条件となっている。一方、和装に支払える月額の費用として、「5,000 円未満」（79.7%）、「5,000 円以上～10,000 円未満」（14.5%）となっており、回答者の約 94.2%が１万円未満の費用であれば習いやすいと回答している。

ＣＱ11 とＣＱ12 のクロス集計の結果を見ると、「5,000 円未満」（79.7%）を選択した者の中では、習いやすい状況として「わからない」（89.9%）の回答比率が高く、そもそも習う金額の相場等が分からないため「5,000 円未満」を選択した可能性が高い。一方、5,000 円以上の項目を見ると、「5,000 円以上～10,000 円未満」（14.5%）では「通いやすい場所で習えたら」（20.4%）が平均を

上回っているほか、そのほかの項目でも全体平均を少し上回る回答比率となっている。

また、「10,000 円以上～15,000 円未満」（2.6%）でも「その他」、「わからない」を除く全ての項目で全体平均の回答比率を上回っており、和装を習いたいと考えている者は5,000円以上15,000円未満の金額であれば支払いやすいと考える傾向にあると推察される。

集計表 18　和装を習いやすい状況×和装に支払える月額費用

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ12和装に支払える月額費用										
		5,000円未満	15,000円以上～	110,000円以上～	210,000円以上～	225,000円以上～	325,000円以上～	335,000円以上～	435,000円以上～	445,000円以上～	545,000円以上～	50,000円以上
全 体	7,642	79.7	14.5	2.6	1.0	0.8	0.4	0.3	0.2	0.1	0.1	0.3
家族や知人等、身近な人から習えたら	1,573	76.4	18.0	2.8	1.4	0.6	0.2	0.1	0.1	-	0.2	0.1
通いやすい場所で習えたら	2,382	74.4	20.4	2.9	1.0	0.6	0.3	0.2	0.2	-	0.0	0.1
費用が手頃だったら	2,643	77.8	17.4	2.7	0.8	0.4	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0
着物をはじめ必要な道具等が借りられたら	1,612	73.9	18.5	3.7	1.1	1.1	0.7	0.4	0.3	0.1	0.1	-
習う時間帯を調整してもらいやすかったら	639	67.0	19.4	4.7	1.7	4.1	1.9	0.5	0.3	0.3	0.2	-
指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら	845	72.3	19.4	3.1	2.1	1.3	0.2	0.6	0.5	0.1	0.4	-
指導で教本やテキストを使っていたら	295	68.1	19.3	3.4	1.7	2.0	1.7	0.3	1.0	0.7	0.7	1.0
その他	102	89.2	8.8	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
わからない	2,880	89.9	7.8	1.0	0.4	0.2	0.2	0.1	0.0	-	0.0	0.5

次に、着物の着付けをこれまで習っていない理由（ＣＱ13）に関する設問の結果では、「興味がなかった」（53.0%）の回答比率が最も高く、次いで「通いやすい場所に着付け教室がなかった」（17.3%）、「他の趣味や娯楽の方に関心が向いている」（15.0%）と続く。では、和装を習いたいと考えている者は、どのような状況であれば習いやすいと考えている傾向が見られるのか。ＣＱ11の習いやすい状況とのクロス集計を行い、参加体験者が習いやすい状況について分析を行う。

習いやすい状況について「わからない」（37.7%）と回答した者のうち、習わなかった理由として「自分の趣味と合わない」（60.3%）、「興味がなかった」（53.1%）の回答比率が高く、着物を着たことはあっても興味関心を持てなかったことが分かる。

一方、参加しやすい状況として、「費用が手頃だったら」（34.6%）と回答した者が習っていない理由として、「習うための授業料等の費用が確保できなかった」（67.2%）が最も多く、次いで、「着付け教室等の雰囲気が分からなかった」（64.8%）と続き、授業料等の費用の問題と共に、教室の雰囲気が分からないと言った事情や、時間の確保の問題も習えなかった事情として回答比率が高い。また、「通いやすい場所で習えたら」（31.2%）と回答した者の場合を見ると、「通いやすい場所に着付け教室がなかった」（62.9%）の回答比率が全体平均より高く、そのほか「着付け教室等の雰囲気が分からなかった」（60.2%）「習うための十分な時間が取れなかった」（60.2%）も全体平均を上回っており、通いやすい場所にあることも条件として重要であるほかに、通いやすい時間に習いたい、教室の雰囲気を知っておきたいと言った面が、習いたいと考える者のハードルになりやすい傾向にあることがうかがえる。

集計表 19　和装を習っていない理由×和装を習いやすい状況

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ11和装を習いやすい状況								
		家族や知人等、身近な人から習えたら	通いやすい場所で習えたら	費用が手頃だったら	着物をはじめ必要な道具等が借りられたら	習う時間帯を調整してもらいやすかったら	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら	指導で教本やテキストを使っていたら	その他	わからない
全　体	7,642	20.6	31.2	34.6	21.1	8.4	11.1	3.9	1.3	37.7
興味がなかった	4,053	17.5	20.6	25.4	14.7	4.5	6.7	2.2	1.3	53.1
通いやすい場所に着付け教室がなかった	1,319	29.1	62.9	59.5	35.2	18.1	21.1	7.5	0.6	8.3
習うための授業料等の費用が確保できなかった	851	26.4	53.8	67.2	45.2	20.2	25.6	8.8	0.9	10.7
習うための十分な時間が取れなかった	987	28.9	60.2	61.6	37.6	23.9	23.0	7.6	1.2	9.5
カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった	357	27.7	57.1	58.5	54.3	32.5	41.5	14.3	0.8	7.6
着付け教室等の雰囲気が分からなかった	525	31.0	60.2	64.8	51.0	26.3	36.6	11.6	1.1	8.8
習う内容についていけるかどうか不安がある	563	33.4	55.4	60.4	45.8	21.1	31.8	12.1	0.5	11.9
他の趣味や娯楽の方に関心が向いている	1,148	26.0	40.9	43.7	30.3	12.5	19.0	6.7	1.4	27.0
自分の趣味と合わない	978	14.8	16.5	20.6	13.0	4.9	7.6	3.8	2.4	60.3
その他	193	20.2	39.4	38.9	29.0	9.8	19.7	7.3	17.6	26.4

上記のクロス集計の結果から、着付けてもらって着物を着たことがあると回答した者の傾向や特徴をまとめると、以下のとおりである。

１）参加体験者の体験機会ときっかけの傾向と特徴

ＣＱ９とＣＱ10 のクロス集計結果の分析から、冠婚葬祭への出席をきっかけとして着物を着付けてもらった者がとりわけ多い傾向にある。他方、初詣等の年中行事へ参加したり、観劇の際に着物を着付けてもらった者については、親族が着物を着付けることができたり、友人・知人の誘いで着物を着付けてもらう機会を得ている傾向もみえる。

２）参加体験者が考える習いやすい状況や月額費用についての傾向と特徴

着物の着付けを習いやすい状況や内容について、まず、月に支払える費用と習いやすい状況とのクロス集計結果から、月額の費用としては 5,000 円以上 15,000 円未満の金額が支払いやすい額であると考えられていることが推察される。

また、習っていない理由と習いやすい状況とのクロス集計結果からは、着物を着付けてもらった経験があっても着物を着ることに対して興味を持てなかった者が一定数いる一方で、興味関心があっても、通える場所が近くにない等の事情があって習う機会を持てなかった者がいることが分かる。また、習うための授業料が確保できなかった、教室の雰囲気が分からなかった等の回答も多く見られることから、参加体験者にとっては、通いやすい環境に教室があることに加えて、習う場所の雰囲気を知ることができたりするなど、教室に関する詳しい情報があった方が、習い始めやすいと考えている傾向が回答結果の分析からうかがえる。

経験ありと回答した者の傾向と特徴

着物の着付けができると回答した者の回答傾向について分析を行う。着物の着付けができる者はどのような経緯や場所で着付けを習い始め、どの程度の者が継続してきたのかを分析することで、着付けてもらって着物を着たことがある者と着物を着たことがない者との違いを明らかにする。

■始めたきっかけと継続性及び継続理由

着付けを習い始めたきっかけ（ＣＱ１）の結果では、「親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた」（42.3%）が最も高く、次いで「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（20.9%）、「和装に係る仕事や職業に興味関心があった」（12.9%）、「成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった」（12.6%）、「友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた」（12.5%）がほぼ同率で並ぶ。着付けができると回答した者の身の回りには、着物を身に付けることができる親族がいたり、または着物が自分の趣味と関係していたりするなど、着物を着ることが身近にあったことで着付けを習い始めるきっかけが生み出される背景があったことが推察される。

次に、習い始めたきっかけ（ＣＱ１）と現在の継続状況（ＣＱ３）についてクロス集計を行い、始めたきっかけと継続率の関係を分析する。「現在も着付けを行っている」の回答比率が 23.1%であるのに対し、「親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた」（46.8%）、「和装に係る仕事や職業に興味関心があった」（33.1%）の２項目で全体平均を大きく上回っていることが見て取れる。また、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（29.6%）「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（28.3%）の２項目も全体平均を上回っており、回答者自身の身近に着物を着る環境があって着付けを習い始めた場合や、仕事や興味関心として着付けを習った場合の継続率が高いことが分かる。

集計表 20　和装を習い始めたきっかけ×現在の継続状況

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ3 現在の継続状況 現在も着付けを行っている	現在は着付けを行っていない
全 体	2,198	23.1	76.9
親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた	930	26.8	73.2
親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた	158	46.8	53.2
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	275	25.1	74.9
学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した	261	26.4	73.6
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	98	29.6	70.4
成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった	277	24.9	75.1
和装に係る仕事や職業に興味関心があった	284	33.1	66.9
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	460	28.3	71.7
その他	195	14.9	85.1

次に、継続理由に関する設問（ＣＱ３補問１）では、「日本の文化だから」の回答比率が 36.1%で最も高く、次いで「四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい」の 33.1%、「着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい」19.9%、「一緒に楽しむ仲間がいる」17.9%、「指導者や教授者として活動したい（している）」17.8%と続く。

始めたきっかけ（ＣＱ１）とのクロス集計を行い、継続する理由ときっかけの関係性について分析を行うと、まず継続理由として最も回答比率が高かった「日本の文化だから」（36.1%）と回答した者の中でも「親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた」（59.5%）が大きく上回っており、続いて「成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった」（47.8%）とこちらも全体平均を上回る回答比率となっている。

また、「四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい」（33.1%）と回答した者の場合、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」（50.8%）、「成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった」（50.7%）、「学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した」（49.3%）、「和装に係る仕事や職業に興味関心があった」（45.7%）の項目で全体平均の回答比率を大きく上回る一方、「親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた」（27.0%）は全体平均を下回っている。

集計表 21　和装を習おうと思ったきっかけ×和装を続けている理由

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ3補問1　和装を続けている理由								
		指導者や教授者として活動したい（している）	日本の文化だから	一緒に楽しむ仲間がいる	着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい	四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい	習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった	その他	特に理由はない	上記の中で当てはまるものはない
全　体	507	17.8	36.1	17.9	19.9	33.1	13.4	5.9	12.8	3.6
親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた	249	24.9	42.6	18.9	20.1	40.6	14.9	3.6	9.2	2.4
親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた	74	35.1	59.5	44.6	32.4	27.0	21.6	1.4	6.8	1.4
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	69	27.5	42.0	36.2	30.4	36.2	20.3	1.4	8.7	1.4
学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した	69	20.3	43.5	44.9	40.6	49.3	26.1	2.9	7.2	1.4
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	29	34.5	58.6	44.8	48.3	41.4	37.9	6.9	6.9	-
成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった	69	20.3	47.8	23.2	31.9	50.7	27.5	7.2	8.7	5.8
和装に係る仕事や職業に興味関心があった	94	21.3	44.7	19.1	31.9	45.7	27.7	6.4	16.0	2.1
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	130	9.2	38.5	18.5	21.5	50.8	22.3	9.2	13.8	4.6
その他	29	3.4	20.7	10.3	17.2	37.9	10.3	31.0	6.9	6.9

※n=30未満は参考値のため灰色

着物の着付けから離れたきっかけや理由（ＣＱ３補問２）を見ると、「着物を着ていくような場面や機会がなくなった」（63.6%）が圧倒的に多く、「時間がなくなった」（15.1%）と「興味を失った」（14.3%）が続いている。

始めたきっかけ（ＣＱ１）と離れたきっかけをクロス集計しその関係を分析すると、回答比率が最も高い「着物を着ていくような場面や機会がなくなった」と回答した者の場合、「成人式・結婚

式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった」（83.2%）、次に「親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた」（69.0%）が全体平均を大きく上回っている。

このほかの項目では、「時間がなくなった」と回答した者の場合、「親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた」（25.0%）、「友人、知人から習うことを勧められた・誘われた」（24.8%）、「テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った」（21.7%）と、全体平均より回答比率がやや高い。

集計表 22　和装を習おうと思ったきっかけ×和装から離れたきっかけや理由

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ3補問2 和装から離れたきっかけ										
		時間がなくなった	近くに習う場所がなくなった	着物の相談等ができる場所がなくなった	興味を失った	経済的に続けるのが難しくなった	健康面、体調面で続けることが難しくなった	一緒に着物を楽しむ仲間と疎遠になった	着物を着ていくような場面や機会がなくなった	着崩れする、動きにくい	着付けに関する仕事を辞めた	その他
全 体	1,691	15.1	8.1	3.7	14.3	5.4	7.3	6.2	63.6	9.2	5.7	4.7
親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた	681	15.7	7.6	3.7	15.0	5.4	8.5	6.3	69.0	11.3	2.6	3.5
親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた	84	25.0	15.5	10.7	7.1	6.0	13.1	8.3	52.4	11.9	3.6	3.6
友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	206	24.8	16.0	6.3	17.0	8.3	6.3	13.1	62.1	10.2	1.0	3.4
学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した	192	19.3	14.6	5.7	13.5	6.3	8.3	6.3	66.1	10.9	3.6	4.2
テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	69	21.7	11.6	4.3	13.0	8.7	5.8	10.1	56.5	18.8	7.2	2.9
成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった	208	10.6	9.1	3.8	12.5	6.7	7.7	10.6	83.2	11.5	4.8	1.9
和装に係る仕事や職業に興味関心があった	190	16.3	9.5	6.8	12.6	8.9	12.1	10.5	57.9	7.4	21.1	1.1
自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	330	14.8	6.7	3.9	13.9	5.8	9.7	7.0	63.0	10.0	8.8	3.3
その他	166	7.8	3.6	1.2	10.2	2.4	6.6	3.6	58.4	9.0	7.8	22.9

■活動内容

自分又は他者へ着付けをする機会（ＣＱ５）の結果では、「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時」（40.6%）の回答比率が最も高く、次いで「普段着として着物を着る時」（29.7%）、「親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時」（21.9%）、「初詣等の年中行事に参加する時」（21.4%）、「観劇の際や茶会等の催事に参加する時」（16.1%）、「仕事着として着物を着る時」（7.8%）、「仕事として、他者への着付けを依頼された時」（5.9%）と続いている。

現在の継続状況（ＣＱ３）と着付けをする機会をクロス集計しその関係を分析すると、「現在も着付けを行っている」と回答した者の中でも、「仕事着として着物を着る時」（48.8%）と「観劇の際や茶会等の催事に参加する時」（47.2%）、「仕事として他者への着付けを依頼された時」（43.1%）の３項目で回答比率が高く、仕事着が着物である場合、また、着付けを仕事として行っている者が継続して着付けを行っているほか、催事に参加する際に着物を着付ける嗜好性がある者も継続している傾向が見られる。

次に、継続している年数（ＣＱ４）と着付けをする機会をクロス集計しその関係を分析すると、「20 年以上」（16.7%）とした回答した者の場合、「観劇の際や茶会等の催事に参加する時」

（28.2%）、「親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時」（28.1%）の回答比率が特に高く、そのほかの項目でも全体平均を上回っていることから、経験年数が長い者は特別な機会に着ることも含め普段から着付けを行っていることがうかがえる。

和装をする頻度（ＣＱ６）と着付けをする機会をクロス集計してその関係を分析すると、「年数回程度」（17.3%）と回答した者の場合、「観劇の際や茶会等の催事に参加する時」（31.6%）の回答比率が高く、そのほか「初詣等の年中行事に参加する時」（26.1%）や、他者の着付けを行う回答比率も高い。

和装に関する月額費用（ＣＱ７）と着付けをする機会をクロス集計してその関係を分析すると、月１万円以上支払っている比率が、「仕事着として着物を着る時」で 35.5%と高く、「入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時」（15.5%）、「普段着として着物を着る時」（15.0%）で低い。

集計表 23　自分または他者へ着付けをする機会×現在の継続状況

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ3 現在の継続状況 現在も着付けを行っている	現在は着付けを行っていない
全　体	2,198	23.1	76.9
普段着として着物を着る時	652	31.0	69.0
仕事着として着物を着る時	172	48.8	51.2
入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時	893	27.9	72.1
初詣等の年中行事に参加する時	471	31.0	69.0
観劇の際や茶会等の催事に参加する時	354	47.2	52.8
仕事として、他者への着付けを依頼された時	130	43.1	56.9
親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時	481	31.0	69.0
その他	243	9.9	90.1

集計表 24　自分または他者へ着付けをする機会×和装を続けている年数

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ4 和装を続けている年数 1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20年以上	3年以上合計
全　体	2,198	22.9	24.1	14.7	12.6	9.1	16.7	53.0
普段着として着物を着る時	652	21.3	20.9	14.1	14.0	10.6	19.2	57.8
仕事着として着物を着る時	172	12.2	26.2	16.9	11.0	13.4	20.3	61.6
入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時	893	17.1	23.0	14.2	13.8	11.4	20.5	59.9
初詣等の年中行事に参加する時	471	20.2	21.2	13.6	11.9	12.7	20.4	58.6
観劇の際や茶会等の催事に参加する時	354	6.8	18.1	14.7	16.7	15.5	28.2	75.1
仕事として、他者への着付けを依頼された時	130	10.8	13.1	19.2	13.1	17.7	26.2	76.2
親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時	481	12.3	18.5	12.7	15.6	12.9	28.1	69.2
その他	243	37.4	25.9	9.5	11.1	4.1	11.9	36.6

集計表 25　自分または他者へ着付けをする機会×和装をする頻度

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	CQ6 和装に関する活動頻度						
		ほぼ毎日	週に2～3回	週1回程度	月数回程度	月1回程度	年数回程度	年1回程度
全 体	2,198	3.2	4.3	6.3	6.7	5.6	17.3	56.4
普段着として着物を着る時	652	6.1	4.9	7.1	6.3	7.5	20.1	48.0
仕事着として着物を着る時	172	14.0	23.3	5.2	14.5	8.1	15.1	19.8
入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時	893	2.5	3.7	8.0	7.1	6.2	18.7	54.0
初詣等の年中行事に参加する時	471	2.8	3.4	6.6	8.5	7.4	26.1	45.2
観劇の際や茶会等の催事に参加する時	354	2.5	6.5	7.9	11.9	10.7	31.6	28.8
仕事として、他者への着付けを依頼された時	130	10.8	12.3	7.7	10.8	7.7	25.4	25.4
親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時	481	2.7	4.0	7.1	6.2	6.0	23.1	50.9
その他	243	2.1	2.5	5.3	5.3	3.3	9.5	72.0

集計表 26　自分または他者へ着付けをする機会×和装に関する月額費用

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

(%)

	n=	CQ7 和装に関する月額費用											
		5,000円未満	15,000円未満～	110,000円未満～	210,000円未満～	220,000円未満～	320,000円未満～	330,000円未満～	430,000円未満～	440,000円未満～	540,000円未満～	50,000円以上	合計10,000円以上
全 体	2,198	69.9	15.4	5.5	2.9	1.3	1.1	0.7	0.4	0.5	0.3	2.1	14.7
普段着として着物を着る時	652	69.6	15.3	5.5	3.1	1.4	1.1	0.9	0.3	0.3	0.5	2.0	15.0
仕事着として着物を着る時	172	42.4	22.1	11.6	6.4	2.3	1.2	2.3	0.6	1.2	0.6	9.3	35.5
入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時	893	67.0	17.6	6.3	3.2	1.3	0.9	0.6	0.2	0.3	0.1	2.5	15.5
初詣等の年中行事に参加する時	471	62.2	16.8	7.4	4.5	2.1	1.5	1.1	0.6	0.6	0.2	3.0	21.0
観劇の際や茶会等の催事に参加する時	354	50.8	22.6	8.5	7.3	2.5	2.0	1.4	0.8	0.3	0.3	3.4	26.6
仕事として、他者への着付けを依頼された時	130	50.0	18.5	11.5	3.8	3.1	2.3	2.3	0.8	2.3	-	5.4	31.5
親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時	481	64.4	15.8	6.4	3.3	1.2	2.1	0.8	0.2	0.8	0.8	4.0	19.8
その他	243	87.7	7.4	1.6	1.2	0.8	0.8	-	-	-	-	0.4	4.9

■経験年数

和装の経験年数（ＣＱ４）を見ると、「１～３年未満」（24.1%）が最も回答比率が高く、次いで「１年未満」（22.9%）、「３～５年未満」（14.7%）となっている。また、経験年数が長いほど「現在も着付けを行っている」という回答が多い。

経験年数（ＣＱ４）と始めたきっかけ（ＣＱ１）との関係をクロス集計から分析すると、「親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた」と回答した者の場合や、「自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた」と回答した者で10年以上の経験年数を回答している割合が高い。

次に、経験年数（ＣＱ４）と習い始めた当初の習い方を選んだ理由（ＣＱ２補問）との関係をクロス集計から分析すると、「特に理由はない、わからない」（20.6%）と回答している者の中でも、

「20 年以上」（31.1%）、「１年未満」（25.8%）の２項目で、全体平均よりも回答比率が高いことが分かる。対照的に、「１～３年未満」では「通いやすい場所だった」（40.8%）、「費用が手頃だった」（30.6%）の２項目の回答比率が高い傾向にある。

経験年数（ＣＱ４）と和装の魅力（ＣＱ８）との関係をクロス集計から分析すると、経験年数が長いほど「季節にあわせた着物を楽しめる」、「職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠」、「生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる」、「着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる」、「日本の伝統的な文化として国内外に知られている」の各選択肢の回答比率が高くなる傾向にある。一方、１年未満の場合、「上記の中で当てはまるものはない」（36.5%）が最も回答比率が高く、経験年数が浅いために、和装の魅力をとらえきれていない者が多くいるものと推察される。

集計表 27　和装を続けている年数×和装を習おうと思ったきっかけ

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ1 和装を習い始めたきっかけ								
		親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた	親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた	友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた	学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した	テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った	成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった	和装に係る仕事や職業に興味関心があった	自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた	その他
全　体	2,198	42.3	7.2	12.5	11.9	4.5	12.6	12.9	20.9	8.9
1年未満	504	33.7	4.0	12.1	13.7	5.2	14.5	7.5	15.1	11.1
1～3年未満	529	39.1	7.6	17.6	12.3	3.6	12.1	11.3	17.2	8.7
3～5年未満	324	42.0	10.2	14.5	12.7	6.8	12.7	13.0	19.8	7.7
5～10年未満	276	44.9	9.4	10.5	12.7	4.3	10.5	19.2	23.6	8.0
10～20年未満	199	48.2	5.5	8.5	12.1	2.5	12.1	17.6	28.6	9.5
20年以上	366	53.8	7.7	7.7	7.4	3.8	12.6	15.3	29.2	7.4

集計表 28　和装を続けている年数×当初の習い方を選んだ理由

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ2補問 その方法を選んだ理由									
		家族や友人等と一緒が良かった	通いやすい場所だった	費用が手頃だった	道具等が借りられた	通いやすい時間帯だった	指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた	本格的に習ってみたかった	手軽に習ってみたかった	その他	特に理由はない、わからない
全　体	2,198	21.6	32.3	24.1	6.2	13.7	6.7	10.6	28.3	4.3	20.6
1年未満	504	19.6	27.8	22.8	3.8	10.7	4.2	3.8	29.8	4.6	25.8
1～3年未満	529	22.5	40.8	30.6	6.2	15.9	8.3	9.5	32.5	3.4	13.6
3～5年未満	324	21.6	35.2	25.3	8.6	12.3	4.9	13.3	25.3	3.7	17.0
5～10年未満	276	21.7	30.4	22.1	10.5	14.1	9.1	16.3	27.9	3.3	18.1
10～20年未満	199	24.6	35.2	25.6	8.0	18.6	8.0	13.1	29.1	5.5	16.1
20年以上	366	21.0	23.5	15.8	3.0	12.8	7.1	13.4	23.0	6.0	31.1

集計表 29　和装を続けている年数×和装に関する興味関心や魅力

(%)

n＝30以上で
- 全体+10pt以上
- 全体+5pt以上
- 全体-5pt以下
- 全体-10pt以下

	n=	CQ8 和装に関する興味関心や魅力							
		季節にあわせた着物を楽しめる	職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠	生地や色柄の取り合わせ、工夫1つでおしゃれを楽しめる	お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い	着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる	日本の伝統的な文化として国内外に知られている	その他	上記の中で当てはまるものはない
全　体	2,198	37.2	17.0	27.0	23.5	32.9	28.1	1.6	23.8
1年未満	504	25.8	9.1	16.5	17.9	23.2	21.8	1.0	36.5
1～3年未満	529	33.5	16.6	23.4	25.3	30.6	26.3	0.8	21.0
3～5年未満	324	38.9	17.3	29.6	26.2	33.0	26.5	2.2	20.4
5～10年未満	276	43.8	20.3	31.2	27.5	38.4	30.4	0.4	19.2
10～20年未満	199	44.7	23.1	38.7	26.1	39.7	38.7	3.0	15.6
20年以上	366	47.5	22.4	34.7	21.6	41.8	33.3	3.6	21.3

上記のクロス集計の結果から、和装の経験ありと回答した者の傾向や特徴をまとめると、以下のとおりである。

1）習い始めたきっかけと継続率に見える傾向と特徴

親族が着物の着付けの指導をしていたことや、仕事として興味関心を持っていたことをきっかけとして着物の着付けを習った者の継続率が特に高い傾向にあり、自分が関わっている趣味やメディアを通じて興味関心を持って着付けを習い始めたと回答した者の継続率も高いことがうかがえる。このうち、親族が着物の着付けを指導していたと回答した者は、自身が着付けの指導者として活動している率が全体平均より高い傾向にある。

一方、習い始めたきっかけと辞めてしまった理由との関係を見ると、冠婚葬祭等への出席をきっかけとして着物の着付けを習った者については、着付けを身に付けていく場面や機会がなくなってしまったことで、着物を着付けなくなったと回答している傾向にある。

2）活動内容と継続している年数から見える傾向と特徴

着物を仕事着として身に付けている場合や、仕事で他者に着付けを行う者といった、自身の仕事と着物が密接に関係している者のほか、催事に参加する折に着物を身に付けて出かける嗜好性がある者も継続して着付けを行っている傾向が見られる。

また、経験年数20年以上の者の場合、観劇や年中行事などで身に付けるという回答比率が高いほか、ほかの機会にも着物を身に付けるという傾向が見え、普段から着付けを行っていることがうかがえる。

３）経験年数と習い始めたきっかけや魅力から見える傾向と特徴

経験年数と習い始めたきっかけとの関係を見た場合、親族等が着物を着付けていた場合や、自分の趣味等との関わりで着物の着付けを習った者ほど、経験年数が長い傾向が見られる。

また、習い始めた当初の方法と経験年数の関係からは、経験年数が長い若しくは１年未満の経験年数と回答した者で、特に理由がないとの回答比率が高く、身近に教えてもらえる人がいたり、普段から自然に着物を着たりしていて、教室などに通って習うような学び方をしていなかったことも推察される。

経験年数と興味関心や魅力との関係を見ると、経験年数が長くなればなるほどに、季節に応じた着物の楽しみ方、着物などの取り合わせ方など、自分でどのように着物を組み合わせて楽しむかを和装の魅力・興味関心として捉える傾向にある。１年未満の経験年数では、当てはまるものがないとの回答比率が高くなっていることからも、経験を重ねることで和装の魅力を感じるようになっているものと推察される。

（４）分析結果のまとめ

和装の経験・体験の有無や、経験者や参加体験者、未経験者の和装の活動状況や興味関心の度合いを把握することを目的としてウェブアンケートを利用した調査を実施した。

調査結果からは、着物を身に付けたことがない者が半数ほどいること、また、身に付けたことのある者の中で、多くの者は着物を着付けてもらっている実情が明らかになった。未経験者が多いことについては、設問群の回答結果からも分かるように、興味関心が持てない、自分の趣味に合わない者が数多くいる一方で、そもそも着物を知らなかった者がいること、また、体験できる場所や機会がなかった、あるいはそのような場や機会そのものを知らなかった結果、参加体験に至らなかった者もいることも明らかになった。

経験者の場合、親族が着物を身に付けていた、あるいは、自分の趣味と着物に関わりがあったりしたことが、着付けを習い始めるきっかけとなったことが分かる。一方、参加体験者の多くは、成人式などの冠婚葬祭へ参加の折に着物を着る機会を得ている傾向が強く、経験者・参加体験者・未経験者のそれぞれに、和装を知る機会、接することができる機会や環境に大きな開きがあることが、調査結果の分析から見えてくる。

経験者の活動状況等については、約７割は継続していない状況で、継続している者については仕事着として着物を着装している者や着付けを指導している者、催事などに出かける際に着物を身に付けている者が多い傾向にある。一方で、継続していない者が続けられなかった事情からは、着物を着ていく場や機会が無くなったとの回答比率が高く、着物が普段着ではなく、催事や行事の折に身に付けていく特別な衣装としての側面が強く認識されているものと推察される。また、

時間がなくなった、習う場所がなくなった等の事情もあることが傾向として見え、着物を着ていきやすい、着物を着ていきたいと思える催事や機会が増えたり、回答者の環境が整ったりすれば、着物を着ることを再び始める可能性があることも推察される。

着付けをしてもらって着物を身に付けたことがある者については、着付けをしたきっかけと体験した機会のクロス集計から、冠婚葬祭への出席が着物を着る、とりわけ大きな体験機会となっていることが分かる。このほかにも、親族が着物を着ていた場合には、年中行事の折や自宅、観劇や茶会への参加の折に着物を着る機会を得ているほか、友人・知人から勧められた場合では、観劇等への参加、観光地を訪れた際や、着物イベント等、きっかけによって冠婚葬祭以外にも着付けの体験機会があることが確認できる。

また、着物を着付けてもらったことがある者が、これまで着付けを習うに至らなかった理由や事情からは、着物を着ても興味関心を持てなかった者もいる一方で、通いやすい場所や時間帯、教室の雰囲気が分かるようになると習ってもよいと考えている者が一定数いることも確認できた。このことから、着付けの指導を行っている者が日時や調整が可能かどうかを告知したり、教室等の見学ができる機会を設けたりするなど、無理のない範囲で工夫を行うことで、習いに行きたい人に広く機会を提供できる可能性があることが分かる。その一方で、通いやすい場所や費用が手頃な方が良い、という観点から考えれば、着付け教室に通う方法以外にも、身近に着物の着付けを知っている者がいれば、そういった者に着付けを教えてもらうことも、無理なく着物に親しみ、着付けを習ったり体験したりすることができる一つの方法であると考えられる。

上記の結果から、着物を着てもらい興味関心を持つ者を増やしていくことを想定した場合、すでに行われている、着物の着付けを体験できるイベント等の機会を広く周知することはもちろんのこと、どのような体験ができるか等も詳しく伝えることで、体験参加者を増やす可能性が広がるものと推察される。

現在では、着物を着装する機会は、冠婚葬祭など特別な機会に限られていることが多くなっている。しかしながら着物は着装を楽しめる文化であり、着付け方や着物の種類を覚えることで、普段の生活でも場面や四季に応じた取り合わせなどを楽しむことができる。このように様々な魅力を持っていることを、イベント等の折に丁寧に発信することも、和装に興味関心を持ってもらうために必要な取り組みであると考えられる。

２－３　海外からの評価と国際発信

外国人の和装への関心や評価

外国人から見た和装への評価については、来日した外国人によって著された書籍や、ヨーロッパでのジャポニスムにおける着物の取り扱いなどからうかがい知ることができる。

元禄３年（1690）に来日したエンゲルベルト・ケンペルはその著書、*“Geschichte und Beschreibung von Japan”*（邦題：『江戸参府旅行日記』）において、江戸参府の際、献上品の返礼として将軍から絹の着物30枚、その他に約90枚の着物が贈られたことを記録している[17]。このうち、将軍下賜の着物30枚はオランダ本国に送られた。当時流行していた異国趣味とあいまって「ヤポンセ・ロッケン（日本の室内着）」として好まれ、上流階級のステイタス・シンボルとなった[18]。

明治６年（1873）に来日したバジル・ホール・チェンバレンは、その著書*“THINGS JAPANESE”*（邦題：『日本事物誌』）で「衣裳（Dress）」という項目を設け、男性・女性・子供が身に付ける着物やその着装方法、状況に応じた着こなしや決まりごとなどを詳細に記す中で、男女問わずその着こなしは「優雅」「衛生的」であること、女性の和装姿の素晴らしさを語っている[19]。

19 世紀後期になると、西洋各地で開催された万国博覧会等を通じて異国趣味が起こり、着物が広く認知されるようになった。日本の着物地がドレスとして仕立てられたり、クロード・モネの《ラ・ジャポネーズ》のように絵画作品に着物が描かれたりもした。

20 世紀初頭にはフランス、イギリスを中心にモードにおけるジャポニスムが流行し、日本の文様はパリのオートクチュールやアール・デコのドレス、リバティ社のテキスタイル等に用いられた。抜き衣紋や打ち合わせ等の着物のディテールを模したファッションや、直線的な裁断の「キモノ・コート」、平面構成のドレス等も登場した。日本の呉服商により西洋向きにアレンジした室内着が輸出され、服の上から羽織る室内着として用いられもした。

20 世紀初頭になるとイギリス、フランス、アメリカに多量に着物が輸出され、日英博覧会が開催された明治 43 年（1910）の輸出量はイギリス向けに限っても 45 万枚近くに達していた。この頃のイギリスでは百貨店でも広く着物が販売されており、当時のイギリスのジャポニスム小説の中では、本物の着物を所有できることと富裕階級であることが結びつけられて語られている。一方で、着物に描かれた文様や、着物の形状が参考とされた服のデザインが見られるようになるなど、デザイン等の面で影響があったことがうかがい知れる。

ジャポニスムの流行が終息して以降の海外における着物に対する評価についての文献は未確認であるが、例えば、日本航空は昭和 29 年（1954）の東京-サンフランシスコ線の就航時から平成２年（1990）まで、女性客室乗務員が和服でドリンク等を提供する「着物サービス」を実施しており、ここからは、着物に関するアメリカ人の持つイメージを踏まえたイメージ戦略が行われていた様子

17 呉秀三訳註『ケンプエル江戸参府紀行』下巻　異國叢書第９巻、駿南社、昭和４年
18 深井晃子『ジャポニスム イン ファッション―海を渡ったキモノ』平凡社、平成６年
19 バジル・ホール・チェンバレン著、高梨健吉訳『日本事物誌２』平凡社、昭和 44 年

がうかがえる[20]。このほか、近年ではフランスの俳優が自身の名を冠した着物ブランドを発表したり、海外ミュージシャンが着物に想を得た衣装を着用したりするなどの例が、現在に至るまで断続的に見られている。

近年は海外において、着物を紹介する大規模な展覧会が開催されている。平成29年（2017）にはフランスの国立ギメ東洋美術館で３か月にわたって「Kimono, Au bonheur des dames」展が開催され、江戸時代の着物の変遷とその着物に影響を受けたヨーロッパのモードについてなどが紹介された。これは松坂屋が収集した着物の中から120点を選び、海外で初公開したものである。

また、令和２年（2020）にはイギリスのヴィクトリア＆アルバート博物館でヨーロッパ最大級の着物展「Kimono:Kyoto to Catwalk」が約２か月間開催され、江戸時代から現代までの日本の着物や、着物から影響を受けたデザイナーの作品まで、約 300 点が展示された。同展は着物に関する緻密な研究に基づいて、歴史と現代に関する主要テーマを取り上げて構成されたものである。同展は令和３年、スウェーデンのヨーテボリの国立世界文化博物館にも巡回した[21]。

なお、「Kimono, Au bonheur des dames」展及び「Kimono:Kyoto to Catwalk」展は国際交流基金が助成している。

和装の国際発信について

和装に関する国際発信については、国が行う日本文化発信の事業に関連して行われる取組や、和装に係る団体が主体となって行っている取組がある。

国が行う事業の中で、日本文化発信を目的の一環として、着物に係る取組が行われている。近年の例では、令和元年（2019）に開催された第７回アフリカ開発会議（TICAD7）の総理大臣主催晩餐会ではアフリカをイメージした着物を着装しての歓待等が行われたほか、着物ショーや着付け体験等も行われている。また、外務省が行う「在外公館事業」や「ジャパンハウス」等の発信事業においても、日本文化発信の一環として着物の展示や着付け体験等が実施されている。このほか、「日本の美」を国内外へ発信する『日本博』事業において、令和２年に東京国立博物館で特別展「きもの　KIMONO」が開催されている。

次に、和装団体や自治体等が実施する取組がある。例としては、西陣織工業組合が持つ西陣織会館では昭和31年（1956）以来「きものショー」を１日７回、無料で開催している。この取組は、京都に訪れる観光客等へ、広く西陣織の着物が持つ魅力を発信することを目的として行われてきたが、インバウンド需要の高まった平成20年代には外国人観光客の観覧が大幅に増加した影響もあり、うち８割が中国、台湾からの観光客となっており、結果として着物の国際発信につながっている[22]。

平成20年代には京都府、京都市、京都商工会議所が海外展開の支援事業を推進し、京都の和装関

20 中野嘉子「空飛ぶマダム・バタフライ～JAL 創業時のおもてなしと日本へのまなざし」（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センターウェブサイト論集　アジア学の最前線、平成 27 年（URL: https://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/asj/html/066.html）　最終確認日：令和６年２月 15 日

21 大久保尚子「展覧会評　Kimono:Kyoto to Catwalk 展」（『服飾美学』第 67 号、服飾美学会、令和３年 p.29-32）

22 「特集「呉服の日」きもの振興を考える：東京五輪を前に、世界が和装美に注目　海外でのきものショーや、和服の無形文化遺産を目指す動き」（『そめとおり』745 号、染織新報社、平成 28 年）

連メーカーで構成される団体が国内外への和装美のプロモーションに注力した。同団体は、イタリアのミラノにおいて着物や帯を発表したほか、「ニューヨーク・ファッションウィーク」に初めて本格的な出展を行っている[23]。

平成24年（2012）から毎年開催されている国内最大規模の着物に関するファッション＆カルチャーイベント「きものサローネ in 日本橋」では、和装関連ショップの出店や「東京きものコレクション」としてファッションショーも開催されているほか、着物の着付け体験等の取組も行われている[24]。平成 28 年には日本文化を世界に発信するプロジェクト「東京江戸ウィーク」がスタートし、江戸の街並みが再現された会場で、和装ウェディングや和装のファッションショー等が開催されたほか、レンタルの浴衣を着装するような取組も行われている[25]。

このほか、大阪市にある大阪くらしの今昔館では、館内に1830年代の大阪の町並みが再現されており、当時の暮らしを体験する取組として着物の着付け体験が行われており、大阪を訪れる外国人観光客が数多く着物体験に訪れている。

上記のように和装団体や自治体が行う取組において、国内外向けの着物関連のイベントが行われており、着物自体を見せるショーを中心としつつ、近年においては着物や浴衣の着付け体験等の取組が行われていることがうかがえる。

〈主要参考文献〉

・深井晃子「モードのジャポニスム」（東京クリエイションフェスティバル実行委員会、京都服飾文化研究財団『モードのジャポニスム展（東京展）図録』平成６年）
・「『呉服の日』きもの振興を考える『インバウンド消費を取り込め』」（『そめとおり』739 号、染織新報社、平成 27 年）
・サワシュ晃子「20 世紀初頭の英国の大衆小説におけるキモノとキモノ姿の女性表象の変化－キモノブームという視点から－」（『ジャポニスム研究』35 号、ジャポニスム学会、平成 27 年）

23 「『呉服の日』きもの振興を考える『インバウンド消費を取り込め』」（『そめとおり』739 号、染織新報社、平成 27 年）
24 きものサローネ HP（URL:https://kimono-salone.com）　最終確認日：令和６年２月 15 日
25 「『呉服の日』きもの振興を考える『東京五輪を前に、世界が和装美に注目海外でのきものショーや、和服の無形文化遺産を目指す動き』」（『そめとおり』745 号、染織新報社、平成 28 年）

２章　和装団体・和装教室の活動について

１．本章の主旨

本章では、令和元年度に文化庁が行った和装分野に関する調査の概要を整理した上で、令和５年度に和装に関する団体（横断的団体及び着付け教室）に対して実施したアンケート調査の結果を中心に、和装の担い手である和装団体や着付け教室の活動について現状を分析する。

２．令和元年度調査の概要

「令和元年度生活文化調査事業」において、和装団体 19 団体に対してアンケート調査を実施し、各団体の活動状況に関して把握を行った。

調査の結果、半数程度の団体が支部を組織して全国的な活動を行っており、また、７団体が会員制度、８団体が個人会員制度を設けて団体の運営を行っている。事業予算の額は、「500 万～2,500 万円」という回答が 26.3%、「2,500 万～5000 万円未満」が 21.1%であった。

主な事業活動としては、47.4%が資格制度（着付け、和裁など）を有しており、７団体が着付けなどのコンテスト事業を、３団体が功労者表彰を、２団体がコンテストと表彰の双方を実施している。和装の振興活動としては、学校教育での和装教育、一般向け着付け講座開催、着付け指導者の育成などがある。和装に係る団体が考える現状の課題としては、会員の減少を 47.4%の団体が、高齢化、財政事情の悪化、情報発信不足を 31.6%の団体が挙げている。また、和装の継承についての考え方では、全ての団体が、日本の伝統的な民俗衣装であり、生活と密着した文化として認識し、次世代に繋ごうと考えている。

今回のアンケートでは、こうした令和元年度の調査の実績を踏まえ、さらに詳細な実態把握を行っていくものとする。

１節　和装団体の活動について

１－１　和装団体へのアンケート調査の実施概要

（１）和装団体へのアンケート調査の目的等

和装の活動の詳細な実態を把握することを目的として、和装の普及啓発や継承を掲げて活動を行っている和装に関する団体（着付け等関連団体、生産者団体、小売団体、横断的団体）を対象とし、各団体の活動内容や、その現状と課題、和装のどのような点を大事にしながら継承に取り組んできたのか等を知ることを目的としたアンケートを実施した。

また、調査年度（令和５年度）においてはいまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	27 団体（配布先は巻末参考資料を参照）
調査期間	令和５年（2023）11 月 29 日(水)～令和５年（2023）12 月 25 日(月)
回 収 数	14 団体(回収率：51.9%)
設問項目	Ｑ１：団体について(概要、主な目的・定款等、沿革) Ｑ２：団体の活動(直近３年)について ①「一般向け講習会」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ②「指導者・会員向け研修会、講習会」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ④「和装に係る技術の保存や継承に係る活動」（活動概要、課題、今度の展望等) ⑤「機関誌の発行」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ⑥「広報活動」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) ⑦「その他活動」の実施(活動概要、課題、今後の展望等) Ｑ３：和装の継承について ①「和装を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素の中で特に大事だと思われる要素とその理由 ②①で選択した要素に関して、和装団体としての現状及び守っていく上で必要な取組 ③和装を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無、具体的課題と解決に向けた取組、課題を解決した事例と工夫した事例 Ｑ４：新型コロナウイルス感染症の影響について ①新型コロナウイルス感染症の影響の程度 ②具体的な影響 ③実施した対応策 ④復旧の程度

〈調査結果を参照する際の注意事項〉

・集計は小数点第２位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。

・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

１－２　和装団体へのアンケート調査の結果概要

（１）和装団体の普段の活動について

本調査のアンケートに回答した全14団体は、いずれも和装の文化や産業の振興などを目的として活動を行っている団体であるが、団体の構成や所属する会員等の違いによって次の４つの類型に分けることができる。

「着付け等関連団体」: 着付けや和裁等の技術継承や普及を単独で行っている団体、また、それら団体が主な会員となって組織され、和装の普及や振興を目的として活動を行っている団体（８団体）

「生　産　者　団　体」: 染色や織物等、着物の製造に携わる団体等が主な会員となっており、和装産業の振興を目的として活動を行っている団体（２団体）

「小　売　団　体」: 着物の流通や小売に関わる団体が主たる会員となっており、和装産業の振興を目的として、活動を行っている団体（１団体）

「横　断　的　団　体」: 着物の原材料生産や製造、小売、着付けなどの業種が異なる団体が主たる会員となって組織され、和装の振興・普及を主な目的として活動を行っている団体（３団体）

下記、類型ごとに団体の活動概要を整理する。

①「一般向け講習会」の実施について

＜着付け等関連団体（８団体）＞

○活動概要

（活動の種類や内容）

・８団体のうち６団体は一般向けに着付け教室や講習会を主催開催している。このうち４団体は有料で着付け教室を開講しており、各団体において、着付け方を一通り学ぶことが出来る教室をはじめ、着付けに関する免状の取得が可能な教室などのほか、和装に関する技能検定に合格するための講習会や、仕事として着付けを行っている者向けに、成人式や卒業式の時期に応じて着付け特訓等の講習会を実施している例が確認できる。

・有料での着付け教室以外の取組としては、３団体が夏の時期に浴衣の無料着付けや、秋の時期に無料着付け教室を行う取り組みに参画していると回答があった。

・ほかにも、１団体は着付け教室は主催しておらず、団体が運営する資料館において和装や染織等に関する収蔵品の一般公開や、公開講座を実施していると回答している。

・残りの１団体については和装に関する講習会を開催しているが、団体に所属する会員向けの取組であった。

・なお、８団体のうち３団体は、中学校家庭科における浴衣着付け体験の支援事業を行って

いるほか、１団体は国民文化祭へ参加し一般向けのイベントを実施している。

（開催頻度及び参加人数）

・講習会等の開催頻度については、有料で着付け教室を行っている場合、週１回程度の頻度で教室を行っている場合が多い。また、技能検定や成人式や卒業式等、特定の時期やシーズンに合わせる形で講習会等を開講している例が確認できる。そのほか、前述の通り、無料で浴衣や着物の着付け教室を開いている場合は、夏と秋の１回ずつに行われている。

・中学校家庭科での浴衣着付けの支援を行っている団体の場合は、随時実施しているとの回答であった。

・参加人数については、有料での着付け教室については１クラスで５名～10 名程度となっている場合が多い。

（活動の成果）

・活動の成果については、いずれの教室や講習会についてもおおむね好評という回答が多い。技能検定に合格するための講習会を開いている団体からは、これまでの取組によって多くの検定合格者が輩出されている旨が報告されている。

・中学校家庭科での浴衣着付け体験の支援を実施している１団体からは、浴衣体験を行う学校が広まりつつあるとの回答も見られた。

〇現状と課題

・有料で着付け教室を開催している団体からは、教室への参加者確保が課題として挙げられているほか、技能検定合格の補助を目的として教室を開講している団体からは、指導者に求められる技能が高いため、技能を有する指導者の確保及び拡充していく必要があるといった課題も挙げられている。

・中学校家庭科での浴衣着付け体験への支援活動を実施している団体からは、浴衣の着付けを行う際の浴衣自体を学校側が確保することが困難となっており、団体側が貸し出しなどをして対応しているが、消耗品であるため補充が難しい状況にあるとの課題を挙げている。

〇今後の展望等

・有料で着付け教室を開催している団体は、参加人数の確保のための宣伝強化について検討している。また、技能検定に関する講習会を実施している団体は、高い技能を有する指導者の拡充を図り、より広域に講習会の開催ができる体制を整え、和装の魅力発信につなげていきたいと回答している。

＜生産者団体（２団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・２団体のうち１団体は、学生及び社会人を対象として、技術者の後継者育成を目的とした研修会の実施と、一般向け着付け教室が行われている。

（開催頻度及び参加人数）

・後継者育成を目的とした研修会については、年に 11 回行われ各回 20 名程度が参加、一般向けの着付け教室については、月１回の教室を計４回で１クールとして、これを年３回実施しており、いずれの回も 10 名程度参加している。

（活動の成果）

・２団体とも成果等に関する回答はなかった。

〇現状と課題

・後継者育成や一般向けの着付け教室を実施している団体からは、和装の需要低下によって染色等、着物を製造するための伝統的な技術の継承が困難になりつつあり、次世代を担う人材の発掘と育成を通じた技術継承が最も大きな課題であるとしている。また、着付け教室については新型コロナウイルス感染症の影響もあり、休止している。

〇今後の展望等

・後継者育成の研修会を実施している団体からは、研修会の実施を通じた人材の発掘と育成を継続し、技術者の確保を務めたいとしている。

＜小売団体（１団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・団体に加盟している呉服店等の小売企業の経営者や社員向けの研修会等が行われており、内容としては着物の仕立てや手入れ、礼儀作法等の講習を実施している。

（開催頻度及び参加人数）

・年に１回実施で、200 名程度が参加している。

（活動の成果）

・回答において成果等に関する回答はなかった。

〇現状と課題

・回答において現状と課題等に関する回答はなかった。

〇今後の展望等

・回答において今後の展望等に関する回答はなかった。

＜横断的団体（３団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・３団体のうち２団体で無料着付け体験事業を行っており、レンタルした着物を着付けてもらうことで和装体験が可能な内容となっている。

・また、１団体では着付けや帯結びなどを習うことが出来る教室を実施しており、初心者向けの着物の着方や必要に応じた補正の仕方、帯結びなどの内容に分けて教室を展開している。

・ほか、１団体では文化検定事業や和装に関する公開講座が実施されており、文化検定事業では和装に関する歴史や知識等の理解を深めることを目的として和装に関する幅広い専門知識を問う検定を実施している。またこれらの検定試験対策のためのセミナーも実施されている。一方公開講座は、大学の講義として開講しており、広く一般向けに和装に関する事柄について講義が行われている。

（開催頻度及び参加人数）

・無料着付け体験事業については、年に２回実施され、各回で 200 名ほど参加している。

・着付け教室については、毎月３～６回程度実施され、年間で 200 名程度の受講者が参加している。

・文化検定については、これまでに延べ７万人弱が受験者しており、最も上級の検定試験には 5,500 人が応募している。また、同検定の対策セミナーについては、年１回開催しており、上級の検定試験向けの対策セミナーには約 720 名が受講者がおり、文化検定の合格を目指す者以外にも、和装に関する専門知識を学びたい者も受講している。

（活動の成果）

・無料着付け体験事業や着付け教室にか関する成果については特に記載はなかった。文化検定については、最も上級の検定試験には現在までに約 450 名の合格者がいる点を挙げている。

○現状と課題

・無料着付け体験を行っている団体からは、実施事業の経費確保と PR の必要性、また実施事業を通じて、着物のファンになってもらう方法を課題として挙げている。

・文化検定事業に関する課題として、文化検定の周知活動の必要性と、検定の初級クラスへの受験者増を挙げている。

・和装に関する公開講座事業の課題としては、受講者の増加を図るための方法が挙げられている。

○今後の展望等

・無料着付け体験を行っている２団体は、和装の魅力を気軽に体験できる機会として事業を継続していきたいとしている。また、着付け教室を実施している団体は、継続的に着物を着てもらうための支援事業として今後も継続的な事業実施を図りたいとしている。

・文化検定事業や公開講座を実施している団体では、文化検定や講座への参加者数の減少という課題を踏まえ、文化検定においては CBT（コンピュータ・ベースド・テスト）方式を採用して全国でいつでもテストを受けられるような形式に変更するなどの対応を行い参加者数増に向けた取り組みが進められている。

②「会員向け研修会、講習会」の実施について

＜着付け等関連団体（８団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・８団体のうち、６団体が団体所属の会員等を対象とした講習会や研修会を実施している。

・４団体では着付け技術の向上を目的とした研修会や講習会が実施されている。それらの内容としては、着付け全般の技術向上を主目的とした勉強会や講習会が多く、中には、帯結びや振袖や時代衣装の着付け、成人式や卒業式のシーズンに合わせた振袖の着付け等、特定の着物の種類の技術を高めるために研修会等が開かれている例もある。

・このほか２団体では、和装に関係する職人や有識者などを講師として招聘して講演会を開催しているほか、ほかの団体においても大学での公開講座を実施している例や、和装の産地等を訪問する研修旅行を行っている例も確認できる。

（開催頻度及び参加人数）

・着付け技術の向上を目的とした研修会や講習会については、多い団体で月１回勉強会を開催して着付け技術の向上を図っており、毎回 15 名程度が参加している。この他の例では、振袖の着付けに特化した講習会等、行事にあわせる形での講習会は適宜開催されており、25～30 名程度が参加している。

・和装に関する講演会を実施している例では、年に２回程度の開催で毎回 100～150 名程度の参加人数となっている。

（活動の成果）

・着付け技術の向上等を目的とした講習会では、各受講者の技術向上の一助となっているとの回答が多く見られる。

・また、和装に関する講演会についても、和装に関する周知の一環として好評を得ているとの回答が見らえれる。

〇現状と課題

・着付け技術の向上を目的とした研修会等を実施している団体は、着付けの技術を教える指導者の高齢化が進んでいるとともに指導者を志望する若い世代が少なくなっているため、次世代の指導者を育成していくことを課題としている。

・和装に関する講演会を実施している団体は、招聘する講師の選定を課題としている。

〇今後の展望等

・着付けの技術の向上を目的としている団体では、次世代の指導者育成とともに指導方法の見直しや、現在の指導者と次世代の指導者候補との連携を図ることが出来る環境づくりも視野にいれながら取り組みを検討している。

＜生産者団体（２団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・２団体のうち１団体は、所属会員や関係者向けに、社会状況等に対応した経営や事業展開を学ぶことを目的として、学識経験者を招聘して研修を実施している。

（開催頻度及び参加人数）

・上記の研修会については年 1 回行われ、およそ 30 名程度が毎回参加している。

（活動の成果）

・回答において成果等に関する回答はなかった。

〇現状と課題

・研修会を実施している団体からは、和装に係る技術者の高齢化の進展や減少とともに、各技術者が高い技術を保有しながらもデジタル機器などを活用した取組には至っていない点を課題として挙げている。

〇今後の展望等

・研修会を実施している団体は、上記の課題点を踏まえ、市場規模が縮小し続けている中での経営のあり方の見直しや、長年にわたって培ってきた技術を大事にしながら事業変革の方向性を見いだしていけるように研修内容を充実していくという展望を持っている。

＜小売団体（１団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・和装関連の生産地と小売業者を繋ぎ、生産地の現状を広く知ってもらうとともに、人的な交流を図ることを目的とした研修会及び交流会を実施している。

（開催頻度及び参加人数）

・生産地との交流などを図る研修会については毎年行われており、現地に赴く場合やリモートによってコミュニケーションが図られている。

（活動の成果）

・従来は、現地に赴き交流を図ってきたが、リモートを活用することでもコミュニケーションを図ることが出来ることが成果の一つとして挙げられている。

〇現状と課題

・回答において現状と課題等に関する回答はなかった。

〇今後の展望等

・回答において今後の展望等に関する回答はなかった。

＜横断的団体（３団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・３団体のうち１団体では、着付けの専門家育成を目的として、和装に関する座学や、着付けに関する実技、和装の生産地や呉服店での実地研修などのカリキュラムを組んだ研修が行われている。このプログラムは、団体会員として所属している着付けの学校で実施される教育課程に組み込まれる形で実施されている。

（開催頻度及び参加人数）

・着付けの専門家育成のプログラムについては１回あたり1～20名程度の参加者がおり、年間で20回程度プログラムを実施している。

（活動の成果）

・上記プログラムについては、毎年 120～200 名程度の合格認定をしている。これまでに１万4,000 人以上の認定実績があり、各所で活躍している。

〇現状と課題

・着付け専門家を育成するためのプログラムについては、団体に所属する着付けの学校で決められたカリキュラムが実施されていることもあり、そのカリキュラムを受講者にどう指導するか統一がされておらず、その点を団体は課題として挙げている。

〇今後の展望等

・着付けの専門家育成を目的としたプログラムを実施している団体では、当該プログラムを通じて、和装に関する専門知識ともに着装技術を身に付けた指導者が数多く活躍してくれることを目指して、各学校におけるプログラムの実施と認定獲得を促していくことを検討している。

③「一般、学校向け講演会、講師派遣」の実施について

＜着付け等関連団体（８団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・回答のあった８団体のうち、６団体から一般向けや学校向けの講演会等を実施しているとの回答があった。このうち３団体は、中学校家庭科における浴衣の着付け指導に和装の専門家の派遣を行っている。また上記３団体のうち１団体は、夏と秋に浴衣や着物の着付け無料教室も実施している。

・他の団体については、１団体が大学に講師派遣を行い着付けと和裁の指導を実施、１団体は免状の取得が可能な着付け教室とともに、美容学校においても着付け指導を実施している。残りの１団体については、学校からの依頼があった場合、講師を派遣して着付けや礼儀作法、和装の歴史や十二単の着装実演等のカリキュラムを実施している。

・このほか、文化庁の「伝統親子教室事業」を活用して、子供たち向けの着付け教室を実施しているとの回答も見られた。

（開催頻度及び参加人数）

・中学校家庭科における浴衣着付け体験支援のための指導者派遣については、令和４年に 13 都道府県の 150 校で支援を行っており、約１万 4,000 人の学生が受講している。

・夏と秋に着物無料着付け教室を実施している団体は、令和５年夏の事業では、全国 33 の着付け教室で事業を実施し約 680 名が受講しているほか、令和４年秋の事業では 96 か所で着付け教室を実施し、約 1,200 名が着付け体験をしている。

・着付けや和裁の指導を目的として大学へ講師派遣を行う事業については、毎週１回開講し１クラス 30 人程度が受講している。

・一般向けの着付け教室については、年間で初級で約 780 名、中級で約 590 名、上級で約 120 名が受講しており、美容学校での着付け指導においては年間 1,200 名程度が受講している。

・このほか、伝統的文化親子教室事業を活用した子供向けの着付け教室は 18 教室が実施、延べ 400 名が参加している。

（活動の成果）

・回答において活動の成果等に関する回答はなかった。

○現状と課題

・大学への講師派遣を行っている団体は、派遣講師の人材不足を課題として挙げている。

・中学校家庭科において浴衣の着付け指導に専門家を派遣していると回答した１団体は、教材となる浴衣を派遣先の学校側が用意できないため、必要となる浴衣の確保やそれらのクリーニング代の費用をどのように捻出していくかを課題としている。

○今後の展望等

・中学校家庭科の授業への講師派遣を行っている団体は、現在行っている取組をより広げていきたいとしている。また、高等学校への講師派遣などもすでに行っていることから、出来るだけ着物を着つける機会を広げていきたいという展望を掲げている。

＜生産者団体（２団体）＞

○活動概要

（活動の種類や内容）

・２団体のうち１団体は、子供を対象に伝統的工芸品に関する興味関心を高めることを目的とした染色などの体験事業を実施しており、小学校や中学校、児童福祉施設等へ職人を派遣して染色体験を行う等の取り組みを実施している。

（開催頻度及び参加人数）

・開催年度によって派遣を行った学校数や参加人数は異なるが、多い年の場合、年間に延べ 12 校へ職人を派遣し、延べ 660 名の子供たちが染色等の体験を行っている。

（活動の成果）

・職人の派遣事業を通じた染色体験の実施により、着物そのものや織物、染色自体への興味関心が深まったとの成果が確認できる。

〇現状と課題

・染色体験の為の職人の派遣事業については、派遣をする職人の高齢化と減少が進んでおり、派遣できる講師を確保しにくいという課題を挙げている。

〇今後の展望等

・実施事業の有効性からも今後も講師派遣を通じて染色等の体験事業を継続していきたいが、体験を通じて職業として興味関心を持ってくれた場合、若者を職人として受け入れていくには難しい状況であることが団体の回答から確認できる。

＜小売団体（１団体）＞

・アンケート回答によれば、一般、学校向け講演会、講師派遣等は実施していないことが確認できた。

＜横断的団体（３団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・３団体のうち１団体は、小学校での着付け体験や高等学校及び大学等での着付け教室を行っている。また、同団体では、修学旅行に来た学生向けの着付け体験も行っている。

・他の１団体は、高等学校で集中講義形式で着付けを教える事業を実施している。

（開催頻度及び参加人数）

・小学校や高等学校等において着付け体験や着付け教室を実施している例では、小学校での着付け体験は年間に 10 回程度延べ約 400 人が着付け体験している。また高等学校での着付け教室の場合、年間で約 50 回程度実施し、約 1,600 人が和装について学んでいる。なお、大学での着付け教室は年に２回程度、受講者 20 名程で、着付けと合わせて文化体験も行われている。

・高等学校において集中講義形式で着付けを教える事業を実施している例では、年に１回、１週間程度の間で実施している。年間での受講者数は 25～60 名程度との回答であった。

（活動の成果）

・回答において活動の成果等に関する回答はなかった。

〇現状と課題

・小学校や高等学校等、大学に講師派遣を行っている団体は、小学校や高等学校では着付け実習を行うことが教育課程のカリキュラムに含まれていないため、実習を依頼してくれる学校が増えない点を課題の１つとして挙げている。また、大学での着付け教室については、講義

が実施されていることをPRし受講者を増やして行くことを課題として挙げている。

・高等学校で集中講義形式で着付けの指導を行っていると回答した団体は、対象校が増えない点を課題としており、外部講師を派遣する場合に、それらの講師への謝金等の費用は学校負担なので対象校が増えていかないと分析をしている。

○今後の展望等

・着付け体験や着付け教室を実施している２つの団体ともに、今後も事業を継続して実施、若い世代に着物を着てもらう機会を創出していくことを重要視しており、将来的には着物需要の掘り起こしにも繋がっていくと考えている。

④「和装に係る技術の保存や継承に係る活動」について

＜着付け等関連団体（８団体）＞

○活動概要

（活動の種類や内容）

・回答のあった８団体のうち、５団体から回答があり、１団体は、着物の生産地に赴き、職人との対話を通じた和装に関する知識等の拡充を図っている。

・また、１団体は、着付けに関する技術継承の一環として、帯の結び方についての技術と型の継承を目的とした研究会を開催している。資料館を運営している１団体は、和装に関係する資料の蒐集及び研究、資料館での蒐集品の展示・公開を行うことで技術継承を図っている。別の１団体においても、普段の着物から十二単などの装束等を収集・保存・公開を行っており、また、一般向け講座として着付け技術の公開と披露を行っている。

・このほか１団体においては団体内に着付けに関する検定制度を設け、検定制度を通じた着付けの技術継承を図っている。また同団体の場合、着付けの技術継承だけではなく、和装の生産地見学の研修会を開催するほか。染織等の伝統的工芸品、重要無形文化財に関する情報について、団体発行の広報誌等に掲載し団体関係者が学ぶ機会を設けている。

（開催頻度及び参加人数）

・和装の生産地見学等の研修事業を実施している団体の場合、生産地見学の研修会は年１度実施で、毎回30名程度参加者がいる。

（活動の成果）

・着付け技術の検定制度を有している団体の場合、３級から１級まで延べ約 500 人が検定試験に合格しており、着付けの指導者として活動していると回答している。

○現状と課題

・着付けに関する検定制度を設けている団体は、和装に係る産業・産地における伝統的な技術の保持や継承等に役立つような取組をしていくことが今後の課題としている。

・資料館を運営している団体からは、コロナ禍を挟んで来館者数が減少している点を課題に挙げ、SNS等による資料館活動の周知を今後の取組の課題としている。

・着付け等の技術を一般向け講座で披露している団体からは、着付けを披露するための会場の確保やイベントの告知等を課題としている。

〇今後の展望等

・着付けに関する検定制度を設けている団体の場合、染織の製作工程等を把握・理解するとともに様々な形で紹介してくことや、現代の生活にマッチした着付けの技術の向上と発展に寄与できるような取組を進めたいとしている。

・資料館を運営している団体の場合は、課題を踏まえて資料館への来館者増に向けた SNS などを活用した周知活動を進めていきたいとしている。

・着付け等の技術を一般向け講座で披露してい団体は、団体主催の講座以外にも、様々な団体やイベントに協力して、着付け技術の披露や指導を行っており、同じ取組を継続していくとしている。

＜生産者団体（２団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・２団体のうち１団体は、今後の着物の意匠開発や商品開発を見据えて、伝統的な技術・技法の記録取集を目的とした伝統的な着物の意匠の収集・保存に関する事業を行っており、デジタルデータ化とデータベース構築を実施している。

（開催頻度及び参加人数）

・伝統的な着物意匠の収集・保存事業は、既に 10 年以上にわたって事業に取り組んでいるとの回答があった。

（活動の成果）

・伝統的な着物意匠の収集・保存事業の成果としては、過去にデジタル化したものを含み、令和３年度時点で 5,400 点以上が収集され、デジタルデータとして保存、データベース化されている。

〇現状と課題

・着物の意匠に関するデジタル化とデータベース構築については、令和３年度以降、意匠の保存・収集やデータベースの更新・追加が出来ていない点を課題として挙げている。

〇今後の展望等

・着物の意匠に関するデジタル化とデータベース構築については、過去の意匠の収集・保存をさらに進めながら、今後のデータベース活用を通じた新商品の開発を行いたいという展望を持っている。

＜小売団体（１団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・着物の産地における作家育成を目的とした、オリジナル作品コンテストを実施している。

（開催頻度及び参加人数）

・回答において活用の開催頻度等に関する回答はなかった。

（活動の成果）

・回答において活動の成果等に関する回答はなかった。

〇現状と課題

・新型コロナウイルスの影響で、夏祭りが中止となり浴衣を着る機会が減少している点を懸念しており、今後、浴衣をはじめ着物を着る機会の創出が急務と回答している。

〇今後の展望等

・回答において今後の展望等に関する回答はなかった。

＜横断的団体・横断的団体（３団体）＞

〇活動概要

（活動の種類や内容）

・３団体のうち２団体は、和装に関する技術保存等に関する取組を行っていると回答している。

・１団体は、染色に係る職人を講師として小学校・中学校へ派遣し、子供たちに対して和装に係る伝統技術の啓蒙を図っている。

・１団体は伝統技術の継承と産地振興を目的として、産地での染織技術に関する実地研修や、染織に関する職人や技術者の人材募集等への協力を行っている。

（開催頻度及び参加人数）

・小学校や中学校へ染色に係る職人を派遣する事業については、年間で 10 回程度、延べ約 500 人に対して染色体験や実演の観覧等が行われている。

・和装の生産地での研修を行っている事業については、年に２回程度実施しており、１度の研修につき 30～50 名程度が参加している。

（活動の成果）

・回答において活動の成果等に関する回答はなかった。

〇現状と課題

・小・中学校へ職人を講師派遣している団体の場合、派遣する職人の高齢化と減少を今後の課題として挙げている。

・産地での実地研修等を実施している団体では、希望者が多いため対応できる産地を増やしていくことを課題として挙げている。

〇今後の展望等

・小・中学校へ職人を講師派遣している団体の場合、着物が製作される過程を見る機会は無いため、日本の伝統文化を支えている匠の技を若い世代に見てもらい、実際に体験してもらうことは今後も必要となるため、継続して取り組んでいきたいとしている。

・産地での実地研修等を実施している団体では、研修会への参加希望者は多くおり、和装に係る伝統的な技術を見ることが出来る機会として今後も取り組みを続けていきたいとしており、産地の職人や後継者等の人材確保についても、団体が窓口となることで貢献できると考えており、今後も協力したいと回答している。

⑤「機関誌の発行」の実施について

＜着付け等関連団体（８団体）＞

〇活動概要

（機関誌の内容）

・回答のあった８団体のうち、６団体から機関誌等の発行を行っているとの回答があった。

・５団体のうち、年１回発行との回答が４団体、年３回程度が１団体、年４回程度が１団体となっている。

（発行回数・部数）

・発行部数について回答があったうち、年１回発行している団体では、１団体は 1,000 部程度、もう１団体は 5,000 部程度発行している。年３回程度発行している団体では 4,500 部、年４回程度発行している団体では 2,000 部を発行している。

（発行の目的）

・各団体において発行されている機関誌は、団体に所属する会員向けの内容となっており、団体の活動報告や、支部や会員活動のレポートなどを掲載している。

〇現状と課題

・回答があった５団体のうち２団体は、機関誌の発行や郵送料等についてコストが高くなっている点を課題として挙げている。また１団体は機関誌のペーパーレス化（デジタル化）を検討している。

・１団体については、機関誌の内容を課題として挙げており、所属する会員等の活動で好事例があれば機関誌に掲載して、各会員間の連携を図っていく点を挙げている。

〇今後の展望等

・機関誌の発行や郵送料等のコスト高を課題として挙げた２団体のうち１団体は、デジタル化の流れにあわせて機関誌のペーパーレス化やスマートフォンへの対応等を検討している。また、ペーパーレス化を課題としていた団体については、ペーパーレス化と合わせて翻訳版を作成して海外の人にも和装文化を発信したいと回答している。

・機関誌の記事内容について課題を挙げた団体の場合は、興味がある内容をさらに掘り下げる

ためにインターネットとの連携・活用方法について検討している。

＜生産者団体（２団体）＞

・機関誌等の発行について回答はなかった。

＜小売団体（１団体）＞

・機関誌等の発行について回答はなかった。

＜横断的団体（３団体）＞

・機関誌等の発行について回答はなかった。

⑥「広報活動」の実施について

＜着付け等関連団体（８団体）＞

〇活動概要

（広報媒体等）

・８団体のうち、６団体で広報活動を行っているとの回答があった。

・上記６団体ともにホームページを作成・運営しており、主に団体活動や催事などの告知等に活用している。なお、１団体は催事などの広報を目的としてチラシを発行している。

（広報活動の目的・効果）

・回答において広報活動の目的や効果等に関する回答はなかった。

（WEB サイトや SNS での発信など）

・広報活動を行っている６団体全てでホームページを活用した情報発信を実施しており、うち４団体でホームページと併用して Facebook や Instagram 等の SNS での情報発信も行っている。

〇現状と課題

・現在ホームページ及び SNS を利用して広報活動をしている４団体のうち１団体は、WEB サイトや SNS の運用や活用面に課題があると回答している。

・また、１団体は、ウェブサイトの広告費の高騰やウェブサイトを管理する人材の不足を課題とし挙げているほか、別の１団体はホームページや SNS を通じた、団体と会員等との連携強化を課題としている。

〇今後の展望等

・WEB サイトや SNS の運用や活用面に課題があると回答した団体については、こまめな周知や発信を行いたいと回答している。

＜生産者団体（２団体）＞

〇活動概要

（広報媒体等）

・２団体ともホームページを作成・運営している。両団体とも団体の事業内容などの情報発信を行っており、うち１団体はSNSでのイベントなどの告知も実施している。

（広報活動の目的・効果）

・２団体ともに、ホームページを活用して団体の概要や事業内容、催事の告知などを行っている。

（WEBサイトやSNSでの発信など）

・ホームページを運営している２団体のうち１団体については、Facebook で催事の開催告知などを実施している。

〇現状と課題

・１団体は、ホームページや SNS でのイベント等に関する告知に時間がかかっている点を課題として挙げている。

〇今後の展望等

・１団体は、和装に親しんでもらうきっかけを作るために、できるだけタイムリーに情報発信を実施したいと回答している。

＜小売団体（１団体）＞

〇活動概要

（広報媒体等）

・ホームページを作成・運営し情報発信を行っている。

（広報活動の目的・効果）

・ホームページにて、団体の事業内容やイベント等の情報発信を実施している。また、ホームページを活用してウェブ上でのコンテストも実施している

（WEBサイトやSNSでの発信など）

・ホームページによる情報発信を中心にしており、SNSの利用については記載がなかった。

〇現状と課題

・回答において現状と課題等に関する回答はなかった。

〇今後の展望等

・回答において今後の展望等に関する回答はなかった。

＜横断的団体（３団体）＞

〇活動概要

（広報媒体等）

・３団体ともホームページを作成・運営している。

（広報活動の目的・効果）

・３団体ともに、ホームページ上で団体の事業内容やイベント告知などの情報発信を実施している。

（WEB サイトや SNS での発信など）

・１団体はイベント専用の SNS アカウントを開設しており、フォロワー数は 4,000 件に上っている。

〇現状と課題

・ホームページを運営している２団体は、今後は SNS を活用した情報発信力の強化を課題として挙げている。

・すでにホームページと SNS を併用している１団体は、検定事業など開催等の告知をホームページ等で実施しているが、高齢者への告知を考えチラシの発行も併用しており、印刷費用の高騰を課題の 1 つとして挙げている。また、SNS を活用したイベント告知を行っているが、全国規模で実施しているイベントのため、各地の活動を一目で見れるように情報の一元化を図りたいとしている。

〇今後の展望等

・SNS の活用を課題として挙げた２団体の場合は、今後、SNS 利活用による情報発信を進めていくことを検討している。

・ホームページと SNS を併用した広報活動を実施している団体の場合、チラシ印刷費用の高騰やインターネットを扱える人が多くなっている点を踏まえ、少しずつデジタル化にシフトしていくことを検討している。

⑦「その他活動」の実施について

＜着付け等関連団体（８団体）＞

・「その他の活動」に関して回答は無かった。

＜生産者団体（２団体）＞

〇活動概要

・１団体は、新商品開発に結び付けるための意匠開発事業（試作品の開発とその展示会の実施）に取り組んでいる。

・１団体は、業界におけるガイドラインや提言づくりを通じた業界の改善活動に取り組んでいるほか、業界統計の作成や、産地で行う着物等の展示会への助成も実施している。

〇現状と課題

・意匠開発事業に取り組んでいる団体からは、職人が高齢化し減少していく中で個々の工場で新たな意匠を提案することは難しくなっているとの課題を挙げている。

・業界におけるガイドラインや提言づくり等に取り組んでいる団体からは、繊維業界や和装に関連する産地を取り巻く事業環境は極めて厳しい状況であることを課題として挙げている。

〇今後の展望等

・意匠開発事業に取り組んでいる団体からは、現在の事業を継続していき技術伝承を続けていきたいと回答している。

・業界におけるガイドラインや提言づくり等に取り組んでいる団体からは、現在の事業とともに、引き続き生産地の組合が実施している事業への支援を継続したいと回答している。

＜小売団体（１団体）＞

〇活動概要

・日本国内や東アジア、ヨーロッパで着物ファンが集まり歴史的な都市等をめぐるツアーを実施しているとの回答があった。

〇現状と課題

・回答において現状と課題等に関する回答はなかった。

〇今後の展望等

・回答において今後の展望等に関する回答はなかった。

＜横断的団体（３団体）＞

・「その他の活動」に関して回答は無かった。

（２）和装の継承について

①継承すべき要素

今日までの和装の文化の継承において、何が守り伝えられてきたのかを具体的に特定するために、和装団体向けのアンケート調査で、「和装を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素として以下を掲げ、これらの中で、各団体が特に大事だと思われる要素を３点選んでもらった。

1．着物の着方、着付け方
2．普段の生活や行事で着物を着ること
3．季節や柄、時処位に応じた着物や帯の取り合わせ方
4．着物、呉服を製作する伝統的技法、意匠、産地
5．足袋、履き物、各種小物を製作する伝統的技法、意匠
6．着物や帯などの手入れに関する技術や知識

上記はいずれも和装の文化を継承する構成要素として欠くことのできないものであり、分けて考えることが難しい選択肢であるが、和装の何を継承してきたのか、また、次世代に何を伝えていくのかを具体的に知るための試みとして、和装団体が大事だと考える要素についてどのような取組を行い、何を課題に考えているかを具体的に知るために、あえて細分化して上記のような要素の提示を行った上で、（1）「和装を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素とその理由、（2）（1）で選択した要素に対して、和装の横断的団体としての現状及び守っていく上で必要な取組、（3）和装を次世代に伝えていく上で、課題と感じていることの有無及びその理由を質問した。その結果、（1）についての煎茶道団体の選択は次のグラフ（図１）のとおりであった。

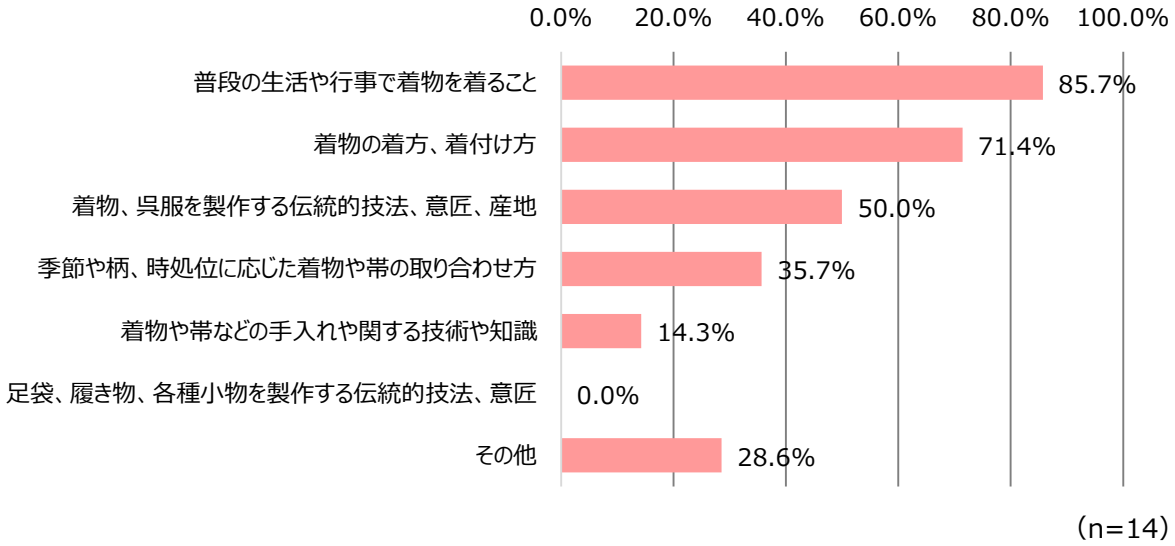


図１　「和装を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素

図１の通り、「普段の生活や行事で着物を着ること」が 12 団体（85.7%）と最も多く、次いで「着物の着方、着付け方」の10団体（71.4%）、「着物、呉服を製作する伝統的技法、意匠、産地」の７団体（50.0%）、「季節や柄、時処位に応じた着物や帯の取り合わせ方」の５団体（35.7%）、「その他」４団体（28.6%）と続く。回答の比率を見ると、上位３つまでについては５割以上の団体が支持しており、日常生活で着物を着ること、着付け方、着物の製作技術の３つが和装を支える基本として認識されていることが分かる。

なお、「足袋、履き物、各種小物を製作する伝統的技法、意匠」を選んだ団体はなかった。

各選択肢の回答に関する傾向があるかを確認するため、団体の類型別に集計を行った。（表１）

着付け関連団体の回答結果は、「着物の着方、着付け方」、「普段の生活や行事で着物を着ること」の回答比率が同一で、次いで「季節や柄、時処位に応じた着物や帯の取り合わせ方」の回答比率の高く、着付けや着方、日常や行事での着物の着装、その中での着物や帯の取り合わせを、継承していく上での要素として重視している傾向にあることが分かる。

次に、生産者団体は、「普段の生活や行事で着物を着ること」「着物、呉服を製作する伝統的技法、意匠、産地」の回答比率が同一で最も高く、「着物の着方、着付け方」と続いており、着物の製作技法等を和装を継承していく上での要素として重視している。一方、小売団体は、「着物の着方、着付け方」と「普段の生活や行事で着物を着ること」を回答しており、着付け等関連団体と同じ傾向が見える。

最後に、横断的団体の場合を見ると、「普段の生活や行事で着物を着ること」と「着物、呉服を製作する伝統的技法、意匠、産地」の回答比率が同一で最も高い傾向にある点は、生産者団体と同じ傾向にあり、和装に関する各種産業に関連する団体によって構成されている横断的団体であっても、着物を製造する伝統的技法とともに、普段や行事等において着物を着てもらうことが、和装を継承していく上での要素として重視されていることが伺える。

表１　特に大事だと思われる要素（団体の類型別）

	合計	着付け等関連団体	生産者団体	小売団体	横断的団体
	n=14	n=8	n=2	n=1	n=3
１.着物の着方、着付け方	71.4%	87.5%	50.0%	100.0%	33.3%
２.普段の生活や行事で着物を着ること	85.7%	87.5%	100.0%	100.0%	66.7%
３.季節や柄、時処位に応じた着物や帯の取り合わせ方	35.7%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%
４.着物、呉服を製作する伝統的技法、意匠、産地	50.0%	37.5%	100.0%	0.0%	66.7%
５.足袋、履き物、各種小物を製作する伝統的技法、意匠	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
６.着物や帯などの手入れや関する技術や知識	14.3%	12.5%	0.0%	0.0%	33.3%
７．その他	28.6%	12.5%	50.0%	100.0%	33.3%

以降、各要素別に、【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】と【現状】や【必要な取組】についての回答記述をまとめると、次のようになる（回答のなかった「足袋、履き物、各種小物を製作する伝統的技法、意匠」を除く)。

「1.着物の着方、着付け方」10 団体（71.4%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

＜着付け等関連団体＞

・着物を着ること自体が大事である、という観点から、着物の着方や着付け方を重要視している。

・また、着物の着付け方は合理的かつ伝統にのっとった着付けがあるので、それを継承したいという意見や、自ら着付けが出来ない、人に着付けが出来ないことで着物から離れてしまい、結果着物自体が廃れてしまう点から、着方や着付け方を重視している意見も見られる。

＜生産者団体＞

・現在の着物離れの要因の一つとして、自ら着物を着ることができない点を挙げており、着物の着方を覚えることによって着物の着用機会を増やし、着物への関心を高めるきっかけとなる等、和装を継承していく上で欠かせない要素の一つとして挙げている。

＜小売団体＞

・着物の着方を教わることによって、自己表現が広がること、また、着物そのものの成り立ちや意匠、表現技法等への関心も高まる点を理由として挙げている。

【現状】

＜着付け等関連団体＞

・着付けの方法を習う人や着付け方を教える立場（教授者）になりたいと思う人が従来より減少しており、その点を課題として挙げている団体が多い。

・上記と関連して、着付け技術を学ぶことが出来る教室自体が従来よりも減っている点や、着物を販売することを前提として着付けを無料で教えている場合が多い点を挙げ、それらの点を危惧している団体もある。

・また、着物は締め付けが苦しいもので長く身につけていると疲れると思っている人が多い、という着物に対してのイメージを指摘している団体もある。

＜生産者団体＞

・生活様式の変化や価値観の多様化等に伴って、着物を着用する機会が大きく減少している点を挙げるとともに、少子化、核家族化など家族形態の変化によって、世代間で着物の着付け方が伝えられていない点を現状として挙げている。

＜小売団体＞

・従来であれば、家庭内で着物の着方を教えることが出来ていたが、現在ではそのよう形では着物の着方が伝えられていない点を挙げている。

【必要な取組】

＜着付け等関連団体＞

・和装の着装機会を少しでも増やすために、中学校家庭科での浴衣着付け支援のような取組に加えて、幼稚園や小学校での体験の機会拡大も視野に入れた検討が行われている。また、美容学校等での着付け指導を行っている団体の場合、学生達に職業体験の機会を多く設け、より実践的な教育についての強化を図ることが検討されており、着付けを体験する、着付けを学ぶ機会自体を如何に多くの者に提供し、着方や着付け方を学んでもらうかが検討されている。

＜生産者団体＞

・着物の着用技術の伝承を必要な取組として挙げており、新型コロナウイルス感染症の影響により閉講していた着付け教室の再開を検討している。

＜小売団体＞

・着物を行事等で着る特別な衣装ではなく日常的に着ることが出来る衣服という捉え方を重視し、その認識を広めるため、家庭内で着物に触れる機会を増やすような取組や、着方を学ぶ場があることを広くＰＲすることを検討している。

「２.普段の生活や行事で着物を着ること」12 団体（85.7%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

＜着付け等関連団体＞

・本来的に、着物は日常的なものであり、現在継承されている茶道や舞踊といった様々な伝統文化や行事においても欠かせないものとなっている。このため、普段の生活や、伝統文化を行う際、行事へ参加する際に着物を着ることが和装の次世代への継承につながる。

・着物は本来であれば日常的に着るものであり、今日においても着物を日常的なものとして普及する点を重視している意見があるほか、行事や伝統文化に欠かせないものであるので継承する必要がある、という意見もあり、総じて着物を着る機会をさまざまな形で増やして行く点を重要視している傾向にある。

＜生産者団体＞

・着物は日本の伝統的な衣服であったが、安価な洋装の登場に伴う形で日常的に着物を着用する機会が減少していった。その点からも、結婚式や入学式、卒業式といった特別な日などに着物を着用する機会自体を増やしていくことが重要であるとしている。

＜小売団体＞

・着物を普段の生活や行事において着ることが、場に応じた着装の仕方を学ぶ機会になるとともに、着物を着ることで国際人としての日本らしさを表現することに繋がっていく、という点においても着物を着装することが重要であるとしている。

＜横断的団体＞

・着物は日本の伝統的な衣装であり、冠婚葬祭や伝統行事、伝統文化を嗜むこと等、着物を着装することによって日本の伝統文化が成り立っている部分があるので、着物を着ることそのものが重要であるとしている。

・また、着物を着る機会が減少している現状において、まずは、着物を楽しんで着装してもらうような行事を提供し、その中で着物の良さや楽しさを知ってもらうことが重要であるという回答もあり、着物を着ることの楽しさを知ってもらう機会を創出していくことで、結果的に普段の生活における着物の着用へと波及していく、という意見もある。

【現状】

＜着付け等関連団体＞

・着物自体が冠婚葬祭等の特別な日に着用する衣服となってしまい、日常的な衣服として着物を着ることが減少していることに加え、七五三や成人式など通過儀礼等に出席すること自体が簡素化されている傾向にあり、着物を着装する機会はさらに減少する傾向にあるとの指摘がある。

・その一方で、着物をレンタルする会社は増えており、七五三や成人式等に出席する際に着物を着る機会は増えているという意見も見られる。

＜生産者団体＞

・生活様式や慣習の変化によって、着物を着用する機会が大きく減少するとともに、着物の需要自体も大幅に減少しているという指摘がある。

＜小売団体＞

・着物を着ること自体に否定的な風潮が見られる点や、特別視されてしまい着にくい、着物自体が贅沢品のように評価されてしまっていることで、着物を着用する機会が失われているという点を現状として挙げている。

＜横断的団体＞

・日常生活のみならず、冠婚葬祭においても着物を着る人が減少している傾向にあり、着物の生産数や売上高も減少している状況であることや、そのような状況に伴って着物を生産する産地も疲弊しているとの意見が見られた。

【必要な取組】

＜着付け等関連団体＞

・着物を着る機会を増やすためにも、日常的な普段着として着てもらうためのイベントや、着物が特別な日にだけに着る衣服ではない点を継続的に啓蒙する取組が必要である、と言った意見や、花見や食事会といった着物を着て楽しめる行事を開催するなどの取組を進めているとの回答も見られる。

・このほか、着物は自分の体にあわせてデザインして着るものであるが故に、自由に着ることができる衣服であることを広く啓蒙するための取組が必要である、といった意見も見られる。

＜生産者団体＞

・着物を着用できる機会を増やして行くような取組が必要であるという意見とともに、着物にまつわる古いしきたりや煩わしいルールを克服していき、気軽に、自由に着こなすことができるような形にしたいという意見も見られる。

＜小売団体＞

・節句や着物の日といった行事があるタイミングで和装を啓蒙することや、着物を衣服として特別視しないことも合わせて啓蒙していくような取組が必要であるとしている。

＜横断的団体＞

・冠婚葬祭や年中行事等への参加には着物が似合うことを再認識してもらう取組が大事であり、同時に、着物の魅力やファッション性、着物が身近なものであることも認識してもらう必要があるとの意見や、まずは着物を着る機会を提供して、着物を着る楽しさを知ってもらう必要があるとの意見も見られる。

「３.季節や柄、時処位に応じた着物や帯の取り合わせ方」５団体（35.7%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

＜着付け等関連団体＞

・四季のある日本の伝統的な衣服である着物は、四季折々の変化とともに育まれたものであり、季節のみならず着物を着る状況などにあわせて時処位がある。これは着物自体や取り合わせる帯や小物についても時処位があり、それらの調和が大事にされてきた。

・着物・帯・小物の取り合わせの仕方にもしきたりがあり、そのしきたりを学ぶうちに、自分らしい取り合わせができるようになっていくとの意見があった。

【現状】

＜着付け等関連団体＞

・団体として着付けなどの指導の一環で取り合わせ方等の指導や教授を行っているが、知識や経験等が不足気味になってしまうという意見が見られる。

・また、気象変動によって旧来の季節感が失われつつある中でも、旧来の季節感に准じて行われる衣替え等の伝統的なしきたりは、なかなか払拭できないとの意見があるほか、着物に関する様々な約束事が親から子にきちんと伝えられていない現状にある、といった指摘も見られる。

【必要な取組】

＜着付け等関連団体＞

・まずは、着物や帯の取り合わせ方等について興味関心を持ってもらうような取組が必要といった意見や、着付けのショウや発表会等、他者の取り合わせ方等を勉強する機会を設けたい等の意見も見られる。

・また、慣習的に実施されている衣替えの時期等については、気候等が大きく変化していることもあるので、現在の体感・肌感覚にあわせて衣替えをするなど、状況に応じたしきたりの緩和が必要といった指摘もある。

「４.着物、呉服を製作する伝統的技法、意匠、産地」７団体（50.0%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

＜着付け等関連団体＞

・美しい着物と、美しい着付けが和装の根本にあり、着物などの伝統的な製作技術が廃れてしまっては、美しい着物・良い着物ができないといった意見が見られる。

・また、着物は原材料の生産を含めた、生産・販売・購入という流通経路のどこかが行き詰まってしまうと、着物を製作するための技法や意匠、産地等の維持に支障を来してしまうことや、賃金が安価な海外に生産を依存しがちになってしまい、着物等を生産する職人の後継者が育成できず廃れてしまう可能性等もあり、当該要素は重要な意味を持っているという意見も見られる。

＜生産者団体＞

・高度な技術を用いて製作される着物も、需要の激減に伴って織り手のみならず、関連する各工程に従事してきた職人の高齢化や廃業が相次いでいる上、後継者不足や製作に用いる専門の道具や部品も枯渇している状況であり、伝統的技術の伝承が困難となってきているため、守る必要があるという意見が見られる。

・そもそも、着物や帯等が生産されなければ着物を着ることが出来ないため、産地によって異なる伝統的な技法を今後も残していく必要があるとの意見も見られる。

＜横断的団体＞

・花鳥風月や四季の移り変わりといった日本人ならではの美的・色彩感覚を映し出し、優美にデザインされた文様や色調の豊かな着物は、各地の職人が継承してきた伝統的な技法に支えられており、守っていかなくてはならないという意見が見られる。

・着物の需要が減少している現状において、職人が高齢化等で離職してしまうと、後継者がおらず、技術等が失われてしまい、結果、着物自体の生産・流通が途絶えて、着物自体の衰退と消滅につながるといった意見も見られる。

【現状】

＜着付け等関連団体＞

・現在、各産地において職人の高齢化と減少が進展している状況であり、生産数の減少に伴い、仕入れ価格の上昇と人件費の上昇も発生し、その結果悪循環に陥っているとの指摘が見られる。

・上記の事態に加えて、着物の意匠の流失や模倣、生地生産から仕立てまで海外による製造に依存している、と言った指摘が見られる。

＜生産者団体＞

・着物需要の減少そのものが、着物産業に従事している職人の減少や高齢化、後継者不足、産地衰退の進行に繋がっているのみならず、着物を製作する伝統的な技法の継承を一層難しいものとしているという現状が指摘がされている。

＜横断的団体＞

・染織技術をはじめ卓越した技術であるが、各製造工程は瀕死の状態であり、着物を用いるほかの伝統文化等にも大きな影響を与えかねないという指摘が見られる。

【必要な取組】

＜着付け等関連団体＞

・着物の着物地や帯地の生産を維持してくための取組として、新素材の利用方法の研究や、着物の購買層を増やすような取組、また、着物を購入した者が継続的に着ものを着ることが出来る環境作り等の取組を行う必要があるとの意見が見られる。

・また、和文化のさらなる広報活動が必要となっているとともに、着物の製造に関する特定の技術について、その保持者の保護や支援が必要であるといった意見がある。

・すでに、着物を買うことで生産地を応援するような取組や産地で着物の製造に関わる従事者の顕彰を行うなどの取組に着手している団体もある。

＜生産者団体＞

・技術の継承や後継者育成が重要であるといった意見に加えて、伝統的な素材や技術、あるいは意匠を生かした新たなものづくりを以て、二次製品の開発や新規分野への参入も必要であるとの提言も見られる。

＜横断的団体＞

・日本の着物は、染織等の各工程において専門性の高い職人たちが伝統的な技法を守り、維持されている側面があり、着物の需要を喚起し和装産業としての業界を維持しつつ、後継者の育成や生産基盤の確保が必要であるという意見がある。

「６.着物や帯などの手入れに関する技術や知識」２団体（14.3%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

＜着付け等関連団体＞

・若年層では、着物を購入したり、親から着物を受け継いだ後、着物や帯をどのような方法で管理したらよいのか分からない人が増えている状況であり、手入れや管理に関する技術の周知や情報の提供が今後更に必要となってくるという理由が挙げられている。

＜横断的団体＞

・着物は、正しく収納して手入れを行っていくことで長く着用できるものであり、仕立て直しや染め替え等も可能で長く楽しめる。その上、ボロになった場合でも、雑巾、下駄の鼻緒等に再利用できるなど、物を大切にする心の象徴であるとの意見があった。

【現状】

＜着付け等関連団体＞

・着物を持っていても、継続して着用する人が少なくなっている上、購入しても着物の手入れの仕方が分からない人も多く劣化させてしまったケースも少なからず発生しているとの指摘がある。

＜横断的団体＞

・母親が着用した振袖を仕立て直し、染め替えや刺繍なども加えて、娘が再び着用するようなことを行っているとの回答が見られる。

【必要な取組】

＜着付け等関連団体＞

・購入した着物の手入れの方法等について周知を行う必要があるとしている。

＜横断的団体＞

・着物を長く愛用してもらえるように、着物の畳み方や後始末なども含めて、着物の手入れに必要となる技術や知識などについて周知を行っている。

「７.その他」４団体（28.6%）

【大事だ(守り続けていく必要がある)と思われる理由】

＜着付け等関連団体＞

・専門的な技術を有し、着付け方を教えている着付け講師の活躍が重要という意見がある。

＜生産者団体＞

・和装業界における商慣行の是正が必要という意見がある。

＜小売団体＞

・家庭で着物の着付け方などを学ぶ機会がない中では、学校教育の課外授業において、着物の歴史やデザイン、産地なども含めて子どもたちに教える機会を設けることが大切であるという意見がある。

＜横断的団体＞

・和装は、日本の伝統的な衣装に係る文化であり、世代を越えて引き継がれ大事にされるもので、「もったいない」という日本の心や文化を継承している側面があるほか、着物そのもので自然や季節の移ろいを表現しており、日本人の美意識が反映されているという意見がある。

【現状】

＜着付け等関連団体＞

・団体として、着付け教室に通う生徒や、着付け講師として活躍している者に対して、様々な分野で活躍できるような道筋をつけられるような支援を進めたいが、決め手がないと回答している。

＜生産者団体＞

・和装業界においては古くからの独特の商慣習が存在しているため、販売の流路が複雑になるとともに、一部には悪徳業者も存在してしまっているため、着物を購入する者に不信感を抱かせてしまい、消費者の着物離れを原因となっている点を現状として指摘している

＜小売団体＞

・中学校家庭科の教科書等には掲載されたものの、家庭科等を担当する教師の裁量に委ねられている部分が大きい。また、担当する教師自身が和装や着付けに関する知識や技能を持

っていないことが多くあり、その結果として、授業時に十分な和装に関する教育を行うことが出来ていない現状について危惧している。

＜横断的団体＞

・普段の生活の中で着物を着用する機会は減少し、加えて通過儀礼や冠婚葬祭、年中行事と言った伝統的な行事においても着物を着用する機会が減少している。また、茶道や華道などの伝統的な生活文化を嗜む人も少なくなりつつあることで、着物を嗜む機会は大きく減少している。そのため、着物の製作や和裁などの伝統的な技術や技法を維持し、次世代へ継承することが困難な状況にあると指摘している。

【必要な取組】

＜着付け等関連団体＞

・着付けに関する業種以外の異業種等との連携を促し、着付け講師自らが事業活動を組織化してゆくようなサポートを団体として強化していきたいとの展望が回答されている。

＜生産者団体＞

・着物を購入しやすくするためにも、旧来の商慣行を是正し、透明性の高い商取引制度への移行が急務であるという意見が述べられている。

＜小売団体＞

・学校教育における和装に関する教育機会の充実を図るためには、担当する教師に対する和装の技術や知識についての教育が必要であり、また、学校において着付け講師等を外部から招聘する場合、招聘するための予算を学校が確保していくことが重要である、といった意見が述べられている。

＜横断的団体＞

・和装の体験機会の創出や和装の魅力を発信するような取組が必要となっているほか、染織に関する技術については無形文化財に指定されているが、着付けに関する技術をはじめとする和装に関する様々な技術を無形文化財として登録し保護を図ることによって、着物に関する技術を網羅的に振興・保護・継承していくことができるのではないかとの意見が見られる。

②和装を次世代に伝えていく上で、課題と感じていること

「和装を次世代に伝えていく上で、団体として課題だと感じていること」について聞いたところ、「１.解決に向けて取り組んでいる課題がある」が７団体（58.3　%）、「２.取り組むことが難しい状況にある課題がある」が６団体（50.0%）であった。「３.課題はない（解決した場合を含む）」と回答した団体はなかった。

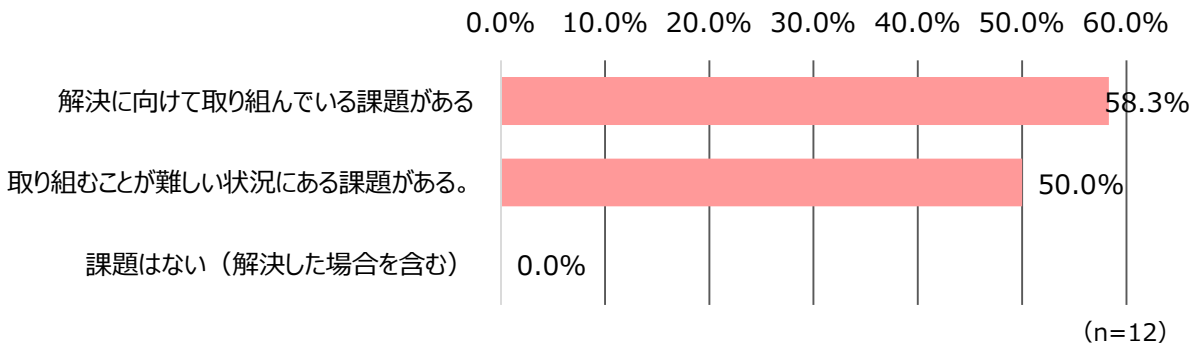


図２　和装を次世代に伝えていく上で課題と感じていること

上記を選択した団体が挙げた課題と、解決に向けて取り組んでいる内容若しくは取り組むことが難しい状況等は以下のとおりである。

「１.解決に向けて取り組んでいる課題がある」７団体（58.3%）

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

＜着付け等関連団体＞

・日本の伝統文化としての年中行事や通過議礼の意義を改めて認識してもらい、生活の中に取り入れて再度慣習として根付かせることが必要と考え、着物月間や納涼行事に参加している。

・着物文化を次世代に継承していくためには普及活動が必要であり、団体が運営する資料館への来館者向けの情報発信（修学旅行生向けの着付け体験、学芸員による説明など）を行っている。

・子供の頃から、着物姿を見る機会や着物や帯に触れる機会があるような環境づくりが必要と考え、文化庁の「伝統文化親子教室事業」を実施している。

・男性にも着物へ興味関心を持ってもらう必要があると考え、男性着付け教室を実施している。

・着物を着ることが出来る人を増やすため、特に若年層に着物の着方を教え伝えていくことが重要と考え、学校の授業の一環として講座を行うなどの取組を行っている。

＜小売団体＞

・まずは着物について知ること、着物を着てみるという体験をすることが必要だと考え、地域の着付け講師とチェーン店、小売店などが連携を図り、学校教育において着物の着方を教える取組を進めている

＜横断的団体＞

・より多くの人に着物に触れてもらう機会を拡大していくことを課題として、団体が実施している事業とその他の団体との事業との連携を図っていくことで、着物に触れてもらう機会を広げる取組を進めている。

「２.取り組むことが難しい状況にある課題がある」６団体（50.0%）

【具体的な課題と解決に向けた取り組みについて】

＜着付け等関連団体＞

・和文化の広報は、財政的・人的資源の制約等もあり一つの団体だけでは限界があるため、取り組むことが難しい状況にある。

＜生産者団体＞

・着物の各製造工程に関連する職人が激減しており、伝統の技を継承する後継者育成が必須と考えているが、各企業で売上げが減少している状況であり、後継者育成を行う余力がないため、取り組むことが難しい状況にある。

・生活様式の変化や価値観の多様化等によって、着物の着用機会の減少が進んでいる。この流れを止めることを考えているが、昔のように普段から着物を着ていた時代に戻すこともできないので、課題解決に向けた取組を実施すすることが難しい状況にある。

＜小売団体＞

・着物の需要そのものを喚起するような取組を行わなければ、産地の活性化に繋がらない点が課題であるが、着物が贅沢なもの、不要なものという捉えられ方をしている傾向にあるため、着物の啓蒙を図る必要があると考えているが、取組を実施する見通しが立たない状態にある。

＜横断的団体＞

・和装振興を目的として着付けの体験等を実施しているが、着物の製造工程は瀕死の状態である。そもそも、伝統的な着物がなくなれば、日本の文化が様変わりしてしまう可能性があるため、分業体制で維持されてきた着物に係る工芸技術を網羅的に振興・保護・継承を行っていく取組が必要であるが、現状においては取組が出来ていない状況にある。

（３）新型コロナウイルス感染症の影響について

①影響の程度

「新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか」について聞いたところ、「１.極めて大きく団体の存続にまで影響があった」が７団体（53.8%）で最も多く、次いで「２.大きな影響はあったが、団体の存続にまでの影響ではなかった」の４団体（30.8%）、「３.ある程度影響があった」と「４.あまり／ほとんど影響はなかった」は各１団体（7.7%）と続いている。

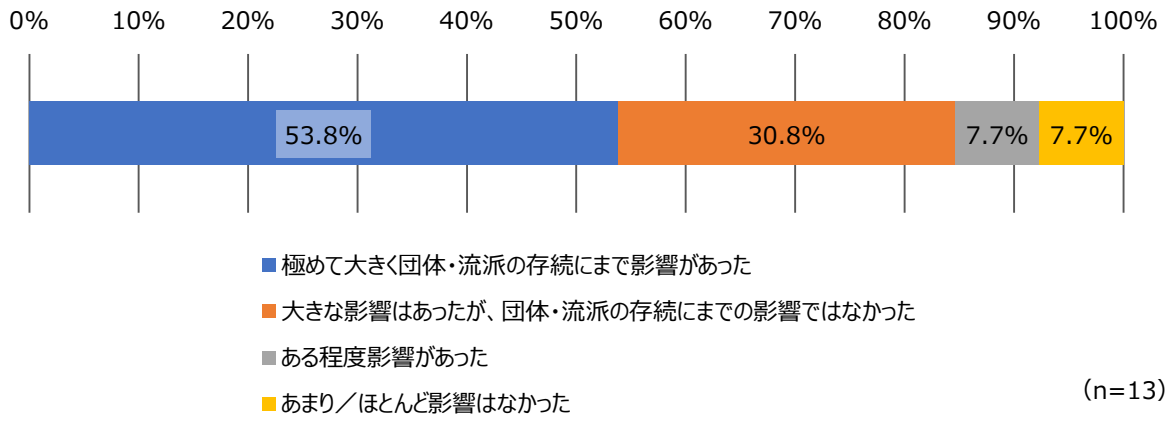


図３　新型コロナウイルス感染症の影響はどの程度あったか

②具体的な影響と実施した対応策

「１. 極めて大きく団体の存続にまで影響があった」７団体（53.8%）

【具体的な影響】

＜着付け等関連団体＞

・集まって会議の開催ができなかったために、書類会議になり、意思疎通が困難であった。

・人が集まってこその普及活動であるが、新型コロナウイルス感染症拡大によって多くの人が集まる形での活動が出来なくなった。また、学校の休校によって授業の編成が大きく変更されたことで、着付け支援などの取組が難しくなった。

・着付け教室は、着付け方などの指導を受講者と接近して行うため、濃厚接触となり兼ねず、教室の休業を余儀なくされた。

・飲食業やホテル業など特定業種には補助金が付いたが、着物業界の場合は活用できる補助金が見当たらなかった。

＜生産者団体＞

・新型コロナウイルス感染症の影響はとても大きく、着物の生産量がコロナ前に比べて４分の３に減少するとともに、傘下にあった事業所数も廃業により大きく減少した。

＜小売団体＞

・具体的な影響についての回答は無かった。

＜横断的団体＞

・催事などの中止や延期、外出の自粛等によって娯楽やオシャレから人々が遠ざかってしまったことで、着物業界の製造・流通に関して大きな影響を受けた。

・団体自体の活動については人が多く集まる事業についての影響にとどまったが、団体に参加している会員の事業（生産者、着付け教室など）は大きく影響を受けた。

【実施した対応策】

＜着付け等関連団体＞

・着付け教室を休業している最中に、授業用 DVD の撮影・制作を行い、自宅でも着付けレッスンができるような取組を実施し、状況を見ながら感染症対策を講じて少人数での授業を再開をした。

＜生産者団体＞

・後継者育成事業、技術技法の記録収集・保存事業、意匠開発事業による需要開拓、高級ファッションやインテリアなどのテキスタイル分野への進出、他の産地組合との合同展示会の開催等など団体事業の実施によって対策を試みた。

＜横断的団体＞

・団体で実施している事業については、参加可能人数を減らすほか、規模の縮小、オンライン化などの対応をとった。オンライン化は遠方からでは参加しにくかった事業にも参加できるようになるということが起こった。

・団体所属の会員が行った取組として、バーチャルフィッティングなどを用いた着物販売の例や、オンラインでの商談や展示会、SNS の活用、催事来場の分散などに取リ組んだ結果、取引先の増加の声を聞いた。

「２.大きな影響はあったが、団体の存続にまでの影響ではなかった」４団体（30.8%）

【具体的な影響】

＜着付け等関連団体＞

・着付け教室を半年近く営業停止としなくてはならず、大幅な収入減少とななった。

・外出自粛などの影響で、団体で運営する資料館も休館し、普及活動も中止や休止を余儀なくされた。

・感染症対策をしっかり行った上で着付け教室を開講していたが、少人数での授業とせざるを得なかった。

・着付けに関する検定試験が２年間中止になった。

【実施した対応策】

＜着付け等関連団体＞

・各種補助金や助成金等に申請したほか、従業員等の休業や不要事業の整理等を行い、団体の運営維持を図った。

・新型コロナウイルス感染症が終息して以降は、伝統文化親子教室事業等に申請を行うなどして普及活動の継続を図った

「３. ある程度影響があった」１団体（7. 7%）

【具体的な影響】

＜着付け等関連団体＞

・感染症が危惧され、着付け教室などの教育活動が低迷し団体運営に悪影響が出た。

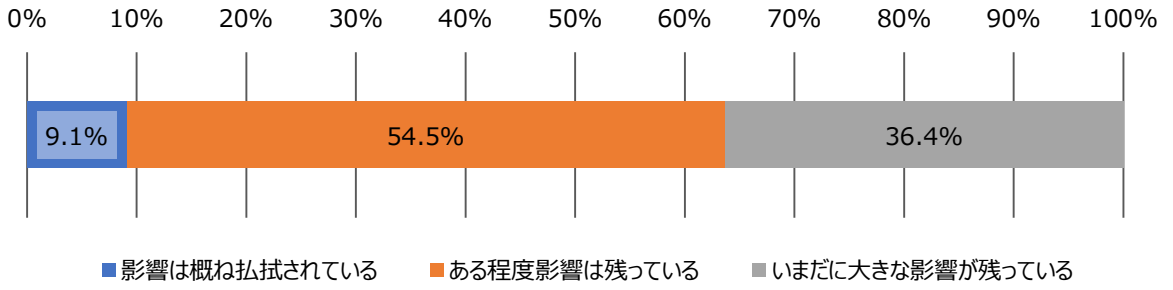
【実施した対応策】

＜着付け等関連団体＞

・着付け教室などの活動は一時自粛を行った。

③復旧の程度

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた団体に対し、現状（令和５年末）における復旧の程度を聞いたところ、「ある程度影響は残っている」が６団体（54. 5　%）で最も多く、次いで「いまだに大きな影響が残っている」の４団体（36. 4%）となっており、「影響は概ね払拭されている」は9. 1%に留まるという結果になった。



（n=11）

図４　復旧の程度

１－３　まとめ

団体の活動概要

今回の和装に係る団体を対象として実施したアンケート調査の結果、団体自体の性格や、各団体において実施されている様々な活動が行われていることが回答からうかがえる。

まず、アンケートに回答した全14団体は、着付け関連団体が８団体、生産者団体が２団体、小売業者団体が１団体、横断的団体が３団体という類型に分けることができる。アンケート回答からは、いずれの団体においても和装に関わるそれぞれの立場から、和装の普及や振興に係る様々な活動に取り組んでいることを窺い知ることが出来る。

一般向けの講習会等の実施については、和装に係る多くの団体において一般向けの着付け教室や講習会を主催しており、着付け関連団体や横断的団体が連携して「きものの日」にちなんで無料で着付け体験できるような取組を実施している例があるほか、着付け関連団体の中には、一般的な着付け教室と同じく受講料を払って講習を受ける形式で教室を開講している例が確認できる。また、着付け関連団体や横断的団体の取組として、中学校家庭科での浴衣着付け体験への支援として講師派遣等に協力している例も確認できた。この他、和装に関する技術者や職人の育成を目的とした学生や社会人向けの研修会を開催している例や、和装に関する文化検定を実施している例、団体が運営している資料館において和装や染織に関連する様々ものの蒐集と保存、それらの一般公開や公開講座を実施している例も見られる。

次に団体が行う会員向けの研修会等については、着付け関連団体の場合では、着付け技能の向上等を目的とした研修会が実施されており、成人式や卒業式等のシーズンに合わせて着付け技能等の向上を図る主旨のものから、帯結び等の特定の技術についての講習等を行っている例も見受けられる。なお横断的団体のうち１団体では、着付けの専門家養成のプログラムを実施しており、着付け技術を学ぶことが出来る学校等の教育課程に組み込む形で実施されている例が見られる。一方、生産者団体では経営や事業展開に関係する講習会を、小売り団体の場合は着物の生産地との交流を含めた研修会を実施し、団体会員や関係者が和装に関する現状や生産地の実態等を知り、知見を深める機会を提供していることが確認できる。

団体会員向けのみならず、一般や学校向けの講演会や講師派遣についての取組を行っている団体も多い。着付け関連団体では、前出の中学校家庭科における浴衣着装体験への支援を目的とした講師派遣の実施があるほか、学校からの依頼に応じて講師派遣を行い、着付けの指導から和装の歴史、十二単の着装等の講義を行っている例や、伝統文化親子教室事業に応募して子供の着付け体験を行っている例も確認できる。横断的団体においても、小学校での着付け体験や高等学校及び大学における着付け教室を実施している。なお、生産者団体においては、染織等の伝統的工芸品への興味関心を高める取組を実施しており、小学校や中学校、児童福祉施設への講師派遣を通じて、染色体験等の事業を行っている。

団体が実施している、和装に係る技術の保存や伝承に係る活動については、着付け関連団体においては、着物の生産地における研修の開催や、和装や染織に関する資料の蒐集と保存活用を行って

いるといった取組例があるほか、生産者団体では、着物の意匠開発等を見据えた、伝統的な意匠の収集と保存を図りデジタルデータ化とデータベースの構築を行っている。また、横断的団体においては、染色に関連する職人を小学校や中学校へ派遣して伝統的な染色技術に関する啓蒙活動に取り組んでいる例や、着物の産地における実地研修や、染織に係る職人や技術者の後継者育成に関する支援を行う等、着物の製作技術の継承に係るような取組が多く見られる。また、着付けに関する技術継承に係る取組も見られ、団体内において帯結びや着付け技術の継承を図る目的で研修会を実施している例、団体内で検定制度を設けることで着付け技術の継承を図っている例も確認できる。

機関誌等の発行については、着付け関連団体からのみ回答が得られらた。機関誌は主に会員向けに発行されており、団体の事業や活動内容の報告から団体会員や支部等活動レポート等を掲載しているものがほとんどであった。発行回数や部数については、年１回程度の発行から年４回程度の発行と幅がある。発行部数についても 1,000 部から 5,000 部程度の発行と、団体の規模等によって異なることが分かる。

広報活動については、ほとんどの団体でホームページの作成及び運営を行っているほか、ホームページの運用と合わせて、Facebook や Instagram 等の SNS を併用して広報活動を展開している団体もあり、特定のイベントの広報を目的として SNS アカウントを作成し、イベントの告知や活動内容等について広報している団体も見られた。

上記の分類以外の活動としては、着物等の新商品開発を支援するための意匠開発事業や業界統計等の作成等が実施されていることが確認できる。

以上ように様々な立場から和装に関する活動が行われている現状において、各団体が抱える課題も多岐に亘っていることがアンケート回答から窺い知ることが出来る。

まず、一般向けや会員向けの講習会、研修会や学校等への講師派遣等を行っている各団体からは、各種取組への参加者や事業の実施回数等を増やす必要がある点を課題として挙げているとともに、講習会等の各取組自体を広く周知する必要性についても言及されている。その一方で、着付け講師や着物を製作する職人及び技術者の高齢化が進んでいるため、講習会や講師派遣を行う際の適切な講師の確保についても課題として挙がっている。また、学校への講師派遣を行っている団体の場合では、講師派遣の周知が必要であると同時に、講師派遣等の諸謝金や費用等が必要となるため、派遣依頼が増えにくい状況にある、といった団体の努力では解決が難しい課題についても触れられている。

各団体が実施している広報活動についての課題としては、ホームページの運用資金の問題のほかに、発信力の強化として SNS の活用について検討をしている団体も見られる。また、既に SNS を活用している団体の課題として、イベント等の告知や報告等についてタイムリーな情報発信には至っていない点を課題として掲げている。

以上のような課題を踏まえた今後の展望としては、従来実施している取組を継続し続け和装の振興や普及を図り、和装や着物を愛好する者を増やして行くためにも、参加人数の増加に向けて実施事業のより広い周知を実施するとともに、次の世代の着付けの技能を持つ者や着物の製作に係る職人等の育成に資する取組を進めていきたいと言った前向きな回答が多く見られる。

和装の継承について

「和装を次世代に伝えていく上で守り続けていく必要がある」と考えられる要素に関する設問については、「普段の生活や行事で着物を着ること」、「着物の着方、着付け方」、「着物、呉服を製作する伝統的技法、意匠、産地」、「季節や柄、時処位に応じた着物や帯の取り合わせ方」、「着物や帯などの手入れに関する技術や知識」の順で回答の割合が高い。各要素について、大切であると考える理由についてはおよその以下の通りであった。

・普段の生活や行事で着物を着ることについては、着物は本来、日常生活において着装されてきた伝統的な衣装であり、また、冠婚葬祭や年中行事、今日に伝承されている様々な伝統文化の実践において欠かせないものとして重要なものとされる。しかし現在は、着物を着る機会そのものが、生活やハレの行事においても減少していることから、着物を着装することの楽しさを広く知ってもらった上で、様々な場面や機会で着物を着てもらうことが、次の世代へ和装を継承する上で重要である。

・着物の着方、着付け方については、着物を着ること自体が大事な伝統文化であるという観点において、また、着物を着ることが自らできないことが一因となって今日における着物離れが進展している点においても、着物を自ら着付ける、また他者へ着付けるための技術は重要である。

・着物、呉服を製作する伝統的技法、意匠、産地については、和装の基本として、美しい着物を美しく着付けるということが根底にあり、着物に関する各地域において伝承されてきた多様な技法や意匠が美しい着物を支えているという認識があるとともに、現在、着物等の需要が激減する中で、着物や帯等の製作に係る職人の高齢化や廃業が相次いでいることからも、これらを守ることが和装の継承について重要である。

・季節や柄、時処位に応じた着物や帯の取り合わせ方については、着物は日本の四季に応じて育まれてきた伝統的な日本の衣服であり、季節や柄、時処位に応じた着物や帯、小物などの取り合わせ方等のしきたりについても育まれてきた。また、着ていく場所や着る人の立場によっても取り合わせ方は異なるものと認識されているため、重要である。

・着物や帯などの手入れに関する技術や知識については、近年では着物を購入したり、親から受け継いだりしても、手入れの仕方や知識が分からない人も多く、着物や帯を正しく手入れし保管をすることで、親から子、子から孫へと引き継ぐことができ長く着用することが可能な衣服であり、例え着れなくなったとしても様々な形で利用することが出来るため、手入れの仕方や知識は重要な要素である。

これらの要素を次世代に守り伝えていく必要がある中で、課題として多く挙げられているのが、着物を着る人そのものの減少や、着物の着付けを教える者の高齢化や減少等である。和装に係る団体は、着物を日常生活や冠婚葬祭や年中行事において着装する人が減少しており、また、自ら着物を着ることが出来ない人が多くなっている上、着付け方を習おうと考える人や着付けを教える立場になろうと考える人も少なくなっている等、着付け教室自体の需要が減少している点を認識していることが、アンケート回答から窺い知ることが出来る。また、着物の需要自体が減少し続けていることで、着物を作る職人の廃業や後継者不足にともない、伝統的な技術や意匠の継承が困難となっている点も課題として認識されている。

上記の課題を解決するために、各団体では、着物への興味関心を高め、着物の需要を喚起するための取組を実施している。まず、和装を体験できるような取組として、学校での浴衣着付け支援や伝統文化親子教室事業への参加など子供の頃から着物に慣れ親しんでもらうような例や、無料で着付け体験ができる教室の開催などの年齢を問わずに和装を体験できる取組が多く行われていることが、アンケート回答から窺い知ることが出来る。

新型コロナウイルス感染症の影響

アンケート回答では、新型コロナウイルス感染症の影響について、５割以上の団体が極めて大きく団体の存続にまで影響があったと回答しており、外出自粛の影響による普及活動の停滞や着付け教室の閉講等があったほか、着物の生産量も新型コロナウイルス感染症以前と比べて四分の三に減少する等、生産面においても大きな影響があったことが回答から明らかとなった。団体の存続まで影響はなかったと回答した３割の団体においても、活動自粛等を余儀なくされ、助成金や補助金の申請、事業の整理等を図ることで状況に対応していたことが確認できる。

コロナ禍以降の団体活動等への影響については、９割以上の団体でいまだに影響を拭い切れていない状況にあることも分かった。

２節　和装教室の活動について

２－１　和装教室へのアンケート調査の実施概要

着付けの教室を対象とし、各教室の具体の活動状況や、指導内容とその成果、教室の運営、教室外との関わりについての概況把握を目的としたアンケートを実施した。

また、調査年度（令和５年度）においてはいまだ新型コロナウイルス感染症の影響が残っている時期であったことから、同感染症の影響の状況についてもあわせて調査の対象とした。

■調査設計

調査方法	郵送によるアンケート票の配布、郵送又は電子メールでの回答
調査対象	606 教室
調査期間	令和５年（2023）12 月４日(月)～令和５年（2023）12 月 25 日(月)
回 収 数	183 教室(回収率：30.2%)
設問項目	Ｑ１：教室の概要 Ｑ２：教室の活動状況について ①教室の開催場所 ②講師の人数 ③講師の属性 ④教室で指導を受けている生徒の人数 ⑤教室で指導を受けている生徒の属性（性別・人数） ⑥教室で指導を受けている生徒の平均受講回数 ⑦教室で指導を受けている生徒の平均受講金額 Ｑ３：教室での指導について ①指導内容 ②教材等の理由 ③和装の教育や指導の目的 ④③の目的達成のために実施している教育や指導、工夫している点 ⑤④による効果や成果 Ｑ４：教室の運営について ①生徒の募集方法 ②教室見学や体験する機会の提供等 ③②の具体的な取組内容 ④教室運営上の課題、解決のために行っている対策 ⑤新型コロナウイルス感染症の影響と実施した対策 Ｑ５：教室外との関わりについて ①教室の外で行う活動内容 ②連携している団体や組織 ③教室所在地の地域コミュニティとの連携

〈調査結果を参照する際の注意事項〉

・集計は小数点第２位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。

・SA（単一回答）設問は横帯グラフ、MA（複数回答）には棒グラフを使用している。

２－２　和装教室へのアンケート調査の結果概要

（１）教室の活動状況について

①　教室の開催場所

教室の開催場所については、183 教室中未回答だった３教室を除く 180 教室のうち、「自宅」が 121 教室（67.2%）で最も多く、次いで「自宅以外に稽古場を借りている」50 教室（27.8%）、「カル　チャーセンターの講座として教室を開催している」28 教室（15.6%）、「自宅以外に稽古場を所有している」27 教室（15.0%）、「オンラインで講座を開いている」３教室（1.7%）となっている。「その他」と回答した教室は 27 教室（15.0%）である。

「その他」の回答として、指導者が営む呉服店等を稽古場として教室を開催している例があるほか、学校や生徒の自宅に出張して稽古を行っている例が確認できる。また、中学校等に出張して家庭科の授業で浴衣の着付け指導を行っているという回答や、伝統文化親子教室事業を実施しているといった、回答も見られる。

なお、180 教室のうち 60 教室（33.3%）は、複数の場所において教室を開いている。

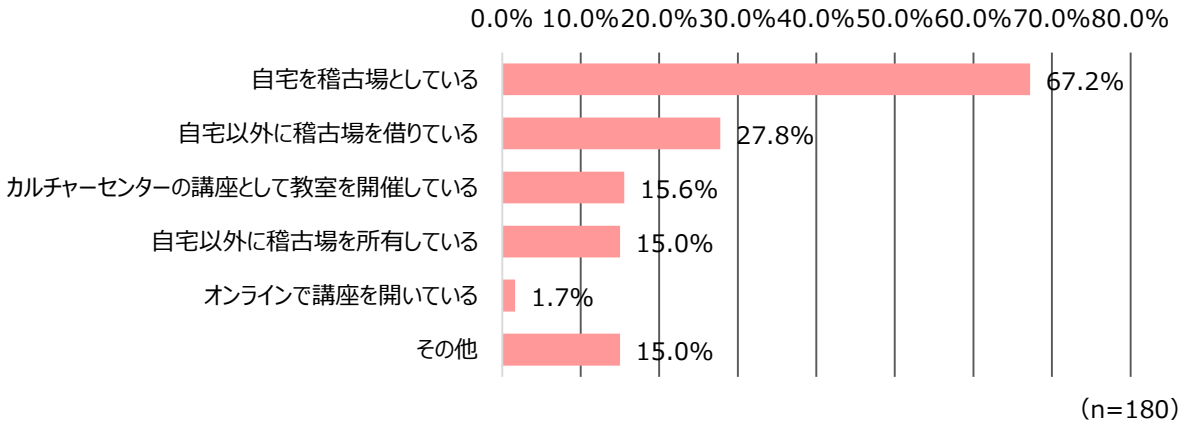


図５　教室の開催場所

②　講師の人数

教室での指導者の人数については、回答のあった 169 教室のうち、108 教室（63.9%）が指導者は１人であると回答しており、２人以上で指導を行っている教室が多くないことがわかる。

なお、個人が運営する教室以外に着付けの指導者育成を専門とし着付け教室の運営サポートなども行う着付け学校からも回答があり、指導者数が最も多い学校では 90 名の指導者が在籍している。

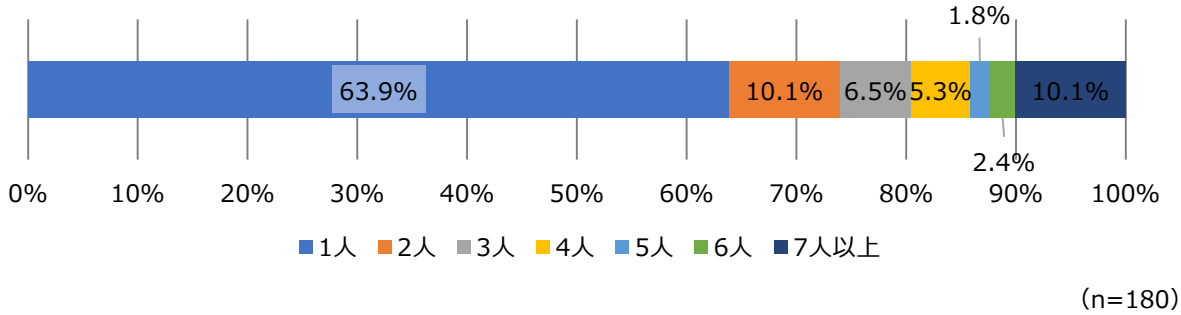


図６　講師の人数

③　講師の属性

教室で指導を行っている者の属性については、全体の 96.6%が着物の着付けに関する免状等を有していることが分かる。「その他」の回答としては、呉服店の経営者や店員、美容師、会社役員等の回答が見られた。

なお、指導者が免状を所有していると回答している中でも、「専業主婦・主夫」（35.1%）や、「パート・アルバイト」（16.1%）を合わせて選択している場合もある。

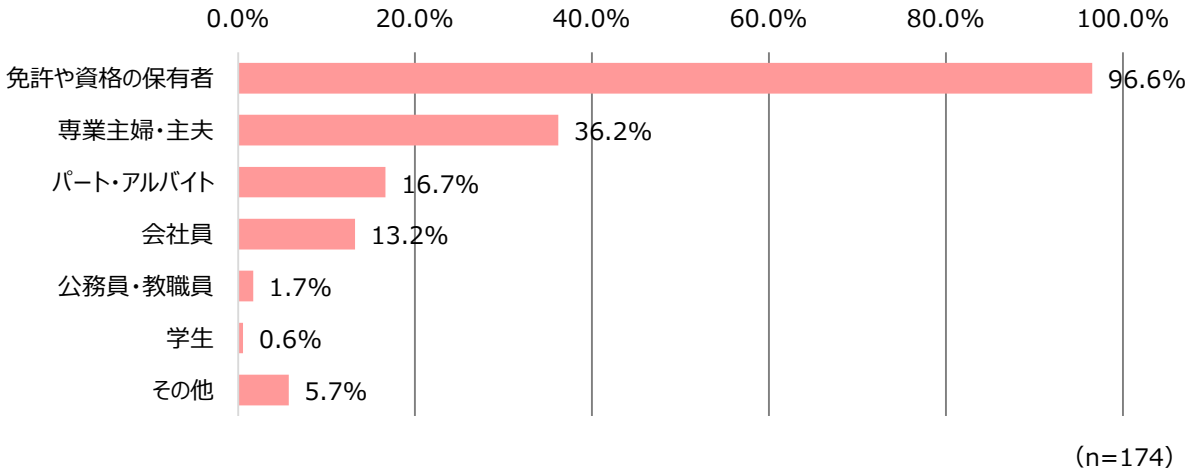


図７　講師の属性

④　教室で指導を受けている生徒の人数

教室で指導を受けている生徒の人数としては、１～９人の回答が 57.1%と最も多く、次いで 10～19 人の 16.0%と続き、生徒数 20 人未満の教室が 73.1%を占めている。

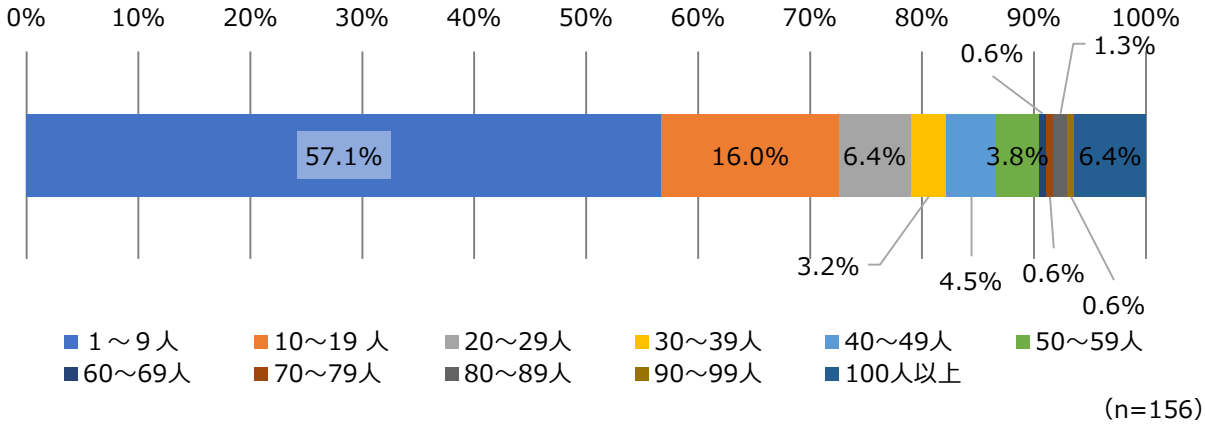


図８　生徒の人数

⑤　教室で指導を受けている生徒の属性（年代）

生徒の年齢で最も多いのは 50 代の 26.4%で、次いで 40 代の 20.0%、60 代の 18.4%、20 代 15.8%と続いており、50 歳以上の生徒が全体の 53.0%を占めている。

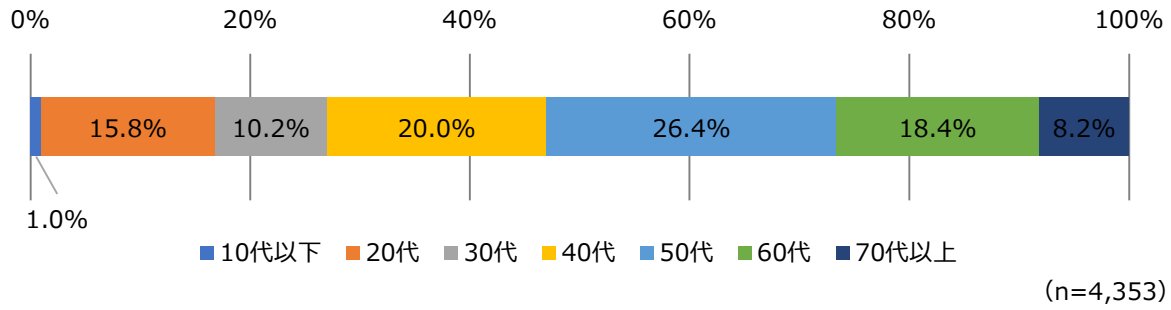


図９　生徒の年代分布

⑥　教室で指導を受けている生徒の属性（性別）

生徒の９割が女性で男性の生徒はほとんどいないことが分かる。なお、性別について回答があった生徒数 5,376 人のうち、男性は８人であった。

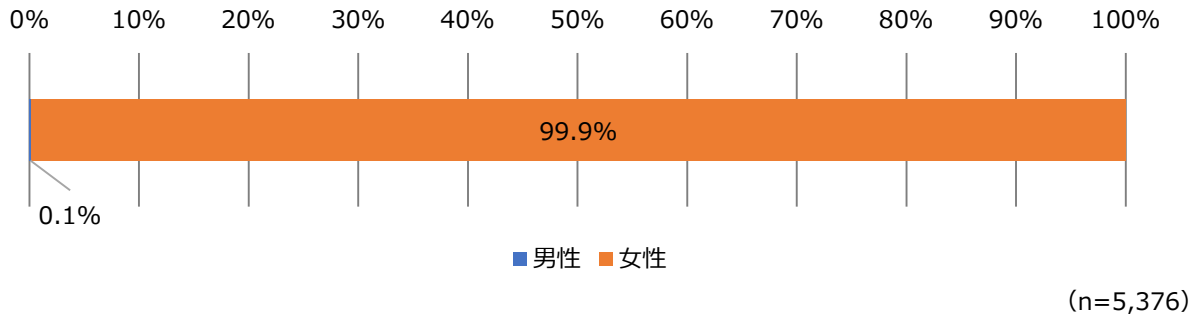


図 10　生徒の性別分布

⑦　教室で指導を受けている生徒の平均受講回数

教室のひと月当たりの平均受講回数は、「１～４回」との回答が全体の 86.7%となっている。

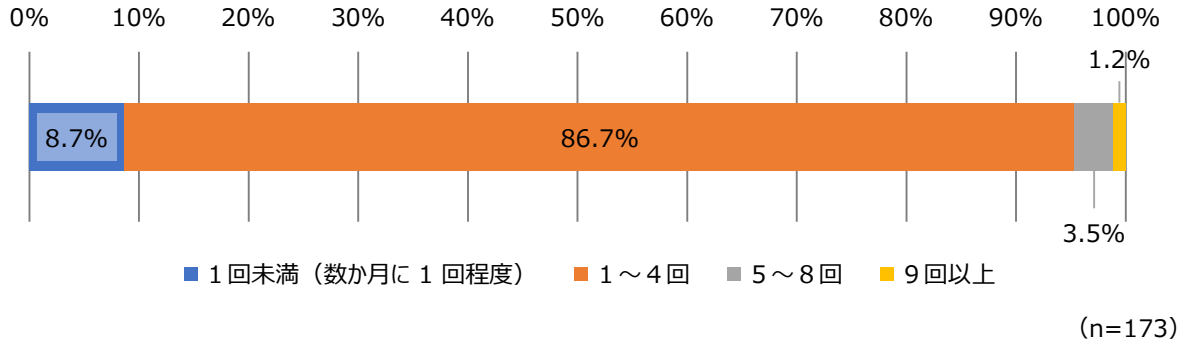


図 11　生徒の平均受講回数

⑧　教室で指導を受けている生徒の平均受講金額

ひと月当たりの平均受講金額は、「5,000　円未満」の 47.7%、「5,000～1 万円未満」の 40.7%と続く。

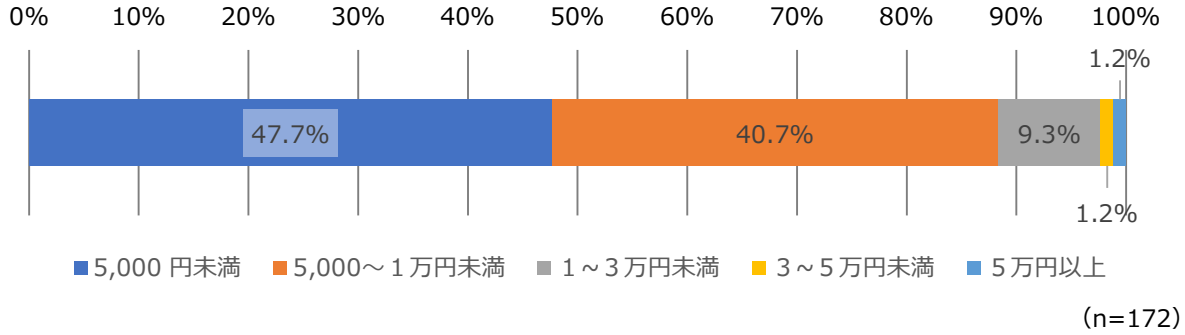


図 12　生徒の平均受講金額

（２）教室での指導について

①　指導内容

教室において指導が行われている内容については、「着物の着方、着付け方」が 180 教室（99.4%）と、ほとんどの教室で指導が行われているほか、「着物や小物の選び方、着こなし方」、「和装での所作、歩き方」、「着物や帯の種類や産地の特徴」、「着物のお手入れ、保管」についても 85%以上の教室が指導を実施していることが確認できる。

「その他」として回答があったものとしては、十二単等の装束の着装や歴史等について教えている例があるほか、襖や障子の開け閉めをはじめとする一般的な礼儀作法、着物や帯の格や合わせ方について指導している例が見受けられる。

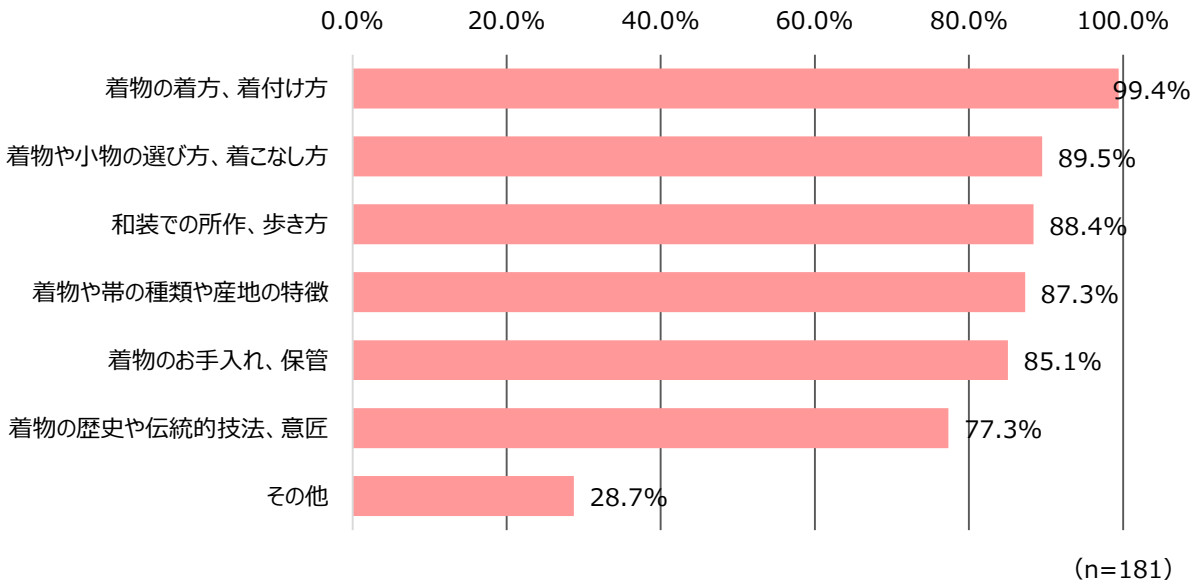


図 13　指導している内容

② 教材等の利用

教材等の利用については、回答のあった 178 教室のうち 163 教室（91.6%）が利用しているとの結果であった。具体的には、教室が所属している団体から発行されている教科書やテキスト、DVD 等の教材を利用している場合をはじめ、教室を主宰する指導者がオリジナルでプリントやテキストを作成している例がある。また、着付けに関する補助具を用いているとの回答も多く見られる。

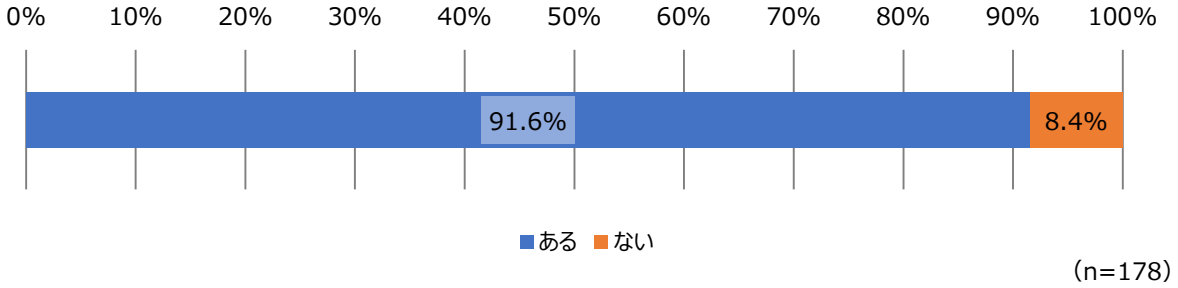


図 14　教材などの利用率

③ 和装の教育や指導の目的

和装の教育や指導の目的についての自由記述を分類したところ、「自ら着付けが出来るようになる」といった目的を掲げる教室が 154 教室（87.0%）と最も多く、次いで「和装をすることを好きになってもらう、楽しんでもらう」の 79 教室（44.6%）、「他者に着付けが出来るようになる」の 66 教室（37.3%）と続く。

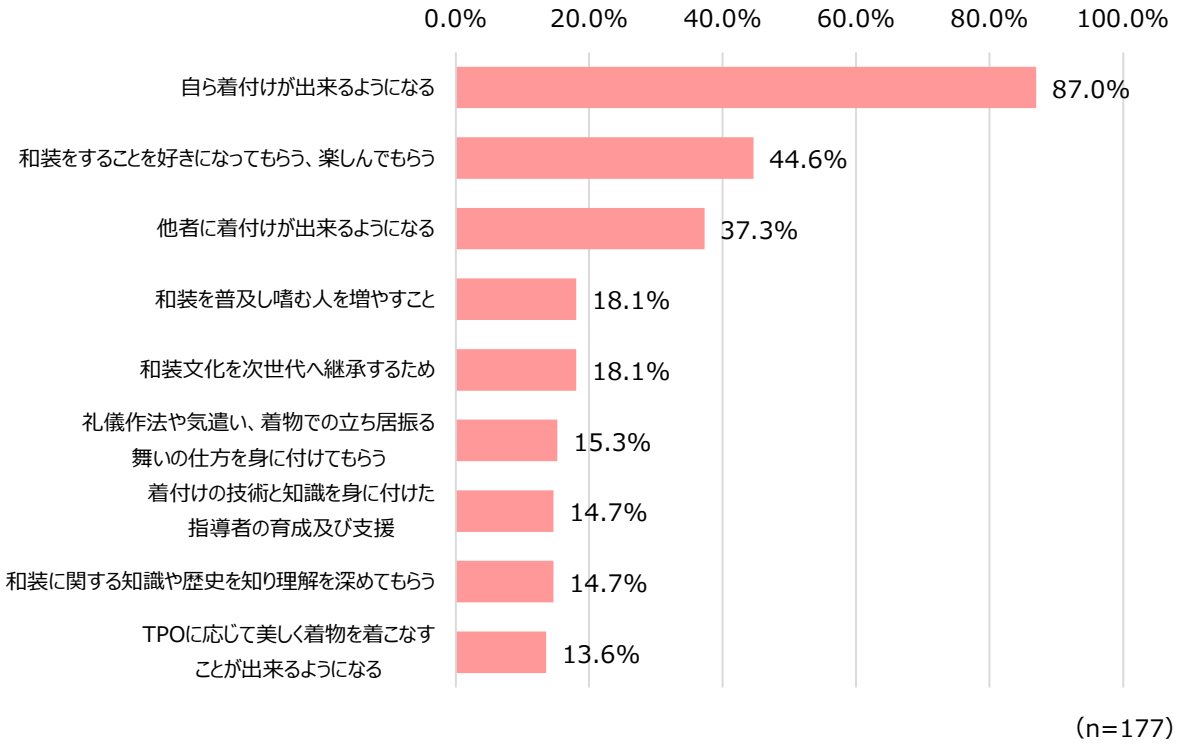


図 15　和装の教育や指導の目的

④　③の目的達成のために実施している教育や指導、工夫している点

上記の目的を達成するための教育や指導、工夫している点の自由記述を分類したところ、回答で多いのは、「受講しやすくするため、受講日程等の調整をしやすくする」と言った主旨の回答が 93 教室（53.8%）と最も回答比率が高く、次いで「復習の機会を設けたり個別指導を実施したりするなど受講者の目標や進捗状況にあわせた指導を行う」の 64 教室（37.0%）となっており、通いやすい教室、受講者や生徒個人個人の状況に応じた指導の工夫が重視されていることが分かる。

また、「着物を着て出かける、イベントに参加するなど、着物を楽しむ企画を実施している」といった主旨の回答が 40 教室（23.1%）からあり、着物を着慣れ、愉しめるような工夫を行っている教室も少なくないことが分かる。

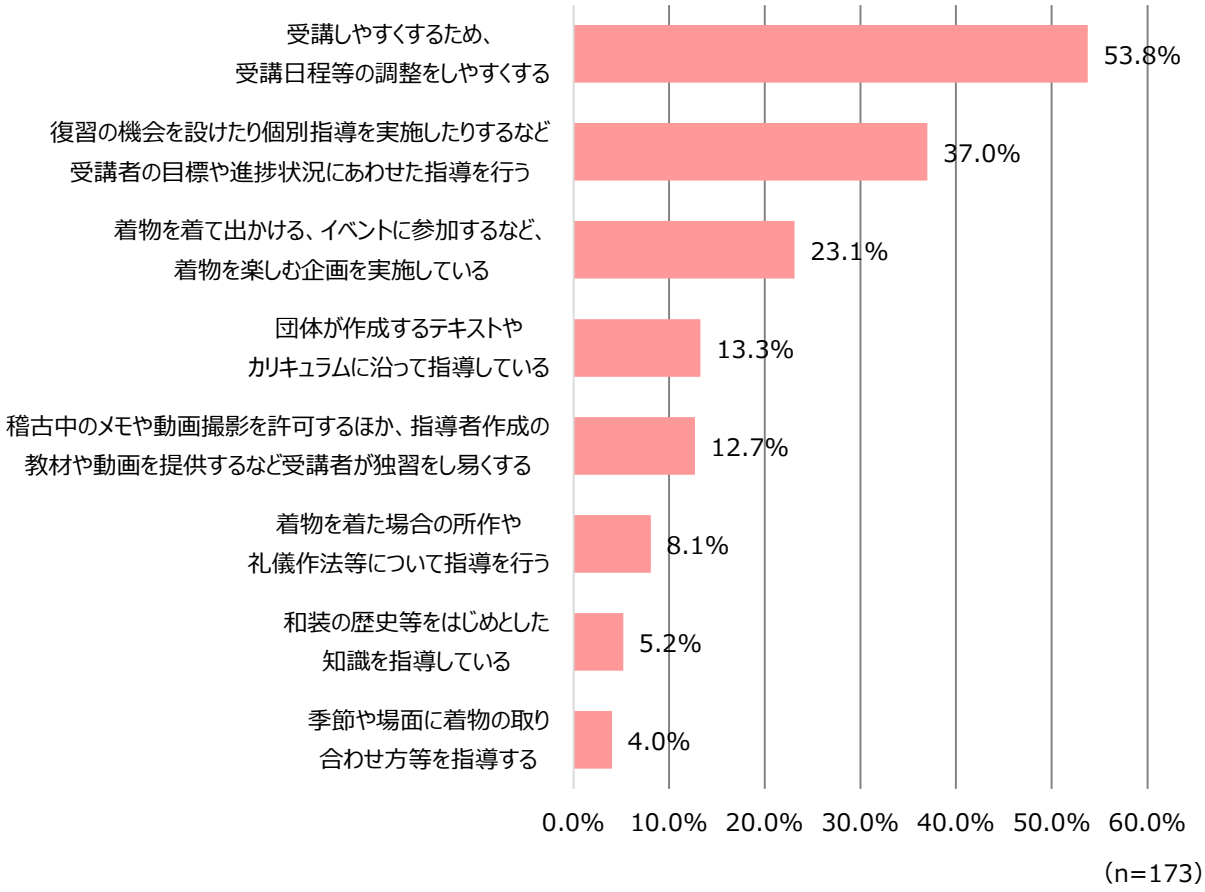


図 16　目的達成のための教育や指導、工夫している点

⑤　④による効果や成果

成果について述べた自由記述を分類したところ、「1 人で着物を着ることが出来る」が 71 教室（44.1%）と最も回答比率が高く、次に「和装の楽しさを知ってもらえる」という主旨の内容が 48 教室（29.8%）、「生活の中で着物を着つける機会が増えた」が 42 教室（26.1%）と続いている。③の指導目的や④の指導内容や工夫と成果の関連性が窺える。

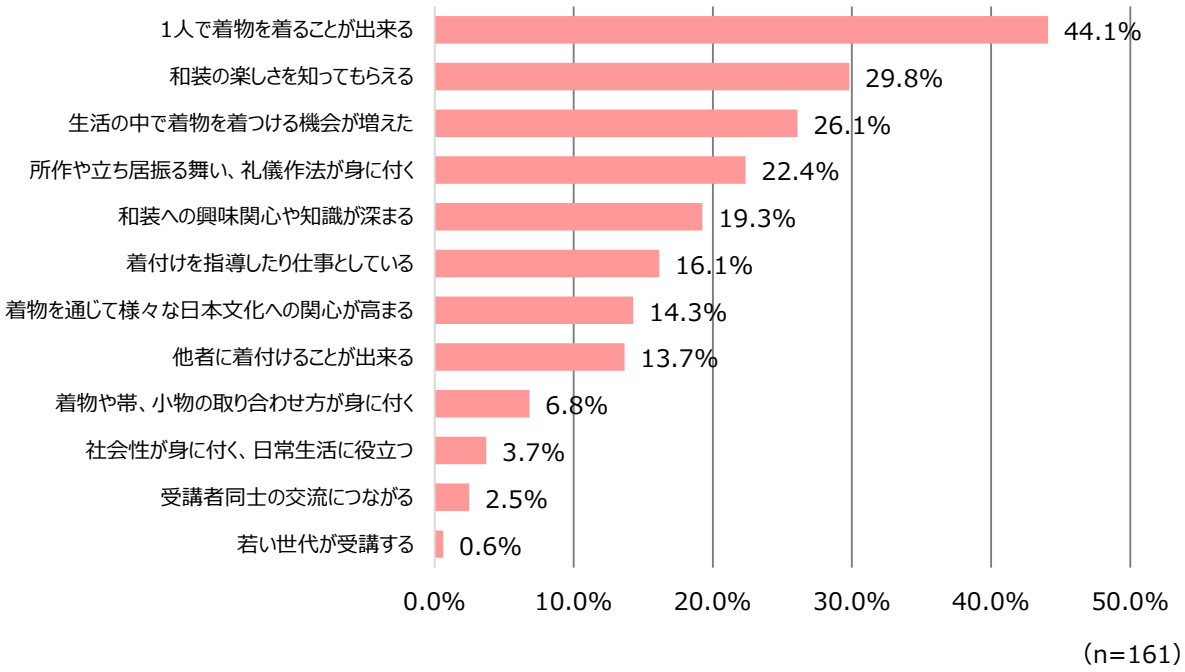


図 17　教育や指導の成果

（３）教室の運営について

①　生徒の募集方法

生徒の募集方法で最も回答が多かったのは、「受講者からの紹介」125 教室（70.2%）で、次いで「所属する和装団体のホームページを利用している」の 111 教室（62.4%）、「教室のホームページを開設している」23 教室（41.6%）と続いている。

「その他」の回答として、知人や友人からの紹介や、指導者自身がイベント等に参加して宣伝をしている、といった募集方法の例も見られる。

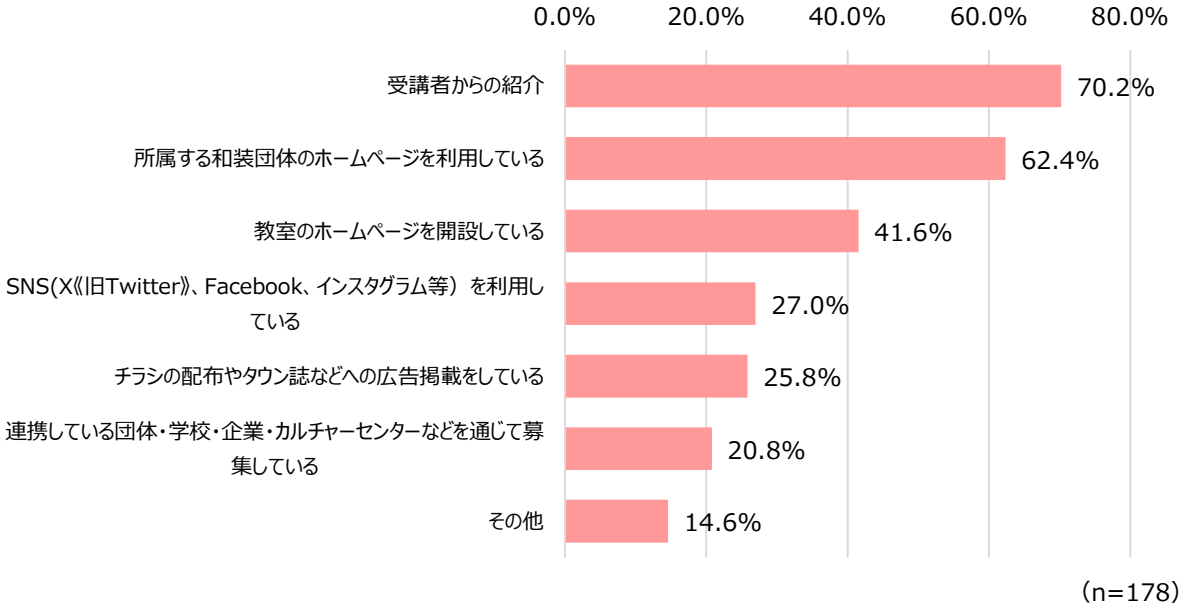


図 18　生徒の募集方法

② 教室見学や体験する機会の提供等

回答のあった 183 教室のうち 129 教室（70.5%）で教室見学や体験機会を提供している。実施している内容としては、入会希望者などを対象として随時見学や体験をさせたり、定期的に体験会を実施したりしているとの回答が多い。また、地域イベントで無料の着付け体験を行っているとの回答も見られる。

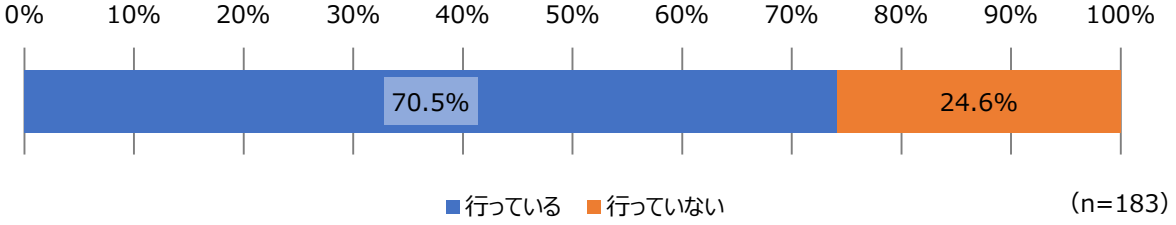


図 19　見学・体験機会の提供比率

③ 教室運営上の課題、解決のために行っている対策

教室運営における課題としては、教室に通う受講者が減少していることや、受講者の募集が難しいことを課題として挙げている教室が多い。これらの課題について、教室によっては、SNS を活用した発信を行っている場合や、チラシや広告の掲載、受講者やイベント参加者への声がけによる勧誘等による受講者募集の取組が行われている。一方、指導者が少ないため、少人数の受講者が望ましいと回答している教室もあり、あえて受講者の募集は行っていない教室もある。

次に、受講者が仕事等の都合で受講できない場合も多くあることから、受講日の調整を柔軟に行うことで、継続的に受講できるように対応している教室も多く見られる。

その他に、教室の取組では課題解決が出来ない事柄について記載されている例もあり、着物に対してのイメージが悪い、着物の着付けは難しいと思われていると言った、着物や着付けへのマイナスイメージについて言及している教室が見られる。

④ 新型コロナウイルス感染症の影響と実施した対策

回答のあった 154 教室のうち、４割強の教室で一定期間、教室の休止措置が取られていたことが回答から確認できる。教室が主催していたイベント等についても併せて中止されていたほか、教室主催者が行っていた式典等での出張着付けなども中止を余儀なくされており、様々な教室活動が停止していたことが見られる。

また、教室活動の休止によって、受講者が辞めてしまうなどの影響も見られ、現在に至っても受講者数がコロナ禍以前に戻らないままであると回答している教室も見られ、中には受講者がすべて辞めてしまい、教室を閉講したままであると回答している教室もある。

着付けなどの指導を行う際の感染症対策としては、マスクの着用、手指の消毒、検温、換気の徹底等の対策を行った上で、開講されていたことが回答から窺える。また、ソーシャルディスタンスの確保を考慮し、指導方法を集団形式からマンツーマン形式に変更したり、一度の稽古で参加できる受講人数を制限するように変更するほか、他装の練習を行う場合にはトルソーを使って他者との

接触を避けるように配慮する等の工夫を行うことで、着付けの稽古を行っていたことが分かる。

（４）教室外との関わりについて

①　教室の外で行う活動内容

教室の外で行う活動としては、回答のあった 170 教室のうち、「所属団体の研修会や講習会への参加」が 135 教室（79.4%）と最も多く、次いで「発表会への参加・見学」の 79 教室（46.5%）、「教室外での講習会の開催（教室が主催・共催するもの）」63 教室（37.1%）、「学校等教育機関への講師派遣」62 教室（36.5%）と続く。

「その他」の回答としては、十二単等の時代衣裳の着付け講座などを地域イベントや中学校等で開催した例や、着付けのコンテストへの出場と言った活動や、教室主催を着物を着装してのランチ会や観劇会等と言った、着物を楽しむための活動も行われている。

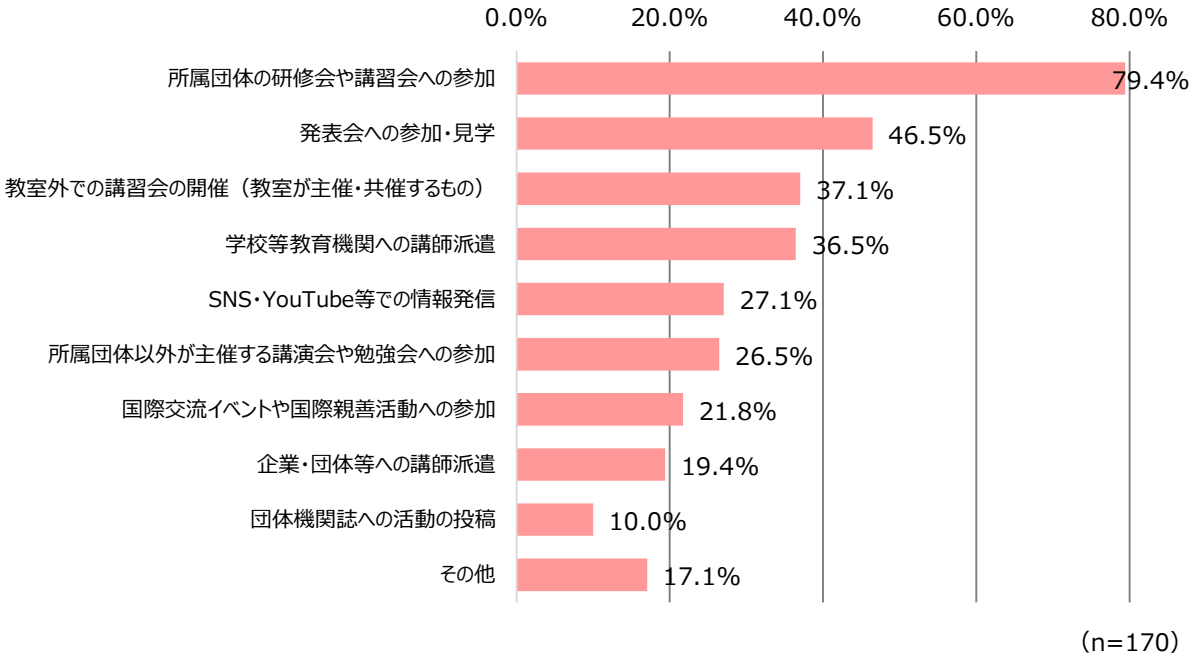


図 20　教室の外で行っている活動内容

②　連携している団体や組織

連携している団体や組織としては、回答のあった 164 教室のうち、「所属している流派の団体、教室」が 124 教室（75.6%）と群を抜いて高い。次いで「和装に関わる企業や店舗」の 49 教室（29.9%）、「学校」の 47 教室（28.7%）、「和装以外の伝統的な生活文化の組織（茶道、華道、書道、煎茶道、香道、礼法など）」が 40 教室（24.4%）と続く。

「その他」の回答としては、NPO 法人や美容院などの回答が見られた。

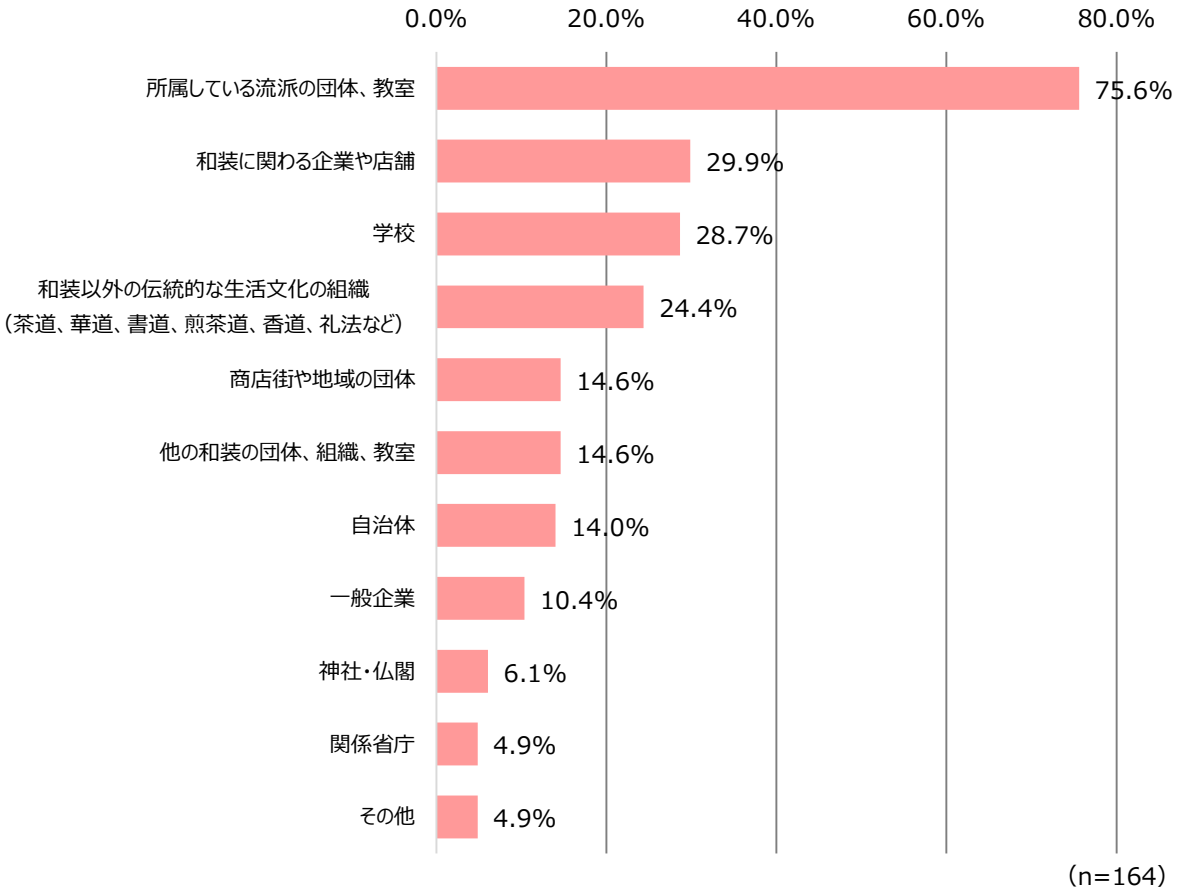


図 21　連携している団体や組織

③　教室所在地の地域コミュニティとの連携

アンケートに回答した 183 教室中、回答に記入のあった 102 教室のうち 68 教室（66.7%）が、何らかの形で連携を図っているとの回答があった。連携の内容としては、自治体等が主催する文化祭等のイベントに参画して着付け協力を行っているといった回答が多く、公民館や生涯学習センターでの着付け講座の開講や、地域の学校において着付けの指導を行っているという例も見られ、主に他者へ着物を着つけることを通じて地域コミュニティとの連携が図られている場合が多い。

２－３　まとめ

教室の活動内容

和装の教室を開いている場所について、自宅を稽古場としているとの回答比率が最も高く、次いで「自宅以外に稽古場を借りている」、「カルチャーセンターの講座として教室を開催している」、「自宅以外に稽古場を所有している」と続いており、また、多くは無いが、複数の場所において教室を開いている場合も確認できる。

次に、教室における指導を行っている者の人数や属性については、一人で指導を行っているとの回答がアンケート回答全体の約６割を占めており、また、指導者の属性として、全体の９割以上が着付けに関する免許や資格を有している。

一方、教室において和装を学ぶ生徒の人数やその属性については、回答のあった教室の約６割が生徒数が 10 人未満であると回答しており、次いで 10～19 人と続き、生徒数が 20 人未満の教室が７割強であった。生徒の年齢層については 50 代以上が５割強を占めているが、20 代や 40 代の生徒の割合も比較的多いことが確認できる。なお、生徒の性別については９割が女性であった。

教室で和装を習う生徒がひと月当たりに受講する平均回数は「１～４回」と回答した教室が９割、受講金額については「5,000 円未満」が約５割、「5,000～1 万円未満」が４割弱となった。

教室の指導内容

指導内容としては、「着物の着方、着付け方」についてはほとんど全ての教室で実施されており、「着物や小物の選び方、着こなし方」、「和装での所作、歩き方」、「着物や帯の種類や産地の特徴」、「着物のお手入れ、保管」についても約８割強の教室で行われている。なお、「着物の歴史や伝統的技法、意匠」の指導については実施している教室が７割強にとどまっている。

次に、指導における教材や用具の使用の有無については、約９割の教室が教材や用具を使用しており、特に教室が所属している団体から発行されている教科書やテキスト、DVD 等の教材を使用して指導が行われている傾向が見られる。

教室における指導の目的としては、「自ら着付けが出来るようになる」といった目的を掲げる教室が約９割と最も多く、次いで「和装をすることを好きになってもらう、楽しんでもらう」の４割強、「他者に着付けが出来るようになる」が約４割と続いており、生徒自身が着物を身に付けることが出来るようにすることが強く意識されているほか、和装自体を楽しんでもらう、また、着付けの技術を学んで他の人に着物を着つけることが出来ようになってもらうことも、目的の一つとなっていることが確認できる。

指導方法や工夫している点としては、「受講しやすくするため、受講日程等の調整をしやすくする」と言った主旨の回答が最も回答比率が高く、次いで「復習の機会を設けたり個別指導を実施したりするなど受講者の目標や進捗状況にあわせた指導を行う」と続き、通いやすい教室、受講者や生徒個人個人の状況に応じた指導の工夫が重視されていることに加え、着物を楽しむための工夫等も行われていることが確認できる。

教育や指導の成果として最も多く挙がっていたのは、「１人で着物を着ることが出来る」との主旨の回答が最も回答比率が高く、次に「和装の楽しさを知ってもらえる」、「生活の中で着物を着つける機会が増えた」と続いており、指導の目的や指導内容、工夫等が成果・結果として結びついていることが推察される。

教室の運営

生徒の募集方法については、「受講者からの紹介」が最も回答比率が高く、次いで「所属する和装団体のホームページを利用している」、「教室のホームページを開設している」が続いており、受講者からの紹介による生徒の募集とともに、所属している和装団体が運営するホームページ上に掲載される教室案内も、生徒の募集方法として活用されている実態が窺える。また、回答のあった教室の８割は、教室見学や体験機会を提供している。

教室の運営上の課題としては、受講者の減少や、受講者の募集が難しいことを課題として挙げている教室が多い傾向にある。これの課題への対応として、SNS やチラシによる広報、イベント参加者への勧誘等の取組が実施されている例が多い。また、受講者の受講日時の調整を柔軟に行うようにすることで、現在受講している者が継続的に受講できるような工夫をしている教室も多く見られる。

新型コロナウイルス感染症の影響については、４割強の教室が休止措置を取っていたことや、教室が主催するイベント等についても中止されるなど、教室活動が著しく停滞していたことが確認できる。また、教室に所属していた受講者が辞めてしまうといった事態にもなっており、場合によっては現在も教室活動を停止している例もあることから、影響の大きさがうかがえる。なお、指導を行う際の対策としては、マスクの着用や手指の消毒、換気の徹底を図りつつ、ソーシャルディスタンスを確保するために受講者数の制限を行ったり、マンツーマン形式による指導に切り替えるなどの取組がなされていたことが確認できる。

教室外の活動については、「所属している流派の団体、教室」との回答比率が最も高く、次に「発表会への参加・見学」、「教室外での講習会の開催（教室が主催・共催するもの）」、「学校教育機関への講師派遣」と続く。また、教室外での連携については、約８割の教室で所属団体との連携が図られているほか、約３割の教室は、和装に係る企業・店舗であったり、学校との連携を図っている。教室所在地の地域コミュニティとの連携状況については、全体の約７割が連携を行っており、自治体等が行うイベントに参画し、着付け協力等を行っているほか、公民館等の公共施設において着付けの講座を開設している例も確認できる。

結　本調査研究事業のまとめ

１．和装において継承されてきたこと

和装とは、明治時代以降に洋服・洋装が普及する中、従来の日本の着物が「和服」「和装」と呼ばれるようになったものであり、着物を着装すること、又は着物を着装した姿を示す言葉として用いられている。また、「着る物」という広い意味で使われていた「着物」という呼称も、長着を中心とした和服を指すものとして定着し、今日に至っている。

現在の和装は、反物を直線裁ちし仕立てられた前開きの長着と帯、そして下着や小物等を用いて着付けるもので、男性の場合、礼装の折には羽織と袴を身に付け、女性の場合も羽織を身に付ける場合や袴を着装する場合もある。帯は、着装者の体格や体形に応じて長着の身幅や身丈を調節しつつ固定する役割があり、とりわけ女性が和装する際に身に付ける帯は、帯自体のデザインに加えて結び方を変え、長着のデザインとの取り合わせ方を工夫することによって、季節感や装飾性を表現できるものとなっている。

従来、多くの人々は普段から和装をして生活を営んでいた。しかし、明治時代以降、洋服・洋装が日本に導入され次第に普及していき、昭和 40 年代以降には洋服・洋装の安定的な供給がされるようになった結果、日常的に和装をすることが少なくなっていった。その一方で、和装は冠婚葬祭等に参加する際の正装、いわゆる「晴れ着」として次第に特別な機会に身に付けられる衣服という位置付けへと次第に変化していき、そのような変化にあわせて長着や帯といったものも礼装や準礼装として着装される正絹等を用いた高級なものの生産と供給に重点が置かれるようになった。しかし、冠婚葬祭においても洋服・洋装を着装することが多くなった近年においては、和装の市場規模そのものが縮小する結果となっている。

また、日常生活において多くの人が和装をすることから遠ざかってしまったことにより、和装の需要減少のみならず、従来、家庭内あるいは地域共同体において伝えられてきた、着物や帯、袴等の着方・付け方や取り合わせ、時処位に応じた着物や帯、袴等の選び方、着物や帯の手入れの仕方や保管の方法等を伝える機会も次第に減少していく結果となった。そのような事情が背景となって、着付け方や和装に係る知識等を総合的に習い身に付けるための場、いわゆる「着付け教室」が成立した。着付け教室は、受講者自らが着物を身に付けるための方法や知識を学ぶ機会を提供するとともに、他者への着物の着付けを専門とする人材の育成を行う場として機能しており、結果として和装、特に着付けの方法や知識等の継承と普及が図られている。

２．和装に係る用具等の継承について

着物を着装する場合、長着や帯、肌襦袢や長襦袢、裾除けのような下着類、羽織等の上着や足袋等の様々な用具が用いられており、今回の調査においては、主に統計調査及び調査会社による市場調査及び和装関連の関係団体や関係者へのヒアリングによって、各市場の現状、流通状況、生産状況等の概要について把握を行った。

まず、和装産業全体の市場状況としては、前述の通り正絹の高価な着物や帯の需要が高まった高

度経済成長期を境に市場規模は拡大し、バブル経済期にはさらに高級路線が進んだことから、市場は推計 1.8 兆円規模にまで拡大したとされる。しかし、平成に入ると市場規模の縮小が始まり、令和３年の推計は 2,110 億円と大幅に縮小していったことが調査会社による調査結果から窺い知ることが出来る。

次に、和装に係る用具の流通構造については、和装の用具を製造する業者から生産地にあるメーカーや呉服製造業者に納入され、前売り問屋や呉服卸業者などの卸売業者がメーカ等から買い、卸売業者から小売店がそれらを仕入れ、商品が店頭に並び消費者の手に届く、という複雑な構造となっている。和装の用具は、企業や問屋を介して流通しているが、和装の文化を支える根本にあるのが、それぞれの用具製造や原材料の生産に携わる人たちである。

まず、正絹の原材料である生糸については、既に国外からの輸入品が大半を占めている状況で、生糸の国内生産及び養蚕農家の件数は大きく減少している状況にあり、加えて、それら生糸や絹糸等の原材料を用いて製造される絹織物等についても、後染め・先染め共に各生産地における出荷量は減少している。これらの状況は、団体アンケートの回答内容からも窺え、和装用具の需要の低下は生産地の疲弊を招くとともに、和装用具の製造に係る職人の高齢化や後継者の不足、閉業等へとつながっている点が指摘されている。

着物や帯だけではなく、和装小物の製造に関しても、和装需要の減少が大きく影響しており、特に和装草履と呼ばれる草履の製造については、草履の台や台を覆う素材、鼻緒などの素材を製造する企業が衰退傾向にある点や、下駄や足袋についても製造過程において伝統的な技術を持った職人を要する場合があり、伝統的な技法が衰退している点等がヒアリングから窺い知ることが出来る。

また、用具の製造だけではなく、国内では着物を仕立てる和裁を専門とする者についても非常に減少しており、製造費用のコストダウン等を理由に国外への仕立て・縫製の委託が進んだことで国内の仕事が減少し、その結果、和裁を学ぶ人の減少へと繋がっていったことがヒアリング調査を通じて明らかとなっている。

以上のように、和装に係る用具等の製造については、各用具の製造に関して伝統的な技術を有する者の手が必要となる場合が多いが、和装需要の低下によってそれら伝統的な技術を学び継承する者は減少しており、それに伴い職人の高齢化も進んでいる状況にある。団体へのアンケート調査においては、前述のような状況認識に基づき、後継者の育成を課題として掲げているものの、和装需要の低下によって売上が低下している現状においては、後継者育成に係る事業等を企業独自で立ち上げることは難しい状況にあることが回答されている。ヒアリングからも後継者育成の難しさが指摘されているが、新しい製造体制の構築等の取組も行われている状況にある。

３．アンケート結果から見た今後の団体・教室活動の方向性と課題

国民意識調査の結果からは、着物を着装したことが無いという人が回答者２万人の約半数を占めているとともに、着物を自分自身で着装できる人が全体の 11%、残りは自分で着装はできないが何らかの機会において着物を着装した経験を持つ者であり、「着物離れ」と呼ばれる現況を端的に示す結果となっている。

まず、着物を自ら着装できる者については、親や兄弟姉妹等が着物を自分で着ていたことや、自

分が行っている趣味や習い事と和装が関係していたことが、和装を習うきっかけとなっており、特に親族が着物を着ていると回答している者が回答者約 2,100 人のうち、４割を占めていること、また、趣味や習い事の関係で和装を習うようになった者も２割を占めており、回答者自身が和装に触れる機会がごく身近にあったことが分かる。

一方、自分で着装はできないが着物を着たことがある者が、和装をしたきっかけとしては、冠婚葬祭や年中行事の参加をきっかけとしている場合が最も回答比率が高く、次に、親や兄弟姉妹等が着物を自分で着ていたことがきっかけとなっている。また、実際に和装をした場や機会については、冠婚葬祭における着装との回答が突出して高く、冠婚葬祭への参加が和装を体験する機会となっていることが分かる。しかし、和装を体験したことがある者に和装を習っていない理由を確認したところ、半数以上が和装について興味がなかったことが理由として最も大きいことから、和装をする機会を得ても、和装への関心そのものを高めるようなきっかけが必要となることが分かる。その一方で、習いやすい場所や時間、金銭面等の問題など、習う環境や習う事への不安から習うまでに至らなかったと回答している者が６割を占めていることから、和装を習うことへの様々な情報提供や環境等が整えば、和装を習いたいと考えている者が一定数存在していることがアンケート結果から確認できる。また、和装を習いやすい状況についての設問では、手ごろな費用、通いやすい場所、着物をはじめとする道具等が借りられる、身近な人から習える、の順で回答比率が高く、手ごろな費用と通いやす場所についてはともに回答比率は３割を越え、和装を習いたい者が重視する条件となっていることが分かる。この他、和装に対する印象やイメージとして回答比率が高かったのは、着物を着ていく場面がないという印象で、着物は場面や機会に応じて着ていくイメージを抱ている者が多くいることが分かるほか、着物をそろえるとお金がかかる、動きにくく着崩れる、といったイメージも持たれており、このよなイメージを解消していくことで、和装への興味関心を高められる可能性があると考えられる。

和装を経験したことが無い者については、和装をしたことが無い理由について、回答者自身の趣味と合わない、和装に興味がないとの回答が７割近くを占めており、加えて、そもそも和装を知らなかったという回答も一定数確認できる。また、これまでに和装を体験したことが無い者の中でも、２割強は和装を体験できる場所や内容を知らないなどと回答していることから、和装の体験に対して一定程度の関心がある者もおり、体験する機会をより広く周知するような取組が必要になっている。

和装に係る団体を対象としたアンケートの調査結果からは、一般向けに着付け体験や教室等の事業をはじめとして、学校への講師派遣や、和装用具の製造に係る伝統的な技術を持つ者の育成、資料館等における展示や講演会等、各団体がそれぞれの立場から多岐に亘って和装の振興や普及に資する活動を行っている。また、団体会員向けの和装の着付け等に関する研修会の開催や、和装に係る用具を生産している現場との交流を実施する等、和装に関する知見を深めるような取組を行うとともに、和装に係る知識や着付け、製造に係る技術の継承に資する取組も併せて実施している。

これらのような取組を行う背景としては、各団体が認識している共通の課題があり、それは和装をする者、和装を愛好する者の減少によって生じている、和装用具そのものの需要の低下である。

日常的な衣服ではなく、冠婚葬祭に参加する折に着装するイメージもあり、普段から和装をする者、また自分で着物を身に付けることが出来る者そのものが少ない状況にあるため、着物や帯、袴や小物類といった和装用具の需要自体も低下している。その結果、和装の文化を支えてきた業界に携わる者、例えば和装の用具を製造する伝統的な技術を有する者や、着付け教室などを開き着付け方や知識、和装の魅力を発信する指導者たちの次の世代の人材育成が出来ずにいる状態であり、現役の指導者も高齢化が進み、中には引退せざるを得ない場合も多い状態に陥っている。このため、各団体においては、次の世代へ和装の文化継承を図ることを目的として、和装の愛好者を増やし和装需要そのものを増やしていくために、和装の着付け体験や着付け教室等を展開するなど、和装の体験機会をできる限り提供するとともに、和装の着付けに係る指導者や製造技術を有する者の後継者育成に係る各種事業に取り組んでいる。

和装の教室を対象としたアンケート調査の結果からは、自宅を稽古場とし、指導者１名で指導及び運営が行われている教室が大半であることが分かる。教室で実施されている指導内容については、着物の着方や着付け方は勿論のこと、着物自体の選び方や着こなし方、手入れの仕方等にがほとんどの教室で取り扱われており、これらを通じて、受講者自身が自ら着物を着装できるようになることは勿論のこと、和装をすることを楽しいと思ってもらうことや、他の人へ着物の着付けが出来るようなってもらうといった点を目的として、指導が行われている。また、受講者が継続的に和装を学びやすいような環境づくりへの工夫が行われており、受講日時の調整や受講者にあわせた指導等の配慮を行っている教室が多い。そのような工夫もあり、一人で着物を着装できるようになるほか、和装を楽しみ、生活の中で和装をする機会が増えるといった結果へとつながっていることがアンケート結果から見て取れる。

一方で、様々な工夫を行いながら和装の着付けや楽しみ方について提供している各教室においても、受講者数が減少傾向にあり、その募集に苦心している場合が多い。アンケート回答には、和装自体への関心の低下を指摘する声も多く見られた。これら教室の多くは、受講者からの紹介や、上部組織にあたる和装団体のホームページ等を活用して受講者の募集を行ったり、見学や体験機会を設ける等の工夫を続けて課題解決に取り組んでいる。

以上のように、和装に係る団体、そして和装の教室に関する共通の課題としては、和装をする者や愛好者を増やすために、どのように和装の魅力やイメージを発信するか、という点がある。団体や教室においては、様々な方法で和装の魅力などを伝える取組が行われており、和装を知る機会、また、体験する機会自体は身近なところで行われていることがアンケート回答から見て取れるものの、国民意識調査の結果からも分かるように、和装をしたことが無い者の２割強は体験できる場所や内容を知らなかったと回答していることから、従来から行われている取組を、いかに周知するかが大きな課題となっていることが推察される。

４．和装を次世代に継承するために

和装は、本来的には日常的な衣服として多くの人に親しまれてきたが、洋服・洋装の普及や価値観の変化に伴い、現在は冠婚葬祭や年中行事といった限られた機会において着装する衣服となっている傾向が強い。今回行った調査からは、現在、和装の次世代への継承に資する取組や日本文化としての和装の国際発信に関する取組を、和装に係る原材料や用具の生産・販売に係る団体をはじめ、着付け指導者の育成や着付け教室を運営する団体等が、組織的に連携を図りながら実施していることが分かった。

従来、着物や帯、袴等を着装する方法や場面・季節などに応じた取り合わせ方、仕立て方や保管の方法といった、着物を着装するための様々な技術や知識の多くは、家族や地域等の生活の営みの中で伝えられてきた。現在においても、家族・親類が着物を着ていたことで和装を習うきっかけを得た者が決して少なくない。また、自ら着装できる者の４割ほどは、家族や友人から着方等を教えてもらったことが確認できる。一方で、自装できる者の３割程度は着付け教室に通って和装を習ったと回答していることや、着付け教室が、受講者に対して自ら着物が着装できるように指導を行うとともに、和装をすることの楽しさや和装する機会等の創出なども行っていることから、今日においては、着付け指導をする資格を有する者によって開かれている着付け教室が、和装の仕方や知識を一般の人々に伝える場として一定の役割を果たすようになっていると言って差し支えないだろう。

着物や帯等の和装に係る様々な用具については、各用具を専門的に扱う職人等によって、製造のための技術や知識、製造を行うための道具類などの継承が行われてきた。しかし、和装需要の低下に伴って、後継者育成が難しい状態にあり、高齢化が進行しているため、和装の用具製造に係る団体が、用具製造の技術を体験出来る機会を設けるほか、研修会開催等の後継者育成につながる取組や支援を実施するなどして、伝統的な技術の継承を図っている。

上記のような取組が和装に係る団体の主導によって行われている背景には、和装する者または和装を愛好する者が減少していること、また冠婚葬祭等の機会においても和装をすることが少なくなったこと、そしてそれらの要因によって和装及び和装に係る用具の需要が減少していることが、アンケート調査等から明らかとなった。前述したとおり、和装に係る団体は、和装の体験機会や着付け教室の展開等を実施するなど、一般の人に興味関心を持ってもらうためのさまざまな体験機会や広報発信に取り組んでいる。しかしながら、それらの取組自体が知られていない可能性が国民意識調査の回答からは窺え、取組の周知の仕方にさらなる工夫が必要となることが考えられる。

その上で、現在の和装を取り巻く状況を踏まえれば、和装に係る団体や教室等が取り組む振興や普及に資すると考えられる事業について、どのような支援が可能か検討していく必要があると考えられる。また、和装の継承については、和装をすること、つまり着物を取り合わせて着付ける方法もしくは技法と言った側面について、他方、和装の用具製造に係る伝統的な技術の実態等についても、別途調査を進める必要があると考える。

前者、和装の着付け方等については、本来的には衣服の身に付け方・方法であり、誰もが覚え修得することが可能なものである。しかし、現状において、着付け教室で指導する者達は一定の着付けに係る技法―自装・他装を問わず、着物を美しく整えて着装する技法―を身に付けているものと想定されるが、その点については本調査では実態を明らかに出来ていない。前述した、着付けに関

する技能や着付士と言った着付けを専門とする者が、どのような着付けの方法、また技法を有しているのか等について調査を行った上で、振興や保護と言った支援の在り方を検討をする必要がある。

後者、和装の用具製造に係る伝統的な技術の実態については、既存の調査研究等をさらに渉猟し、現状を踏まえた上で、技術を継承するにあたっての阻害要因の把握や、現状を踏まえた支援策の在り方について検討する必要もある。

和装は、日本の伝統的な衣服の在り方の一つの形であり、伝統的な生活文化である。和装を次世代に継承していくには、これまで以上に、和装に対する一般の人々のイメージの向上や、実施されている体験機会のさらなる周知を図っていく必要があり、団体の自主的な活動を注視しながら、国や地方公共団体においても和装に関する活動への適時適切な支援の在り方について検討を図っていくことが重要である。

参考資料　有識者(和装)及び有識者会議検討経過

１．有識者

本調査研究事業は、和装に関する豊富な識見を有する者を有識者(和装)として委嘱し、調査研究及び報告書に対して助言等をいただいた。(令和３・４年は「文化創造アナリスト（和装)」として委嘱)

【名簿】　※50 音順、敬称略、令和 6 年 1 月 31 日現在

村田　裕子　　大阪大谷大学　文学部歴史文化学科　准教授

吉田　満梨　　神戸大学大学院　経営学研究科　准教授

２．有識者会議経過

令和３年度

第１回

●開催日・開催方法

令和３年 12 月 13 日　リモート会議

●主な内容

・「生活文化調査研究事業(和装)」の概要について

・現時点における各項目の調査内容について

・今後の予定について

第２回

●開催日・開催方法

令和４年２月４日　リモート会議

●主な内容

・「生活文化調査研究事業(和装)」報告書(素案)の検討について

・今後の予定について

令和４年度

第１回

●開催日・開催方法

令和４年８月 17 日　リモート会議

●主な内容

・「生活文化調査研究事業(和装)」の概要について

・ウェブ調査の設問案について

・今後の予定について

第２回

●開催日・開催方法

令和４年 11 月 21 日　リモート会議

●主な内容

・ウェブ調査結果について

・報告書修正案について

・今後の予定について

第３回

●開催日・開催方法

令和５年１月 27 日　リモート会議

●主な内容

・令和４年度「生活文化調査研究事業」報告書案について

令和５年度

第１回

●開催日・開催方法

令和５年 10 月５日　リモート会議

●主な内容

・団体及び教室アンケート案について

・アンケート送付方法及び送付先について

・用具及び原材料についての調査状況について

・今後のスケジュールについて

第２回

●開催日・開催方法

令和６年１月 17 日　リモート会議

●主な内容

・アンケート調査実施状況について

・用具及び原材料調査　原稿案について

・報告書構成案について

・今後のスケジュールについて

第３回

●開催日・開催方法

令和６年２月８日　リモート会議

●主な内容

・「令和５年度生活文化調査研究事業（和装)」報告書（案）検討について

３．受託事業者

本調査研究事業は株式会社文化科学研究所が受託事業者として以下の業務を行った。

・和装の原材料・用具に関する文献等の調査、ヒアリング等

・和装団体及び和装教室アンケートの作成、発送、集計、分析

・有識者会議等の調整、運営などの業務

参考資料　和装の用具について

（１）概要

和装の主な用具として、下記のものが挙げられる。多くは着物の小売店（呉服店）で販売されるが、着付け補助具については、着付け教室が独自の補助具を開発、教室経由で販売されているケースもある[1]。

＜和装の主な用具＞

名称	概要
長着、帯	長着（着物）や帯の概要は１章１節のとおりである。なお、上下が分かれている「二部式」の長着や、帯に帯結びの形状があらかじめ作られ、簡便に装着できる「作り帯」と呼ばれるものもある。
下着	汚れ防止や保温のために着る上半身用の肌着である肌襦袢、長襦袢の汚れ防止や裾捌きをよくするために腰に巻き付けて着用する裾除け、肌着と着物の間に着る長襦袢がある。また、「スリップ」と呼ばれ、肌襦袢と裾除けが一体となったものがあるほか、胸のふくらみを目立たなくさせる和装ブラジャーもある。
小物	女性の場合、長襦袢や着物の上に締めて襟元を整える伊達締め、おはしょりを作ったり着崩れを防止したりするために結ぶ腰紐、お太鼓の形を整える帯枕、胴回りの皺を抑えて帯の前姿を整える帯板、帯枕を隠し帯結びの形を整える帯揚げ、帯結びが崩れないように帯の上から締める帯締め、汚れ防止のために長襦袢に付けファッション性も高める半衿、半衿と着物の衿の間に挟む伊達衿等がある。 外出時には和装バッグ、袋物を持つ。装飾品として、髪には簪（かんざし）、髪飾り等がある。帯締めには帯留を用いることもある。
上着	羽織やコート（道行）を着用する。雨天時のための雨コートもある。
足袋	和装の際に足に直接履くもので、素材は正絹や綿、麻、化繊等がある。
履物	草履、下駄を着用する。雨天時用として、歯が高めで爪先をカバーできる雨下駄もある。
着付け補助具	着付けを簡便にするための補助具として、コーリンベルト、補正パッド、衿や帯の仮止めには着物クリップ等も用いられる。

1 大原和服専門学園へのヒアリングによる。

（２）市場の現況

業界へのヒアリング[2]によれば、和装用具の市場は第二次世界大戦後急激に洋装化が進む中、礼装（第一礼装）や準礼装を中心とした正絹製品を中心としたものへと移行した。小売・卸売業界では、綿や麻などの普段着の製品を取り扱っていたいわゆる太物（ふともの）商が減少し、絹製品を取り扱う呉服商が中心となり、消費者は次第に小売店が仕立てた完成品を購入するようになった。

正絹の高額な製品を中心に和装用具の市場が拡大した理由としては、高度経済成長に伴い、一般消費者が高額商品を買えるようになったことが挙げられる。例えば、島津藩の上納品であった歴史を持ち、戦前に高級品として人気を誇っていた大島紬は、どの家の箪笥にも一枚はあると言われるほどに普及した[3]。さらに、1980年代後半のバブル経済期に高級化路線が進み、ピーク時には1.8兆円程度の市場規模があったともされる[4]。しかし、平成に入るとすぐに縮小が始まり、矢野経済研究所の推計[5]によれば、令和３年（2021）の和装用具市場の規模は2,110億円と、大幅に減少している。

国民意識調査の結果を見ると（P.19 参照）、「着付けたことがある人」が 11.0%、「人に着付けてもらって着たことがある人」が 36.2%と、和装の体験機会がそれほど多くないことが推測される。また、体験したことがある人でも、成人式や結婚式などの冠婚葬祭に限られることが浮き彫りになった。こうした傾向からも、和装離れが平成以降の和装用具市場の急激な減少に反映しているものと考えられる。

■規模

矢野経済研究所の推計[6]によれば、和装用具の小売市場の規模（レンタルを除く）は、平成 20 年（2008）の4,065億円から、令和３年（2021）には2,110億円まで減少している（図１参照）。この金額にはリサイクル市場の 280 億円が含まれているため、新規に販売された和装用具に限定すると、推計1,849億円となる（図２参照）。

2 信用交換所京都本社へのヒアリングによる。
3 松井敦史『誰が和装産地を殺すのか　パート４』Kyo Wave 2019年Spring　P.７-15　(株)信用交換所京都本社を参照した。
4 松井敦史『きものの未来　「平成きもの産業の回顧と失敗」』Kyo Wave 2020年Spring P.７-15　(株)信用交換所京都本社、経済産業省和装振興協議会『和装の持続的発展のための商慣行のあり方について』（URL:https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/waso_kyogikai/pdf/007_s01_00.pdf　最終確認日：令和６年２月 15 日）を参照した。
5 株式会社 矢野経済研究所『2022年版 きもの産業年鑑』(令和４年５月)を参照した。
6 株式会社 矢野経済研究所『2022年版 きもの産業年鑑』(令和４年５月)を参照した。

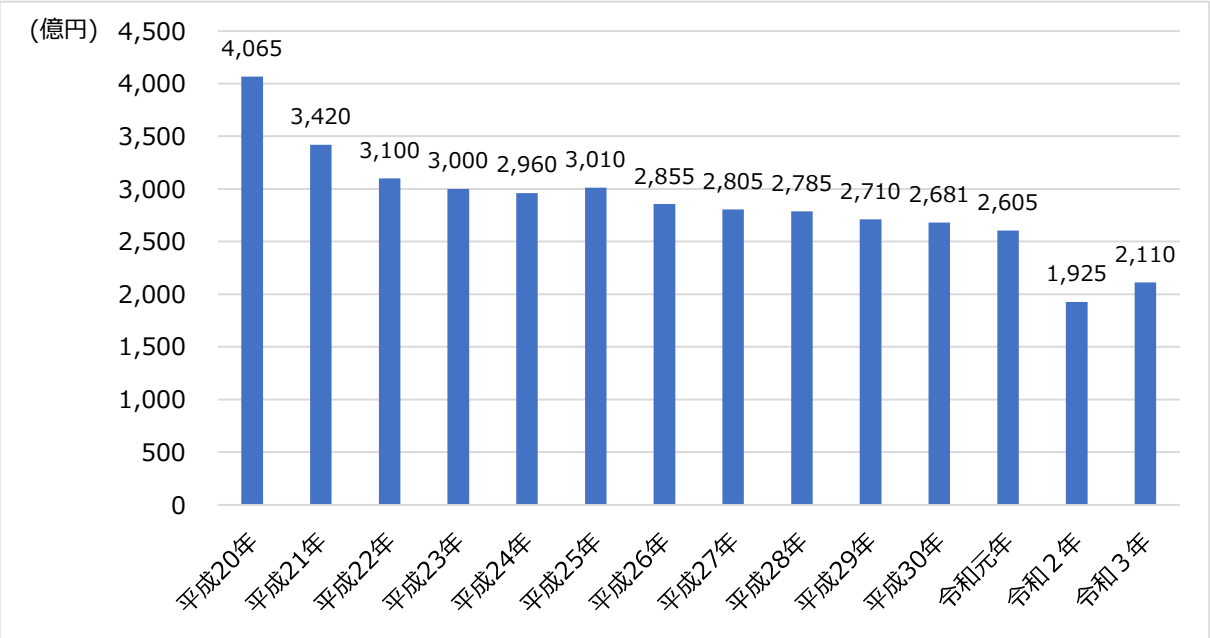


図１　和装用具の小売総市場売上推移

出典：株式会社 矢野経済研究所『2022 年版 きもの産業年鑑』令和４年を参照し受託事業者が作成した

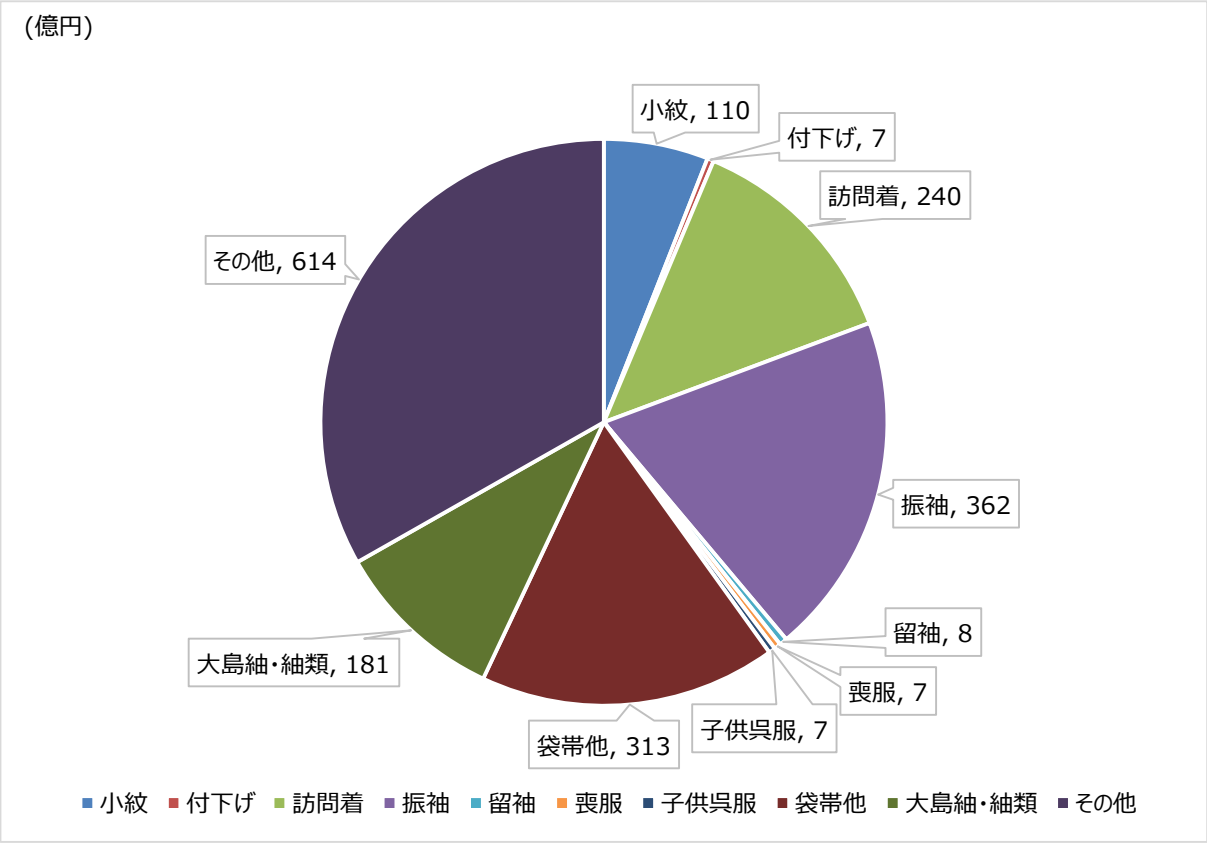


図２　和装用具の品目別売上

出典：株式会社 矢野経済研究所『2022 年版 きもの産業年鑑』令和４年を参照し受託事業者が作成した

推計 1,849 億円の内訳を示すと、「振袖」（362 億円）が最も多く、「袋帯他」（313 億円）、「訪問着」240 億円と続く。「その他」の 614 億円は、和装小物、浴衣、合繊素材の長着・帯製品の合計値である。上記 1,849 億円の和装用具の素材別の内訳は、正絹製品が 1,201 億円、綿・合繊・毛・その他が 648 億円で、売上げの 65.0%が正絹となっている。

なお、浴衣や合繊素材の長着・帯製品を除く和装小物の売上金額については、信用交換所京都本社の調査[7]がある。これによれば、令和３年度（2021 年度）の和装製品製造卸業者（和装小物類の製造業者）の和装関連の売上額（卸値ベース）は、上位 50 社合計で 248 億円である。

■流通構造

矢野経済研究所の推計[8]では、和装用具の小売で売上割合が最も多いのが、呉服専業の小売店舗を同一企業体が複数展開している呉服のチェーン専門店である。チェーン専門店には、全国各地のショッピングモール内に出店しているナショナル・チェーンと、地方部で特定エリア内に複数店出店をしているローカル・チェーンがある。チェーン専門店についで売上規模が大きいのが各地域の一般呉服店であり、次いで百貨店である。

令和３年（2021）の売上げは、チェーン専門店 780 億円、一般呉服店 375 億円、百貨店 160 億円、その他計 220 億円となっている。その他は着付け教室等での呉服販売、和装業界以外の量販・総合衣料店での販売、和装関係のメーカー・卸の直販等である。

また、チェーン専門店を中心に、通信販売（255 億円）や催事・訪問販売（50 億円）も行われている。こうした新品の小売と、リサイクル品の小売（280 億円）、及びレンタルが消費者への供給ルートである。業界ヒアリングによれば、リサイクルやレンタルについては、それぞれの専業店[9]だけでなく、チェーン専門店も積極的に取り組んでいる。また、浴衣を除く長着は、現在でも基本的に反物で販売され、小売店から仕立てに回されている。

小売店には、呉服卸業者や前売り問屋と呼ばれる卸売業者が和装用具を卸している。産地が直接小売業者と繋がる直販の動きがあるものの、多くは卸売業者を経由する。卸売業者は産地のメーカーもしくは呉服製造業者から仕入れを行う。レンタル専門店にも、卸売業者が和装用具を販売している。なお、信用交換所京都本社の調査[10]では、令和３年度（2021 年度）の和装の卸売業者上位 100 社における和装関連売上げの合計は 538 億円である。

7 (株)信用交換所京都本社『全国和装関連企業和装売上高ランキング　2021 年度』Kyo Wave 2023 年 Spring P.8 を参照した。
8 株式会社 矢野経済研究所『2022 年版 きもの産業年鑑』（令和４年５月）を参照し要約した。
9 写真スタジオなど他業種との兼業店を含む。
10 (株)信用交換所京都本社『全国和装関連企業和装売上高ランキング　2021 年度』Kyo Wave 2023 年 Spring を参照し、要約した。

（３）生産の状況

■原材料（生糸）

正絹製品としての和装用具の原材料の主なものは生糸である。農林水産省『蚕糸業をめぐる事情』によれば、日本国内における養蚕農家数は、平成元年(1989)の５万 7,230 戸から令和４年(2022)の 163 戸に、繭生産量は２万 6,819t から 51t に激減しており、これに伴い国産生糸生産量も 6,078t から 10.1t へと大きく減少している。これを補塡しているのが、輸入生糸（令和４年輸入量 219t)、輸入絹糸（生糸の繊維に含まれる不純物を取り除く作業である撚糸を行った糸。令和４年輸入量 477t）である[11]。

養蚕農家で生産した繭は、製糸業者や真綿[12]業者で生糸や真綿にされ、糸問屋等と呼ばれる生糸・絹糸の流通業者に出荷される。ただし、こうした国産の真綿・生糸は、上述したように昨今では生産が激減しており、結城紬[13]などの極めて限定的な使用に留まっている。糸問屋では、主に中国などから輸入した生糸・絹糸を呉服の製造業者に卸している。なお、業界ヒアリングによれば、撚糸は糸問屋側で行い、呉服製造業者に出荷することが多い。

■長着・帯地

長着・帯地の製造は、大きく分けて二種類の製造工程がある。ひとつは、はじめに白地の絹織物を製造し、その後に染めを行う製品で、「後染め」と呼ばれる。もう一つは先に染めた絹糸を織って長着や帯地を製造するもので、こちらは「先染め」と呼ばれる。「後染め」は単に「染め」とも呼ばれ、友禅や小紋が代表的である。「先染め」は「織り」とも呼ばれ、紬や絣が代表的な技法である。

以下、この二種類の工程による、長着・帯地製造の状況を述べる。

・後染め

後染めの長着・帯の主な産地は、糊を利用し輪郭を滲ませることなく絵画的に染付けができる友禅の技法による京都府の京友禅や石川県の加賀友禅、型染めで全体に細かな模様を染める小紋の技法による東京都の江戸小紋や石川県の加賀小紋、京都府の京小紋、布の一部を括る[14]ことにより部分的な防染を行い、様々な柄を出す絞りの技法による京都府の京鹿の子絞、愛知県の有松・鳴海絞などがある[15]。

後染めは、織り上げた状態の白生地に染めを施していく。白生地の代表的な産地として京都府の丹後縮緬（ちりめん）、滋賀県の浜縮緬等がある。近年は海外製が増え、令和２年（2020）のベトナムからの白

---

11 農林水産省『蚕糸業をめぐる事情』令和５年９月
(URL:https://www.maff.go.jp/j/seisan/tokusan/attach/pdf/sannshi-4.pdf　最終確認日：令和６年２月 15 日）を参照し、要約した。

12 蚕の繭を煮た物を引き伸ばして綿にした物。紬の原料となる。

13 昭和 31 年（1956)、国重要無形文化財に指定。平成 22 年（2010）ユネスコ無形文化遺産に登録されている。

14 糸で縛る、縫い締める、折るといった処理。

15 きもの文化検定公式サイト『全国きもの主要産地マップ』
(URL:https://www.kimono-kentei.com/images/map.pdf　最終確認日：令和６年２月 15 日)を参照し、要約した。

生地輸入量は 14 万 7,000 反に上り、丹後の生産量に迫る量となっている[16]。

染め製品の製造現場の特徴として、製造業者の下、外部の工場や職人が極めて細かな分業体制を敷いていることが挙げられる。自社では、白生地の手配、商品の企画やデザイン、各工程の調整、仕上げ作業等を行う。細かな装飾を行っていく友禅では、染めの後に金彩や刺繍を施すこともある。

例えば、京鹿の子絞の場合、文様を生み出す絞りの技法として、疋田絞り、一目絞り、縫締絞り、傘巻絞り、桶絞り、帽子絞りなどの種類があり、一人の職人はそのうちの一つの絞りの技法による製作を行う。京鹿の子絞では、複数の絞り技法をあわせて使うことも珍しくなく、いくつもの工程を辿ることになる。近世以来、各産地では、こうした分業体制を洗練化させてきたことで、技法の専門性を保ちながら大量生産を可能としてきた。

一方、近代以来、新たな技術も取り入れられている。京友禅では、もともと手描きで図案を作成し、白生地に写していた（手描き友禅）が、明治前半、化学染料の導入を契機に、型職人が型を作り、それを染め職人が染めるという分業体制の型染め（写し友禅）が発明された。明治後期になるとローラー捺染機による機械捺染となった[17]。今世紀に入ると、パソコンによる図案作成が普及し、さらに大型インクジェットプリンターを用いたインクジェット捺染に急激に移行しつつある。

後染めで生産される長着や帯地については、各産地とも、大きく出荷量、出荷額を減少させている。白生地及び後染めの主要な産地の近年の動向については、次の表に示すとおりである。

表１　白生地産地の生産動向

	滋賀県浜縮緬 (浜縮緬工業協同組合)	京都府丹後縮緬 (丹後織物工業組合)
単位	数量（百反）	数量（千反）
平成 24 年	639.4	473.5
平成 25 年	557.92	452.4
平成 26 年	531.74	420.3
平成 27 年	418.93	366.5
平成 28 年	380.63	323.9
平成 29 年	362.27	306
平成 30 年	363.16	293.2
令和元年	275.84	261.3
令和２年	108.52	158.9
令和３年	123.21	157.2

出典：株式会社 矢野経済研究所『2022 年版 きもの産業年鑑』（令和４年）の
「全国きもの産地別生産高」を参照し受託事業者が作成した

16 松井敦史『きもの産業のコロナ禍　パート４』Kyo Wave 2022 年 Spring　P.9-17　(株)信用交換所京都本社を参照した。

17 青木美保子『機械捺染』社団法人繊維学会　「繊維と工業」Vol 66,No10（令和２年）を参照した。

表２　後染め産地の生産動向

	京都府京友禅正絹染色加工品 (京友禅協同組合連合会)	京都府京友禅呉服 (京友禅協同組合連合会)
単位	数量（千反）	数量（千反）
平成 24 年	348.6	446.6
平成 25 年	335.4	428.4
平成 26 年	334.3	422.3
平成 27 年	321.4	413.5
平成 28 年	279.9	375.4
平成 29 年	264.3	364.3
平成 30 年	283.9	388.9
令和元年	280.1	372.4
令和２年	211.1	275.5
令和３年	-	-

出典：株式会社 矢野経済研究所『2022 年版 きもの産業年鑑』（令和４年）の
「全国きもの産地別生産高」を参照し受託事業者が作成した

・先染め

先染めの製品では、様々な色に染めた糸を織り上げることによって最終的な文様、図柄を生み出す。先染めで知られているのは、京都府の西陣織、福岡県の博多織、群馬県の桐生織等である。また、繭からそのまま繊維を引き出した生糸ではなく、真綿から引き出した、太さが均一でなく節などもある紬（つむぎ）糸を用いた紬も先染めの製品の一つであり、茨城県の結城紬、石川県の牛首紬などがある。また、あらかじめ斑（まだら）に染めた糸を用いて織る絣（かすり）の手法は、綿が主体であるが、正絹や麻もあり、愛媛県の伊予絣、福岡県の久留米絣、広島県の備後絣がある[18]。

先染めは、産地の製造業者が糸問屋から直接絹糸を購入して製造する。最大の生産地である西陣の例を見ると[19]、西陣の製造業者（織り屋）では、製品の大きなデザインや配色を決定し、次に糸問屋から撚糸済みの糸を購入、染め屋に染めを依頼する。その後、整経（せいけい）屋に出して必要な長さと本数の縦糸を準備する。

デザインについては、図案屋が図案に落とし、それを紋屋に出して織機にかけるための紋紙にする。これはデジタルデータの場合もある。次に機織りの準備である綜絖（そうこう）の作業を、綜絖屋に出す。綜絖とは織機にある針金のような部品の名称で、緯（よこ）糸が通る杼口（ひぐち）（杼道）を通すために経（たて）糸を引き上げる仕組みである。紋紙やデジタルデータを、ジャカードと呼ばれる読取機が読み取り、綜絖が行われる。

ここから機織りとなる。機織りには、ジャカードを使わない綴機（つづればた）、ジャカードを使う手機（てばた）、ジャカードと動力を使う力織機（りきしょっき）がある。もともと織りは織屋自身が担当する工程であったが、現在で

18 きもの文化検定公式サイト『全国きもの主要産地マップ』
(https://www.kimono-kentei.com/images/map.pdf)令和５年 12 月閲覧を参照し、要約した。
19 西陣織工業組合へのヒアリングによる。

は８～９割が外注（出機（でばた））となっている。織り上がったものの仕上げは織屋が行う。こういった分業過程は、明治以降に一部機械化（力織機、ジャカードが導入された）されたものの、基本的に近世より変わっていない。製造業者が伝統的に細分化された分業体制をプロデュースして製品を生み出す点では、後染めと同じ業界構造となっている。

先染めにおいても、各産地は出荷量、出荷額が減少している。その状況は次に示すとおりである。

表３　先染め産地の生産動向

	単位	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
群馬県桐生織着尺(桐生織物協同組合)	数量(千反)	2.6	2.3	2.1	1.9	1.7	1.6	1.6	1.5	1.1	1.2
群馬県桐生帯地(桐生織物協同組合)	数量(千反)	228.7	208.5	192.2	179.6	166.6	146.1	139.1	115.9	53.8	22.1
群馬県桐生和装関連品(桐生織物協同組合)	数量(千反)	154.1	138.9	127.7	117.6	109	67.6	50.4	46.3	3.0	4.0
京都府西陣織物帯地(西陣織工業組合)	数量(千反)	645.7	636.5	601	526.4	488.1	477.6	431.5	380.1	260.3	303.5
京都府西陣織物着尺(西陣織工業組合)	数量(千反)	56	47.7	45	40.9	35.8	36.2	35.7	38.9	33.3	36.6
広島県備後綿織物備後絣(備後絣協同組合)	数量(千反)	39.6	39.6	42.0	42.0	38.0	31.2	31.5	30.0	28.8	28.0
福岡県博多織物　正絹帯(博多織工業組合)	数量(千反)	101	78	70.4	62.6	63.6	69.1	59	51.6	27.8	26.0
福岡県博多織物正絹の男帯、兵児帯他(博多織工業組合)	数量(千反)	91.1	108.6	86.1	96.1	81.1	90.8	73.7	70	38.8	40.8
福岡県綿織物久留米絣(久留米絣協同組合)	数量(千反)			82.7	82.9	83	83.6	81.9	76	41.8	
宮崎県都城　本場大島紬(都城絹織物事業協同組合)	数量(千反)	0.6	0.9	0.9	0.7	0.9	0.7	0.8	0.7	0.4	0.6
鹿児島県本場大島紬着尺(本場大島紬織物協同組合)	数量(千反)	19.7	21.6	22.1	22.8	21.7	19.1	17.9	14.3	10.5	10.6

出典：株式会社　矢野経済研究所『2022 年版　きもの産業年鑑』（令和４年）の「全国きもの産地別生産高」を参照し受託事業者が作成した

■仕立て縫製

長着類は、後染め・先染めの製造業者が生産した反物を仕立て縫製を行い、完成品にする必要がある。和裁士養成に携わる関係者へのヒアリング[20]によると、戦後の高度経済成長期以前は、絹製品の高級呉服を除き、普段着の着物が多かったため購入した着尺地（反物）を家庭内で着物に仕立てるのが普通であった。しかし、高度経済成長期に、呉服店が和裁士に発注して完成品の着物として消費者に提供することが一般的となり、専門の和裁士への需要が高まっていった。これに対応し、和裁業界では、徒弟制度での弟子の育成が拡大するとともに、専門学校の整備が進み、多数の和裁士が育成された。特に地方部では当時女性の働く場が不足していたため、和裁学校で技術を身につけたのち、在宅で仕事を始めることが多かった。

この傾向が大きく変わったのが、和装用具産業自体が金額的にピークを迎える昭和の終わりから平成の初めにかけてである。この時期、国内の和裁士の人手不足が顕著となっていたことから、海外への仕立ての委託がまず中国で始まり、あわせて国内でも、ハイテクミシンの導入による機械化が開始された。この傾向は、その直後に顕著になった和装用具産業全体の市場規模の減少によるコストダウン圧力の高まりによって拍車がかかり、海外の仕立ては、中国からさらに人件費の安いベトナムへと移り急激に拡大、現在では、国内よりもベトナムでの仕立て縫製の量の方が多くなっている[21]。加えて、ハイテクミシンが使用され、近年では国内の和裁士による手縫いでの仕立ては非常に少なくなっている。

国内での和裁士の仕事が急激に減少したことで、現状では、現役の和裁士、和裁士を目指す人、ともに大きく減少している。和裁の資格制度には、厚生労働省の技能検定制度に基づく「和裁技能士」、プロの和裁士の会員団体である日本和裁士会の「和裁士技能検定」、（一社）全国和裁着装団体連合会・東京商工会議所の「和裁検定」などがある。「和裁技能士」を例にあげると３級から１級まであり、２級を取得できればプロの和裁士としての技術水準があると認められ、開業するには１級を持っていることが望ましい。和裁技能士２級の取得には３～４年程度を要し、１級の取得には概ね５～６年程度が必要となる。これら資格の取得には、技術を体に染み込ませる必要があり、専門学校で学ぶか、もしくは親方のもとで働き、多くの仕立てを行う環境に身を置くことが求められる。

表４　厚生労働省　技能検定　和裁の申請者数／合格者数推移

	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
申請者数（人）	299	260	245	230	220	206
合格者数（人）	160	159	134	142	118	116

出典：厚生労働省『「技能検定」実施状況』各年版を参照し受託事業者が作成した

20 大原和服専門学園へのヒアリングによる。
21 松井敦史『きもの産業のコロナ禍　パート４』Kyo Wave 2022 年 Spring　P.9-17　(株)信用交換所京都本社を参照した。

■長着・帯以外の和装小物などの製造

裏地、長襦袢や肌着を含む和装小物については、統計資料や民間の市場調査資料が公刊されていないため、業界へのヒアリング[22]により、情報を収集し、整理した。

・裏地、長襦袢

長着には、暑い時期に着る裏地のない単衣（ひとえ）の仕立てのものと、それ以外の季節に着用する裏地をつけた袷（あわせ）の仕立てがある。裏地には、長着の胴の部分に付ける胴裏と、裾や袖口に付ける八掛（はっかけ）の２つがあり、八掛のみを裏地につけた長着を胴抜きと呼ぶ。歴史的に長着の裏地は通しで、表地保護と保温を目的とした薄地の生地を用いて胴裏に付けるものから発達してきており、紅絹（もみ）と呼ばれる赤い裏地を付けることが通例であった。大正期以降、幅広い層の人が正絹の長着を着用し始めたことを契機に、外出時、裾や袖を保護することを目的に八掛が開発され、広く普及した。近年では、室内で着物の着用が増え、保温が求められることが少なくなり、長着を胴抜き仕立てにすることも多くなった。八掛は着物の種類にあわせ、紬などの先染めの着物には伸縮の少ない生地を、後染めの着物にはよく添う生地を用いて、袷として仕立てる。素材は主に正絹である。

長襦袢は、保温や長着の汗染みを防ぐために、長着と下着の間に着用する。素材には、合繊繊維やウール地のモスリンもあるが、通気性の高い正絹が選ばれることが多い。かつては裏地のある長襦袢が使用されることが多かったが、現在では、長襦袢は一般的に胴抜き仕立てにし、袷の長着の季節でも一足早く単衣の長襦袢を着用することがよくある。単衣の場合、十分な頑健性が担保しにくいため、絹でありながら破損しにくい新素材の開発も進んでいる。長襦袢は、長着と違っておはしょりを作らないので、着丈（首の付け根から裾までの長さ）に仕立てる。

裏地、長襦袢ともに、生産についての統計は取られていないが、業界へのヒアリングによれば、新たに長着を仕立てる際に小売店であわせて販売されることが多く、概ね長着に近い反数が生産されていると考えられている。

・肌着

長襦袢の下に着用する和装用の肌着は、肌着メーカーがそれぞれに工夫した形状のものが多様に供給されている。また、素材も、綿を中心に合繊など多様なものが使用されている。販路としては、呉服の小売り店で着物の購入の際に付属品として販売されることが一般的であるが、着付け教室などで販売されることも多く、大手の着付け教室ではプライベートブランドとして肌着の販売を行っている。また、かつては着物のレンタルをする際、肌着のみは販売され、レンタルの対象ではなかったが、近年では肌着もレンタル品として取り扱われ、クリーニングされ再利用されることが増えてきている。

肌着の製造は、職人の分業による伝統的な方法ではなく、工場での機械縫製となる。肌着のメーカーが縫製を委託している工場は、製造ロットが少ないため、小規模な町工場が多い。

22 株式会社浅見、絞彩苑種田、菱屋カレンブロッソ、和小物さくらへのヒアリングによる。

・帯揚げ、帯締め、半衿、伊達衿、帯板、帯枕、衿芯

長着・帯を着るための小物類としては、帯揚げ、帯締め、半衿、伊達衿、帯板、帯枕、衿芯がある。このうち帯枕や帯枕の紐を隠すための帯揚げと、帯を締めて固定するために帯の中央に巻く帯締め、長襦袢に付ける襟である半衿は、着物を着た時に外から見える小物となるため、正絹を素材に、各種の伝統的な後染め、先染めの製法による製品が多く供給されている。このうち、半衿については、もともと、長襦袢や長着の衿元の汚れを防ぐことが目的であったが、装飾性を兼ねていくようになった。ただし、既婚者の正式な半衿をはじめ一般的には、白の無地を用いる。また、帯の下や間に入れて帯の形を調整する用具である帯板や帯枕、長襦袢の衿の形を整える衿芯については、外から見える小物ではないため、プラスチックやウレタンなどを含む多種多様な素材が利用されており、職人技が必要な製品ではない。

帯揚げ、帯締め、半衿、帯板、帯枕、衿芯については、呉服店や専門チェーン店など、呉服の小売ルートで販売されることが多い。また、専門チェーン店では、長着・帯を一式で購入するにあたって、こうした小物類を付属品として無料で提供することもよく行われている。

・草履、下駄、足袋

和装の履物は、第二次世界大戦前まで、下駄、藁草履、畳表草履が一般的であった。戦後、着物の主流が正絹の第一礼装、準礼装主体になるにつれ、礼装にふさわしい履物が「和装草履」という通称で販売されるようになった。この結果、フォーマルな和装では和装草履を、浴衣などカジュアルな和装では下駄を履くという使い分けが定着した。

和装草履は、コルク材でつくった台で高さを出し、台を佐賀錦[23]やエナメル革で覆う。第一礼装用の草履は鼻緒を含め全てを佐賀錦で覆ったものが一般的で、次いで格式が高いのは鼻緒だけが佐賀錦などで台はエナメルのものであり、お洒落用はエナメル製である。コルク材はポルトガルからの輸入、エナメル革は和歌山県が、佐賀錦は佐賀県など九州北部を産地としている。

和装草履は、高度経済成長期をピークに拡大した着物市場の拡大にあわせ急激に普及を遂げた。しかし、着物市場が縮小を始めると、和装草履の売上げも急激に減少、現在では和装草履を製造しているメーカーは、業界へのヒアリングによれば大阪と関東に数社を数えるのみとなっている。また、佐賀錦を安定的に製造できる企業も福岡県の１社となり、和歌山県のエナメル革産業も規模を縮小している。こうした状況を受け、現在では、各社とも和装草履の形状は残しつつ、佐賀錦にこだわらない鼻緒作りや、コルク材に代わる台の素材開発、エナメル革ではなく帆布を使ったりと、新規素材の導入や新たな製品の開発に取り組んでいる。

下駄については、大分県の日田、広島県福山市の松永、静岡県の駿河下駄がかつては三大産地として栄えていた。しかし、現状ではそういった伝統的な工法での下駄製作は衰退しており、海外において機械式で生産されるものが主流となっている。

足袋については、サイズや形状のバリエーションが非常に多いことから、足袋専門の製造業者が着物の小売店に卸を行ってきた。足袋で創業し現在は大手靴下メーカーとなった企業をはじめ、大

[23] 金銀箔を貼ったり、漆を塗った和紙を細かく裁断したものを経糸とし、絹糸の撚糸を染色したものを緯糸として織り上げる佐賀県の伝統工芸品。

阪府や東京都などでいくつかの企業が足袋の製造を行っている。縫製は機械化されているが、難しいのはコハゼの処理であり、現在でも職人の手作業でなければ十分な品質のものを作ることができない。また、近年では、より履きやすく伸縮性のある足袋など、積極的な技術開発・商品開発が行われている。

・バッグ、髪飾り

バッグについても草履と同様、第二次世界大戦後、着物の主流が正絹の第一礼装・準礼装主体となるのにあわせ、佐賀錦を使ったフォーマルな和装バッグが生まれた。形状はがま口で見られる口がね式、持ち手は１本、マチが薄く、寸法は小さく、ミシンを使わず糊で貼り合わせる製法が特徴となっている。着物市場の衰退に伴い和装バッグのメーカーは減少、現在国内では、洋装用のバッグも製造しているメーカーが和装バッグの製造を行っているという状況であり、多くは海外で生産される安価なものに切り替わっている。このため、洋装のバッグメーカーと提携し、和装にも似合うバッグを企画する和装バッグメーカーもある。さらに、洋装のパーティバッグを和装の礼装や準礼装時に持つことも多くなっている。

簪等の髪飾りの市場は、伝統的な髷を結う女性がほとんどいなくなったため、現在では縮小している。ただし、成人式の振袖にあわせることの多い、絞りを使った簪などの伝統的な製品は作られ続けている。

〈参考文献〉
・橋本澄子編『図説　着物の歴史』河出書房新社、平成 17 年
・全日本きもの振興会監修『着物の教科書』新星出版社、平成 30 年
・株式会社 矢野経済研究所『2022 年版 きもの産業年鑑』令和４年
・(株)信用交換所京都本社『Kyo Wave』平成 29 年～令和４年各号

（４）課題

■業界構造面での課題

・商慣行上の問題点

和装用具の市場が急激に縮小する中、一部の大手流通業者において、売上げの維持やコストダウンを過剰に追求するあまり、消費者や産地に不利益をもたらす行為が拡大した。こうした事態の解決を目指し、平成 29 年（2017)、経済産業省和装振興協議会から報告書「和装の持続的発展のための商慣行のあり方について」が出され、和装用具業界への呼びかけが行われた[24]。しかし、令和３年（2021）の経済産業省第 10 回和装振興協議会資料「第２回商慣行改善自己診断アンケート（抜粋)」によれば、令和３年の段階でも上記の問題点は未だ十分に解消されているとはいえない状況にある[25]。

24 経済産業省和装振興協議会『和装の持続的発展のための商慣行のあり方について』
（URL:https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/waso_kyogikai/pdf/007_s01_00.pdf）最終確認日：令和６年２月 15 日
25 経済産業省和装振興協議会第 10 回資料　きもの安全・安心推進会議『第 2 回商慣行改善自己診断アンケート集計結果報告(抜粋)』令和３年

こうした問題の解決に向け、若手経営者を中心として、希望小売価格が明示されているオープンな販売会が展開されているほか、動画サイトで着物の知識と価値を発信しながら、正価での販売を行うといった改善の努力が図られている[26]。

・市場

第二次世界大戦後から昭和三十年代前半頃まで、戦後の復興に伴う需要増加により、実用呉服と呼ばれるウールなどの手頃な価格の着物が多く市場に出回った。しかし、高度経済成長期になると生活様式の変化によって普段着としての和装が日常から姿を消し、この時期からバブル経済期を経て、和装は高価な贅沢品となった。現在では、浴衣などを除き、綿・麻・合繊・ウールなどの廉価な和装類の供給量が激減し、日常の場面でカジュアルに和装を着こなす機会が少なくなっている。

これに対しては、気軽に和装を楽しめることを目指し、帯ベルトや女性用の兵児帯（へこおび）、二部式の長着など新たな用具の開発・販売や、絹以外の機能性が高い素材の開発、雑誌やインターネット、イベント、売場でのキャンペーンなど、新たな着物の楽しみ方が発信されている[27]。

■製造面での課題

・職人の高齢化と後継者不足、設備の老朽化

急激な和装用具市場の縮小の結果、産地では職人に十分な工賃が払えない状況が続いている。この結果、若い継承者が現れず、多くの産地で職人の平均年齢が 70 歳を超える状況となっている[28]。業界へのヒアリングによると、設備の老朽化も進んでおり、例えば白生地や先染めの織物で使われる力織機は、製造から数十年を経過する中、メーカー側にメンテナンス体制がなく、新たな部品も供給が難しいという現状がある。

こうした問題に対応するため、各産地では、職人の賃金を上げていくための努力、若い後継者を確保するための努力が様々に行われているが、大きく状況を変えるような動きには至っていない。

・製造体制

和装用具の製造現場の多くでは、技能の専門性を担保しつつ大量生産を実現するため、伝統的に分業が行われてきた。和装用具市場の急激な縮小は、こうした体制の維持にも悪影響を与えている。

---

26 毎年 11 月、東京で正価での着物販売と関連の PR イベントを行う「きものサローネ」が開催されており、入場有料であるにも関わらず、2022 年には約 1 万人を集客している。また、愛知県西尾市の呉服店「あづまやきものひろば」では、毎週土曜日かかさずに YouTube 配信を行ってプロモーションを実施、商品は全て正価販売となっている。

27 「きもの kapuki」では帯ベルトをファッショナブルなスタイルで開発・販売している。ファッションセンターしまむらでは、二部式の浴衣を販売している。京都の絞り染め呉服製造卸の藤井絞では、「はごろ木綿」という新しい綿素材を開発し、正絹より安く機能性が高い商品を提供している。日常的に着物を着こなす情報を発信しているメディアとしては、プレジデント社の季刊誌「七緒」、株式会社スタジオアレコレの「月刊アレコレ」がある。

28 松井敦史『誰が和装産地を殺すのか　パート５　「今そこにある危機」』Kyo Wave 2019 年 Autumn P. 7-15 (株)信用交換所京都本社、松井敦史『誰が和装産地を殺すのか　パート４』Kyo Wave 2019 年 Spring P. 7-15 (株)信用交換所京都本社、松井敦史『誰が和装産地を殺すのか　パート 3』Kyo Wave 2018 年 Autumn P. 7-15 (株)信用交換所京都本社、松井敦史『誰が和装産地を殺すのか』Kyo Wave 2017 年 Autumn P. 5-13　(株)信用交換所京都本社を参照した。

業界へのヒアリングによると、これに対応するため、工程の内製化や職人の多能工化、異業種の職人へのネットワークの拡大など、新たな製造体制に向けた様々な試みが行われている状況である。

〈参考文献〉
・株式会社 矢野経済研究所『2022 年版 きもの産業年鑑』令和４年
・(株)信用交換所京都本社『Kyo Wave』平成 29 年～令和４年各号

参考資料　国民意識調査調査票

（１）属性

Ｆ１　あなたの性別をお答えください。（１つ）

１．男　　２．女　　３．それ以外／答えたくない

Ｆ２　あなたの年齢をお答えください。（１つ）

１．18 歳未満　２．18～19 歳　３．20 代　４．30 代　５．40 代　６．50 代　７．60 代
８．70 代以上

Ｆ３　あなたのお住まいの都道府県をお答えください。（１つ）

１．北海道	２．青森県	３．岩手県	４．宮城県	５．秋田県	６．山形県
７．福島県	８．茨城県	９．栃木県	10．群馬県	11．埼玉県	12．千葉県
13．東京都	14．神奈川県	15．新潟県	16．富山県	17．石川県	18．福井県
19．山梨県	20．長野県	21．岐阜県	22．静岡県	23．愛知県	24．三重県
25．滋賀県	26．京都府	27．大阪府	28．兵庫県	29．奈良県	30．和歌山県
31．鳥取県	32．島根県	33．岡山県	34．広島県	35．山口県	36．徳島県
37．香川県	38．愛媛県	39．高知県	40．福岡県	41．佐賀県	42．長崎県
43．熊本県	44．大分県	45．宮崎県	46．鹿児島県	47．沖縄県	

Ｆ４　あなたの仕事をお答えください。（１つ）

１．正規の職員・従業員(役員を含む)
２．非正規の職員・従業員(期間従業員、契約社員、派遣社員を含む)
３．自営業主・自由業(自分で、または共同で事業を営んでいる)
４．家族従業者(家族が営んでいる事業を手伝っている)
５．主婦・主夫
６．学生
７．リタイア、無職
８．その他

Ｆ５　あなたと同居している人の状況をお答えください。（１つ）

１．ひとり暮らし(同居している家族はいない)
２．核家族(夫婦のみもしくは親と未婚の子どもの世帯)
３．三世代家族(親・子・孫の３世帯以上が同居)
４．上記以外で同居している人がいる

Ｆ６　昨年度の世帯全体の年収(税込み)は、おおよそどのくらいですか。(１つ)

１．100 万円未満
２．100 万円以上～200 万円未満
３．200 万円以上～300 万円未満
４．300 万円以上～400 万円未満
５．400 万円以上～500 万円未満
６．500 万円以上～600 万円未満
７．600 万円以上～700 万円未満
８．700 万円以上～800 万円未満
９．800 万円以上～900 万円未満
10．900 万円以上～1,000 万円未満
11．1,000 万円以上
12．分からない

Ｆ７　あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。(１つ)

１．小学校　２．中学校　３．高校・旧制中学校　４．短大・高専　５．大学　６．大学院
７.その他

Ｆ８　あなたは、子供の頃に習い事をされていましたか。(いくつでも)

１．楽器演奏（ピアノやバイオリンなど）や歌唱（コーラスや声楽など）
２．バレエやダンス（バレエ、モダンダンスやコンテンポラリーダンスなど）
３．美術（絵画や版画、彫刻、工芸など）
４．伝統芸能や茶道・華道等の芸事
５．囲碁や将棋
６．書道・習字・ペン字、そろばん
７．スポーツ・武道
８．その他（具体的に：　　）
９．していない

（２）フィルタリング・パート

ＦＱ１　煎茶道について

この調査の「煎茶道」とは、主人が客人を招き、一定の作法で淹れた煎茶や玉露等を振る舞い、書や絵画等の鑑賞を行いながら交流を図る、日本の伝統的な生活文化のことをいいます。

あなたは、これまでに、「煎茶道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。(１つ)

１．習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）
２．学校の授業や職場の研修、イベント等で煎茶会や煎茶席に参加した経験はある
３．今まで経験したことはない

ＦＱ２　香道について

この調査の「香道」とは、沈香、白檀などの香木や、古典的な薫（たきもの）を、一定の作法に従って焚（炷）（た）き、その香りを鑑賞する（＝「聞く」）、日本の伝統的な生活文化のことをいいます。

あなたは、これまでに「香道」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）

１．習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）
２．学校の授業や職場の研修、イベント等で香会や香席に参加した経験はある
３．今まで経験したことはない

ＦＱ３　和装について

この調査の「和装」とは、着物（和服、浴衣も含む）の着付けのことをいいます。なお、作務衣・甚平のような着脱が簡易なものや、柔道着・剣道着等の特定競技用のものは含まないこととします。

あなたは、日常生活や行事等（例えば結婚式、入学式、卒業式、成人式等）の折に、着物を着付けることはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）

１．着物を自分で着付けている（いた）、あるいは人に着付けている（着付けたことがある）
２．自分で着物の着付けはできないが、人に着付けてもらって着ている（着たことがある）
３．今まで着物を着たことはない

ＦＱ４　礼法について

この調査の「礼法」とは、作法や所作、しつらい等の一定の礼式に則ることによって相手への敬意を表す、日本の伝統的な礼儀作法のことをいいます。

あなたは、これまでに「礼法」を経験したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）

１．習っている（いた）、あるいは教える立場にいる（いた）
２．学校の授業や職場の研修、イベント等で礼法に関する体験をしたことはある
３．今まで経験したことはない

ＦＱ５　盆栽について

この調査の「盆栽」とは、植木鉢等の盆器（ぼんき）等に樹木を植え付け、姿形に手を加えながら年数をかけて育てていくものをいいます。なお、小品盆栽やツツジ盆栽も含みます。

あなたは、これまでに盆栽を育てたことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）

１．盆栽を育てている（いた）、あるいは盆栽園を営んでいる（いた）
２．イベント等で盆栽体験をしたことはある
３．盆栽を育てたり盆栽体験をしたりしたことはない

ＦＱ６　錦鯉について

この調査の「錦鯉」とは、色や模様のある観賞用のコイのことをいいます。

あなたは、これまでに錦鯉を飼育したことはありますか。次の選択肢の中から、あてはまる一番近いものをお選びください。（１つ）なお、飼育には、預かり飼育を含みます。

１．錦鯉を飼育している（いた）、あるいは錦鯉の養鯉業を営んでいる（いた）
２．イベント等で錦鯉の飼育体験や観賞をしたことはある
３．今まで錦鯉の飼育をしたことはない

（３）分野設問

①煎茶道

●煎茶道を習っている（習っていた）者に対する質問（ＦＱ１で１に回答）

煎茶道１　あなたが煎茶道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
４．学校の授業や、煎茶道の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
７．煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

煎茶道２　あなたが煎茶道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。　（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人に習っていた
２．学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．稽古場や教室で習っていた
５．その他（具体的に：　　）

煎茶道２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．本格的に習ってみたかった
８．手軽に習ってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

煎茶道３　現在、煎茶道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞

煎茶道３補問１　あなたが煎茶道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．指導者や教授者として活動したい（している）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．煎茶や玉露等の淹れ方や、煎茶席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
５．煎茶席でいただく煎茶や玉露等がおいしい
６．習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方に＞
煎茶道３補問２　あなたが煎茶道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．近くに習う場所がなくなった
３．当初目標としていたことが達成できた
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
８．習っている内容についていけなくなった
９．指導者や教授者を引退した
10．その他（具体的に：　　）

煎茶道４　あなたが煎茶道を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

煎茶道５　あなたの現在の煎茶道の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．教室や稽古場で習っている（いた）
２．カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
３．学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
４．指導者や教授者として教えている（いた）
５．その他（具体的に：　　）

煎茶道６　あなたは煎茶道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度

５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

煎茶道７　あなたは煎茶道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

煎茶道８　あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
２．手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
３．煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で煎茶道を体験した人の質問（ＦＱ１で２に回答）
煎茶道９　あなたが煎茶道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから勧められた・誘われた
４．学校や、煎茶道の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

６．趣味や教養として、煎茶道に興味関心があった
７．煎茶道に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

煎茶道 10　あなたはどういう場で煎茶道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．教室や稽古場等で開かれた体験会
２．学校の授業や職場の研修会
３．学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
４．文化施設等で行われた体験イベント
５．自宅
６．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
７．その他（具体的に：　　）

煎茶道 11　あなたが今後、煎茶道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人から習えたら
２．通いやすい場所で習えたら
３．費用が手頃だったら
４．必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
７．指導で教本やテキストを使っていたら
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

煎茶道 12　もし煎茶道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満

９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

煎茶道 13　あなたがこれまでに、煎茶道を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．興味がなかった
２．通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
３．習うための授業料等の費用が確保できなかった
４．習うための十分な時間が取れなかった
５．カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
６．稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった
７．習う内容についていけるかどうか不安がある
８．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
９．自分の趣味と合わない
10．その他（具体的に：　　）

煎茶道 14　あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶やお菓子を楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝や道具等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない
９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

煎茶道 15　あなたが煎茶道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
２．手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
３．煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流

６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●煎茶道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（ＦＱ１で３に回答）
煎茶道 16　もし、あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶席でのお茶のいただき方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
２．煎茶道の歴史や意義を教えてくれる
３．煎茶席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
４．普段の生活に応用した、お茶の楽しみ方を教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

煎茶道 17　あなたが煎茶道を体験する機会があった場合、どういう条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．行きやすい場所で体験できたら
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

煎茶道 18　あなたがこれまでに、煎茶道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない

９．その他（具体的に：　　）

煎茶道 19　あなたが煎茶道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶やお菓子を楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝や道具等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない
９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

煎茶道 20　煎茶道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、煎茶道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．煎茶や玉露等を淹れ、おいしくいただける
２．手前・作法や煎茶や玉露等の淹れ方が分かる
３．煎茶席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

②香道

●香道を習っている（習っていた）者に対する質問（ＦＱ２で１に回答）
香道１　あなたが香道を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
４．学校の授業や、香や香木を扱う店（香舗）での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った

６．趣味や教養として、香道に興味関心があった
７．香道に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

香道２　あなたが香道を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。　（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人に習っていた
２．学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．稽古場や教室で習っていた
５．その他（具体的に：　　）

香道２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）
１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．本格的に習ってみたかった
８．手軽に習ってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

香道３　現在、香道に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞
香道３補問１　あなたが香道に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．指導者や教授者として活動したい（している）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．香木等の焚き方や、香席のしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
５．香席で聞く香木等の香りが心地よい

６．習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方に＞
香道３補問２　あなたが香道に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．近くに習う場所がなくなった
３．当初目標としていたことが達成できた
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
８．習っている内容についていけなくなった
９．指導者や教授者を引退した
10．その他（具体的に：　　）

香道４　あなたが香道を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

香道５　あなたの現在の香道の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．教室や稽古場で習っている（いた）
２．カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
３．学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
４．指導者や教授者として教えている（いた）
５．その他（具体的に：　　）

香道６　あなたは香道に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

香道７　あなたは香道に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

香道８　あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．香木等を焚きその香りを楽しめる
２．香木等に応じた焚き方が分かる
３．香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で香道を体験した人の質問（ＦＱ２で２に回答）

香道９　あなたが香道を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから勧められた・誘われた
４．学校や、香や香木を扱う店（香舗）、文化施設等で体験イベントが行われていた
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、香道に興味関心があった
７．香道に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

香道 10　あなたはどういう場で香道を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．教室や稽古場、香や香木を扱う店（香舗）等で開かれた体験会
２．学校の授業や職場の研修会
３．学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
４．文化施設等で行われた体験イベント
５．自宅
６．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
７．その他（具体的に：　　）

香道 11　あなたが今後、香道を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人から習えたら
２．通いやすい場所で習えたら
３．費用が手頃だったら
４．必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
７．指導で教本やテキストを使っていたら
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

香道 12　もし香道を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

香道 13　あなたがこれまでに、香道を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．興味がなかった
２．通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
３．習うための授業料等の費用が確保できなかった
４．習うための十分な時間が取れなかった
５．カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
６．稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった
７．習う内容についていけるかどうか不安がある
８．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
９．自分の趣味と合わない
10．その他（具体的に：　　）

香道 14　あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．香木等の香りが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝や道具等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない

９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

香道 15　あなたが香道の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．香木等を焚きその香りを楽しめる
２．香木等に応じた焚き方が分かる
３．香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●香道を体験や経験を全くしたことがない人に対する質問（ＦＱ２で３に回答）
香道 16　もし、あなたが香道を体験する機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．香席でのお香の聞き方や、基本的な作法等、客としての振る舞い方を教えてくれる
２．香道の歴史や意義を教えてくれる
３．香木や香席で使う道具やしつらいを詳しく教えてくれる
４．普段の生活に応用した、香の楽しみ方を教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

香道 17　あなたが香道を体験する機会があった場合、どういう条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．行きやすい場所で体験できたら
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

香道 18　あなたがこれまでに、香道を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

香道 19　あなたが香道について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．香木等の香りが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝や道具等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない
９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

香道 20　香道の魅力について、どのような説明や情報があるなら、香道を実際に体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．香木等を焚きその香りを楽しめる
２．香木等に応じた焚き方が分かる
３．香席のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．主客の心の交流
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

③和装

●着物の着付けができる人に対する質問（ＦＱ３で１に回答）

和装１　あなたが着物の着付けを習おうと思ったきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
２．親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
３．友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
４．学校の授業や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で行われたイベントで体験した
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
７．和装に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

和装２　あなたが着付けを習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人に習っていた
２．学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．着付け教室で習っていた
５．着付けや美容の専門学校で習っていた
６．その他（具体的に：　　）

和装２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．本格的に習ってみたかった
８．手軽に習ってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

和装３　現在、着物の着付けを行っていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．現在も着付けを行っている
２．現在は着付けを行っていない

＜上記で１と回答した方に＞
和装３補問１　あなたが着付けを続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．指導者や教授者として活動したい（している）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．着物の着付け方や取り合わせ方など、奥深い文化をもっと知りたい
５．四季や行事によって着物を着分けて装うことが楽しい
６．習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方に＞
和装３補問２　あなたが着付けをしなくなったきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．近くに習う場所がなくなった
３．着物の相談等ができる場所がなくなった
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に着物を楽しむ仲間と疎遠になった
８．着物を着ていくような場面や機会がなくなった
９．着崩れする、動きにくい
10．着付けに関する仕事を辞めた
11．その他（具体的に：　　）

和装４　あなたが着付けをしている（いた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満

５．10～20 年未満
６．20 年以上

和装５　あなたは現在、どのような機会に自分もしくは他者への着物の着付けをしますか（していましたか)。あてはまるものをお選びください。(いくつでも)
１．普段着として着物を着る時
２．仕事着として着物を着る時
３．入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
４．初詣等の年中行事に参加する時
５．観劇の際や茶会等の催事に参加する時
６．仕事として、他者への着付けを依頼された時
７．親族や知人等に、他者への着付けを依頼された時
８．その他（具体的に：　　）

和装５補問　他の方に着付けをしてもらう機会はありますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．仕事着として着物を着る時
２．入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭に出席する時
３．初詣等の年中行事に参加する時
４．観劇の際や茶会等の催事に参加する時
５．着付けてもらうことはない
６．その他（具体的に：　　）

和装６　あなたは着物に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。(１つ)
１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

和装７　あなたは着物に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。(１つ)
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満

３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

和装８　あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．季節にあわせた着物を楽しめる
２．職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
３．生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる
４．お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
５．着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●着付けはできないが着物を着たことがある人への質問（ＦＱ３で２に回答）
和装９　あなたが着物を着た（着せてもらった）きっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹・祖父母などが自分で着物を着付けていた
２．親や兄弟姉妹・祖父母などが着付けの指導をしていた
３．家族や友人、知人などから着物を着ることを勧められた・誘われた
４．学校や、呉服店等が実施する着付け教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．成人式・結婚式等の冠婚葬祭や初詣等の年中行事に参加する必要があった
７．和装に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

和装 10　あなたはどういう場で着物を着ましたか（着せてもらい）ましたか 。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．入学式や成人式、結婚式等の冠婚葬祭

２．初詣等の年中行事
３．観劇の際や茶会等の催事
４．旅行先の観光地
５．学校の授業や、呉服店等が実施する着物に関するイベント
６．自宅
７．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
８．その他（具体的に：　　）

和装 11　あなたが今後、着物の着付けを習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人から習えたら
２．通いやすい場所で習えたら
３．費用が手頃だったら
４．着物をはじめ必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
７．指導で教本やテキストを使っていたら
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

和装 12　もし着物の着付けを習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

和装 13　あなたがこれまでに、着物の着付けを習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．興味がなかった

２．通いやすい場所に着付け教室がなかった
３．習うための授業料等の費用が確保できなかった
４．習うための十分な時間が取れなかった
５．カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
６．着付け教室等の雰囲気が分からなかった
７．習う内容についていけるかどうか不安がある
８．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
９．自分の趣味と合わない
10．その他（具体的に：　　）

和装 14　あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
２．日本の伝統文化を体感できる
３．伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
４．暮らし、生活を豊かにしてくれる
５．着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
６．着物を着ていくような場面がない
７．動きにくい、動くと着崩れする
８．着物等を揃えるとお金がかかる
９．着付けを覚えるのに時間がかかる
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

和装 15　あなたが着物の着付けの中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．季節にあわせた着物を楽しめる
２．職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
３．生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる
４．お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
５．着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●着物を着ていない人への質問（ＦＱ３で３に回答）

和装 16　もし、あなたが着物を着たり、着付けを体験したりする機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．季節や場面に応じた着物や帯等の選び方や取り合わせ方を教えてくれる
２．基本的な着物の着付け方と着方のコツを教えてくれる
３．着物を着た時の適切な姿勢や歩き方、所作等を教えてくれる
４．着物のお手入れの仕方や保管の仕方を教えてくれる
５．普段の生活の中で、着物をどのように楽しんだら良いのか教えてくれる
６．その他（具体的に：　　）
７．上記の中で当てはまるものはない

和装 17　あなたが着物を着たり、着付け方を体験する機会があったりした場合、どういう条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人が着付けや着付け方を教えてくれたら
２．旅行先の観光地や、催事、イベントで着付ける機会があれば
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．着付けや着付け方を体験する時の時間帯を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

和装 18　あなたがこれまでに、着物を着たことがなかったり、着付けを体験したことがなかったりした事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

和装 19　あなたが着物の着付けについて持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．生地や色柄等が豊富なので自分だけのおしゃれが楽しめる
２．日本の伝統文化を体感できる
３．伝統行事に参加する際や、歴史的な街並みを訪れる時などに着物を着ると楽しめる
４．暮らし、生活を豊かにしてくれる
５．着付けの仕方や、着物の取り合わせ等の決まり事が複雑
６．着物を着ていくような場面がない
７．動きにくい、動くと着崩れする
８．着物等を揃えるとお金がかかる
９．着付けを覚えるのに時間がかかる
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

和装 20　和装の魅力について、どのような説明や情報があるなら、着物を着たり、着付けを体験してみたいと思われますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．季節にあわせた着物を楽しめる
２．職人の手仕事による着物等が持つ独特の質感や意匠
３．生地や色柄の取り合わせ等、工夫１つでおしゃれを楽しめる
４．お祭りや伝統的な雰囲気がある場所に着ていくと見映えが良い
５．着物を着ることで、落ち着いた気持ちになる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

④礼法

●礼法を習っている（習っていた）者に対する質問（ＦＱ４で１に回答）

礼法１　あなたが礼法を習い始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから習うことを勧められた・誘われた
４．学校の授業や、礼法の稽古場・教室での体験会、文化施設等で行われたイベントで体験した
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、礼法に興味関心があった
７．礼法に係る仕事や職業に興味関心があった

８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

礼法２　あなたが礼法を習い始めた当初、次のうちどのような方法で習っていましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人に習っていた
２．学校や職場などの部活動、同好会、サークルで習っていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．稽古場や教室で習っていた
５．その他（具体的に：　　）

礼法２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）
１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．本格的に習ってみたかった
８．手軽に習ってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

礼法３　現在、礼法に関する活動を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞
礼法３補問１　あなたが礼法に関する活動を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．指導者や教授者として活動したい（している）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．相手に敬意を示す所作や作法、四季に応じたしつらいの仕方など、奥深い文化をもっと知りたい
５．礼法を習ったり実践したりすると、気持ちが穏やかになる
６．習っていくうちに、暮らし、生活の一部となった

７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方に＞
礼法３補問２　あなたが礼法に関する活動から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．近くに習う場所がなくなった
３．当初目標としていたことが達成できた
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に活動する家族や友人等が辞めてしまった
８．習っている内容についていけなくなった
９．指導者や教授者を引退した
10．その他（具体的に：　　）

礼法４　あなたが礼法を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

礼法５　あなたの現在の礼法の活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．教室や稽古場で習っている（いた）
２．カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
３．学校や職場などの部活動、同好会、サークルに所属して活動している（いた）
４．指導者や教授者として教えている（いた）
５．その他（具体的に：　　）

礼法６　あなたは礼法に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

礼法７　あなたは礼法に関する活動に、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

礼法８　あなたが礼法の中で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
２．相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
３．礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で礼法を体験した人に対する質問（ＦＱ４で２に回答）

礼法９　あなたが礼法を体験したきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母などが習っていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母などが教えていた
３．友人、知人などから勧められた・誘われた
４．学校や、礼法の稽古場や教室、文化施設等で体験イベントが行われていた
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、礼法に興味関心があった
７．礼法に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

礼法 10　あなたはどういう場で礼法を体験しましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．教室や稽古場等で開かれた体験会
２．学校の授業や職場の研修会
３．学校や職場の部活動、同好会やサークルが行った体験イベント
４．文化施設等で行われた体験イベント
５．自宅
６．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験
７．その他（具体的に：　　）

礼法 11　あなたが今後、礼法を習う機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人から習えたら
２．通いやすい場所で習えたら
３．費用が手頃だったら
４．必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていたら
７．指導で教本やテキストを使っていたら
８．その他（具体的に：　　）
９．わからない

礼法 12　もし礼法を習い始めるとしたら、月にどの程度なら支払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

礼法 13　あなたがこれまでに、礼法を習っていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．興味がなかった
２．通いやすい場所に稽古場や教室がなかった
３．習うための授業料等の費用が確保できなかった
４．習うための十分な時間が取れなかった
５．カリキュラムの内容や必要となる費用等の十分な情報が明示されていなかった
６．稽古場や教室等の雰囲気が分からなかった
７．習う内容についていけるかどうか不安がある
８．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
９．自分の趣味と合わない
10．その他（具体的に：　　）

礼法 14　あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない

９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

礼法 15　あなたが礼法で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
２．相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
３．礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●礼法を経験したことがない者に対する質問（ＦＱ４で３に回答）
礼法 16　もし、あなたが礼法を体験する機会があった場合、どういう内容であれば参加をしてみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．礼法の基本的な作法や所作を教えてくれる
２．礼法の歴史や意義を教えてくれる
３．礼式に則ったしつらいの仕方や、贈答の形としての折り型・水引・結びなどを詳しく教えてくれる
４．普段の生活の中で、礼法がどのように役立つのか教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

礼法 17　あなたが礼法を体験する機会があった場合、どういう条件や状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．行きやすい場所で体験できたら
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

礼法 18　あなたが礼法を体験したことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

礼法 19　あなたが礼法について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．伝統的な礼儀作法を習うことが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活を豊かにしてくれる
４．作法、しきたりなどが複雑
５．人間関係が複雑
６．月謝等にお金がかかる
７．習い始めると時間を取られる
８．一般に知られていない
９．その他（具体的に：　　）
10．特に印象はない、わからない

礼法 20　礼法の魅力について、どのような説明や情報があるなら、礼法を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．伝統的な礼儀作法を生活の中で生かすことができる
２．相手に敬意を示すために洗練されてきた作法や所作
３．礼法に則った部屋のしつらえや、そこから感じることができる四季等
４．集中力を高めたり、心を落ち着かせたりすることができる
５．礼法を通じて人間関係を円滑に保つことができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

⑤盆栽

●盆栽を経験した者に対する質問（ＦＱ５で１に回答）

盆栽１　あなたが盆栽を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
３．友人、知人などが盆栽を育てていて勧められた・誘われた
４．学校や職場で育てられているのを見たり、公園や庭園、盆栽園や盆栽展、文化施設等のイベントで鑑賞や体験をしたりした
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、盆栽に興味関心があった
７．盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

盆栽２　あなたが盆栽を始めた時、次のうちどのような方法で育て方や剪定の方法を学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
２．盆栽の愛好者団体に教えてもらっていた
３．カルチャーセンターの講座で習っていた
４．盆栽園で教えてもらっていた
５．雑誌や専門書等を見て学んでいた
６．ウェブサイトや YouTube 等を見て学んでいた
７．その他（具体的に：　　）

盆栽２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）

１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．道具等が借りられた
５．通いやすい時間帯だった
６．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
７．雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
８．本格的にやってみたかった
９．手軽にやってみたかった
10．その他（具体的に：　　）

11．特に理由はない、わからない

盆栽３　現在、盆栽を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞
盆栽３補問１　あなたが盆栽を続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．盆栽園を営みたい（営んでいる）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．盆栽の形造りや剪定や培養など、奥深い文化をもっと知りたい
５．盆栽に愛着が湧いた（盆栽を育てるのが純粋に楽しい）
６．暮らし、生活の一部となった（盆栽を育てることが生きがいとなった）
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方＞
盆栽３補問２　あなたが盆栽から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．盆栽の育成ができる環境を維持できなくなった
３．手入れ等の相談をできる場所がなくなった
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった
６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
８．盆栽園を閉鎖した
９．その他（具体的に：　　）

盆栽４　あなたが盆栽を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満

４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

盆栽５　あなたの現在の盆栽に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．自宅等で盆栽の手入れをしている（いた）
２．盆栽園に盆栽を預けて手入れをしてもらっている（いた）
３．盆栽を盆栽展に出品している（いた）
４．盆栽園や盆栽の教室等で習っている（いた）
５．カルチャーセンターの講座等を受講している（いた）
６．盆栽園を営んでいる（いた）
７．講師として教室や体験会、講座を開いている（いた）
８．その他（具体的に：　　）

盆栽６　あなたは盆栽に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

盆栽７　あなたは盆栽を育てるにあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満

11．50,000 円以上

盆栽８　あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
２．盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
３．樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
４．盆栽を育てる中で感じられる四季等
５．盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で盆栽体験をしたことがある方への質問（ＦＱ５で２に回答）
盆栽９　あなたが盆栽体験をしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹、祖父母など家族が育てていた
２．親や兄弟姉妹、祖父母など家族が盆栽園を営んでいた
３．友人、知人などが盆栽を育てていて、勧められた・誘われた
４．学校や職場で育てられているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として盆栽に興味関心があり、盆栽展等で鑑賞した
７．盆栽に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

盆栽 10　あなたはどういう場で盆栽体験をしましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．盆栽園や愛好者の団体等が主催する体験会
２．学校の授業や職場の研修会
３．文化施設等で行われた体験イベント
４．自宅
５．自分が行っている分野の趣味・習い事の中で体験
６．その他（具体的に：　　）

盆栽 11　あなたが今後、盆栽を育てる機会があった場合、どのような状況だと育てやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人から育て方等を教えてもらえたら
２．知人、家族と一緒に育てることができたら
３．通いやすい場所に相談に乗ってもらえる盆栽園等があったら
４．必要な道具等が借りられたら
５．習う時間帯を調整してもらいやすかったら
６．育て方や剪定の仕方等などをわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
７．その他（具体的に：　　）
８．わからない

盆栽 12　もし盆栽を始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）

１．5,000 円未満
２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満
４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満
６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満
８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満
10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

盆栽 13　あなたがこれまでに盆栽を育てていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．興味がなかった
２．通いやすい場所に、盆栽の育て方等の相談に乗ってくれる場所がなかった
３．始めるための費用が確保できなかった
４．盆栽を育てるための十分な時間が取れそうになかった
５．一緒にやってくれる人がいない
６．盆栽の育て方等の相談をできる人が身近にいなかった
７．植物の育て方や管理の仕方などが難しいと思う
８．盆栽を育てて管理できる場所がない
９．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
10．自分の趣味と合わない

11．その他（具体的に：　　）

盆栽 14　あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活が豊かになる
４．剪定や育成等が難しい
５．盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
６．植物を扱うのは容易ではない
７．道具等にお金がかかる
８．育て始めると時間を取られる
９．一般に知られていない
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

盆栽 15　あなたが盆栽で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
２．盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
３．樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
４．盆栽を育てる中で感じられる四季等
５．盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●盆栽体験をしていない方への質問（ＦＱ５で３に回答）

盆栽 16　もし、あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽の種類や育て方、剪定や鑑賞の仕方を教えてくれる
２．盆栽の歴史や意義を教えてくれる
３．盆栽を育てるのに必要となる道具や環境等を詳しく教えてくれる
４．普段の生活の中で、盆栽をどのように楽しめばよいのか教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

盆栽 17　あなたが盆栽体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．普段、鑑賞しに出かけている盆栽展や盆栽園で体験機会があれば
３．手ごろな参加費で参加できたら
４．体験に必要な費用や道具が明示されていれば
５．体験する時間帯等を調整してもらいやすければ
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
８．指導者の教え方が分かりやすかったら
９．その他（具体的に：　　）
10．わからない

盆栽 18　あなたがこれまでに盆栽体験をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

盆栽 19　あなたが盆栽について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）

１．盆栽を育てたり仕立てたりするのが楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活が豊かになる
４．剪定や育成等が難しい
５．盆栽を育てるための環境を整えるのが難しい
６．植物を扱うのは容易ではない
７．道具等にお金がかかる
８．育て始めると時間を取られる
９．一般に知られていない
10．その他（具体的に：　　）

11．特に印象はない、わからない

盆栽 20　盆栽の魅力について、どのような説明や情報があるなら、盆栽を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．盆栽を育て、仕立てていくことで様々に変化する姿や形
２．盆栽として仕立てていくための剪定等の技術
３．樹木と植木鉢（盆器）を取り合わせることで生まれる盆栽の姿や形
４．盆栽を育てる中で感じられる四季等
５．盆栽を育てることで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

⑥錦鯉

●錦鯉の飼育を経験した者に対する質問（ＦＱ６で１に回答）
錦鯉１　あなたが錦鯉の飼育を始めたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
２．親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
３．友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
４．学校や職場で飼育されているのを見たり、公園や庭園、養鯉場や錦鯉品評会、文化施設等やイベントで観賞をしたりした
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として、錦鯉に興味関心があった
７．錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

錦鯉２　あなたが錦鯉の飼育を始めた時、次のうちどのような方法で設備や飼育の仕方について学んでいましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人に教えてもらっていた
２．錦鯉の愛好者団体に教えてもらっていた
３．養鯉場で教えてもらっていた
４．雑誌や専門書等を見て学んでいた
５．ウェブサイトや YouTube 等を見て学んでいた
６．その他（具体的に：　　）

錦鯉２補問　その方法を選んだ理由をお選びください。（いくつでも）
１．家族や友人等と一緒が良かった
２．通いやすい場所だった
３．費用が手頃だった
４．通いやすい時間帯だった
５．指導方法やカリキュラム、費用が具体的に示されていた
６．雑誌や専門誌の解説が分かりやすかった
７．本格的にやってみたかった
８．手軽にやってみたかった
９．その他（具体的に：　　）
10．特に理由はない、わからない

錦鯉３　現在、錦鯉の飼育を続けていますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．続けている
２．続けていない

＜上記で１と回答した方に＞
錦鯉３補問１　あなたが錦鯉を飼育し続けるようになった理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．養鯉場を営みたい（営んでいる）
２．日本の文化だから
３．一緒に楽しむ仲間がいる
４．錦鯉の飼育や選別など、奥深い文化をもっと知りたい
５．錦鯉に愛着が湧いた（飼育が純粋に楽しい）
６．暮らし、生活の一部となった（飼育や観賞をすることが生きがいとなった）
７．その他（具体的に：　　）
８．特に理由はない
９．上記の中で当てはまるものはない

＜上記で２と回答した方＞
錦鯉３補問２　あなたが錦鯉の飼育から離れたきっかけや理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．時間がなくなった
２．錦鯉の飼育ができる環境を維持できなくなった
３．飼育等の相談をできる場所がなくなった
４．興味を失った
５．経済的に続けるのが難しくなった

６．健康面、体調面で続けることが難しくなった
７．一緒に世話をしてくれる家族や仲間の手が借りられなくなった
８．養鯉場を閉鎖した
９．その他（具体的に：　　）

錦鯉４　あなたが錦鯉の飼育を続けている（続けていた）年数を選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１年未満
２．１～３年未満
３．３～５年未満
４．５～10 年未満
５．10～20 年未満
６．20 年以上

錦鯉５　あなたの現在の錦鯉に関する活動内容（かつて行っていた内容）について、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．自宅等の池で飼育している（いた）
２．自宅等の水槽で飼育している（いた）
３．養鯉場に預けて飼育してもらっている（いた）
４．錦鯉の品評会に出品している（いた）
５．錦鯉の養鯉場を営んでいる（いた）
６．その他（具体的に：　　）

錦鯉６　あなたは錦鯉の飼育に関する活動をどのくらいの頻度で行っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．ほぼ毎日
２．週に２～３回
３．週１回程度
４．月数回程度
５．月１回程度
６．年数回程度
７．年１回程度

錦鯉７　あなたは錦鯉の飼育にあたって、月幾らくらいの費用を使っています（いました）か。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１万円未満
２．１万円以上～５万円未満

３．５万円以上～10 万円未満
４．10 万円以上～50 万円未満
５．50 万円以上～100 万円未満
６．100 万円以上

錦鯉８　あなたが錦鯉の飼育で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．飼育をしていくことで、変化する模様
２．飼育していくための技術
３．種類によって異なる多様な色彩や模様
４．錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
５．錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●イベント等で錦鯉の体験や観賞を経験した方への質問（ＦＱ６で２に回答）
錦鯉９　あなたが錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしたきっかけとして、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．親や兄弟姉妹・祖父母など家族が飼育していた
２．親や兄弟姉妹・祖父母など家族が養鯉場を営んでいた
３．友人、知人などが錦鯉を飼育していて、勧められた・誘われた
４．学校や職場で飼育されているものや、公園や庭園、文化施設等で行われているイベントで見た
５．テレビや映画、雑誌、漫画、ウェブメディア等で知った
６．趣味や教養として錦鯉に興味関心があり、品評会等で観賞した
７．錦鯉に係る仕事や職業に興味関心があった
８．自分が行っている別の分野の趣味・習い事と関係していた
９．その他（具体的に：　　）

錦鯉 10　あなたはどういう場で錦鯉と触れ合ったり、観賞したりしましたか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．錦鯉を扱う団体や業者が主催する品評会や即売会
２．学校や職場で飼育されていた
３．公園や庭園、文化施設等でのイベント
４．自宅
５．自分が行っている別の分野の趣味・習い事の中で体験

６．その他（具体的に：　　）

錦鯉 11　あなたが今後、錦鯉を飼育する機会があった場合、どのような状況だと飼育をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人から飼育の仕方等を教えてもらえたら
２．知人、家族と一緒に飼育できたら
３．通いやすい場所に相談に乗ってもらえる養鯉場等があったら
４．飼育の仕方や設備の整え方等をわかりやすく示している雑誌や専門誌があったら
５．その他（具体的に：　　）
６．わからない

錦鯉 12　もし錦鯉を飼育し始めるとしたら、どの程度なら払えますか。選択肢の中からお選びください。（１つ）
１．１万円未満
２．１万円以上～５万円未満
３．５万円以上～10 万円未満
４．10 万円以上～50 万円未満
５．50 万円以上～100 万円未満
６．100 万円以上

錦鯉 13　あなたがこれまでに錦鯉の飼育をしていない事情や理由として、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．興味がなかった
２．通いやすい場所に、錦鯉の飼育方法等の相談に乗ってくれる場所がなかった
３．始めるための費用が確保できなかった
４．錦鯉を飼育するための十分な時間が取れそうになかった
５．一緒にやってくれる人がいない
６．錦鯉の飼育方法等の相談をできる人が身近にいなかった
７．生物の扱いが難しいと思う
８．錦鯉を飼育できる場所や設備がない
９．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
10．自分の趣味と合わない
11．その他（具体的に：　　）

錦鯉 14　あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．錦鯉の飼育や観賞が楽しめる

２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活が豊かになる
４．飼育の方法等が難しい
５．錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
６．生物を扱うのは容易ではない
７．設備等にお金がかかる
８．飼育し始めると時間を取られる
９．一般に知られていない
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

錦鯉 15　あなたが錦鯉の飼育で関心を持っている領域、魅力は何ですか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．飼育をしていくことで、変化する模様
２．飼育していくための技術
３．種類によって異なる多様な色彩や模様
４．錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
５．錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

●錦鯉の飼育を経験していない方への質問（ＦＱ６で３に回答）
錦鯉 16　もし、あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どういう内容であれば参加してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．錦鯉の種類や飼育の仕方、観賞の仕方を教えてくれる
２．錦鯉の歴史や意義を教えてくれる
３．錦鯉の飼育で必要となる設備や環境等を詳しく教えてくれる
４．普段の生活の中で、錦鯉の飼育や観賞をどのように楽しめるのか教えてくれる
５．その他（具体的に：　　）
６．上記の中で当てはまるものはない

錦鯉 17　あなたが錦鯉の観賞体験をする機会があった場合、どのような状況だと参加をしやすいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．家族や知人等、身近な人と一緒に体験できたら
２．錦鯉の品評会や即売会が身近で行われていれば
３．手ごろな参加費で参加できたら

４．公園や庭園、文化施設等で観賞できたら
５．体験する内容や雰囲気を事前に確認できれば
６．初心者だけが参加できるような機会があれば
７．その他（具体的に：　　）
８．わからない

錦鯉 18　あなたがこれまでに錦鯉の観賞体験等をしたことがない事情や理由があれば、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．そもそも知らなかった
２．興味がない
３．気軽に体験できそうな場所や機会がなかった
４．参加する時間がとれなかった
５．体験できる場所や機会があることを知らなかった
６．体験できる詳しい内容が分からなかった
７．他の趣味や娯楽の方に関心が向いている
８．自分の趣味と合わない
９．その他（具体的に：　　）

錦鯉 19　あなたが錦鯉の飼育や観賞について持っている印象やイメージについて、あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．錦鯉の飼育や観賞が楽しめる
２．日本の伝統文化への理解を深められる
３．暮らし、生活が豊かになる
４．飼育の方法等が難しい
５．錦鯉を飼育するための環境を整えるのが難しい
６．生物を扱うのは容易ではない
７．設備等にお金がかかる
８．飼育し始めると時間を取られる
９．一般に知られていない
10．その他（具体的に：　　）
11．特に印象はない、わからない

錦鯉 20　錦鯉の魅力について、どのような説明や情報があるなら、錦鯉の飼育や観賞を実際に体験してみたいと思いますか。あてはまるものをお選びください。（いくつでも）
１．飼育をしていくことで、変化する模様
２．飼育していくための技術
３．種類によって異なる多様な色彩や模様

４．錦鯉の飼育・観賞を通じて感じられる四季等
５．錦鯉の飼育・観賞することで、心を落ち着かせることができる
６．日本の伝統的な文化として国内外に知られている
７．その他（具体的に：　　）
８．上記の中で当てはまるものはない

（４）共通設問

共通１　あなたは下記のスポーツや趣味、娯楽等の活動をされていますか。あてはまるもの全てにチェックをお願いします。（いくつでも）

スポーツ（観戦除く）

１．ジョギング・マラソン	２．ウォーキング	３．体操（器具を使わないもの）
４．トレーニング	５．エアロビクス、ジャズダンス	６．卓球
７．バトミントン	８．キャッチボール・野球	９．ソフトボール
10．サイクリング・サイクルスポーツ	11．アイススケート	12．ボウリング
13．サッカー	14．フットサル	15．バレーボール
16．バスケットボール	17．水泳（プールでの）	18．柔道・剣道・空手などの武道
19．ゲートボール	20．ゴルフ（コース）	21．ゴルフ（練習場）
22．パークゴルフ・グラウンドゴルフなどの簡易ゴルフ	23．テニス	24．乗馬
25．スキー	26．スノーボード	27．釣り
28．スキンダイビング・スキューバダイビング	29．サーフィン・ウィンドサーフィン	30．ヨット・モーターボート
31．カヌー・ラフティング	32．ハンググライダー・パラグライダー	

趣味・創作

33．文芸の創作（小説、詩、和歌、俳句など）	34．写真の制作	35．動画の制作・編集
36．動画鑑賞（レンタル、配信を含む）	37．コーラス	38．洋楽器の演奏
39．邦楽、民謡	40．絵を描く、彫刻をする	41．陶芸
42．趣味工芸（組ひも、ペーパークラフト、革細工など）	43．模型づくり	44．日曜大工
45．園芸、庭いじり	46．編物、織物、手芸	47．洋裁、和裁
48．料理（日常的なものは除く）	49．スポーツ観戦（テレビは除く）	50．映画（テレビは除く）

51．観劇（テレビは除く）	52．演芸鑑賞（テレビは除く）	53．音楽会、コンサートなど
54．音楽鑑賞（配信、CD、レコード、テープ、FMなど）	55．美術鑑賞（テレビは除く）	56．書道
57．お茶	58．お花	59．おどり（日舞など）
60．洋舞、社交ダンス	61．学習・調べもの	62．読書（仕事、勉強などを除く娯楽としての）
63．ファッション（楽しみとしての）		

娯楽

64．囲碁	65．将棋	66．トランプ、オセロ、カルタ、花札など
67．カラオケ	68．テレビゲーム（家庭での）	69．ゲームセンター、ゲームコーナー
70．ソーシャルゲームなどのオンラインゲーム	71．麻雀	72．ビリヤード
73．パチンコ	74．宝くじ	75．サッカーくじ（toto）
76．中央競馬	77．地方競馬	78．競輪
79．ボートレース（競艇）	80．オートレース	81．外食（日常的なものは除く）
82．バーベキュー	83．バー、スナック、パブ、飲み屋	84．クラブ、キャバレー
85．ディスコ	86．サウナ	87．温浴施設（健康ランド、クアハウス、スーパー銭湯等）

観光・行楽

88．遊園地	89．ドライブ	90．ピクニック・ハイキング・野外散歩
91．登山	92．オートキャンプ	93．フィールドアスレチック
94．海水浴	95．動物園、植物園、水族館、博物館	96．催し物、博覧会
97．帰省旅行	98．国内観光旅行（避暑、避寒、温泉など）	99．海外旅行

その他

100．複合ショッピングセンター、アウトレットモール	101．ウィンドウショッピング	102．クルージング（客船による）
103．エステティック、ホームエステ	104．ペット（遊ぶ、世話をする）	105．農園（市民農園など）
106．ボランティア活動	107．SNS、ツイッターなどのデジタルコミュニケーション	108．ヨガ、ピラティス
109．自由記述（具体的に：　　）	110．特に何もしていない	

※上記の選択肢は『レジャー白書2021』の調査種目を参照し作成したものである。なお、一部分野については『レジャー白書 2021』で「その他」に分類されていた部門から異なる部門への分類を行っている。

共通２　あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の費用を払っていますか。（１つ）

１．5,000 円未満　　２．5,000 円以上～10,000 円未満
３．10,000 円以上～15,000 円未満　　４．15,000 円以上～20,000 円未満
５．20,000 円以上～25,000 円未満　　６．25,000 円以上～30,000 円未満
７．30,000 円以上～35,000 円未満　　８．35,000 円以上～40,000 円未満
９．40,000 円以上～45,000 円未満　　10．45,000 円以上～50,000 円未満
11．50,000 円以上

共通３　あなたが、スポーツや趣味、娯楽等の活動をよくする時間帯を教えてください。（いくつでも）

１．平日午前　　２．平日午後　　３．平日夕方　　４．平日夜間
５．休日午前　　６．休日午後　　７．休日夕方　　８．休日夜間

共通４　あなたは、スポーツや趣味、娯楽等の活動に、平均月どの程度の時間をかけていますか。（１つ）

１．１時間未満　　２．１時間以上～２時間未満　　３．２時間以上～３時間未満
４．３時間以上～４時間未満　　５．４時間以上～５時間未満　　６．５時間以上～６時間未満
７．６時間以上～７時間未満　　８．７時間以上～８時間未満　　９．８時間以上～９時間未満
10．９時間以上～10 時間未満　　11．10 時間以上

共通５　下記の中で、あなたのお考え、意識に近いものを教えてください。（いくつでも）

１．自分の考えを主張するより、周りとの和を尊重したい
２．周りに合わせるより、自分の考えに基づいてものごとを判断したい
３．チャンスと感じたら逃したくない
４．リスクはできるだけ避けたい
５．家族や友人・知人の役に立ちたい
６．環境問題・社会課題の解決の役に立ちたい
７．困っている人・助けが必要な人の役に立ちたい
８．周りの人から注目されたい
９．集まりやイベントの参加者同士の一体感が大事だ
10．その時・その場でしか得られない体験をしたい
11．流行りのものは試してみたい

12. 流行っていなくても、自分が面白いと思ったものは試してみたい
13. 買ったものや、気持ちを発信したい
14. 自分が発信したものに反応が欲しい
15. 上記であてはまるものはない

※上記の選択肢は令和３年度実施の消費者庁「消費者意識基本調査」の調査票問６の選択肢を引用したものである。

共通６　下記の中で、あなたが普段よくご覧になっているメディアを教えてください。(いくつでも)

１．テレビ（民放の地上波・BS）
２．テレビ（NHK の地上波・BS）
３．CATV や衛星放送のチャンネル
４．ラジオ（インターネット経由を除く）
５．新聞（電子版含む）
６．雑誌・タウン誌（インターネット経由を除く）
７．インターネットのウェブサイト・ニュースサイトなど（アプリ経由を含む）
８．動画投稿サイト（YouTube、TikTok など）
９．SNS(Twitter、LINE、Instagram、Facebook、note など)
10. 紙の書籍
11. 電子書籍
12. 紙のマンガ／マンガ雑誌
13. 電子版のマンガ
14. 有料動画サイト（Amazon Prime Video、Netflix、Hulu など）
15. 上記のメディアはあまり見ていない

参考資料　和装団体調査アンケート配布先

No.	団体名
1	一般財団法人民族衣裳文化普及協会
2	公益社団法人全日本きものコンサルタント協会
3	一般社団法人日本きもの連盟
4	一般社団法人全日本きもの振興会
5	特定非営利活動法人尚美流全日本和装協会
6	一般社団法人東洋きもの文化協会
7	一般財団法人国際文化きもの学会
8	一般財団法人全日本和装コンサルタント協会
9	日本きもの着付士協会
10	一般社団法人日本和裁士会
11	一般社団法人全国和裁着装団体連合会
12	和装教育国民推進連合会
13	公益財団法人京都和装産業振興財団
14	一般財団法人セイコきもの文化財団
15	一般財団法人 国際美容協会
16	一般社団法人全日本着付け技能センター
17	全国和装学院連絡会
18	一般財団法人きものの森
19	和装（きもの文化）ユネスコ登録・推進連絡協議会
20	一般財団法人大日本蚕糸会
21	全国染色協同組合連合会
22	一般社団法人日本絹人繊織物工業会
23	全国染織連合会
24	一般社団法人日本きもの文化連絡協議会
25	NPO 法人 きものを世界遺産にするための全国会議
26	日本和装師会
27	日本きものシステム協同組合

令和５年度「生活文化調査研究事業（和装）」報告書

発行日　令和６年５月３１日

発　行　文化庁　参事官（生活文化創造担当）

〒602-8959

京都府京都市上京区下長者町通新町西入藪之内町 85-4

〈受託事業者〉

株式会社 文化科学研究所

〒151-0053　東京都渋谷区代々木 1-43-7 光ビル 4F